

云笈七签

第一部

(宋)张君房 著

目录

序.....	001
卷一 道德部.....	003
总叙道德.....	003
卷二 混元混洞开辟劫运部.....	012
混元.....	012
空洞.....	013
混沌.....	013
混洞.....	014
劫运.....	014
太上老君开天经.....	017
卷三 道教本始部.....	021
道教序.....	021
道教所起.....	022
道教三洞宗元.....	023
左乙混洞东蒙录.....	025
灵宝略纪.....	026
三宝杂经出化序.....	028
天尊老君名号历劫经略.....	029
卷四 道教经法传授部.....	033
上清源统经目注序.....	033

灵宝经目序.....	035
上清经述.....	036
三皇经说.....	039
道教相承次第录.....	040
玄都九真盟科九品传经录.....	043
卷五 经教相承部.....	047
真系.....	047
晋茅山真人杨君.....	048
雷平山真人许君.....	049
仙人临沮令许君.....	049
宋庐山简寂陆先生.....	050
齐兴世馆主孙先生.....	052
梁茅山贞白陶先生.....	052
唐茅山升真王先生.....	054
中岳体玄潘先生.....	055
王屋山贞一司马先生.....	056
茅山玄静李先生.....	057
卷六 三洞经教部.....	059
三洞（并序）.....	059
三洞品格.....	062
七部（并序）.....	066
四辅.....	067
十二部.....	071
三十六部.....	073
卷七 三洞经教部本文.....	075
说三元八会六书之法.....	075
云篆.....	076

八体六书六文.....	077
符字.....	077
八显.....	078
玉字诀.....	078
皇文帝书.....	079
天书.....	079
龙章.....	079
凤文.....	080
玉牒金书.....	080
石字.....	080
题素.....	081
玉字.....	081
文生东.....	082
玉策.....	082
玉篇.....	082
玉札.....	083
丹书墨策.....	083
玉策.....	083
福连之书.....	083
琅綺琼文.....	084
白银之编.....	084
赤书.....	084
火炼真文.....	084
金壶墨汁字.....	085
琼札.....	085
紫字.....	086
自然之字.....	086

四会成字.....	087
琅简蕊书.....	087
石石贡.....	087
卷八 三洞经教部经释.....	089
释《三十九章经》.....	089
释《太上大道君洞真金玄八景玉策》.....	100
释《上清高圣太上大道君金玄八景玉策》.....	100
释《太上神州七转七变僊天经》.....	102
释《神虎上符消魔智慧经》.....	103
释《太上素灵洞玄大有妙经》.....	103
释《回元九道飞行羽经》.....	104
释《九灵太妙龟山元录》.....	104
释《大有八禀太丹隐书》.....	104
释《七圣玄记回天九霄经》.....	105
释《曲素诀辞五行秘符》.....	105
释《天关三图七星移度经》.....	106
释《除六天玉文三天正法》.....	106
释《青要紫书金根众经》.....	107
释《石精金光藏景录形经》.....	107
释《太上九赤斑符五帝内真经》.....	107
卷九 三洞经教部经释.....	108
释《太霄琅书》.....	108
释《太微黄书》.....	108
释《太上金书秘字》.....	109
释《太上上皇民籍定真玉策》.....	109
释《太上仓元上策》.....	111
释《太上太素玉策》.....	111

释《太上神虎玉符》	112
释《太上金虎符》	112
释《太上金篇虎符》	113
释《太上玉清神虎内真隐文》	113
释《太上三元玉检布经》	114
释《洞真太上九真中经》	114
释《洞真玉晨明镜金华洞房雌一五老宝经》	114
释《洞真中黄老君八道秘言经》	114
释《洞神秘箓》	115
释《玄真文赤书玉诀》	115
释《紫度炎光神玄经》	116
释《胎精中记》	116
释《隐地八术》	116
释《外国放品经》	117
释《四十四方经》	117
释《八素真经》	117
释《三九素语》	118
释《紫凤赤书》	118
释《灵飞六甲》	118
释《元始洞玄灵宝赤书五篇真文》	118
释《洞玄智慧大诫经》	119
释《洞玄通微定志经》	119
释《洞真黄气阳精三道顺行经》	119
释《洞真玉佩金珰太极金书上经》	120
释《洞玄太极隐注经》	120
释《七经》（并序）	121
卷十 三洞经教部经	123

老君太上虚无自然本起经.....	123
卷十一 三洞经教部经.....	132
上清黄庭内景经.....	132
卷十二 三洞经教部经.....	157
上清黄庭内景经.....	157
太上黄庭外景经.....	168
卷十三 三洞经教部经.....	182
太清中黄真经（并释题）.....	182
卷十四 三洞经教部经.....	200
黄庭遁甲缘身经.....	200
卷十五 三洞经教部经.....	208
黄帝阴符经叙.....	208
黄帝阴符经.....	208
天机经.....	213
卷十六 三洞经教部经.....	220
灵宝洞玄自然九天生神章经.....	220
太极真人颂二首.....	227
卷十七 三洞经教部经.....	229
太上老君内观经.....	229
洞玄灵宝定观经.....	232
老君清净心经.....	235
卷十八 三洞经教部经.....	237
老子中经（上）.....	237
卷十九 三洞经教部经.....	252
老子中经（下）.....	252
卷二十 三洞经教部经.....	267
太上飞行九神玉经.....	267

羽章.....	273
步天纲.....	281
倒行法.....	282
反行法.....	283
卷二十一 天地部.....	288
总序天.....	288
三界宝篆.....	289
四梵三界三十二天.....	298
卷二十二 天地部.....	300
总说天地五方.....	300
九地三十六音.....	302
朝礼诀法.....	303
高上九玄三十六天内音.....	304
洞渊九地三十六音内铭.....	307
登山住止安居审地吉凶法.....	309
东方呵罗提国.....	310
南方伊沙鹍国.....	311
西方尼维罗绿那国.....	312
北方旬他罗国.....	312
上方元精青沌自然国.....	313
中央太和宝真无量国.....	314
卷二十三 日月星辰部.....	315
总叙日月.....	315
三奔录.....	316
奔日.....	316
奔月.....	316
奔辰.....	317

太上玉晨郁仪结棨奔日月图.....	317
太上玉晨郁仪奔日赤景玉文、结棨奔月黄景玉章.....	318
峨嵋山北洞中石室户枢刻石书字.....	318
太上郁仪日中五帝讳字服色.....	319
太上结棨月中五帝夫人讳字服色.....	320
太素真人受太帝君日月诀法.....	321
大方诸宫服日月芒法.....	321
太上玄真诀服日月法.....	322
服日子三五七九玄根气法.....	322
服日月气法.....	323
太一游日服日月法.....	324
求月中丹光夫人法.....	325
服日月六气法.....	326
金仙内法.....	326
存思日月法.....	327
向日取嚏法.....	327
双景翼形隐道.....	328
食竹笋（鸿脯附）.....	328
卷二十四 日月星辰部.....	329
总说星.....	329
二十八宿.....	332
北斗九星职位总主.....	334
太上空常飞步录.....	336
卷二十五 日月星辰部.....	338
北极七元紫庭秘诀.....	338
七童卧斗法.....	343
太上招五辰于洞房飞仙秘道.....	344

升斗法.....	345
卧斗.....	347
存二十四星法.....	349
奔辰飞登五星法.....	350
卷二十六 十洲三岛部.....	357
十洲（并序）.....	357
三岛.....	363
卷二十七 洞天福地部.....	366
天地宫府图（并序）.....	366
十大洞天.....	366
三十六小洞天.....	368
七十二福地.....	372
卷二十八 二十八治部.....	379
二十四治（并序）.....	379
天师所立四治.....	391
卷二十九 禀生受命部.....	393
禀受章.....	393
太上九丹上化胎精中记.....	395
解胎十二结法.....	397
卷三十 禀生受命部.....	404
帝一混合三五立成法.....	404
九真中经天上飞文.....	407
大洞回风混合帝一之法.....	410
卷三十一 禀生受命部.....	418
太微帝君太一造形紫元内二十四神回元经.....	418
济众经.....	422
说真父母.....	423

九真帝君九阴混合纵景万化隐天诀.....	423
卷三十二 杂修摄部.....	426
养性延命录（并序）.....	426
杂戒忌禳灾祈善.....	433
服气疗病.....	436
导引按摩.....	438
卷三十三 杂修摄部.....	442
摄养枕中方.....	442
自慎.....	442
仙经禁忌.....	445
仙道忌十败.....	445
仙道十戒.....	445
学仙杂忌.....	446
导引.....	447
行气.....	448
守一.....	449
太清存神炼气五时七候诀.....	450
五时.....	450
七候.....	451
卷三十四 杂修摄部.....	453
太清导引养生经（凡十二事）.....	453
宁先生导引养生法.....	454
虾蟆行气法.....	455
龟鳖等气法.....	456
喻月精法.....	457
彭祖导引法（凡十事）.....	457
王子乔导引法（凡三十四事）.....	458

导引杂说.....	462
神炁养形说.....	463
将摄保命篇.....	464
卷三十五 杂修摄部.....	466
明补.....	466
禁忌.....	466
方便.....	467
化身坐忘法.....	468
胎息法.....	468
影人.....	469
服紫霄法.....	469
养生篇.....	470
禁忌篇.....	472
卷三十六 杂修摄部.....	476
玄鉴导引法.....	476
按摩法.....	478
食气法.....	478
食气绝谷法.....	479
摄生月令.....	480
卷三十七 斋戒部.....	487
斋戒叙.....	487
洞玄灵宝六斋十直.....	488
年六斋.....	488
月十斋.....	488
六种斋.....	489
二种斋.....	490
十二斋.....	490

八节斋.....	491
心斋.....	491
斋直.....	492
释斋有九食法.....	493
说杂斋法.....	493
斋科.....	496
持斋.....	497
阴阳杂斋日.....	498
卷三十八 说戒部.....	500
说十戒.....	500
大戒上品（并叙）.....	501
太上洞玄灵宝消魔宝真安志智慧本愿大戒.....	501
礼经祝三首.....	505
太霄琅书十善十恶.....	507
思微定志经十戒.....	508
妙林经二十七戒.....	510
老君二十七戒.....	511
卷三十九 说戒部.....	512
老君说一百八十戒（并叙）.....	512
老君说五戒.....	521
化胡经十二戒.....	522
修斋求道当奉十戒.....	523
说戒喻.....	523
卷四十 说戒部.....	525
说百病.....	525
崇百药.....	527
初真十戒.....	530

清戒.....	531
太玄都中宫女青律戒.....	532
太上黄素四十四方经戒.....	532
金书仙志戒.....	533
上清大洞戒.....	534
灵宝戒.....	535
受持八戒斋文.....	535
卷四十一 杂法部.....	537
沐浴.....	537
沐浴七事获七福.....	540
沐浴吉日.....	540
栲沐浴.....	543
解秽（并叙）.....	544
朝礼.....	545
太素真人隐朝礼愿上仙法.....	546
朝极.....	547
朝玉晨君.....	548
朝青童君.....	549
隐朝胎元法.....	550
朝礼九天魂魄帝君求仙上法.....	550
朝太素三元君.....	551
卷四十二 存思部.....	553
存《大洞真经》三十九真法.....	553
卷四十三 存思部.....	575
存思三洞法.....	575
老君存思图十八篇（并叙）.....	576
思修九宫法.....	586

思九宫五神法.....	590
存元成皇老法.....	590
存帝君法.....	591
存玄一老子法.....	592
存司命法.....	592
卷四十四 存思部.....	594
太一帝君太丹隐书.....	594
镇神养生内思飞仙上法.....	601
三九素语玉精真诀存思法.....	604
紫书存思元父玄母诀.....	607
紫书存思九天真女法.....	609
卷四十五 秘要诀法部.....	610
修真旨要.....	610
卷四十六 秘要诀法部.....	626
修真旨要.....	626
卷四十七 秘要诀法部.....	640
安魂魄咒.....	640
著衣咒.....	640
栲发咒.....	640
洗手面神咒.....	642
耳鸣祝.....	642
审耳鸣吉凶法.....	643
未食咒.....	644
道士三时食饭咒.....	644
斋见不祥之物解法.....	644
行道见死尸法.....	645
道士既见死尸上经解歹奄法.....	645

练祝死尸法.....	646
修行咒诅诀.....	646
道士被天魔所试即诵拂魔咒.....	647
玉帝卫灵咒鬼上法.....	648
治急病法.....	649
反舌塞喉法.....	649
金仙内法.....	650
卷四十八 秘要诀法部（行持旨要）.....	651
老君明照法叙事（誓法附）.....	651
明照法.....	655
宝照法.....	656
摩照法.....	657
拂童法.....	658
神枕法（并序）.....	658
神杖法.....	659
帝君明灯内观求仙上法.....	660
按天庭法.....	662
服雾法.....	662
卷四十九 秘要诀法部（三一）.....	664
守一.....	664
三一诀.....	665
玄门大论三一诀（并叙）.....	666
金阙帝君五斗三元真一经口诀.....	671
守五斗真一经口诀.....	672
卷五十 秘要诀法部（三一）.....	676
三一九宫法.....	676
四宫雌一内神宝名玉诀.....	680

金阙帝君三元真一经诀.....	682
卷五十一 秘要诀法部（行持事要）.....	687
八道命籍.....	687
八道秘言.....	689
太上曲素五行秘符.....	691
玉珮金铛（黄衣童附）.....	693
流金火铃（振威大祝附）.....	696
五铃登空虚保仙上符.....	697
卷五十二 杂要图诀法部.....	700
九真行事诀.....	700
升玄行事诀.....	702
方诸洞房行事诀.....	705
五神行事诀.....	706
二十四神行事诀.....	707
五辰行事诀.....	709
回元行事诀.....	710
五帝杂修行乘龙图.....	713
卷五十三 杂秘要诀法部.....	715
太上隐书八景飞经八法（并序）.....	715
太上丹景道精隐地八术.....	719
太清玉霞紫映内观上法.....	722
存玄白法.....	724
三素云法.....	724
卷五十四 魂神部.....	726
说魂魄.....	726
拘三魂法.....	729
制七魄法.....	730

对日存三魂法.....	731
朝礼九天魂魄求仙上法.....	732
魂精法.....	733
上清飞步七星魂魄法.....	733
卷五十五 魂神部.....	735
思神诀.....	735
存身神法.....	737
受生天魂法.....	738
精神.....	740
入室思赤子法.....	741
卷五十六 诸家气法部.....	744
元气论（并序）.....	744
卷五十七 诸家气法部.....	763
服气精义论（并序）.....	763
卷五十八 诸家气法部.....	782
胎息精微论.....	782
茅山贤者服内气诀.....	783
胎息根旨要诀.....	784
胎息杂诀.....	786
尹真人服元气术.....	786
服元气法.....	789
胎息口诀（并序）.....	790
卷五十九 诸家气法部.....	793
延陵君修养大略.....	793
赤松子服气经序.....	795
神仙绝谷食气经.....	796
太无先生服气法.....	798

墨子闭气行气法.....	799
太清王老口传服气法.....	800
晁鸾法师服气法.....	801
达磨大师住世留形内真妙用诀.....	802
项子食气法.....	804
张果先生服气法.....	805
申天师服气要诀.....	805
王真人气诀.....	806
大威仪先生玄素真人要用气诀.....	807
王说山人服气新诀.....	808
嵩山李奉时服气法.....	809
卷六十 诸家气法部.....	811
中山玉柜服气经.....	811
幻真先生服内元气诀法.....	819
胎息经.....	828
卷六十一 诸家气法部.....	830
用气集神诀.....	830
服五方灵气法.....	831
五厨经气法（并叙）.....	833
谷神妙气诀.....	836
辨杂呼神名.....	838
中岳郟俭食气法.....	839
十二月服气法.....	840
三一服气法.....	841
服三气法.....	842
服气杂法秘要口诀.....	842
延陵君炼气法.....	845

卷六十二 诸家气法部.....	847
太清王老口传法序.....	847
说膈结.....	847
初学诀法.....	848
说覆仰法.....	848
服气杂法.....	849
辨肠转数法.....	851
服气十事.....	852
神息法.....	855
服气问答诀法.....	855
姑婆服气亲行要诀问答法.....	856
王老真人经后批.....	861
卷六十三 金丹部.....	862
玄辨九君辨金虎铅汞造鼎入金秘真肘后方上篇.....	862
旨教五行内用诀.....	863
造金鼎铭.....	866
正隐甲法象天符用火并合金造鼎肘后方下篇.....	868
行符合天符法象.....	869
卷六十四 金丹诀部.....	872
金华玉女说丹经.....	872
玄解录.....	875
辨金石药并去毒诀.....	875
守仙五子丸方.....	879
王屋真人口授阴丹秘诀灵篇.....	880
卷六十五 金丹诀部.....	884
太清金液神丹经（并序）.....	884
作六一泥法.....	888

合丹法.....	889
祭受法.....	890
太清金液神丹阴君歌.....	892
卷六十六 金丹部.....	896
丹论诀旨心照五篇.....	896
旨叙诀第一.....	896
明辨章第二.....	897
金丹论第三.....	900
大还丹宗旨第四.....	903
赤松子玄记第五.....	904
梁朝四公诀.....	904
卷六十七 金丹部.....	905
金丹序.....	905
黄帝九鼎神丹序.....	908
九转丹名.....	909
太清神丹法.....	910
九转丹迟速效验.....	911
九光丹法.....	912
五灵丹法.....	912
岷山丹法.....	913
五成丹法.....	913
金液法（威喜巨胜法附）.....	913
卷六十八 金丹部.....	916
太上八景四蕊紫浆五珠降生神丹方一首（并序）.....	916
九还金丹二章.....	921
卷六十九 金丹部.....	932
七返灵砂论（并序）.....	932

卷七十 内丹诀法部.....	0946
还丹内象金钥匙（并序）.....	0946
黑铅水虎论.....	0946
红铅火龙诀.....	0948
还金术三篇（并序）.....	0954
卷七十一 金丹部.....	0958
太清丹经要诀（并序）.....	0958
卷七十二 内丹部.....	0979
大还丹契秘图（并序）.....	0979
真元妙道修丹历验抄.....	0989
卷七十三 内丹部.....	1003
古龙虎歌.....	1003
金丹金碧潜通诀.....	1007
阴丹慎守诀.....	1009
大还心境.....	1010
太清神丹中经叙.....	1012
卷七十四 方药部.....	1014
太极真人青精乾石丁饭上仙灵方.....	1014
太上巨胜腴煮五石英法.....	1018
太上肘后玉经八篇.....	1021
太一饵瑰葩云屑神仙上方（并引说）.....	1025
灵飞散方传信录（云母法附）.....	1026
灵飞散方.....	1028
治云母法.....	1029
卷七十五 方药部.....	1031
神仙炼服云母秘诀序.....	1031
卷七十六 方药部.....	1049

灵宝还魂丹方（并序）.....	1049
修金碧丹砂变金粟子方.....	1052
修羽化河车法.....	1053
神室河车方.....	1054
九转炼铅法.....	1055
金丹法.....	1055
伏火北亭法.....	1056
化庚粉法.....	1057
伏药成制汞为庚法.....	1057
四壁柜朱砂法.....	1058
卷七十七 方药部.....	1059
大洞西华玉堂仙母金丹法.....	1059
镇魂固魄飞腾七十四方灵丸.....	1060
南岳真人郑披云传授五行七味丸方.....	1062
九真中经四镇丸.....	1063
黄帝四扇散方.....	1065
王母四童散方.....	1065
帝女玄霜掌上录.....	1066
萤火丸方.....	1067
黄帝受黄轻四物仙方.....	1068
真人驻年藕华方.....	1068
老君益寿散方.....	1069
骊山老母绝谷麦饭术.....	1069
文始先生绝谷方.....	1070
太清飞仙法.....	1070
太白星官洗眼方.....	1071
张少真炼九转铅精法.....	1072

茯苓<麦少>方.....	1073
卷七十八 方药部.....	1074
三品颐神保命神丹方叙.....	1074
上品颐神保命篇第一.....	1075
中品和形养性篇第二.....	1083
下品疗疾蠲疴篇第三.....	1088
古铁胤粉方.....	1094
后代名医造铁胤粉.....	1094
卷七十九 符图部.....	1096
五岳真形图序.....	1096
五岳真形神仙图记.....	1098
王母授汉武帝真形图.....	1100
五岳真形图法（并序）.....	1105
晋鲍靓施用法.....	1107
卷八十 符图部.....	1111
洞玄灵宝三部八景二十四住图.....	1111
五称符二十四真图.....	1121
元览人鸟山形图.....	1122
卷八十一 庚申部.....	1125
上清元始谱录太真玉诀.....	1125
论庚申存童子去玄灵诀.....	1127
制六欲神法.....	1128
六甲存童子去玄灵法.....	1131
三尸中经.....	1134
去三尸符法.....	1135
卷八十二 庚申部.....	1137
三尸篇.....	1137

游稚川记.....	1146
梦三尸说.....	1147
卷八十三 庚申部.....	1150
中山玉柜经服气消三虫诀.....	1150
说三尸.....	1154
说三尸所居法.....	1154
候三尸法.....	1155
赵先生口诀祝尸虫法（凡三法）.....	1155
东方氏制三尸法.....	1156
紫微宫降太上去三尸法.....	1157
太虚真人消三尸法.....	1158
思念道诚去三尸法.....	1158
五行紫文除尸虫法（凡三法）.....	1159
存心中赤气去三尸法.....	1159
卷八十四 尸解部.....	1160
太极真人石精金光藏景录形经说.....	1160
释石精金光藏景录形法.....	1160
尸解叙.....	1161
造剑尸解法.....	1162
尸解次第事迹法度.....	1164
太极真人诫.....	1165
尸解神杖法.....	1165
水解（凡三人）.....	1166
卷八十五 尸解部.....	1168
太极真人飞仙宝剑上经叙.....	1168
戎胡授舜十转紫金丹叙.....	1168
太一守尸.....	1169

景霄真人.....	1170
太玄阴生符.....	1170
太极真人遗带散.....	1171
轩辕黄帝.....	1171
宁封（火解）.....	1172
玉子.....	1172
王子乔.....	1173
清平吉.....	1173
司马季主.....	1174
鲍叔阳.....	1175
徐弯.....	1175
董仲君.....	1175
龙述.....	1176
王方平.....	1176
栾巴（兵解）.....	1177
女真赵素台.....	1177
女真程伟妻.....	1178
刘卜画.....	1178
张玄宾.....	1178
王嘉（兵解）.....	1179
阴君传鲍靓尸解法.....	1180
折象.....	1181
吴猛.....	1181
左慈.....	1181
王延.....	1183
王叟.....	1184
卷八十六 尸解部.....	1185

洞生太帝君镇生五脏诀.....	1185
太阴炼形.....	1188
水火荡炼尸形.....	1188
阴阳六甲炼形质法.....	1189
修九真中道.....	1190
化形濯景.....	1190
地下主者.....	1191
宁先生.....	1192
灵寿光.....	1193
赵成子.....	1193
许玉斧.....	1194
张鲁.....	1194
许道育（女真）.....	1195
范豹.....	1195
乔顺.....	1195
卷八十七 诸真要略部.....	1197
太清神仙众经要略.....	1197
卷八十八 仙籍旨诀部.....	1210
道生旨.....	1210
养生辨疑诀.....	1216
下元歌.....	1218
卷八十九 诸真语论部.....	1220
经告.....	1220
卷九十 七部语要部.....	1226
连珠（凡六十五首）.....	1226
卷九十一 七部名数要记部.....	1236
九守（凡九篇）.....	1236

十三虚无.....	1243
七报.....	1244
七伤.....	1245
卷九十二 仙籍语论要记部.....	1247
众真语录.....	1247
卷九十三 仙籍语论要记部.....	1255
神仙可学论.....	1255
道性论.....	1259
三相论.....	1260
真相论.....	1262
阴阳五行论.....	1262
卷九十四 仙籍语论要记部.....	1264
坐忘论（并序凡七篇）.....	1264
卷九十五 仙籍语论要记部.....	1275
法性虚妄.....	1275
道性因缘.....	1276
本性淳善.....	1276
有为无为法.....	1277
观四大相.....	1278
色身烦恼.....	1278
筏喻.....	1280
病说.....	1281
求道二患.....	1283
梦喻虚妄.....	1284
散花喻.....	1284
论种子.....	1286
真假.....	1287

空法.....	1288
卷九十六 赞颂部赞颂歌.....	1289
太微天帝君《赞 大有妙经 颂》一章.....	1289
天帝君赞《大有妙经颂》一章.....	1289
太帝君赞《大有妙经颂》一章.....	1289
《老君本生经颂》一章.....	1290
《太上智慧偈玄经颂》一章.....	1290
《太上智慧经赞》一章.....	1290
《本愿大戒经颂》一章.....	1290
《玉皇授瀆生大洞三十九章与《登龙台歌》二章.....	1291
《西王母授紫度炎光神变经颂》三篇.....	1291
《灵宝真一自然太上玄一真人颂》一章.....	1292
《太上弘道颂》一章.....	1292
方诸宫东海上房灵妃歌曲一章.....	1292
青童大君常吟咏一章.....	1293
太虚真人常吟咏一章.....	1293
西城真人王君常吟咏一章.....	1293
小有真人王君常吟咏一章.....	1293
郭四朝常乘小船游戏塘中叩船而歌四首.....	1294
保命仙君告许虎牙杜广平常喜歌一章.....	1294
西王母宴汉武帝上元夫人弹云林之攄歌步虚之曲一章.....	1295
西王母又命侍女田四妃答歌一章.....	1295
王母赠魏夫人歌一章（并序）.....	1295
双礼珠弹云攄而答歌一章.....	1296
高仙盼游洞灵之曲一章（并序）.....	1296
四真人降魏夫人歌共五章（并序）.....	1297
方诸青童歌一章.....	1297

次扶桑神王歌一章.....	1298
次清虚真人歌二章.....	1298
《人间可哀》之曲一章（并序）.....	1299
巴谣一章（并序）.....	1299
杨羲真人梦蓬莱仙公洛广休召四人各赋诗一章.....	1300
石安庆先作诗一章.....	1300
次张诱世作诗一章.....	1300
次许玉斧作诗一章.....	1301
次丁玮宁作诗一章.....	1301
吴王夫差书一章（并序）.....	1301
辛玄子诗三首（并序）.....	1302
卷九十七 赞颂部歌诗.....	1303
太微玄清左夫人歌一首（并序）.....	1303
灵凤歌一首（并序）.....	1303
女仙张丽英石鼓歌一首（并序）.....	1304
汉初童谣歌一首（并序）.....	1304
萼绿华赠羊叔诗三首（并序）.....	1305
九华安妃赠杨司命诗二首（并序）.....	1306
中候王夫人诗四首（并序）.....	1307
方丈台昭灵李夫人诗三首（并序）.....	1308
南极王夫人授杨羲诗三首（并序）.....	1309
紫微王夫人诗一十七首（并序）.....	1310
卷九十八 赞颂部诗赞辞.....	1314
太真夫人赠马明生诗二首（并序）.....	1314
云林右英夫人甌杨真人许长史诗二十六首（并序）...	1316
太极真人智慧经赞六首.....	1322
卷九十九 赞颂部诗赞辞.....	1324

吴子来写真赞一首诗二首（并序）	1324
仙人贻白永年诗一首（并序）	1325
李公佐仙仆诗一首（并序）	1326
攄浩然泛虚舟辞遗栾浑之诗二首（并序）	1326
灵响词五首（并序）	1327
众仙步虚词五首	1329
青童天君常吟一首	1329
南岳夫人作与许长史一首	1329
南岳夫人作一首	1330
卷一百 纪传部纪	1331
真宗皇帝御制《先天纪叙》	1331
轩辕本纪	1332
卷一百一 纪传部纪	1350
元始天王纪	1350
太上道君纪	1350
上清高圣太上玉晨大道君纪	1352
三天君列纪	1353
青灵始老君纪	1355
丹灵真老君纪	1356
中央黄老君纪	1358
金门皓灵皇老君纪	1358
五灵玄老君纪	1359
卷一百二 纪传部纪	1361
混元皇帝圣纪	1361
太微天帝君纪	1364
青要帝君纪	1365
总真主录纪	1366

中天玉宝元灵元老君纪.....	1366
赤明天帝纪.....	1367
南极尊神纪.....	1368
卷一百三 纪传部传.....	1370
宋真宗御制《翊圣保德真君传序》.....	1370
翊圣保德真君传.....	1371
进翊圣保德真君事迹表.....	1386
批答.....	1387
卷一百四 纪传部传.....	1388
玄洲上卿苏君传.....	1388
太和真人传（元阳子附）.....	1390
太极真人传.....	1392
太清真人传.....	1393
太元真人东岳上卿司命真君传.....	1394
卷一百五 纪传部传.....	1401
清灵真人裴君传.....	1401
卷一百六 纪传部传.....	1417
清虚真人王君内传.....	1417
紫阳真人周君内传.....	1421
马明生真人传.....	1426
阴真君传（阴真君自叙附）.....	1430
吴猛真人传.....	1431
许逊真人传.....	1432
许迈真人传.....	1433
杨羲真人传.....	1436
鲍靓真人传.....	1436
卷一百七 纪传部传录.....	1438

陶先生小传.....	1438
华阳隐居先生本起录.....	1438
梁茅山贞白先生传.....	1444
卷一百八 纪传部传.....	1447
列仙传.....	1447
卷一百九 纪传部传.....	1459
神仙传.....	1459
卷一百一十 纪传部传.....	1474
洞仙传.....	1474
卷一百一十一 纪传部传.....	1489
洞仙传.....	1489
卷一百一十二 纪传部传.....	1496
神仙感遇传.....	1496
卷一百一十三（上） 纪传部传.....	1518
神仙感遇传（续）.....	1518
卷一百一十三（下） 纪传部·传.....	1529
续仙传.....	1529
卷一百一十四 纪传部·传.....	1557
壟城集仙录叙.....	1557
卷一百一十五 纪传部传.....	1568
壟城集仙录叙（续）.....	1568
卷一百一十六 纪传部·传.....	1577
壟城集仙录叙（续）.....	1577
卷一百一十七 灵验部.....	1588
宫观.....	1588
真宗皇帝御制叙.....	1588
广成先生序.....	1588

饶州开元观神运殿阁过湖验.....	1589
洋州冯行袭毁素灵宫验.....	1590
文殊台二僧击救苦天尊像验.....	1591
亳州太清宫老君挫贼验.....	1592
周真人居上经堂基验.....	1593
魏夫人坛十僧来毁九遭虎噬验.....	1594
严譔掘洪州铁柱验.....	1594
王峰吴行鲁毁掘成都龙兴观验.....	1595
刘将军取东明观土修宅验.....	1595
南康王梦二神人告以将富贵验.....	1596
果州开元观工匠同梦得材木验.....	1597
北都潜丘台崔相国应梦修观验.....	1598
相国刘瞻梦天尊言再居相位验.....	1599
李蔚相国应梦天尊修观验.....	1560
郑相国还愿修宁州真宁观验.....	1560
段相国报愿修忠州仙都观验.....	1561
楼观赤光示人以避难验.....	1561
卷一百一十八 道教灵验记部.....	1603
木文天尊见像验.....	1603
汉州什邡县水浮铁像天尊验.....	1604
青城丈人真君赐钱验（铁像验附）.....	1604
金州洵阳县望仙观天尊理讼验.....	1605
张仁表念太一救苦天尊验.....	1606
李邵画太一天尊验.....	1607
杨师谟修观享寿验.....	1608
吕细修观仙人来往验.....	1609
黑髭老君召代宗游十洲三岛验.....	1609

玉局化玉像老君应梦验.....	1610
自然石文老君降雨验.....	1610
赖处士预言老君降生作幼主验.....	1611
贾湘严奉老君验.....	1612
沈莹供养老君验.....	1613
姚鹄修老君殿验.....	1614
杨闹儿奉事老君验.....	1614
卷一百一十九 道教灵验记部.....	1616
昭成观壁画天师验（绢画验附）.....	1616
陵州天师井填欠数盐课验.....	1617
李环梦遇天师告授陵州刺史验.....	1618
谢贞精意圻埽遇天师授符验.....	1619
道士刘方瀛依天师剑法治疾验.....	1620
西王母塑像救疾验（三将军附）.....	1620
归州黄魔神峡水救船验.....	1621
青城丈人同葛王贵化灵官示现验.....	1621
罗真人降雨助金验.....	1622
嘉州开元观飞天神王像捍贼验.....	1623
楚王赵匡凝北帝祥应.....	1625
李昌遐诵《消灾经》验.....	1625
崔昼诵《度人经》验.....	1626
姚元崇女精志焚修老君授经验.....	1626
王道珂诵《天蓬咒》验.....	1626
王清远诵《神咒经》验.....	1627
忠州平都山仙都观取《太平经》验.....	1628
天台玉霄宫叶尊师符治狂邪验.....	1629
贾琼受《童子箴》验.....	1631

尹言念《阴符经》验.....	1631
赵业受《正一箓》验.....	1631
僧法成窃改道经验.....	1632
僧行端辄改《五厨经》验.....	1633
崔公辅取宝经不还验.....	1634
刘载之诵《天蓬咒》验.....	1635
姚生持《黄庭经》验.....	1636
卷一百二十 道教灵验记部.....	1637
处州青田县清虚观古钟自归验.....	1637
青城山宗玄观铜钟不能损验.....	1638
温江县太平观铸钟道士得道验.....	1638
眉州故彭山市观大钟伤寺匠验.....	1638
浴爱赤木古钟水洗疮验（古钟验附）.....	1639
渝州南平县道昌观古钟奇巧验.....	1640
黔南盐井古钟多年无毁蚀验.....	1640
天台山玉霄宫古钟僧偷而卒验.....	1640
开州龙兴观钟雪冤验（云安钟附）.....	1641
施州清江郡开元观钟见梦验.....	1642
洪州游帷观钟州官强取入寺验.....	1643
天师剑愈疾验.....	1643
张让黄神印救疾验.....	1644
范希越天蓬印祈雨验.....	1645
越州上虞县钟时鸣地中验.....	1646
王谦据蜀隋文帝黄箓斋克平验.....	1646
青城丈人授黄帝龙枿并降雨验.....	1647
天师叶法善设醮摄魅验.....	1647
范阳卢蔚醮本命验.....	1648

崔图修黄箬斋救母生天验.....	1648
赫连宠修黄箬斋解父冤验.....	1649
唐献修黄箬斋母得生天验.....	1650
李承嗣解妻儿冤修黄箬斋验.....	1651
吴韬修黄箬斋却兵验.....	1651
公孙璞修黄箬斋忏悔宿冤验.....	1652
卷一百二十一 道教灵验记部.....	1654
胡尊师修清斋验.....	1654
崔玄亮修黄箬斋验（持经验附）.....	1655
武昌人醮水验.....	1656
徐翥为父修黄箬斋验.....	1656
张班妻陪钱纳天曹库验.....	1658
苏州盐铁院招商官修神咒道场验.....	1659
相国杜豳公修黄箬斋免阎罗王验.....	1660
南康王韦皋修黄箬道场验.....	1661
李约妻要黄箬道场验.....	1661
卢贲修黄箬道场验.....	1663
樊令言修北帝道场诛狐魅验.....	1664
鲜于甫为解冤修黄箬道场验.....	1665
窦德玄为天符专追求奏章免验.....	1665
马敬宣为妻修黄箬道场验.....	1666
秦万受斗尺欺人罪修黄箬斋验.....	1667
杜鹃举父母修南斗延生醮验.....	1668
卷一百二十二 道教灵验记部.....	1670
衢州东华观监斋隐欺常住验.....	1670
婺州开元观蒙刺史复常住验.....	1670
杭州余杭上清观道流隐欺常住验.....	1671

李赏斫龙州牛心山古观松柏验.....	1672
蜀州新津县平盖化被盗毁伐验.....	1673
嘉州开元观门扉为马栈验.....	1674
成都景云观三将军堂柱础验.....	1674
成都卜肆支机石验.....	1675
成都玉局化洞门石室验.....	1675
汉州金堂县三元观辙迹验.....	1676
玉局化九海神龙验.....	1676
青城绝顶上清宫天池验（六时水验附）.....	1677
葛王贵化丁东水验.....	1677
金堂县昌利化玄元观九井验.....	1678
仙都山阴君洞验.....	1679
嘉州东观尹真人石函验.....	1679
九疑山女仙鲁妙典石盆铁臼验.....	1681
真宗皇帝御制《天童护命妙经序》.....	1681
《太上天童经》灵验录.....	1682

序

祀汾阴之岁，臣隶职霜台，作句稽之吏。越明年秋，以鞫狱无状，谪掾于宁海。冬十月，会圣祖天尊降延恩殿，而真宗皇帝亲奉灵仪，躬承宝训，启绵鸿于帝系，濬清发于仙源。诞告万邦，凝休百世。于是天子锐意于至教矣。在先时，尽以秘阁道书、太清宝蕴太清宝蕴：指太清宫唐写本《道藏》。出降于余杭郡，俾知郡故枢密直学士戚纶、漕运使今翰林学士陈尧佐，选道士冲素大师朱益谦、冯德之等，专其修较，俾成藏而进之。然其纲条湮漫，部分参差，与《琼纲》、《玉纬》之目舛谬不同。岁月坐迁，科条未究。适纶等上言，以臣承乏，委属其绩。时故相司徒王钦若总统其事，亦误以臣为可使之。又明年冬，就除臣著作佐郎，俾专其事。臣于时尽得所降到道书，并续取到苏州旧《道藏》经本千余卷，越州、台州旧《道藏》经本亦各千余卷，及朝廷续降到福建等州道书，《明使摩尼经》等，与诸道士依三洞纲条、四部录略，品详科格，商较异同，以铨次之，仅能成藏，都卢四千五百六十五卷，起千字文“天”字为函目，终于“宫”字号，得四百六十六字。且题曰：《大宋天宫宝藏》。距天禧三年春，写录成七藏以进之。臣涉道日浅，丁时幸深，讵期尘土之踪，坐忝神仙之职？蛙跳缺嵒，积迷虿蟹之区；蚋泊浮萍，但局醯鸡之覆。虽年栖暮景，而宝重分阴。于是精究三乘，详观四辅，采摭机要，属类于文。探晨

灯虹映之微，综玉佩金珰之说。泥丸、赤子、九宫，爰系于一方；神室、婴儿、百道，皆根于两半。至如三奔三景之妙，九变十化之精，各探其门，互称要妙。刻舟求剑，体貌何殊？待兔守株，旨意宁远。因兹探讨，遂就编联，掇云笈七部之英，略宝蕴诸子之奥，总为百二十卷，事仅万条。习之可以阶云汉之游，览之可以极天人之际。考核类例，尽著指归，上以酬真宗皇帝委遇之恩；次以备皇帝陛下乙夜之览；下以稗文馆校讎之职，外此而往，少畅玄风耳。

臣君房谨序

卷一 道德部

总叙道德

《老君指归》曰：太上之象，莫高乎道德；其次莫大乎神明；其次莫大乎太和；其次莫崇乎天地；其次莫著乎阴阳；其次莫明乎大圣。夫道德，所以可道而不可原也。神明，所以可存而不可伸也。太和，所以可体而不可化也。天地，所以可行而不可宣也。阴阳，所以可用而不可传也。大圣，所以可观而不可言也。故度之所度者知，而数之所数者少，知之所知者浅，而为之所为者薄。至众之众不可数，而至大之大不可度。微妙穷理，非知之所能测，大成之至，非为之所能得，天地之间祸乱患咎，非事之所能克也。故不道之道，不德之德，政之元也；不名之名，亡功而功，化之根也。是故王者有为而天下有欲，去醇而离厚，清化而为浊。开人耳目，示以声色，养以五味，说以功德，教以仁义，导以礼节，民如寢觉出于冥室，登丘陵而盼八方，览参辰而见日月。故化可言而德可列，功可陈而名可别。是以知放流而邪伪作，道德壅蔽，神明隔绝。百残萌生，太和消竭。天下徨徨迷惑，驰骋是非之境，失其自然之节。情变至化，糅于万物。悴憔黧黑，忧患满腹，不安其生，不乐其俗。丧其天年，皆伤暴虐。是以君臣相顾而营营，父子相念而

恋恋，兄弟相忧而凄凄，民人恐惧而个双身。个双身相结，死不旋踵，为患祸也。父子恋恋，兄弟凄凄，昏定晨省，出辞入面，为天伤也。臣见其君，五色无主，疾趋力拜，翕肩促肘，稽首膝行以严其上者，为不相亲也。故可道之道，道德彰而非自然也；可名之名，功名显而非素真也。

《老君指归略例》曰：夫物之所以生，功之所以成，必生乎无形，形由乎无名。无形无名者，万物之宗也。不温不凉，不宫不商，听之不可得而闻，视之不可得而彰，体之不可得而知，味之不可得而尝。故其为物也则混成，为象也则无形，为音也则希声，为味也则无呈。故能为品物之宗主，包通天地，靡使不经也。若温也，则不能凉矣。宫也，则不能商矣。形必有所分，声必有所属。故象而形者，非大象也。音而声者，非大音也。然则四象不形，则大象无以畅；五音不声，则大音无以至。四象形而物无所主焉，则大象畅矣。五音声而心无所适焉，则大音至矣。故执大象则天下往，用大音则风俗移。无形畅，天下虽往，往而不能释也；希声至，风俗虽移，移而不能辩也。是故天生五物，无物为用；圣行五教，不言为化。是以“道可道，非常道；名可名，非常名”也。五物之母，不炎不寒，不柔不刚。五教之母，不皦不昧，不恩不伤。虽古今不同，时移俗易，此不变也。所谓自古及今，其名不去者也。天不以此则物不生，治不以此则功不成。故古今通，终始同。执古可以御今，证今可以知古始，此所谓常者也。无皎昧之状，温凉之象，故知常曰明也。物生功成，莫不由乎此，故以阅众甫。夫奔电之疾，犹不足以一时周；御风之行，犹不足以一息期。善速在不疾，善至在不行。故可道之盛，未足以官天地；有形之极，未足以府万物。是故叹之者不能尽乎斯美，咏之者不能畅乎斯弘。名之不能当，称之不能既。名必有所分，称必有所

由。有分则有不能，有由则有不尽。不能则大殊其真，不尽则不可以名。此可演而明也。夫道也者，取乎万物之所由也。玄也者，取乎幽冥之所出也。深也者，取乎探赜而不可究也。大也者，取乎弥纶而不可极也。远也者，取乎缅邈而不可及也。微也者，取乎幽微而不可睹也。然则道玄深大妙远之言，各有其义，未尽其极者也。然弥纶无极，不可名细；微妙无形，不可名大。是以《经》云：字之曰“道”，谓之曰“玄”，而不名也。然则言之者失其常，名之者离其真，为之则窒其性，执之则失其原矣。是以圣人以言为主，则不违其常；不以名为常，则不离其真；不以为为事，则不败其性；不以执为制，则不失其原矣。然则老君之文，欲辩而诘者，则失其旨也；欲名而责者，则违其义也。故其大归也，论太始之原以明自然之性；演幽冥之极以定惑罔之迷。因而不为，损而不施，崇本以息末，守母以存子；贱夫巧术，为在未有，无责于人，必求诸己；此其大要也。而法者尚乎齐同，而形以检之；名者尚乎定真，而言以正之；儒者尚乎全爱，而誉以进之；墨者尚乎俭嗇，而智以立之；杂者尚乎众美，而总以行之。夫形以检物，巧伪必生；名以定物，理怨必失；誉以进物，争尚必起；矫以立物，乖违必作；杂以行物，秽乱必兴。斯皆用其子而弃其母，物失所载，未足守也。然致同涂而异至，合旨而趋乖，而学者惑其所致，迷其所趋。观其齐同则谓之法，睹其定真则谓之名，察其纯爱则谓之儒，鉴其俭嗇则谓之墨，见其不系则谓之杂。随其所鉴而正名焉，顺其所好而执意焉。故使有纷纭愤错之论，殊趋辨析之争，盖由斯矣。又其为文也，举终以证始，本始以尽终。开而弗达，导而弗牵。寻而后既其义，推而后尽其理。善法事始以首其论，明夫会归以终其文。故使同趋而感发于事者，莫不美其兴言之始，因而演焉；异旨而独构者，莫不说其

会归之征，以为证焉。夫涂虽殊必同其归，虑虽百必均其致，而举夫归致以明至理，故使触类而思者，莫不欣其思之所应，以为得其义焉。凡物之所以存，乃反其形；功之所以克，乃反其名。夫存者不以存为存，以其不忘亡也；安者不以安为安，以其不忘危也。故保其存者亡，不忘亡者存；安其位者危，不忘危者安。善力举秋毫，善听闻雷霆，此道之与形反也。安者实安，而曰非安之所安；存者实存，而曰非存之所存；侯王实尊，而曰非尊之所尊，皆理之大者也。名号生乎形状，称谓出乎涉求。名号不虚生，称谓不虚出。故名号则大失其旨，称谓则未尽其极。是以谓玄，则玄之又玄；称道，则域中有四大也。

《韩非子·主道篇》曰：道者，万物之始（物从道生，故曰始），是非之纪也（是非因道彰，故曰纪），是以明君守始以知万物之源，治纪以知善败之端。故虚静以待令，臣将自表异（君见其志，臣用其意以称之）。故曰：去好去恶，臣乃见素；去贤去智，臣乃自备。故有智而不以虑，使万物知其处；有行而不以贤，观臣下之所因；有勇而不以怒，使群臣尽其武。是故去智而有明，去贤而有功，去勇而有强。群臣守职，百官有常，因能而使之，是谓寻常。故曰：寂乎其无位而处，寥乎莫得其所名。明君无为于上，群臣悚惧于下。明君之道，使智者尽其虑，而君因以断事，故君不穷于智；贤者敕其材，君因而任之，故君不穷于能。有功则君有其贤，有过则臣任其罪，故君不穷于名。是故不贤而为贤者师，不智而为智者正。臣有其劳，君有其成功，此之谓贤主之经也。

《淮南·洪烈》曰：“夫道者覆天载地，廓四方，拆八极；高不可际，深不可测；包裹天地，禀授无形；原流泉淙，冲而徐盈；混混汨汨，浊而徐清。故植之而塞于天地，横之而弥于四海，施之无穷而无所朝夕；舒之幌于六合，卷之不盈于一

握。约而能张，幽而能明，弱而能强，柔而能刚；横四维而含阴阳，宇宙而章三光；甚淖而溥，甚纤而微。山以之高，渊以之深；兽以之走，鸟以之飞；日月以之明，星辰以之行；麟以之游，凤以之翔。

太古二皇，得道之柄，立于中央；神与化游，以抚四方。是故能天运地滞，轮转而无废，水流而不止，与万物终始。风兴云蒸，事无不应；雷声雨降，并应无穷；鬼出电入，龙兴鸾集；钧旋毂转，周而复匝；已雕已琢，还反于朴。无为为之而合于道，无为言之而通乎德；恬愉无矜而得于和，有万不同而便于性；神托于秋毫之末，而大与宇宙之总。其德优天地而合阴阳，节四时而调五行；句俞覆育，万物群生；润于草木，浸于金石；禽兽硕大，毫毛润泽；羽翼奋也，角觝生也，兽胎不殍，鸟卵不殍；父无丧子之忧，兄无哭弟之哀；童子不孤，妇人不孀，虹姿不出，贼星不行；含德之所致。

夫太上之道，生万物而不有，成化象而弗宰。跂行喙息，肭飞蠕动，待而后生，莫之知德；待之后死，莫之能怨。得以利者不能誉，用而败者不能非；收聚畜积而不加富，布施稟授而不益贫；周旋而不可究，纤微而不可勤；累之而不高，堕之而不平；益之而不众，损之而不寡；斫之而不薄，杀之而不残；凿之而不深，填之而不浅。惚兮恍兮，不可为象兮；恍兮惚兮，用不屈兮；幽兮冥兮，应无形兮；邃兮洞兮，不虚动兮；与柔刚卷舒兮；与阴阳俯仰兮。葛仙公《五千文经序》曰：老君体自然而然，生乎太无之先，起乎无因，经历天地终始，不可称载；穷乎无穷，极乎无极也。与大道而轮化，为天地而立根。布气于十方，抱道德之至纯。浩浩荡荡，不可名也。焕乎其有文章，巍乎其有成功，渊乎其不可量，堂堂乎为神明之宗。三光持以朗照，天地稟之得生，乾坤运以吐精。高而无民，贵

而无位，覆载无穷。是故八方诸天，普弘大道。开辟已前，复下为国师，代代不休，人莫能知之。匠成万物而不言我，为玄之德也。故众圣所共宗。道尊德贵，夫莫之爵而常自然，惟老子乎！周时复托神李母，剖左腋而生，生即皓然，号曰“老子”。老子之号，因玄而出，在天地之先，无衰老之期，故曰老子。世人谓老子当始于周代。老子之号，始于无数之劫，窈窈冥冥，眇邈久远矣。周室世衰，大道不行，西游天下。关令尹喜曰：“大道将隐乎，愿为我著书。”于是作《道德》二篇五千文上下经焉。

《老君戒文》云：老君生玄洪圣堂。尔时未有天地日月，手无所攀，足无所蹠，悬身而处，不堕不落；身著三光之衣，照于虚芒，如今日月之光也。%

《混元皇帝圣纪序》曰：原夫大道玄寂，理极无为；上德冲虚，义该众妙。是以精凝真一，非假物以称生；形结九空，不待有而成体。含神太混，毓粹幽原，恍惚帝先，希微至极。故能真融金阙，教逸不言；惠涣玉京，慈光有物。二仪持以覆载，万品赖以滋荣。神冠阴阳，功成造化。先天地而独立，后尘劫而无昧。

唐开元皇帝《道德经序》曰：昔在元圣，强著玄言。权舆真宗，启迪来裔。遗文诚在，精义颇乖。撮其指归，虽蜀严而犹病；摘其章句，自河公而或略。其余浸微，固不足数。则我玄元妙旨，岂其将坠？朕诚寡薄，常感斯文，猥承有后之庆，恐失无为之理。每因清宴，辄叩玄关；随所意得，遂为笺注。岂成一家之说，但备遗阙之文。今兹绝笔，是询于众公卿臣庶、道释二门，有能起予类于卜商，针疾同于左氏。渴于纳善，朕所虚怀；苟副斯言，必加厚赏。且如谏臣，自圣幸非此流。悬市相矜，亦云小道。既其不讳，咸可直言。勿为来者所嗤，以

重朕之不德。

唐吴筠《玄纲论·道篇》曰：道者何也？虚无之系，造化之根，神明之本，天地之元。其大无外，其微无内，浩旷无端，杳冥无际。至幽靡察而大明垂光，至静无心而品物有方。混漠无形，寂寥无声；万象以之生，五行以之成。生者无极，成者有亏。生生成成，今古不移。此之谓道也。德者何也？天地所禀，阴阳所资；经以五行，纬以四时；牧之以君，训之以师；幽明动植，咸畅其宜；泽流无穷，群生不知谢其功；惠加无极，百姓不知赖其力。此之谓德也。然则通而生之谓之道，道固无名焉；畜而成之谓之德，德固无称焉。尝试论之：天地人物、仙灵鬼神，非道无以生，非德无以成。生者不知其始，成者不见其终。探奥索隐，孰窥其宗？入有之末，出无之先。莫究其朕，谓之自然。自然者，道德之常，天地之纲也。又曰：道德者，天地之祖；天地者，万物之父；帝王者，三才之主。然则道德、天地、帝王一也，而有今古浇淳之异，尧桀理乱之殊者何哉？夫道德无兴衰，人伦有否泰，古今无变易，情性有推迁。故运将泰乎则至阳真精降而为主，贤良辅而奸邪伏矣；时将否乎则太阴纯精升而为主，奸邪弼而贤良隐矣。天地之道，阴阳有数，故理乱之殊也。所以古淳而今浇者，亦犹人幼愚而长慧也。婴儿未孩，则上古之含纯粹也；渐有所辩，则中古之尚仁义也；成童可学，则下古之崇礼智也；壮齿多欲，则季世之竞浮伪也。变化之理，世俗之宜，故有浇淳之异也。核其所以，原其所由，子以习教而性移，人以随时而朴散。虽然，父不可不教于子，君不可不理于人。教子在于义方，理人在于道德。义方失则师友不可训也；道德丧，则礼乐不能理也。虽加以刑罚，益以鞭楚，难制于奸人贼子矣。是以示童儿以无诳，则保于忠信；化时俗以纯素，则安于天和。故非执道德以化人者，

未闻其至理也。

唐陆希声《道德经传序》曰：大道隐，世教衰，天下方大乱。当是时，天必生圣人。圣人忧斯民之不底于治，而扶衰救乱之术作，周之末世其几矣。于是仲尼阐三代之文以扶其衰，老氏据三皇之质以救其乱，其揆一也。盖仲尼之术兴于文，文以治情；老氏之术本于质，质以复性。性情之极，圣人所不能异；文质之变，万世所不能一也。《易》曰：显诸仁。以文为教之谓也。文之为教，其事彰，故坦然明白。坦然明白，则雅言者详矣。《易》曰：藏诸用。以质为教之谓也。质之为教，其理微，故深不可识。深不可识，则妄作者众矣。夫惟老氏之术，道以为体，名以为用，无为无不为，而格于皇极者也。杨朱宗老氏之体，失于不及，以至于贵身贱物。庄周术老氏之用，失于太过，故务欲绝圣弃智。申、韩失老氏之名，而弊于苛缴刻急。王、何失老氏之道，而流于虚无放诞。此六子者，皆老氏之罪人也。而世因谓老氏之指，其归不合于仲尼。故訾其名，则曰槌提仁义，绝灭礼学；病其道，则曰独任清虚，不可以为治。于戏！世之迷，其来远矣！是使老氏受诬于千载，道德不行于当世，良有以也。且老氏本原天地之始，历陈古今之变，先明道德，次说仁义，下陈礼学之失，刑政之烦，言其驯致而然耳。其秉要执本，在乎情性之极。故其道，始于身心，形于家国，终于天下，如此其备也，而惑者尚多云云，岂不谓厚诬哉！昔伏羲氏画八卦，象万物，穷性命之理，顺道德之和。老氏亦先天地，本阴阳，推性命之极，原道德之奥。此与伏羲同其原也。文王观太《易》九六之动，贵刚尚变，而要之以中。老氏亦察太《易》七八之正，致柔守静，而统织以大。此与文王通其宗也。孔子祖述尧舜，宪章文武，导斯民以仁义之教。老氏亦拟议伏羲，弥纶黄帝，冒天下以道德之化，此与孔子合

其权也。此三君子者，圣人之极也。老氏皆变而通之，反而合之，研至变之机，探至精之归，斯可谓至神者矣。而王弼以为圣人与道合体，老氏未能体道，故阮籍谓之上贤亚圣之人，盖同于辅嗣。岂以老氏经世之迹未足充其所言耶？斯不然也。于戏！圣人之在世也，有有迹，有无迹。故道之不行也，或危身历聘，以天下为其忧；或藏名飞遁，示世故不能累。有迹无迹，殊途同归。斯实道义之门，非徒相反而已。然则仲尼之所以出，老氏之所以处；老氏之所以默，仲尼之所以语，盖屈伸隐显之极也。二子安能识之哉？司马迁统序众家，以道德为首，可谓知本末矣。班固作《古今人表》，乃诎老氏于第三品。虽其名可诎，而道可贬乎哉？于戏！老氏之术，见弃于当代久矣，斯数子者之由也。且仲尼亲见老氏，叹其道曰“犹龙乎”。从之问礼。诚无间然，著在纪传，后世不能探其意，是以异端之说纷然，盖迷之者不穷其源，故非之者不尽其致。噫！斯传之不作，则老氏之旨或几乎息矣。今故极其致，显其微，使昭昭然与群圣人意相合。有能体其道，用其名，执古以御今，致理如反掌耳。自昔言老氏术者，独太史公近之；为治少得其道，唯汉文耳。其他皮傅诡说，皆不足取。

卷二 混元混洞开辟劫运部

混元

混元者，记事于混沌之前，元气之始也。元气未形，寂寥何有？至精感激而真一生焉，元气运行而天地立焉，造化施张而万物用焉。混沌者，厥中惟虚，厥外惟无，浩浩荡荡，不可名也。广大之旨，虽典册未穷，秘妙之基，而玄经可见。古今之言天者一十八家，爰考否臧，互有得失。则盖混天仪之述，有其言而亡其法矣。至如蒙庄《逍遥》之篇，王仲任《论衡》之说，《山海经》考其理舍，列御寇书其清浊，汉武帝黄道，张衡铜仪，周髀之书，宣夜之学，昕天安天之旨，晁崇、姚信之流，义趣不同，师资各异。所以虞喜、虞耸、刘焯、葛洪，宋有承天，梁有祖恒，唐朝李淳风，皆有述作。庐江句股之术，释氏俱舍之谭，或托寓词，或申浮说。若夫定两规之分次，明二道之运行，经纬不差，上下无爽者，惟浑天法耳。葛稚川言浑天之状，如鸡子卵中之黄。地乘天而中居，天乘气而外运，三百六十五度四分度之一，半出地上，半绕地下。二十八舍半隐半见。此乃符上清之奥旨，契玄象之明验矣。

空洞

道君曰：元气于眇莽之内，幽冥之外，生乎空洞。空洞之内，生乎太无。太无变而三气明焉。三气混沌，生乎太虚而立洞，因洞而立无，因无而生有，因有而立空。空无之化，虚生自然。上气曰始，中气曰元，下气曰玄。玄气所生出乎空，元气所生出乎洞，始气所生出乎无。故一生二，二生三，三者化生以至九玄，从九反一，乃入道真。气清成天，滓凝成地，中气为和，以成于人。三气分判，万化稟生；日月列照，五宿焕明。上三天生于三气之清，处于无上之上，极乎无极也。

混沌

《太始经》云：昔二仪未分之时，号曰洪源。溟滓濛鸿，如鸡子状，名曰混沌玄黄。无光无象，无音无声，无宗无祖，幽幽冥冥。其中有精，其精甚真。弥纶无外，湛湛空成。于幽原之中而生一气焉。化生之后九十九万亿九十九万岁，乃化生三气。各相去九十九万亿九十九万岁，共生无上也；自无上生后九十九万亿九十九万岁，乃生中二气也，中三气也；中二气、中三气各相去九十九万亿九十九万岁，三合成德，共成玄老也；自玄老生后九十九万亿九十九万岁，乃化生下三气也；下三

气各相去九十九万亿九十九万岁，三合成德，共成太上也。《灵宝经》曰：一气分为玄、元、始三气，而理三宝。三宝皆三气之尊神，号生三气。三号合生九气。九气出乎太空之先，隐乎空洞之中。无光无象，无形无名，无色无绪，无音无声。导运御世，开辟玄通，三色混沌，乍存乍亡。运推数极，三气开光。气清高澄，积阳成天；气结凝滓，积滞成地。九气列正，日月星宿，阴阳五行，人民品物，并受成生。天地万化，自非三气所育，九气所导，莫能生也。三气为天地之尊，九气为万物之根。故三合成德，天地之极也。

混洞

《太真科》云：混洞之前，道气未显。于恍莽之中，有无形象天尊，谓无象可察也。后经一劫，乃有无名天尊，谓有质可睹，不可名也。又经一劫，乃生元始天尊，谓有名有质，为万物之初始也。极道之宗元，挺生乎自然。寿无亿之数，不始不终，永存绵绵。消则为气，息则为人。不无不有，非色非空。居上境为万天之元，居中境为万化之根，居下境为万帝之尊。无名可宗，强名曰“道”。

劫运

《上清三天正法经》云：天圆十二纲，地方十二纪。天纲

运关，三百六十轮为一周；地纪推机，三百三十轮为一度。天运三千六百周为阳勃，地转三千三百度为阴蚀。天气极于太阴，地气穷于太阳。故阳激则勃，阴否则蚀，阴阳勃蚀，天地气反。天地气反，乃谓之小劫。小劫交则万帝易位，九气改度，日月缩运。陆地通于九泉，水母决于五河，大鸟屯于龙门，五帝受会于玄都。当此之时，凶秽灭种，善民存焉。天运九千九百周为阳蚀，地转九千三百度为阴勃。阳蚀则气穷于太阴，阴勃则气极于太阳。故阴否则蚀，阳激则勃。阴阳蚀勃，则天地改易。天地改易，谓之大劫。大劫交则天地翻覆，河海涌决，人沦山没，金玉化消，六合冥一。白尸飘于无涯，孤爽悲于洪波，大鸟扫秽于灵岳，水母受事于九河，五龙吐气于北元，天马玄辔以徒魔，赤锁伏精于辰门，岁星灭王于金罗，日月昏翳于三豪之馆，五气停晕于九岭之巅，龙王鼓华于东井之上，河侯受对于九海之下，圣君显驾于明霞之馆，五帝科简于善恶。当此之时，万恶绝种，鬼魔灭迹，八荒四极，万不遗一。至于天地之会，自非高上三天所不能禳，自无青篆白简所不能脱也。

又云：天关在天西北之角，与斗星相御。北斗九星，则天关之纲柄，玉晨之华盖，梵行九天十二辰之气。斗纲运关，则九天并转。天有四候之门，九天合三十六候。一昼一夜，则斗纲运关，经一候之门。昼夜三十六日，则经三十六候都竟。则是九天一轮，三百六十轮为九天一周。九天一周，则六天之气皆还上三天。三天改运促会，以催其度。三千六百周则为小劫。小劫交则九气改正，万帝易位，民亡鬼灭，善好清治，六合宁一。九千九百周为大劫终。大劫终则九天数尽，六天运穷。运穷则气激于三五。群妖凶横，因时而行，放毒灭民。此皆运穷数极，乘机而鼓，以至于此也。地机在东南之分，九泉之下。则九河之口，吐翕灵机，上通天源之淘注，傍吞九洞之渊澳，

以十二时纪推四会之水，东回一昼一夜，则气盈并凑。九河之机昼夜三十三日，机转西北，回东北，张西南，翕东南。张则溢，翕则亏。周于四会，天源下流通波，是为一转。三百三十转为一度。一度则水母促会于龙王，河侯受封于三天。三千三百度谓之阴否。阴否则蚀。阴蚀则水涌河决，山沦地没。九千三百度为大劫之终，阴运之极。当此之时，九泉涌于洪波，水母鼓于龙门，山海冥一，六合坦然。此阴运之充，地气之激也。

又云：赤精开皇元年七月七日丙午中时，登琳琅之都，月之上馆，受符于元始天王，开金阳玉匱，玄和玉女口命出皇民录谱。自开皇已前，三象明曜以来，至于开皇，经累亿之劫，天地成败，非可称载。九天丈人于开皇时，*-定元元，校推劫运，白简青录，得道人名记皇民谱录，数极唐尧。是为小劫一交。其中损益，有二十四万人应为得者。自承唐之后，数四十六丁亥，前后中间甲申之年，乃小劫之会，人名应定。在此之际，阳九百六，二气离合，吉凶交会。得过者特为免哉。然甲申之后，其中壬辰之初，数有九周，至庚子之年，吉凶候见，其道审明。当有赤星见于东方，白彗干于月门，袄子续党于虫口，乱群填尸于越川。人啖其种，万里绝烟。强臣称霸，弱主蒙尘。其后当有五灵讳瑞，义合本根。龙精之后，续族之君，平灭四虜，应符者隆，龙虎之世，三六乃清。民无横命，柞无危患。自承唐之后四十六丁亥，是三劫之周。又从数五十五丁亥至壬辰、癸巳是也，则是大劫之周。天翻地覆，金玉化消，人沦山没，六合冥一。天地之改运，非真所如何，惟高上三天，白简青策，乃得晏鸿翻而腾翔，飞景霄而盼目耳。此玄和玉女口命，金阳玉匱论天地之成败、吉凶之兆也。

《上清八景飞经》云：大劫之周，三道亏盈，二气合离，理物有期。承唐之世，阳九放灾，剪除凶勃，搜采上真也。

《老君戒文》云：西向流沙中无量国，有巨石，高二百丈，周旋一千五百里。巨石北则有芥子城。壁方四十里，四面石坛高二十丈。飞仙一岁送一芥子著此城中，以衣拂巨石，令消与平地无别。芥子城令满中芥子，则时运周劫，世转一阶也。《灵宝斋戒威仪经诀》下云：石如昆山，芥子满四十里。中天人罗衣百年一度，拂尽此石；取芥子一枚，譬如一劫之终。若是之久，谁当悟斯者也？

又《灵宝天地运度经》云：灵宝自然运度，有大阳九、大百六也；小阳九、小百六也。三千三百年为小阳九、小百六也。九千九百年为大阳九，大百六也。夫天厄谓之阳九也，地亏谓之百六也。至金天氏之后甲申之岁，是其天地运度，否泰所终，阳九百六会。至时道德方明，凶丑顿肆，圣君受任于壬辰之年也。

太上老君开天经

盖闻未有天地之间，太清之外，不可称计。虚无之里，寂寞无表。无天无地，无阴无阳；无日无月，无晶无光；无东无西，无青无黄；无南无北，无柔无刚；无覆无载，无坏无藏；无贤无圣，无忠无良；无去无来，无生无亡；无前无后，无圆无方。百亿变化，浩浩荡荡。无形无象，自然空玄。穷之难极，无量无边；无高无下，无等无偏；无左无右，高下自然。唯吾老君，犹处空玄寂寥之外，玄虚之中。视之不见，听之不闻。若言有，不见其形；若言无，万物从之而生。八表之外，渐渐始分，下成微妙，以为世界，而有洪元。洪元之时，亦未有天

地，虚空未分，清浊未判。玄虚寂寥之里，洪元一治，至于万劫。洪元既判，而有混元。混元一治，万劫至于百成。百成亦八十一万年而有太初。太初之时，老君从虚空而下，为太初之师。口吐《开天经》一部，四十八万卷。一卷有四十八万字。一字辟方一百里，以教太初。太初始分别天地清浊，剖判溟滓鸿蒙，置立形象，安竖南北，制正东西，开暗显明，光格四维。上下、内外、表里、长短、粗细、雌雄、白黑、大小、尊卑，常如夜行。太初得此老君开天之经，清浊已分。清气上升为天，浊气下沉为地。三纲既分，从此始有天地，犹未有日月。天欲化物，无方可变，便乃置生日月在其中，下照暗冥。太初时虽有日月，未有人民。渐始初生，上取天精，下取地精，中间和合以成一神，名曰人也。天地既空，三分始有，生生之类，无形之象，各受一气而生。或有朴气而生者，山石是也；动气而生者，飞走是也；精气而生者，人是也。万物之中，人最为贵。太初一治，至于万劫。人民之初，故曰太初。是时唯有天地、日月、人民，都未有识名。太初既没，而有太始。太始之时，老君下为师，口吐《太始经》一部，教其太始。置立天下九十一劫。九十一劫者至于百成。百成者亦八十一万年。太始者，万物之始也，故曰太始。流转成练素象于中而见气，实自变得成阴阳。太始既没而有太素。太素之时，老君下降为师，教示太素，以法天下。八十一劫，至于百成，亦八十一万年。太素者，万物之素，故曰太素。太初已下，太素已来，天生甘露，地生醴泉，人民食之，乃得长生。死不知葬埋，弃尸于远野，名曰上古。太素既没而有混沌。混沌之时，始有山川。老君下为师，教示混沌，以治天下。七十二劫，混沌流行，成其山川，五岳四渎，高下尊卑，乃其始起也。混沌以来始有识名。混沌号生二子，大者胡臣，小者胡灵。胡臣死为山岳神，胡灵死为

水神，因即名为五岳四渎，山川高下。混沌既没而有九宫。九宫之时，老君下为师，口吐《乾坤经》一部，结其九宫，识名天地。清气为天，浊气为地。从九宫以来，天是阳，地是阴。阳者刚强，远视难睹，在天成象，日月星辰是也；在地成形，五岳四渎是也；在人成生，心肝五脏是也。分别名之有异，总而名之是一也。取三刚名也。九宫没后而有元皇。元皇之时，老君下为师，口吐《元皇经》一部，教元皇治于天下，始有皇化，通流后代，以渐成之。元皇之后次有太上皇。太上皇之时，老君下为师，教示太上皇以治天下。太上皇之后而有地皇。地皇之后而有人皇。人皇之后而有尊庐，尊庐之后而有句娄，句娄之后而有赫胥。赫胥之后而有太连。太连以前，混沌以来，名曰中古。尔时天生五*)，地生五味，人民食之，乃得延年。太连之后而有伏羲，生于一源之始，继天而生；调习阴阳，以定八卦。自伏羲以前，五经不载，书文不达。唯有老君，从天虚空，无亿河沙在太清之外，不可称计。大道既分天地以来，开置皇化，转佐天帝，通流后世，以自记之。伏羲之时，老君下为师，号曰无化子，一名郁华子，教示伏羲推旧法，演阴阳，正八方，定八卦，作《元阳经》以教伏羲。伏羲已前，未有姓字，直有其名。尔时人民朴直，未有五谷。伏羲方教以张罗网，捕禽兽而食之。皆衣毛茹血，腥臊臭秽。男女无别，不相嫉妒。冬则穴处，夏则巢居。伏羲没后而有女娲，女娲没后而有神农。神农之时，老君下为师，号曰大成子，作《太微经》，教神农尝百草，得五谷，与人民播植，遂食之，以代禽兽之命也。神农没后而有燧人。燧人时，老君下为师，教示燧人钻木出火，续日之光，变生为熟，以除腥臊。燧人没后而有祝融。祝融之时，老君下为师，号广寿子，教修三纲，齐七政。三皇修道，人皆不病。作《按摩通精经》。次有高原、高阳、高辛三世，

次有仓颉、仲说，教书学文。三皇之后而有轩辕黄帝。黄帝之时，老君下为师，号曰力牧子，消息阴阳，作《道戒经》、《道康经》。黄帝以来，始有君臣父子，尊卑以别，贵贱有殊。黄帝之后，次有少昊。少昊之时，老君下为师，号曰随应子，作《玄藏经》。尔时升平，嘉禾生，醴泉出，麒麟至，凤凰来，景星照。少昊之后，次有帝瑞珎。瑞珎之时，老君下为师，号曰元阳子，作《微言经》。瑞珎没后而有帝啻。帝啻之后而有帝尧。帝尧之时，老君下为师，号曰务成子，作《政事经》。帝尧之后而有帝舜。帝舜之时，老君下为师，号曰尹寿子，作《太清经》。帝舜之后而有夏禹。夏禹之时，老君下为师，号曰直宁子，作《德诚经》。夏禹之后而有殷汤，殷汤之后而至周初。周初时，老君下为师，号曰郭叔子，作《赤精经》。老君曰：秘化之初，吾体虚无，经历无穷，千变万化，先下为师。三皇以前，为神化之本，吾后化三皇五帝，为师并及三王，皆劝令修善。天一、地二、人三、时四、音五、律六、星七、风八、州九，合有四十五。子、午、卯、酉、中央，各有九*-。戴九履一，左三右七，二四为肩，六八为足，中有五龟，体成八卦。水流归未，分八至丑；叶落归本，分六至亥；金刚本强，分二至未，土王四季，分四至巳。坎怨独走，离明数四；艮八高掺，三从坤位；乾当城坤，与一相逐；巽吁天门，从乾贷一；震雷动泽，从兑所减；辰午酉亥，自刑之卦，各内其八卦以成，馀有九*-成易字。老君即演行期术曰：行期之法自有术，先举坎就坤二，西南王母东青龙，习气发裔地户间，巽上四期入中宫，*-出中宫升于乾，西之大泽华山巅，东北之上寅艮间，南之炎火离霍山，幡然变化北入玄。

卷三 道教本始部

道教序

上古无教，教自三皇五帝以来有矣。教者，告也。有言、有理、有义、有授、有传。言则宣，教则告。因言而悟教明理，理明则忘言。既有能教、所教，必在能师、所师。是有自然之教、神明之教。此二教，无师资也。神明之教，义说则有，据理则无。正真之教、三皇五帝返俗之教、训世之教，宜分权实。且斯五教，启乎一真。自然教者，元气之前，淳朴未散，杳冥寂尔，颢旷空洞，无师说法，无资受传，无终无始，无义无言，元气得之而变化，神明得之而造作，天地得之而覆载，日月得之而照临，上古之君得之而无为。无为，教之化也。神明之教者，朴散为神明。夫器莫大于天地，权莫大于神明。混元气而周运，叶至道而裁成，整圆清而立天，制方浊而为地，溥灵通而化世界，蒸和气而成人伦。阴阳莫测其端倪，神鬼不知其情状。正真之教者，无上虚皇为师，元始天尊传授。洎乎玄粹，秘于九天，正化敷于代圣，天上则天尊演化于三清众天，大弘真乘，开导仙阶；人间则伏羲受图，轩辕受符，高辛受天经，夏禹受洛书。四圣禀其神灵，五老现于河渚。故有三坟五典，常道之教也。返俗之教者，玄元大圣皇帝以理国理家。灵文真

诀，大布人间；金简玉章，广弘天上。欲令天上天下，还淳返朴，契皇风也。训世之教者，夫子伤道德衰丧，阐仁义之道，化乎时俗，将礼智而救乱，则淳厚之风远矣。噫，立教者，圣人救世愍物之心也。悟教则同圣人心，同圣人心则权实双忘，言诠俱泯，方契不言之理，意象固无存焉。

道教所起

寻道家经诰，起自三元；从本降迹，成于五德；以三就五，乃成八会，其八会之字，妙气所成，八角垂芒，凝空云篆。太真按笔，玉妃拂筵；黄金为书，白玉为简；秘于诸天之上，藏于七宝玄台，有道即见，无道即隐。盖是自然天书，非关仓颉所作。今传《灵宝经》者，则是天真皇人于峨嵋山授于轩辕黄帝，又天真皇人授帝尝于牧德之台，夏禹感降于锺山，阖闾窃窥于句曲。其后有葛孝先之类，郑思远之徒，师资相承，蝉联不绝。其老君《道德经》，乃是大乘部摄正当三辅之经，未入三洞之教。今人学多浮浅，唯诵道德，不识真经，即谓道教起自庄周，始乎柱下。眷言弱丧，深所哀哉！蠡酌管窥，一至于此，何者？寻老君生于殷末，长自周初。托神玄妙玉女玄妙，处胎八十一载，逍遥李树之下，剖左腋而生。生即皓然，号曰老子。指树为氏，因姓李焉。其相也，美眉黄色，日月角悬，蹈五把十，耳有三门，鼻有双柱。周德下衰，世道交丧。平王三十三年十二月二十五日去生西度，青牛薄*2，紫气浮关，遂付《道德真经》取关令尹喜。由此明道家经诰；非唯五千。元始天尊实殊老君，岂唯年代差异，亦有位号不同。若为名三界

：一者欲界。有六天。即从《度人经》太皇黄曾天，数满六天是欲界。人寿命万岁。人在世生，不犯身业杀盗邪淫之罪，来生即登此天之中。无六欲染著，故生此天。二者色界，有十八天。即以次取之。其天人寿亿万岁。若一生之中不犯身业贪嗔之罪，得生此天。三者无色界天。其中人寿命亿劫岁。若人一生之中不恶口两舌，妄言绮语，当来过往，得居此天。其中善男子、善女人，功行满足，堪上四天者，王母迎之，登上四天。其三界太虚无上常融天、太释玉隆腾胜天、龙变梵度天、太极平育贾奕天，此四天名种民天。即三界之上，三灾所不及。四种民天上有三清境。三清之上即是大罗天。元始天尊居其中，施化敷教。

道教三洞宗元

原夫道家由肇，起自无先。垂迹应感，生乎妙一。从乎妙一，分为三元。又从三元变成三气，又从三气变生三才。三才既滋，万物斯备。其三元者，第一混沌太无元，第二赤混太无元，第三冥寂玄通元。从混沌太无元化生天宝君；从赤混太无元化生灵宝君；从冥寂玄通元化生神宝君。大洞之迹，别出为化主，治在三清境。其三清境者，玉清、上清、太清是也。亦名三天。其三天者，清微天、禹馀天、大赤天是也。天宝君治在玉清境，即清微天也。其气始青。灵宝君治在上清境，即禹馀天也。其气元黄。神宝君治在太清境，即大赤天也。其气玄白。故《九天生神章经》云：此三号虽殊，本同一也。此三君各为教主，即是三洞之尊神也。其三洞者，谓洞真、洞玄、洞

神是也。天宝君说十二部经为洞真教主；灵宝君说十二部经为洞玄教主；神宝君说十二部经为洞神教主。故三洞合成三十六部尊经。第一洞真为大乘，第二洞玄为中乘，第三洞神为小乘。从三洞总成七部者，洞真、洞玄、洞神，太玄、太平、太清为辅经。太玄辅洞真，太平辅洞玄，太清辅洞神。三辅合成三十六部，正一盟威通贯总成七部，故曰三洞尊文、七部玄教。又从七部**开三十六部。其三十六部者，第一本文，第二神符，第三玉诀，第四灵图，第五谱录，第六戒律，第七威仪，第八方法，第九众术，第十传记，第十一赞诵，第十二表奏，右三洞各十二部，合成三十六部。其三气者，玄、元、始三气也。始气青，在清微天；元气黄，在禹余天；玄气白，在大赤天。故云玄、元、始三气也。又从玄、元、始变生阴、阳、和。又从阴、阳、和变生天、地、人。故《道德经》云：道生一，一生二，二生三，三生万物。自玄都玉京已下，合有三十六天。二十八天是三界内，八天是三界外。其三界内者，欲界、色界、无色界。从下六天为欲界，次十八天为色界，次四天为无色界，三界合二十八天。其三界胜境，身相端严。从欲界天已上，人寿命长远。皆以黄金荐地，白玉为阶，珠玉珍宝，自然而有。虽复欢乐，并不免生死。其次三界，上四天名为种民天，亦名圣弟子天，亦名四梵天。此天人断生死，三灾之所不能及。其次即至三境。境别有左、右、中三宫；宫别有仙王、仙公、仙卿、仙伯、仙大夫，别有一太上老君天师。太清境有九仙，上清境有九真，玉清境有九圣，三九二十七位也。其九仙者，第一上仙，二高仙，三大仙，四玄仙，五天仙，六真仙，七神仙，八灵仙，九至仙。真、圣二境，其号次第亦以上、高、太、玄、天、真、神、灵、至而为次第。最上一天名曰大罗，在玄都玉京之上。紫微金阙，七宝骞树，麒麟、师子化生其中，三世天

尊治在其内。三界二十八天，其次四天，其次三境，最上大罗，合三十六天，总是三尊所统。故《经》云：三界之上，眇眇大罗；上无色根，云层峨峨；唯有元始，浩劫之家。三代天尊者，过去元始天尊，见在太上玉皇天尊，未来金阙玉晨天尊。然太上即是元始天尊弟子。从上皇半劫以来，元始天尊禅位。三代天尊亦有十号：第一曰自然，二曰无极，三曰大道，四曰至真，五曰太上，六曰道君，七曰高皇，八曰天尊，九曰玉帝，十曰陛下。

左乙混洞东蒙录

东海青华小童曰：余忝植昔因旷劫贻果，曩辰恭承太上嘉命，试守青华之宫。紫云盖上，日月映傍。众仙玉女，妙行真人，侍卫左右，安乐自然。命登不死，位毗上君。统摄学生之人，奉迎太平后圣，宫内东殿，金房玉格，有宝经三百卷，玉诀九千篇。无数文诰，弥劫不穷，妙理要方，备在此内。此内之要，《左乙》为端；箴职所尝，常用欣欢，愿济一切，同归道源。群生垢滞，谅难拯度。太上大慈，敕余严密，随运接引，导诱勿休。念兹在心，不敢暂替。既正主学仙簿录，领受为真之人，誓志宣通，开奖成美。天宝禁重，不得轻传，传之必是其人。先启告太上，须有瑞应，乃得施行。三百宝轴，《左乙》在前。思以广救，未遇其人，学者虽多，会真者少。出之惧招泄宝之灾，闭之虑延绝道之咎。积感淹时，斋思累岁。上相青童君共寻宝经题目，“左乙东蒙之录”又名“三天不死之章”、又名“智慧长生妙诀”、又名“上圣接生宝篇”、又名“源

洞续善玉历”、又名“雌一混洞真文”。中三品总名簿录。检其上品，名“不死之录”，又名“紫字青文”，又名“青录紫章”，又名“紫书录文”，又名“玉简青符”。次有中品，名“长生之策”、又名“黄策白简”、又名“玉牒金篇”、又名“玉书金字”、又名“金文玉符”。次有下品，名“死籍之录”、一名“丹章玄牒”、一名“黑简朱文”、一名“赤目石记”、一名“勒退幽符”。知下品录名，得进入中品；知中品录名，即升上品。知识名题尚能进品，况乃解了修行者乎？

灵宝略纪

述曰：经法元起量世，所谓与虚空齐量，信不可计。劫劫出化，非所思议。过去有劫，名曰龙汉。爰生圣人，号曰梵气天尊。出世以《灵宝》教化，度人无量。其法光显大千之界。龙汉一运，经九万九千九百九十九劫，气运终极，天沦地崩，四海冥合，乾坤破坏，无复光明。经一亿劫，天地乃开，劫名赤明。有大圣出世，号曰元始天尊。以《灵宝》教化。其法兴显，具如上说。赤明经二劫，天地又坏，无复光明。具更五劫，天地乃开。太上大道君以开皇元年托胎于西方绿那玉国，寄孕于洪氏之胞，凝神琼胎之府三千七百年，降诞于其国郁察山浮罗之岳，丹玄之阿侧。名曰器度，字上开元。及其长，乃启悟道真，期心高道。坐于枯桑之下，精思百日，而元始天尊下降，授道君灵宝大乘之法十部妙经。元始时仍住其国长乐舍中，普为时俗人天开畅大法。是时得道之人，尘沙非譬。元始乃与道君游履十方，宣布法缘。既毕，然后以法委付道君，则赐道君

太上之号。道君即为广宣经策，传乎万世。尔时十方大法布满，唯宛利城境法音未周，而此土众生与法有缘。在昔帝尝时，太上遣三天真皇赍灵宝五篇真文以授帝尝，奉受供养，弥其年稔，法策传乎世。帝尝将仙，乃封之于锺山。锺山在西北弱水之外，山高万五千里。至夏禹登位，乃登名山巡狩，度弱水，登锺山，遂得帝尝所封灵宝真文。于是奉持出世，依法修行。禹唯自修而已，不传于世，故禹得大神仙力，能凿龙门，通四渎。功毕，川途治导，天下又安。乃托尸见死，其实非死也。故智者美其迹，真人知其灵。禹未仙之前，乃复封之，镇乎北岳及包山洞庭之室。距吴王阖闾时，王出游包山，见一人在中。问曰：“汝是何人？”答曰：“我姓山，名隐居。”阖闾曰：“子在山必有异见者。试为吾取之。”隐居诺。乃入洞庭，访游乎地天一千五百里，乃至焉。见一石城，不敢辄入。乃于外斋戒三日然后入。见其石城门开，于室内玉几上有素书一卷，文字非常。即便拜而奉出，呈阖闾。阖闾即召群臣共观之，但其文篆书不可识，乃令人赍之问孔子。使者忽然譎诳曰：“吴王闲居殿堂，忽有赤乌衔书来落殿前。王不解其意，故令请问。”孔子愀然不答。良久乃言曰：“丘闻童谣云：‘吴王出游观震湖，龙威丈人山隐居，北上包山入灵墟，乃入洞庭窃禹书，天帝大文不可舒，此文长传百六初，若强取出丧国庐。’若是此书者，丘能知之。赤乌所衔，则丘未闻。”使者乃自首谢曰：“实如所言。”于是孔子曰：“此是灵宝五符真文。昔夏禹得之于锺山，然后封之于洞庭之室。”使者反白阖闾乃尊事之。然其侈性慢易，不能遵奉道科，而真文乃飞上天，不知所在。后其子夫差嗣位，乃登劳山，复得之。奉崇供养。自尔相承，世世录传。至三国时，吴主孙权赤乌之年，有琅琊葛玄，字孝先。孝先乃葛尚书之子。尚书名孝儒，年八十乃诞玄。玄多灵应，年

十三，好慕道德，纯粹忠信。举孝廉，不就。弃荣辞禄，志尚山水。入天台山学道。精思遐彻，未周一年，感通太上，遣三圣真人下降，以《灵宝经》授之。其第一真人自称太上玄一第一真人郁罗翹；其第二真人自称太上玄一第二真人光妙音；其第三真人自称太上玄一第三真人真定光。三真未降之前，太上又命太极真人徐来勒，为孝先作三洞法师。孝先凡所受经二十三卷，并语稟、请问十卷，合三十三卷。孝先传郑思远，又传兄太子少傅海安君，字孝爰。孝爰付子护军悌，悌即抱朴子之父。抱朴从郑君盟，郑君授抱朴于罗浮山，去世以付兄子海安君，至从孙巢甫，以隆安之末传道士任延庆、徐灵期等，世世录传，支流分散，孳孕非一。此大运之通，应根而作者，因缘冥会，乃神明之意。有心君子，可以取焉。

三宝杂经出化序

夫众先元起，资乎本真。本真清凝，窳然渊静，湛体常住，无去来相。自古及今，其名不去。无形无名，为万物之宗矣。《三元经》谓之众生真父母者也。我之所生，乃是因缘和会，寄胎父母耳。众生灵照，本资真父母而生。但以本性既微，未能照见，为尘劳所惑，遂便有身。有身之患，万累生焉。是以转轮五道，还源靡遂，因以本性相资。灵照本同，皆有智性，卒莫反真。圣人兴慈父之悲，爰同赤子，随宜拯济，使之离苦，得无为之乐。是以三洞及诸法门，随其所好而开，今其解脱。解脱所由，盖缘能悟。悟则受行，能弃俗法；安神无为，得不死术。若有智者能为诸人解畅经旨，使长迷反晓者，其福可量。

乎？余未染道服，披寻经教，求之意绪，度脱彷彿，辄述三宝出化所由，并训解经卷数篇。辩诸疑惑，以拟有道君子；述作而已，不敢远其中道。植训乖谬，览者详焉。

天尊老君名号历劫经略

老君至开冥贤劫之时，托生扶桑太常玉帝天宫，以法授扶桑太帝，号曰无极太上大道君，亦号曰最上至真正一真人，亦号曰无上虚皇元始天尊。在元阳之上，则无极上上清微天中高上虚皇道君也。于是放身清凉，神光明朗，照大幽之中。尔时盘古真人，因立功德见召于天中。盘古乃稽首元始虚皇道君，请受《灵宝内经》三百七十五卷。时高上虚皇太上道君则授以《三皇内经》三十六卷。而盘古真人乃法则斯经，运行功用，成天立地，化造万物。下游天地，发圆珠之应万六千日月明三辰天元而起，遂有五亿五千五百五十亿万重天地焉。十方俱行道德之化，后天皇氏始兴焉。时老君降三玄空天宫，以《天皇内经》十四篇授与天皇，以治天下三十六万岁，乃白日升仙，上三玄空天宫中。天皇氏后而地皇氏兴焉。太极老君又授《地皇内经》十四篇。地皇氏得此经，以治天下三十六万岁，乃白日升天，上素虚玉皇天宫中，万帝朝尊。地皇仙后，人皇氏兴焉。太极老君又授《人皇内经》十四篇。人皇得此经，以治天下三十六万岁，于是白日升仙，上太素虚玉皇天宫，受自然之寿。由是以后九亿九千九百九十九万岁，方至于五帝兴焉。五帝各理三万六千岁，而五帝氏后，逮于中皇天皇君出世，而启太上老君太极真人下降昆仑之山，又授以《天皇内经》十四篇。

而天皇君得此经，以道治世三万六千岁，白日登仙，上升太清天中。天皇君仙后而地皇君兴焉。地皇君出世，太上老君太极真人又下降流纲之山，授地皇君《地皇内经》十四篇。而地皇君得此经，以道治世三万六千岁，白日登仙，上升太极虚皇天中。而地皇君仙后，而人皇君兴焉。人皇君时，太极真人太上老君下降于南霍之山，又授以《人皇内经》十四篇。而人皇君得此经，以道治世三万六千岁，白日登仙于太极南朱上天宫。自中三皇氏后，老君经九万九千九百九十九万岁，又以法授人皇君子孙，俾治世修道，元始天尊真人皆降焉。后五龙氏兴焉。天真皇人太上老君降下开明之国，以《灵宝真文》《三皇内经》各十四篇，授五龙氏。五龙氏得此经，以道治世万二千岁，白日登仙。尔时甘露降焉，苍生则于中化生。是后运动阴阳，作为五行。四微、世欲、生死之业，于是而起。人乃任性混朴，茹毛饮血，男女无别。夏则巢居，冬则穴处。经于三十六万岁后，神人氏兴焉。神人氏出生，其状神异，若盘古真人，而亦号盘古，即是无劫苍生万物之所承也。以已形状类象，分别天地、日月、星辰、阴阳、四时、五行、九宫、八卦、六甲、山川河海，不能决定，故以天中元景元年七月一日，上登太极天王，上启元始太上天尊，更授《神宝三皇内经》并《灵宝五符经》。老君下降，授神人氏，得斯经下世，则按经图分画天地，名前劫。高上真人更新开乎造化时事，故昧前皇圣人功用，所以于此而为更始。但世人相聚，只知有此盘古，岂明今天前始之初复有盘古者哉？所以自斯盘古，以道治世万九千九百九十九载，白日升仙，上昆仑，登太清天中，授号曰元始天王。则王母学道，降人鸟之山人。而盘古真人氏仙后，伏羲氏兴。伏羲氏兴而太极天真大神以清浊已分元年，上启太上老君，以《天皇内经》十四篇，并《灵宝图道德五千文》授伏羲。伏羲按

经文，以道化天下，故致别白众生殊类，则以人为贵。方列其男女、夫妻、父子、兄弟、氏族，则《灵宝五千文经》之功也。伏羲以道治世六千岁，白日升天中，号曰天真景星真人。伏羲氏后，而燧人氏兴焉。燧人氏兴，故玉虚真人以清浊已分元年，上启太上老君，下降丹霍之丘，以《地皇内经》十四篇，并《灵宝五千文道德经》授燧人氏。燧人氏得斯经，造火，变生为熟，乃《灵宝》之功也。燧人氏以道经治世六千岁，于丹霍之山白日升仙，登于太极左宫，号曰玉虚真人。燧人氏后，祝融氏兴焉。祝融氏兴，太上老君以天汉元年，下降南岳衡山及蓬莱山，以《人皇内经》、《灵宝五千文道德经》等，以授祝融氏。观《人皇内文》，则知金玉七宝之所在，故范土为金，治石为铁，乃造刀斧锯凿等，以利益众生，使不损众生手爪之用。是以祝融氏以道德治天下六千岁，白日升于太极南昌上宫，号大行真人。自伏羲、燧人各授六百岁，传子孙得六千岁。祝融氏后，而神农氏兴焉。神农氏兴，而元始太上老君以天景元年下降形马之山，以《灵宝》五篇真文、《三皇内经》、《道德经》授神农氏。所以神农按经文欲为天下众生合仙药欲为天下众生，以济天下万民。是时普四天下众生，既非仙药能济，所以方按《三皇内经》，召天上前劫高上父母天中大圣真人，问以先劫造化时事。既决，已则负灵宝真文，飞行百卉之山。遇其苦则生，遇其甘则死。所以一日之中，百生百死，故于农石山谷，方备得五谷、五辛以还，教民种植，以代生杀，使教谷食。孟时民既为日已久，五脏见烂，故重按道方为品类草、木、石等，以为医方，治民疾病。造作称、尺、斗、斛，货易则驾云轮之车，周行天下，各随国土所宜，无不尽备矣。而神农以道天下治二百岁，于大室之山白日升仙，上登太皇之天，号曰灵宝虚皇真人。传世子孙合五百二十二年，后则轩辕氏兴。以

上皇元年十月五日，老君下降于峨嵋之山，授黄帝《灵宝经五符真文》。黄帝登南霍山，有朱灵神人以《三皇内经》授帝。是黄帝既平蚩尤以没，方思神妙化用之意，不能开解，而师广成子。按《三皇内经》召高天大圣真人、前劫造化神仙真人，以九天父母，问乎前劫造化功用时事。是元始天尊、真仙并降，语帝曰：“尔欲知前劫造化时事者，汝可寻《太上玄老灵宝君五符真文经》也。功用本起，莫不从于是经，以庄严天地，至于万物、一切苍生，功德是足，备出斯经。品物名色，众生殊类，普陈载焉。”尔时元始老君为帝解说，所以帝依其解文句，深思俯察，改致造作城台、宫阙、房室、衣冠，教以荣华之色。乃制舟车，以通水陆。陶坯鼎器物，以给天下饮食之用。又推天文、礼乐，故百工周奏以助其化。皆犹灵宝三等经文之功。又至上皇三年七月二十九日壬子，天真皇人下授黄帝六壬式图、六甲三元、遁甲造式之法。法威天下，流传子孙也。故黄帝以道治世一百二十年，于鼎湖山白日升天，上登太极宫，号曰中黄真人。

卷四 道教经法传授部

上清源统经目注序

上清者，宫名也。明乎混沌之表，焕乎大罗之天。灵妙虚结，神奇空生，高浮澄净，以上清为名；乃众真之所处，大圣之所经也。宫有丹青金书玉字上皇宝经，皆玄古之道，自然之章。起于九天之王九玄道君。推校本元，已历九万亿九千劫。上皇典格，各不相参。道君以中皇元年九月一日，于玉天琼房金阙上宫，命东华青宫寻俯仰之格，拣校古文，撰定灵篇，集为宝经。传至汉武帝时得经，起柏梁台以贮之。帝既为神真所降，白云得道，放情怠懈，不从王母至言。明年天火烧柏梁台，经飞还太空，于兹绝迹。太元真人茅君，讳盈，师西城王君，受上清玉佩金珰、二景璇玑之道，以汉宣帝地节四年三月升天。又玄洲上卿苏君，讳林，师涓子，受上清三一之法，以汉神爵二年三月六日登天。又周君、李君、众仙各有所得，并相承经业，多不传世。汉孝平皇帝元始二年九月戊午，西城真人以《上清经》三十一卷，于阳洛之山授清虚真人小有天王王褒。褒以晋成帝之时，于汲郡修武县授紫虚元君南岳夫人魏华存。华存以咸和九年，岁在甲午，乘飚轮而升天。去世之日，以经付其子道脱，又传杨先生讳羲。羲生有殊分，通灵接真，乃晋简

文皇帝之师也。杨君师事南岳魏夫人，受《上清大洞真经》三十一卷。至晋孝武皇帝太元十一年，岁在丙戌升仙。许先生者，名映，丹阳句容人也。七世祖许子阿，生有阴德，福润流洒，锺于后嗣。子阿六世孙名副，仕为剡县令。副有八子，其第一子名迈，字叔玄，小名映，改名远游。少好仙道，耽心冥肆，吐纳和气，矫志云汉，超迹绝世。以晋建兴元年岁在癸酉，渡江入赤城山中，往而不返。师南海太守鲍靓、太元真人茅君。远游第五弟名谧，仕为护军长史、散骑常侍。师太元真人，受上清众经，于宁康元年隐景去世。谧有三子。其第三子名玉斧，长名翺，字道翺。道德淳莹，绝世无伦。师杨先生授《上清三天正法曲素凤文》三十一卷，遁迹潜化。玉斧子黄民，黄民子名豫之。以元嘉十二年终剡之白山。临去世之时，以上清宝经、三洞妙文，封以玄台，印以白银，留寄郟县马度生家。语之曰：“今且暂行，不久当还，勿开此经！”马氏崇奉累世。安康有道士娄化者，常憩马氏舍。究悉经源，苦求开看。马氏固执，竟不从命，结屈无方。是时宋明皇帝崇敬大法，招集道士，供养后堂。娄化乃因后堂道士段季真密启之。帝即命使逼取至京，乃拜礼开之。忽有五色紫光洞焕眼前。帝惊曰：“神真叵触！”比其年不愈而崩。元徽元年，马氏即出诉，启请其经。诏敕听还。于是天藏真书复归马氏。兹乃上真注笔，朱简紫书，后之凡庶，摸而传奉，号曰真迹。今记神王所撰宝经卷三十一首，篇章目第，并指事为名。然天真之言，理奥难寻。或名同而事异，或理合而字乖。灵秘妙隐，不与世合。幸而见之，卒难详辨。余宿植缘会，游涉法源；性好幽旨，耽灵味玄；钻研弥龄，始觉仿佛。谨以鄙思寻校众经，为《上清目义》。非敢有裨大乘，聊自记而已。

灵宝经目序

元嘉十四年某月日，三洞弟子陆修静，敬示诸道流相与同法，弘修文业，赞扬妙化，兴世隆福。每欣一切遭遇慈泽，离彼恶道，入此善场，逍遥长乐，何庆如之！但至躋宛奥，妙义微远，灵匠未遇，群滞莫披。翘翘渴仰者，岂予小子乎？既太虚眇邈，玄师难希，宜求之于心，即理而断也。敢竭暗浅，先言所怀。

夫灵宝之文，始于龙汉。龙汉之前，莫之追记。延康长劫，混沌无期。道之隐沦，宝经不彰。赤明革运，灵文兴焉。诸天宗奉，各有科典。一劫之周，又复改运。遂积五劫，迨于开皇已后。上皇元年，元始下教。大法流行，众圣演畅，修集杂要，以备十部三十六帙，引导后学，救度天人。上皇之后，六天运行。众圣幽升，经还大罗。自兹以来，回绝元法。虽高辛招云舆之校，大禹获钟山之书。老君降真于天师，仙公授文于天台。斯皆由勋感太上，指成圣业。岂非扬芳于世，普宣一切也？按《经》言，承唐之后四十六丁亥，其间先后庚子之年，殒子续党于禹口，乱群填尸于越川。强臣称霸，弱主西播。龙精之后，续祚之君，罢除伪主，退翦逆民。众道势讫，此经当行。推数考实，莫不信然。期运既至，大法方隆。但经始兴，未尽显行，十部旧目，出者三分。虽玄蕴未倾，然法轮已遍于八方。自非时交运会，孰能若斯之盛哉？

顷者以来，经文纷互，似非相乱。或是旧目所载，或自篇章所见，新旧五十五卷，学士宗竟，鲜有甄别。余先未悉，亦

是求者一人。既加寻览，甫悟参差。或删破上清；或采持余经；或造立序说；或回换篇目，裨益句章，作其符图；或以充旧典；或别置盟戒。文字僻左，音韵不属，辞趣烦猥，义味浅鄙，颠倒舛错，事无次序。考其精伪，当由为猖狂之徒，质非挺玄，本无寻真之志，而因修窥阅，假服道名，贪冒受取，不顾殃考，兴造多端，招人宗崇，敢以鱼目厕于隋侯之肆，辄将散砾托于和氏之门。启诳愚蒙，诬桀太玄。既晚学推信，弗加澄研，遂令精粗糅杂，真伪混行。视听者疑惑，修味者闷烦。上则损辱于灵囿，下则耻累于学者。进退如此，无一可宜。徒倾产疲力，将以何施？夫轻慢之咎既深，毁谤之罪靡赦。余少耽玄味，志爱经书，积累锱铢，冀其万一。若信有可崇，何苟明言坐取风刀乎？虑有未悉，今条旧目已出，并仙公所授事注解，意疑者略云尔。

上清经述

述曰：寻经之意，乃太虚齐量，劫劫出化，非可筹*-。自开皇之后距天汉时，范阳桑平王褒，字子登。以正月一日辞二亲，欲寻神仙，求不死之道。乃入华阴山，精思一十八年，遂感上圣太极真人西梁子，下降授丁饭方、并服云牙法。复五年，太极真人王总真复降，以《上清经》三十一卷付子登，并将子登游五岳，观名山，备受上法。逮乎晋武皇帝时，任城魏华存，字贤安，乃魏阳元之女也。阳元仕至荥阳、宜阳二郡太守，散骑常待、冀州刺史。其父乃嫁贤安于南阳刘岳，字幼彦。岳，妻时除为修武县令，贤安随焉。贤安自少为女，处乎内室，性

好至道，虽未得仙而真人屡降。及其长也，女子有夫之义，修尚之事有时而废。及至儿女成立，告诫子曰：“我愿终寻真之志。”于是离群独处，不交人事；深托隐疴，还修曩尚。入室百日，所期仙灵，积思希感。尔乃独节应神，丹心潜会，精苦仰彻，天真遐降。于是季冬之月，夜半清朗，忽闻空中有锤鼓之响，笳箫之声，音韵嘈囋。出户望之，见从东方虚空而来，旌旗郁勃，羽盖纷纭，光辉幽蔼，灿烂太虚，他人莫之见也。须臾有虎辇玉舆隐轮之车，并顿驾来降夫人之静室。凡四真人，并年可二十余，容貌伟朗，天资秀颖。同著紫花莲冠，飞锦衣裳，琼蕊宝带；体佩虎文，项有圆光，手把华幡。其一人自称曰：“我太极真人安度明也。”其一人曰：“我东华大神方诸青童君也。”其一人曰：“我扶桑碧海暘谷神王景林真人也。”其一人曰：“我清虚真人小有仙人王子登也。”于是夫人匍匐再拜，叩头自转：“不期今日道君降下，唯乞神仙长生度世。”四人乃坐良久。王子登告夫人曰：“闻子曩日念善，展转求生。密练真气，魂和体清。丹怀远迈，录字上清；高契真人。抱信期灵；幽感启微，潜曜赤城。遂金书紫极，藏简玉庭，故感高晨，玄唱齐并。是以太帝君敕我今来教授于子神真之道焉。”其东华青童君曰：“此清虚真人者，尔之师也。当受业焉。”其安度明曰：“子因缘上业，积感求道，苦心久矣，用思至也。道今来矣，子得之焉。”其景林真人曰：“子勤感累世，积念真灵，将积应之所期，乃明挺之标会也。虚皇早鉴尔之用思太极，已注子名于玉札，录字紫虚之宫，金书东华之阁，刻名上清丹文锦籍，应为紫虚元君上真司命。又加名山之号，封南岳夫人。今视子之质，实霄景高焕，圆精重照，凤骨龙姿，脑色宝耀，五藏紫络，心有羽文，形栖晨霞，神友灵肆。天人之任，良不虚矣。帝诲王褒相为盟师，故遣太极真人鉴子之精，子其

勛哉。”四真各有辞。致言毕，夫人叩头自转而言曰：“华存卑贱，枯骨之余，自处尘垢，久染浊秽，天地寥邈，高下悬隔，纵恣五浊，翻错臭秽，滞塞灵艾沈沦凡俗。无冀日月回曜幽冗，不谓天尊下交凡肆。所以割心断意，取同蝼蚁。自顾少好神仙，贪乐长生，心之所诣，出于自然。志之所期，誓以三光。而值季世，俱忌礼度，制置无从脱免，良愿不遂。今形非顾影，体气臭恶，久为垢秽所逼者，徒励节无益。自入刘门，修道日废。须者少闲，内外乖隔，容得斋思，谨按道法寻求经方入室之制，为欲静护五藏，辟诸疾病耳。岂图上愿惟在今日今夕，道君并降，庆出分外。光照幽谷，荷戴天眷，不胜惶惧！此是婢子有幸，当得度世。唯乞哀矜，赐以性命。”自陈毕，东华小童指招而告之曰：“子少好道，真至诚密。感是，故因缘世生，胎炼五神，寄慧齐见，超度八难，气适灵辉，挺会真*，自当为紫虚之宫上真司命。勤精弥纶太极，所*/又加名岳之封，位均诸侯。然不受闻上道内法、晨景玉经者，仙道众妙，无缘得成也。子其勉哉！我后日当更期会于阳洛山中，汝勤之矣！”于是清虚真人王君乃命侍女华散条、李明允等，使披云蕴、开玉笈，出《太上宝文》、《八素隐书》、《大洞真经》、《灵书紫文八道紫度炎光石精玉马神真虎文》、《高仙羽玄》等经三十一卷，是王君昔于阳洛山遇南极真人西城王君所授者也。今于汲郡修武县中授夫人焉。暘谷神王又别授夫人《黄庭内景经》，正一真人张君又别授“治精制鬼法”。夫人前后所授，非但此三十一卷而已。其篇卷悉在传中，不能一一书之。此乃《上清经》从此而行世也。

三皇经说

《三皇经》云：昔天皇治时，以《天经》一卷授之。天皇用而治天下二万八千岁，地皇代之。上天又以经一卷授之。地皇用而治天下二万八千岁，人皇代之。上天又以经一卷授之。人皇用而治天下亦二万八千岁。三皇所授经合三卷，尔时号为《三坟》是也，亦名《三皇经》。三皇后又有八帝，治各八千岁。上天又各以经一卷授之，时号为《八索》是也。此乃《三坟》、《八索》根本经也。如法而言，三宝俱起无量之世，但以隐显有时。自三皇八帝之后，其文亦隐。至于晋武皇帝时，有晋陵鲍靓，官至南海太守，少好仙道。以晋元康二年二月二日登嵩高山，入石室清斋，忽见古三皇文，皆刻石为字。尔时未有师。靓乃依法以四百尺绢为信，自盟而受。后传葛稚川，枝孕相传，至于今日。三宝行世，自然之数，心与理契，因缘冥符使之然也。术曰：夫众生昏惑，长迷生死，神明蔽瞶，不能悟理。圣人兴，大慈大悲，爱若赤子。随时化生，随宜救拔，欲令离苦，得无为之乐。但圣道渊邃，难可顿悟，必须阶渐，以发其蒙。未显大法，先教厨食、章书、杂法、黄赤之道。杂化浅近，以应遇情信伏。能修杂法，名为奉道。既能奉道，则能舍离魔俗之法。渐渐调伏，而后教以《灵宝》。既信《灵宝》，便求为道士。既为道士，便宜受持一百八十大戒、二百四十威仪。修行六通，能遣六尘，四十五念、十二上愿、十二可从一切法行，皆能受持。研心宗极，洞体道真，洞然玄悟，以得神仙。从此而修，终会无为。当知章厨杂化为渐导之义，虽

名奉道，未识正理。惟体识君子，宜裁之焉。

道教相承次第录

谨按《云台治中内录》言：太上老君传授《云台正治官图》，《治山灶鼎》等得四十一代相承。具人名代数如后：

第一代老君（老君火山大丹治法传授三百人。唯三人系代：王方平、尹喜、徐甲）。

第二代王君（王君授三十人。唯三人系代：茅蒙、孙盈、章震）。

第三代章震（震授十七人。唯二人系代：若士、李夫人名仙）。

第四代若士（士授五十二人。唯三人系代：李元君、白石先生、李常存）。

第五代李元君（元君授七十二人。唯二人系代：王子乔、许述成）。

第六代诸仙别传分散，世绝系治官气并治名。老君念于志学之子，再下平盖山，授张陵为云台治，火芝火仙之经、方术变化、长生不死之药、登升云天之道。敕陵为第六代道之外孙，而东海小童君为陵保举，师太上老君为度师，度云台治。封陵为天师（天师授三百人。唯三人系代行治：张申、王升、李忠）。

第七代张申（申授三十三人。唯三人系代，行传治法：李仲春、李意期、李玄）。

第八代李仲春（仲春授十五人。唯二人系代：李少君、魏

伯阳)。

第九代李少君(少君授九十人。唯二人系代：栾巴、李常存)。

第十代栾巴(巴授五人。唯二人系代：阴长生、李宙先)。

第十一代阴长生(长生授八人。唯二人系代：张景霄、王万缙)。

第十二代张景霄(景霄授五人。唯一人系代：刘冯)。

第十三代刘冯(冯授五人。唯一人系代：刘政)。

第十四代刘政(政授五人。唯二人系代：孙博、严光)。

第十五代孙博(博授三人，无可代者。乃入林屋山中，合龙虎大丹而升天。治法遂绝)。

太上老君命李仲甫出神仙之都，以法授江南左慈，字元放，故令继十六代为师相付。(元放授八十人。唯三人系代：介象、严光女、李佗)。

第十七代介象(介象授四十人。唯五人系代：李延、张授、万葛卿、阮玉、李用)。

第十八代李延、介谈(延、谈授十八人。唯一人系代：刘景)。

第十九代刘景(景授四人。唯一人系代：东海郭延)。

第二十代东海郭延(延授三十人。唯一人系代：灵寿光)。

第二十一代灵寿光(寿光本外国人。授十八人。唯一人系代：何述)。

第二十二代何述(述授十人。唯一人系代：罗先期)。

第二十三代罗先期(先期授二十人。唯二人系代：甘季仁、甘孝先)。

第二十四代甘孝先(孝先授五十一人。唯一人系代：石帆公)。

第二十五代石帆公（帆公授十九人。唯一人系代：宫户。一云宫中用，字也）。

第二十六代宫户（户授八十人。无可传者，治法遂绝。户入南岳及天台山，经八十五年。世绝仙人，正道不继）。

老君念其功修之徒，再降庐山，敕左元放授施存、葛玄，令继代为仙官世祖，师传仁人者也。

第二十七代施存（存授七十人。但皆地仙耳。唯同学葛玄继代）。

第二十八代葛玄（玄授十九人。唯三人系代：张秦、仇真、李用别出）。

第二十九代尹思（太上老君差紫衣使者下命于庐山，授五人更二人。尹思、尹轨系代传治。思授七十人。唯二人系代：女子樊忠和、韦义山）。

第三十代尹轨（轨授十九人。唯一人系代：女仙李元一）。

第三十一代女仙樊忠和（忠和授二人。唯一人系代：刘纲东陵母）。

第三十二代女仙李元一（元一授四十人。无人可传，治法代绝）。

第三十三代刘纲（纲，樊夫人弟子。虽居官治，又其夫也，治法后绝）。

第三十四代张秦（秦，葛玄弟子。玄见其代绝，乃再令秦授十一人。唯一人系代：王列）。

第三十五代王列（列授九人。唯二人系代：许逊、胡少真）。

第三十六代许逊（逊授一百人。而无人可授，系代又绝。逊升天后两代，人民征伐，真志不传）。

老君敕使三人于天台山，令葛玄传郑思远，系三十七代（

思远授十九人。唯二人系代：葛洪、李淳风）。

第三十八代李淳风（淳风授四十人。唯四人系代而未传授。二人者：李道兴、李靖。后又隐于房公之山，一百年后，出授张常存、李太虚、李惠举，同太师神等四人）。

第三十九代李惠举、张常存而各分代传授，皆称三十九代孙（惠举授三十人。唯三人可代：李保真、白玄中、李太昌。张常存授三十七人。唯三人愿系代：孙张真、应真、孙道用）。

第四十代李保真（保真授二十四治一百人。唯二人系代：林通元、李德仁）。

第四十一代林通元。

玄都九真盟科九品传经录

《玄都上品》第一篇曰：《大洞真经》、《雌一宝经》、《太上素灵大有妙经》，三奇之章，高上玉皇宝篇。秘在九天之上，大有之宫，太玄灵台玉房之中。上皇之初，旧科经万劫一传。三道正明，学真日兴高上科。七千年内听得三传。侍卫玉童玉女各七千人，执香典炁，按科传授之法，皆对告斋百日，分金钮为盟，给玉童玉女，依四极盟科。不依科而传，罪延七祖，幽魂充役，吞火食铁，负山运石，以填无极之考，抱风刀之罚，身歿形残，长闭地狱，万不得仙。

《玄都上品》第二篇曰：传《大洞真经三十九章》于后者，誓以上金十两，铜二十五斤，钮五双，金鱼、玉龙各一枚、青丝一两缠钮。若《雌一》，以上金五两、五色锦绶各五十尺、香一斤、金钮三双。《太上素灵洞真玄经》，上金三两、紫纹

百尺、青缯二十七尺、赤丝五两、香一斤、丹一两，上皇以信誓心，不得有阙，阙则亏科。师犯则夺侍经玉童玉女，还于本官。不过三年，身被风刀考罚，自然失经。受者不依盟科，皆失明形残，七祖父母被受酆都之责，万劫还生，非人之道，学者慎之。

《玄都上品》第三篇曰：凡有金名东华，玉字上清，得授《太霄琅书琼文帝章》、《紫度炎光神玄变经》、《上清变化七十四方九真中经》、《丹景道精隐地八术》、《解形遁变流景玉经》、《七变舞天经》，皆九天真王元始天王、太上天帝君、中央黄老君，受于太空中九玄之内，虚无之高章也。皆秘在太上灵都之宫紫房，三元君主之，侍卫玉童玉女皆三千人。元始之初，经七千劫一传。自三道立正之后，七千年内听三传。七百年中有其人，亦听传。传皆对斋九十日，或九日，告盟而授之。给玉童玉女，依四极盟科。若不依科而传，罪延七祖父母，充责鬼官，运蒙山之石，填积夜之河，万劫还生，非人之道。己身被风刀之考，自然失经，终不得仙，传者慎之。

《玄都上品》第四篇曰：传《琼文帝章》，赍金鱼、玉龙，青缯三十二尺、金钮三双为誓。《紫度炎光》，五色锦各五十尺、上金五两、沈香五斤、真朱一斤、书刀一口、金札七枚、绛纹七十尺之誓。《上清变化七十四方经》，青缯四十尺、上金十两、金钮六双、好香一斤、金鱼玉龙之誓。《九真中经》，旧科落发为盟，今以白绢九十尺准盟，法于九真之数。青丝一斤、绛纹二十四尺、北暉之誓。碧缯二十四尺，月华之誓。金钮三双，元常童子圆变之信。《丹景道精隐地八术》，《解形遁变流景玉经》，悉上金十两、金鱼、玉龙各一枚、青缯四十尺、紫纹四十尺、金钮各三双。《七变舞天经》，上金五两、真朱一斤、青缯三十二尺之誓。信以质心，不得有阙，阙则违

科。师以天信投于山栖，以救穷乏。余以供营经书之具，不得他散。师犯上科，夺玉童玉女，减*-夺纪，注名度还比酆。受者不依科，皆丧魂失神，风刀之考，不出三年，自然失经，终不得仙。

《玄都上品》第五篇曰：《消魔智慧玉清隐书》、《宝洞飞霄绝玄金章》、《紫凤赤书八景晨图》、《金真玉光灵书紫文》、《金瑯玉佩金根上经》、《三天正法》，皆太上大道君、元始天王、金阙帝君之宝章。秘在玉清之宫金房紫户之内。典卫灵文玉童玉女各三千人。元始之初，千劫一传。自三天立正之后，七百年内听得三传。百年中有其人，听一传。给玉童玉女，依四极盟科。授者对斋九十日，或九日而传。不依科而传，罪延七玄之祖，长充鬼役，无有解脱。已身被风刀之考，死充下鬼，万不得仙。

《玄都上品》第六篇曰：传《消魔智慧》、《宝洞飞霄绝玄金章》、《赤书八景晨图》，皆上金十两、玉札一枚、金鱼、玉龙各一枚、紫缯四十尺。《金根经》、《灵书紫文》，上金五两、金简、玉札各一枚，长一尺六寸，广二寸四分；金鱼、玉龙各一枚、紫缯百尺、青纹四十尺。《三天正法》，青缯三十尺、青布四十三尺、金环五双以为密誓；上金十两通神之信。《金真玉光》、《玉佩金瑯玉清隐书》，皆金鱼、玉龙各一枚以为誓信。依科不得有阙，阙则师夺玉童玉女，注名还度北酆。受不依科，皆丧魂失神，罚以风刀，不出三年，自然失经，万不得仙。

《玄都上品》第七篇曰：《七星移度》、《白羽黑翮飞行羽经》、《飞步天纲》、《蹶行七元太上隐书》、《灵飞六甲》，皆太上太帝君、太极太微天帝君登空之道，隐化之章。秘在太上琼宫之上、紫房之内。侍卫玉童玉女皆三千人。依科七

千年一传。三天立正之后，改七百年内听得三传。若百年中有其人，便传便授。告斋九十日，或三十日，给玉童玉女，依四极盟科。不依科而传，罪延七玄之祖，长充北酆鬼役，十苦八难，已身被风刀之考，身没幽源，万不得仙。

《玄都上品》第八篇曰：传《七星移度》，青纹三十一尺、绛缯七十尺、凤纹之罗九十尺、金钮一双。《白羽黑翮飞行羽经》，上金二两、青纹三十二尺以代截发歃血之誓。《飞步天纲》，锦三十尺、金鱼、玉龙各一枚。《太上隐书》，金鱼、玉龙之誓。《灵飞六甲》，白素六十尺、金鹤六双、青丝六两。天科以信质心，不得有阙。阙则违科。师夺玉童玉女，除落青簿玉名，移还北酆。受者不依科，亡精丧神，罚以风刀，不出三年，自然失经，终不得仙。

《玄都上品》第九篇曰：《方诸文震灵符》、《豁落七元八天隐文》、《流金火铃金神虎符》、《消魔支干夜照神烛八术》、《隐遁紫清玉符》、《五籍洞玄六甲上符》、《五行秘文》，《玄都格》诸符，凡有六百部。太上悉以其文标于旧经之内，以为立用。传授盟科悉依经科。传授有阙，罪同上品。有经无符，则天魔害人；有符无经，则思念无感，神真不降。科云皆不得单行，单行罪亦如之。科、经及符，本同出于自然之气，虚无之章。故不可得独修也。无科修道，万不成仙。

卷五 经教相承部

真系 陇西李渤述

今道门以经箓授受，所自来远矣。其昭彰尤著，使吸绅先生不惑者：自晋兴宁乙丑岁，众真降授于杨君，杨君授许君，许君授子玄文，玄文付经于马朗。景和乙巳岁，敕取经入华林园。明帝登极，受季真启还私廨。简寂陆君南下立崇虚馆，真经尽归于馆。按黄素方，因缘值经，准法奉修，亦同师授。其陆君之教，杨、许之胄也。陆授孙君，孙君授陶君，陶君搜摭许令之遗经略尽矣。陶授王君，王君又从宗道先生得诸胜诀，云经法秘典大备于王矣。王授潘君，潘君授司马君，司马君授李君，李君至于杨君，十三世矣。杨、许并越汉登真，许令亦终获度世。马、受幸会而不业。自陆君已降，则帝者无不趋其风矣。此皆史有明文，或遗迹可访。又世世从事于斯者，其支裔焉。且知理而不知神，非长生之士也。超理入神，混合于气，无为而无不为者，我真宗之道也。道无否泰，教有通塞。塞而通之者，存乎其人。故予述真系，传其同源分派者。录名仙籍，不辑于此。时贞元乙酉岁七月二十一日，于庐山白鹿洞栖真堂中述。

晋茅山真人杨君

真人姓杨，名羲，晋咸和五年九月生于句容。似吴人洁白美姿容，善言笑。攻书好学，该涉经史。性渊懿沈厚，幼而通灵。与二许早结神明之交（二许：映与穆），思玄荐于相王，用为公府舍人。以永和初，受《中黄制虎豹法》。六年，又就刘璞传灵符（璞即魏夫人长子也）。君渊沈应感，虚抱自得。若燥湿之引水火，冥默幽歛相袭无朕矣。年三十六，以兴宁乙丑岁众真降授，有若上相青童君、太虚真人、赤君上宰、西城王君、太元茅真人、清灵裴真人、桐柏王真人、紫阳周真人、中茅君、小茅君、范中候、荀中候、紫元夫人、南岳夫人、右英夫人、紫微夫人、九华安妃、昭灵夫人、中候夫人，莫不霓旌暗曳，神辔潜竦，纷纷属乎烟消沦踪收于俗蹊。宴声金响，于君月无旷日，岁不虚矣。君师魏夫人，俪九华而朋于诸真。故安妃云：“明君受质虚闲，秘构玉朗，兰渊高流，清响金宫，必高佐四辅，承制圣君，主察阴阳之和气，为吴越鬼神之君。后二十二年，将乘龙驾云，白日升天。今若不耐风火之烟，可寻剑解作告终之术也。”《真诰》算以太元十二年丙戌去世。弟子许翊，先师告翊父穆，亦因君偶真。故许氏九人，虽道庆自先，数至神发，如尘鉴凝照，挥莹之功，并归子君矣。

雷平山真人许君

真人许翊，字道翔，小名玉斧。父穆，晋护军长史，真位上清左卿。母陶氏，名科斗，入易迁宫。真人幼独标挺，含真渊嶷，长史器异之。郡举上计掾主簿，并不赴。清秀莹洁，糠粃俗务，如泉去蒙，盈其科而自进。居雷平山下，师杨君，传《三天正法曲素凤文》。后定录真人授其上道，告之曰：“学道当如穿井。井愈深，土愈难出。若不坚心正行，岂得见泉源耶？”真人常愿早游洞室，不欲久停人间，遂诣北洞告终，即居方隅山洞方源馆中，常去来四年方平台，故《真诰》云：幽人在世时，心乐居焉。又杨君与长史书亦云：不审方隅幽人，设座于易迁户中。真人化后十六年，当度东华受书，为上清仙公，上相帝晨《二录》。太和二年丁卯，时年二十七岁。咸康七年辛丑生。自太和三年己后，无复显迹。世谱年三十，则庚午年去世。《耆旧传》云：在此洞石坛上烧香礼拜，因而不起。明旦视形如生。坛今犹存。《真诰》云：从张镇南受衣解法。”盖夜于坛上去耳。娶建康令黄演女，生男黄民，乃还家。

仙人临沮令许君

临沮令许仙人名黄民，字玄文。上清仙公翊之子，上清左卿穆之孙。以升平五年辛酉生。时掾年二十一，仕郡主簿，察

孝廉，石头仓丞南蛮参军，临沮令。永兴三年，京畿纷乱。令乃奉经入剡，为马朗所翹翹：谓推崇。。朗从父弟牢，亦相周给。时人咸知许先生得道，又父祖皆有名称，各加崇敬。元嘉六年，欲移居钱塘，乃封其真经一厨付朗。靖中语：“此是仙灵之迹，非我自来，纵有书，亦勿与人。”及至杜道鞠家，停少时而终，时年六十九。《真诰》言黄民及伯祖迈、姑婆娥皇、伯联，与黄民子荣、弟孙、女琼辉，并得度世。马朗敬经若君父，每有神光灵气，见于堂宇。朗妻数见有青衣玉女空中去来。其家皆保富寿。朗忿何道敬窃书泄意，乃洋铜灌厨愁，敕家人不得复开。朗终，子洪、彛季真犹共尊尚。景和元年，娄惠朗讽彛季真启取。季真善道术，为当时所知。及至，奉呈于华林园。既见真迹，瑰异朱黄，焕赫不敢穷览。至明帝登祚，季真乃启还私廨。陆简寂南下立崇虚馆，《经》亦归于馆。何神真巧运，既闕于马，又发于彛，终授于陆君。彛、马犹巾几负籍冪之荣，而无容入其妙焉。

宋庐山简寂陆先生

先生吴兴懿族陆氏之子，讳修静。道降元气，生而异俗。其色怡怡，其德熙熙。明以启著，虚以贯幽。少宗儒氏，坟索讖讳，靡不总该。以为先天抚化，混一精气，与真宰为徒者，载在金编玉字，不形于此。遂收迹寰中，冥搜潜衡、恣湘，暨九嶷、罗浮，西至巫峡、峨眉。如云映松风，丽乎山而映乎水。功成，扣玄感神，授灵诀。适然自得，通交于仙真之间矣。宋元嘉末，因市药京邑，文帝味其风而邀之，先生不顾。及太初

难作，人心骇疑，遂溯江南游，嗜匡阜之胜概，爰构精庐。澡雪风波之思，沐浴浩气，挹漱元精。宋明皇帝袭轩皇淳风，欲稽古化俗，虚诚致礼，至于再三。先生固称幽忧之疾，曾莫降眄。天子乃退斋筑馆，恭肃以迟之，不得已而莅焉。于是顺风问道，妙沃帝心。朝野识真之夫，若水奔壑，如风应虎，其谁能御之？先生拨雾开日，汰沙引金，指方以倒之。中人以上，皆自盈其分，司徒袁粲之流是也。既立崇虚馆，爰氏所宝经诀，并归于我焉。初先离山，有熊虎猿鸟之属，悲鸣拥路，出谷而止。及天子不豫，请事涂炭之斋。是夜卿云纷郁，翌日乃瘳。先时洞真之部，真伪混淆。先生刊而正之，泾渭乃判。故斋戒仪范至于今典式焉。桂阳王构逆暴，白骨遍野。先生具棺椁收而瘞之。其阴德密运，则无得而称也。迨元徽五年春正月，谓门人曰：“吾得还山，可整装。”众感讶，诏旨未从而有斯说。至三月二日，乃偃卧解带，肤体辉烁，目瞳映朗。但闻异香芬馥，满室而已。后三日，庐山诸徒共见先生霓旌霭然，还止旧宇，斯须不知所在，相与惊而异之。顾命盛以布囊，投所在崖谷。门人不忍，遂奉还庐山，时春秋七十二。所谓炼形幽壤，腾景太微者矣。有诏谥曰“简寂先生”，以故居为简寂馆，宗有道也。凡撰记论议，百有余篇，并行于代。门徒得道者，孙游岳、李果之最著称首。后孔德璋与果之书论先生云：先生道冠中都，化流东国。帝王禀其规，人灵宗其法。而委世潜化，游影上玄。微言既绝，大法将谢。法师禀神定之资，居入室之品，学悟之美，门徒所归。宜其整缉遗踪，提纲振纪，光先师之余化，纂妙道之遗风。可以导引末俗，开晓后途者矣。

齐兴世馆主孙先生

有吴裔子孙名游岳，字颖达，东阳人也。幼而恭，长而和。其静如渊，其气如春。甄汰九流，潜神希微。尝步赤松涧缙云堂，遂卜终焉之地。宋太初中，简寂先生至自庐岳，云游帝宅。先生乃扞衣而趋，嗣承奥旨，授三洞并所秘杨真人、许掾手迹。因茹术却粒，服谷仙丸，六十七年，颜彩轻润，精爽秀洁。暨简寂上宾，方旋旧室，摅摭道机，断核真假，与褚、章、朱，四君交密。齐永明二年，诏以代师，并任主兴世馆。于是搜奇之士，知袭教有宗，若凤萃于桐，万禽争赴矣。孔德璋、刘孝标等争结尘外之好。后频谢病归山，朝命未许。至永明七年五月内，以挥神托化，沐浴称疾，怡然而终。门徒弟子数百人，唯陶弘景入室焉。自恭事六载，义贯千祀，唯贵知真，故特蒙赏识。经法诰诀，悉相传授。方欲共营转炼，已集药石，将就治合，事故不遂。

梁茅山贞白陶先生

吴荆牧陶濬七代孙名弘景，字通明，丹阳秣陵人也。母初娠，梦日精在怀，并二天人降，手执金香炉。觉语左右曰：“当孕男子，非凡人也。然恐无后。”及生，标异。幼而聪识，成而博达。因读《神仙传》，便有乘云驭龙之志。年十七，与

江斅、褚炫、刘俟为宋升明四友。仕齐，历数王侍读。皆总记室，笺疏精丽，为时所重师法。及清溪宫成，献颂。宣旨褒赞，兼欲刻石。王俭议之乃止。年二十余服道后，就兴世馆孙先生谘禀经法，精行道要，通幽洞微。转奉朝请，乃拜表解职，答诏优勤，赐与其厚。公卿祖之征虜亭，供帐之盛，咸云自齐以来，未有斯事。遂入茅山，又得杨、许真书。遂登岩告静，自称“华阳隐居”，书疏亦如此代名。特爱松风，庭院皆植之，每闻其响，便欣然为乐。至明帝时，欲迎往蒋山，恳辞得止。然敕命饷贄，常为烦剧，乃造三层楼栖止。身居其上，弟子居中，接宾于其下，令一小竖传授而已。潜光隐耀，内修秘密，深诚所诣，远属霞人，可谓感而遂通。身長七尺八寸。为性圆通谦谨，心如明镜，遇物斯应。少忧戚，无疾竞，灭喜怒，澹哀乐。有形于言迹者，是显事广物。深慕张良之为入，率任轻虚，飘飘然有云霞气。其所修为，皆自得于心，非傍识能及。尤长于诠正伪谬，地理历算。文不空发，成即为体用。造浑天仪，转之与天相会。其纂《真诰隐诀》、注老君等书二百余卷。至永元二年，深托向晦。及梁武帝革命，议国号未定。先生乃引诸讖记，梁是应运之符。又择郊禅日，灵验昭著，敕使入山，宣旨酬谢。帝既早与之游，自此之后，动静必报。先生既得秘诀，以为神丹可成。每苦无药，帝皆给之。又手敕谘迓，先生画两牛，一牛散放水草之间，一牛著金络头，有人执绳，以杖驱之。帝笑曰：“此人无所求，欲效曳尾龟，岂有可致之理。”或时有大事，无不前己奉陈，时人谓为“山中宰相”。以大通初，献刀二口，一名“喜胜”，二名“成胜”，为佳宝。梁帝《金楼子》云：“于隐士重陶贞白，于士大夫重周弘正。其于义理，情转无穷，真一时名士也。”先生常作诗云：“夷甫任散诞，平叔坐谈空，不意昭阳殿，化作单于宫。”其时人士竞

谈玄理，不习武事。侯景之难，并如所言。大同二年告化时，年八十五。颜色不变，屈伸如常。屋中香气，积日不散。诏赠“中散大夫”，谥“贞白先生”。仍遣舍人监护丧（马枢《得道传》云：授蓬莱仙监），弟子数十人，唯王远知、陆逸冲称上足焉。

唐茅山升真王先生

琅琊王远知，陈扬州刺史昙首之子。外祖丁超，梁驾部郎中。其母因梦灵凤有娠，又闻腹中啼。宝志曰：“生子当为神仙宗伯也。”年七岁，日览万言，博总群书，心冥至道。年十五，入华阳事贞白先生，授三洞法。又从宗道先生臧矜，传诸秘诀。陈主召入重阳殿，特加礼敬，赏赉资送还茅山。先生乃于洞西北岭上，结靖室以居，研味玄秘。大建末，靖室中忽有一神人，醉卧呕吐。先生然香礼候。神人曰：“卿是得道之人，张法本亦甚有心。吾欲并将游天台山，石桥广阔可过得，彼多散仙人，又常降甘露，以器盛之，服一升可寿得五百岁。卿能去否？”先生便随出，上东岭，就法本。至山半，忽思未别二三弟子付嘱经书。背行三十步，回望神人，化为鹤飞去。隋晋王广镇扬州，王子相、柳顾言相续奉请。先生既至，斯须而须发变白。王惧而归之，少选复旧。王践祚，敕崔凤举谘迓。帝亲执弟子礼，敕城都起玉清玄坛以处之，仍令代王越师焉。高祖龙潜时，先生尝密告符命。秦王与房玄龄微服就谒，先生迎谓曰：“此中有圣人。”秦王因以实告。先生曰：“方作太平天子，愿自爱也。”秦王诣先生受三洞法。及登极，将加重位，

固请归山。至贞观九年，敕润州于茅山置太平观，并度七人。降玺书曰：“朕昔在藩朝，早获问道，眷言风范，无忘寤寐。近览来奏，请归旧山。已有别敕，不违高志。所令置观，用表宿心。”先生浩气虚怀，语默一致，涵照如镜，应物无私。时有窦德玄，先经扬州，遇司命使者言其有重禄，以九九数当终命。德玄求哀于使者。云：“真人王法主是少室仙伯，检录人鬼之任。关奏天曹，无不即应。”德玄遂恳祈于先生。先生不得已，因与请命。使者报曰：“更延十三年。”至高宗朝，德玄为左相。捐馆舍之日，言皆如之。故举世呼先生为“法主”，又知已授仙职。后谓潘师正曰：“吾昨见仙格，以小时误损一童子吻，不得白日升天。署少室仙伯，将行在近。”翌日，沐浴加冠衣，焚香而寐。告化时年一百二十六岁。潘师正、徐道邈同得秘诀，为入室弟子。陈羽、王轨次之。其余各栖洞府，终身无替。高宗调露二年，赠太中大夫，谥曰“升玄先生”。乃敕置太平观，度满四十九人。天后嗣圣初，又赠金紫光禄大夫，改谥“升真先生”。明皇天宝中，敕李含光于太平观造影堂写真像，用旌仙迹焉。

中岳体玄潘先生

中岳道士，前有天师，次称潘先生。先生名师正，赵州赞皇人。少丧母，庐于墓侧，以至孝闻。先生真气内融，辉光外发，如隋珠荆玉，不假于饰而人自宝之。隋大业中入道，王仙伯尽以隐诀及得符箓相授。栖于太室逍遥谷，积二十年，但嚼松叶饮水而已。高宗皇帝每降鸾辇，亲诣精庐，先生身不下堂，

接手而已。及问所须，答言松树清泉，山中不乏。帝与武后共尊敬之，留连信宿而返。寻敕于所居造崇唐观，岭上别起精思院以处之。敕置奉天宫，令于逍遥谷口特开一门，号曰“仙游门”。复于苑北面置寻真门。太常奏仙乐，又以《祈仙》、《望仙》、《翹仙》为曲，皆谓先生名焉。前后赐诗五百首。先生每叹曰：“大丈夫业道，不能灭影云林，以烦世主，吾之过也。”遂欲东求蓬莱，孤舟入海。属帝敦笃斯道，祈叹愈加，踟蹰山隅，辍策未往。以永淳元年告化，时年八十九。帝追望不止，赠太中大夫，谥曰“体玄先生”。先生神标仙骨，雅似隐居。夫阶真韬冥，练景游化者，其有类乎？弟子十八人，并皆殊秀。然鸾姿凤态，眇映云松者，有韦法昭、司马子微、郭崇真，皆禀训瑶庭，密受琼室，专玉清之业，遗下仙之俦矣。时陈子昂又作颂云云。

王屋山贞一司马先生

后周琅琊公司马裔玄孙，名承祜，字子微，河内人也。少事体玄先生，传其符篆及辟谷、导引、服饵之术。体玄特相赏异，谓曰：“我自简寂传授正法，至汝六叶矣。”先生是后因浪游，远诣于天台山。武太后闻其名，召至都，降手诏赞美。及将还，敕李峤饯于洛桥之东。景云二年，睿宗令其兄子承祜，就山迎至京，入宫中间以阴阳数术。先生对曰：“《经》云：‘为道日损，损之又损之，以至于无为。’且目所见者，损之尚未能已，岂复攻乎异端，而增其智虑哉？”帝曰：“治身无为，则清高矣。治国无为，如何？”对曰：“国犹身也。老君

曰，游心于澹，合气于漠，顺物自然而无私焉，而天下理。’
《易》曰：‘大人与天地合其德。是知不言而信，不为而成。无为之旨，理国之道也。’帝叹曰：“广成之言，何以加此！”因固辞还山。乃赐宝琴一张及霞文帔。中朝词人赠诗者百余首。开元九年，明皇又遣使迎至京。帝亲受法箓。前后赏赐甚厚。十年，驾入都。先生又请归山。帝赋诗，于王屋山自选形胜，置坛宇以居之。先生因上言：“今五岳之神祠，皆是山林之神，非正真之神也。五岳皆有洞府，各有上清真人降任其职，请别立斋祠。”帝从其言，因置真君祠。其形像制度，皆请先生推按道经创为之焉。先生颇善篆、隶，写三体《道德经》，刊正文字，著五千三百八言，为真本。又撰《修真秘旨》，窥之者得其门矣。敕于先生所居置阳台观，帝自书额，并相续赐赉甚厚。至二十三年告化时八十九。制赠银青光禄大夫，谥曰“贞一先生”。又御制碑文。先生门徒甚众，唯李含光、焦静真得其道焉。静真虽禀女质，灵识自然，因精思间，有人导至方丈山，遇二仙女，谓曰：子欲为真官，可谒东华青童道君，受《三皇法》。请名氏，则贞一也。乃归而诣先生，亦欣然授之。

茅山玄静李先生

弘孝威者，晋陵人。家本纯儒，州里号“贞隐先生”。避敬宗皇帝讳，改为李氏。其子曰含光，年十三，辞家奉道。端视清霄，慈向蠢类；暗室之中，如对君亲。时人见之，情色皆敛。幼攻篆、隶，或有称过其父者，一闻此义，终身不书。后事贞一先生，云篆宝书，倾囊相付。既而目之曰：“真玉清之

客也！”抱虚无而行功者，于道不穷；托幽阜而灭迹者，于德亦浅。承之自远，宜且救人。是引后学升堂稟玄训也。先生元气不散，瑶图虚映，达灵久矣。晦辉为常，动非用开，静非默闭。当吹万之会，若得一之初。应迹可名，常道不可名也。孕育至化，虚融物心，心一变至于学，学一变至于道。同淑气自来，得之不见。所以抠衣而进者，仰范元和，若秋芳之依层巘，夏潦之会通川也。先生忘情于身而慈于人，祯祥屡应，视同众象。士庶谘询，色受其意。常令章坛闭院，醮火择薪。精微诚敬，率皆类此。开元末，明皇礼请先生而问理化。对曰：“道德，君王师也。昔汉文行其言，仁寿天下。”次问金鼎，对曰：“道德，公也；轻举，公中私也。时见其私。圣人存教，若求生徇欲，乃似系风耳。”帝加“玄静”之号以尊之。无何，固以疾辞，东还句曲山。敕于其所居造紫阳观以居焉。自后天书继至，资奉相续，及公卿祈请，往来无虚月。卒使玄门之中，转见真操。持慈俭之宝，归羲皇之风。至矣哉，先生之教也！所撰《仙学传》，及《论三玄异同》，又著《真经》并《本草音义》，皆备载阙遗，穷颐精义矣。以大历四年冬十一月，顾谓入室弟子韦景昭、孟湛然曰：“吾将顺化。”神气怡然，若坐亡长往，时年八十七。灵云降室，芝草丛生，执简如常，和色不去。据《真经》，斯乃秉化自然，仙阶深妙者也。景昭授皋洞虚，洞虚授李方来，皆嗣德不坠。时柳识又颂先生云：“古有强名，元精希夷。黄帝遗之，先生得之。纵心而往，与一相随。真性所容，太元同规。日行仙路，不语到时。人言万龄，我见常姿。明皇仰止，徵就京师。紫极徒贵，白云不知。遐方后学，来往怡怡。空有多门，真精自持。顺化而去，人焉能窥？玄科秘诀，本有冥期。”

卷六 三洞经教部

三洞（并序）

《道门大论》云：三洞者，洞言通也。通玄达妙，其统有三，故云三洞。第一《洞真》，第二《洞玄》，第三《洞神》。乃三景之玄旨，八会之灵章，凤篆龙书，金编玉字，修服者因兹入悟，研习者得以还源。故《玉经隐注》云：三洞经符，道之纲纪。《本际经》云：若有经文，具十二部，应三洞者，是名正法。《洞真》以不杂为义，《洞玄》以不滞为名，《洞神》以不测为用。故洞言通也。三洞上下，玄义相通。《洞真》者，灵秘不杂，故得名真。《洞玄》者，生天立地，功用不滞，故得名玄。《洞神》者，召制鬼神，其功不测，故得名神。此三法皆能通凡入圣，同契大乘，故得名洞也。

然三洞所起，皆有本迹。《洞真》之教，以教主天宝君为迹，以混洞太无元高上玉皇之气为本。《洞玄》之教，以教主灵宝君为迹，以赤混太无元无上玉虚之气为本。洞神之教，以教主神宝君为迹，以冥寂玄通元无上玉虚之气为本也。又云：天地是玄义，虚是精义，神是无累之义。此既三洞垂法，从仙达圣，品级转迁之理也。谓修学之人，始入仙阶，登无累境，故初教名洞神神宝。其次智渐精胜，既进中境，故中教名洞玄

灵宝。既登上境，智用无滞，故上教名洞真天宝也。通名宝君者，宝是可尊，君是群义，明为群生之所尊仰也。又《洞真法》天宝君住玉清境，《洞玄法》灵宝君住上清境，《洞神法》神宝君住太清境。此为三清妙境，乃三洞之根源，三宝之所立也。今明玉以无杂，就体而名玉清也。上以上登逐用，而名上清也。泰以通泰体事，故为太清也。又修道之人，初登仙域，智用通泰，渐升上境，终契真淳。故以三境三名，示其阶位之始也。通名三清者，言三清净土，无诸染秽。其中宫主，万绪千端，结气凝云，因机化现，不可穷也。

又三洞之元，本同道气，道气惟一，应用分三。皆以诱俗修仙，从凡证道，皆渐差故别，有三名。其经题目：《洞神》即云洞神三皇，《洞玄》即云洞玄灵宝，《洞真》即杂题诸名，或言以教垂文，或以色声著体，并是难思知用，随方立名耳。

原夫经教所出，按《业报经》、《应化经》并云：天尊曰：吾以道气，化育群方。从劫到劫，因时立化。吾以龙汉元年，号无形天尊，亦名天宝君。化在玉清境，说《洞真经》十二部，以教天中九圣，大乘之道也。《玉纬》云：《洞真》是天宝君所出，又云：以元始高上玉帝出《上清洞真之经》三百卷，《玉诀》九千篇，《符图》七千章，秘在九天之上，大有之宫。后传玉文付上相青童君，封于玉华宫。元景元年，又封一通于西城山中。又太帝君命搏桑太帝暘谷神王出《独立之诀》三十卷、《上经》三百卷行之于世。又襄城小童授轩辕黄帝《七元六纪飞步天纲》之经。汉元封元年，西王母、上元夫人同授汉武帝《灵飞六甲上清十二事》。又太元真人茅盈受西城王君所传玉佩金珰缠璇之经。又玄洲上卿苏林真人受涓子所传“三一”之法。又真人王褒，汉平帝时，西城王君所传上清宝经三十一卷，晋成帝时于汲郡传南岳魏夫人。夫人之子传茅山杨羲，羲

传许迈，迈复师南海太守鲍靓，受上清诸经。迈弟谧、谧子玉斧，皆受《三天正法曲素凤文》。

天尊曰：吾以延康元年，号无始天尊，亦名灵宝君，化在上清境，说洞玄经十二部，以教天中九真，中乘之道也。《玉纬》云：洞玄是灵宝君所出，高上大圣所传。按元始天王告西王母曰：太素紫微宫中，金格玉书灵宝文，真文篇目十二部妙经，合三十六帙。又《四极盟科》云：洞玄经万劫一出，今封一通于劳盛山。昔黄帝于峨嵋山诣天真皇人，请灵宝五芽之经。于青城山诣宁封真君，受灵宝龙躡之经。又九天真王降于牧德之台，授帝尝灵宝天文。帝行之得道，遂封秘之于锺山。又夏禹于阳明洞天感太上，命绣衣使者降授灵宝五符以理水，檄召万神。后得道为太极紫庭真人。演出大、小劫经，中山神咒，八威召龙等经。今行于世矣。时太极真人徐来勒，与三真人以己卯年正月降天台山，传《灵宝经》以授葛玄。玄传郑思远，思远以灵宝及三洞诸经付玄从弟少传奚，奚付子护军悌，悌付子洪，洪即抱朴子也。又于马迹山诣思远告盟奉受。洪又于晋建元二年三月三日于罗浮山付弟子安海君、望世等。后从孙巢甫，晋隆安元年传道士任延庆、徐灵期，遂行于世。今所传者，即黄帝、帝尝、禹、葛玄所受者。十二部文未全降世。

天尊曰：吾以赤明之年，号梵形天尊，亦名神宝君，化在太清境，说洞神经十二部，以教天中九仙，小乘之道也。《玉纬》云：洞神经是神宝君所出，西灵真人所传。此文在小有之天，玉府之中。《序目》曰：《小有三皇文》，本出《大有》，皆上古三皇所授之书，亦诸仙人所授，以藏名山。昔黄帝东到青丘，过风山，见紫府真人，受《三皇内文》。又黄卢子、西岳公皆受禁虎豹之术。真人介象受乘虎之符。《八威使者受策虎豹文》。又鲍靓于晋惠帝永康年中，于嵩山刘君石室，清斋

思道，忽有刻石《三皇天文》出于石壁。靚以绢四百尺告玄而受。后授葛洪。又壶公授费长房，亦有洞神之文。石室所得，与今《三皇文》小异。陆修静先生得之，传孙游岳。游岳传陶隐居。其天中十二部经，未尽出世。今传者是黄帝、黄卢子、西岳公、鲍靚、抱朴子所授者也。三洞既降，遂有大、小、中乘，初、中、后法三种分别，以教于世。夫三洞者，盖是一乘之妙旨，三景之玄言。了达则上圣可登，晓悟则高真斯陟。龙章凤篆，显至理之良途；玉简书，引还元之要术。故《玉经隐注》云：三洞经符，道之纲纪；太虚之玄宗，上真之首经矣。岂中仙之所闻哉？《正一经》又云：三洞妙法，兼而该之，一乘道也。

三洞品格

《八素真经》云：太上之道有三；上真之道有七；中真之道有六；下真之道有八。今出如左：

《玉清隐书》

《神虎大符》

《金虎真符》

右是太上之道。行此真道，得为太上之真位，为上真玉皇君也。

《太上郁仪奔日文》

《太上结岔奔月章》

《太上八素奔晨隐书》

《太微帝君飞行天纲上经》

《高上大洞真经三十九章》

《金阙灵书紫文上经》

《黄老八道九真中经》

右上真之道。总而行之其道，则为上清上元真人。

《太丹隐书朝真上经玉帝神符》

《三天正法凤真之文九真升玄文》

《三元布经四真之章太上金策》

《方诸洞房玉字上经六甲灵飞符》

《灵宝秘符三皇内文天文大字》

《青要紫书曲素诀词三五顺行经》

右中真之道。总而行之，则为上清中道真人。

《上清九化十变三九素语》

《丹景道精隐地八术》

《天关三图玄皇玉书》

《神州七变七转洞经》

《紫度中方石精玉马水母经》

《绛绿黄道玉目龙书众文》

《素奏中章五行秘符》

《五帝玉女上元五书》

右下真之道。总而行之，则为上清下元真人也。

元始天王告西王母曰：太上紫微宫中，金格玉书，灵宝真文篇目有十部妙经，合三十六卷，是灵宝君所出，高上大圣所撰。具如灵宝疏释，有二十一卷已现于世，十五卷未出。孟法师云：高玄大法师夏禹师仙公所撰十卷，及《修行要用》五卷，足为三十六，合为六卷，即今世所行。其后分有内教十卷，即是升玄之文，亦世所行也。按《太玄都四极盟科》曰：洞玄经万劫一出，今封一通于太山，一通于劳盛山。元始天王告西王

母云：太上紫微金格玉书灵宝真文十部妙经，太上所秘，不尽传世。王母所得，讷已极源；五岳所藏，亦多不备。龟山西室，王屋南洞，天经备足。昔黄帝登峨嵋山，诣天真皇人请受此法，驾龙升玄。帝尝之时，九天真王驾九龙之舆，降牧德之台，授帝尝此法。帝后封之于锺山。夏禹所感之书出见，有异今略序者。按《真一自然经》云：太极真人夏禹，通圣达真。太上命钞出灵宝自然经，分别有大、小劫品经、《栖山神咒八威召龙神经》云：小劫至时，必脱大水焉。又云：徐来勒等三真，以己卯年正月一日日中时，于会稽上虞山传仙公葛玄。玄字孝先。后于天台山传郑思远、竺法兰、释道微。道微传吴主孙权等。仙公升化，令以所得三洞真经，一通传弟子；一通藏名山；一通付家门子孙，与从弟少传奚。奚子护军悌，悌子洪。洪又于马迹山诣思远，盟而授之。洪号曰“抱朴子”。抱朴以建元六年三月三日于罗浮山，隆安之末传道士任延庆、徐灵期之徒。相传于世，于今不绝。《玉纬》云：昔元始天王以开皇元年七月七日丙午中时，三天玉童传皇上先生教曰：若白简青篆之人，自然得乎此法。又虚无先生传于唐尧，后圣帝君命小有天王撰集宣行。青童君云：自唐尧之后，得上文者乃七千人。此飞龙玄升，或沦化潜引，不可具记。得道者皆藏文五岳。经内明三劫化主，及开皇劫，以此妙经生天立地。大圣应于始青之中，号元始天尊，或太上道君。人天化主，此如三宝科释，今不具详。《玉经隐注》云：《三皇天文》、或云《洞神》、或云《洞仙》、或云《太上玉策》。洞仙者，明此教法能通行者登太清仙，故曰洞仙也。玉策者，是策进之名，亦是扶持之目，谓策勤行者，扶持使仙也。《三皇文》者，《洞神》第十四云：第一《天皇文内字》。字者，志也。明天使人仰观上文，心识觉悟，内志习勤，外不炫耀。第二《地皇内记书文》。文者，

明也。内学志明，记正无惑，舒以广济，缘明至极也。第三《人皇文》。文者，明也。人能俯察地理，法地则天，定内安外，普度无穷，同归玄门，由学所得。此并经释也。又称《三皇经》者，谓三皇各受，隔世禀行。又八帝之经，亦是随方为化。犹如灵宝一文，五帝分宝，即为五帝文。鲍南海《序目》云：上古初以授于三皇，名之《三皇文》也。《洞神》第六又云：仙人曰：皇文乃是三皇已前，鸟迹之始大章者也。第三又云：皇文帝书，皆出自然，虚无空中，结气成字。又云：本源无异矣。至于三皇，各受一部，分为三元，三才之道也。第十三卷云：三元八会，自然成文。方丈悬空，字字各现。第十四云：得失由人，此文不灭；圣真宝之，镇太极宫中也。

《序目》云：《小有三皇文》本出《大有》，皆上古三皇所受之书也。《天皇》一卷，《地皇》一卷，《人皇》一卷，凡三卷，皆上古三皇时所授之书也。作字似符文，又似篆文，又似古书。各有字数。神宝君所出，西灵真人所撰。此文在小有之天，玉府之中。诸仙人授之，以藏诸名山石室，皆不具足，唯蜀郡峨嵋山具有此文。昔仙人智琼以《皇文》二卷，见义起不能解，遂还之。王公以帛公精勤所得，传之贤达，宣行至今。《大字序说》十四篇，是天文次第之诀。《小有经下记》所载十一卷，推部本经，分别仪式，合一十四卷。今孟先生所录者，是其山中所传，犹十一卷。此二本并行于世。抱朴子云：昔黄帝东到青丘，过风山，见紫府先生，受《三皇内文》。晋时鲍靓学道于嵩高，以惠帝永康二年于刘君石室清斋，忽有《三皇文》刊石成字，乃依经以四百尺绢告玄而受。后亦授葛洪。按《三皇经序》云：鲍君所得石室之文，与世不同，洪或兼受也。陆先生时所得初传弟子孙游岳，有四卷而已。孙后传陶先生。先生分析支流，稍至十一卷耳，即山中所传者是。《命召咒文

》云：三皇治世，各受一卷以理天下。有急，皆召天地鬼神敕使之，号曰《三坟》。后有八帝，次三皇而治。人各授一卷，凡八卷，号曰“八索”。八帝之治，邪鬼逆窜。黄帝述以断邪恶。

七部（并序）

夫七部者，盖乃总道化之教方，统玄门之正典，包罗群艺，综括众文。六综之辩莫阶，五时之说非拟。睹斯法海，靡不成真；涉此慈波，咸皆舍伪者也。

七部者，今因《正一经》次；一者洞神部、二者洞玄部、三者洞真部、四者太清部、五者太平部、六者太玄部、七者正一部，前之三部，已如三洞义释。今释后四：言太清者，孟法师云：大道，气之所结，清虚体大，故曰太清，以境目经也。今谓此经是从所辅之境得名，何者？此经既辅洞神，洞境是太清故也。亦未必示者，此经既明金丹之术，服御之者远升太清，故言太清也。太平者，太言极太，平谓和平。明六合太通为一，正平之气斯行，故《太平经》云：今平气行矣。平亦是安。又云：欲复古太平之法，先安中气也。又云：三五气和，日月常光明，乃为太平。《尔雅》云：明，成也。此亦可训明。言明君治世，成济品物，为太平也。或有解云三阶正为太平。或有解云景星现曰太平。此并一事为释耳。今明此经现世，能使六合同风，万邦共轨，君明物度，可谓太平也。太玄者，孟法师云是太玄都也。今为老君既隐太平之乡，亦未详此是何所，必非撮迹还本，遣之又遣，玄之又玄，寄名太玄耶？此经名太玄

者，当是崇玄之致，以玄为太，故曰太玄也。若言起自玄都，不无此义。但七部皆尔，非独此文也。正一者，《盟威经》云：正以治邪，一以统万。又言：法文者，法以合离，文以分理。此言众生离本，所以言离，故下文云：反离还本，合真舍伪，由法乃成。言“统万”者，总摄一切，令得还真，故下文云：一切学士，觉悟少欲，欲少近乎道宗，宗道在乎戒也。《治邪文》云，众生根粗，去道赊邈。大道慈悲，立法训治，趣令心开，两半成一，一成无败，与常道合真。故曰“正一法文”也。通言“部”者，以部别为义。三部通名“太”，正一独称“正”者，以三部辅于三洞大法，故言“太”。正一既遍陈三乘，简异邪道，故称为“正”也。

四辅

第一太清者太一为宗

《老君演说建丰经》云：微妙之旨，出于太清。《天老秘讖经》云：生道实妙，人不释诚；释诚不倦，升太清也。《九君申明道要》云：《太清中经》，元始出来；出于老君，传付元君、九皇真人，祖习不绝，皆开此君也。《正一经》云：《太清金液天文地理》之经四十六卷。此经所明，多是金丹之要。又著纬候之仪，今不详辩。按黑录所明，即汉安元年，太上以此经四十六卷付于天师，因此至今也。

第二太平者三一为宗

《老君所说》甲部第一云：学士习用其书，寻得其根；根之本宗，三一为主。《玉纬》云：太平者，六合共行正道之号也。今宛利世界九州八十一域，摆除六天，上问神人，详说古道，家国安宁，长居庆乐。丁部第四云：欲知吾道大效，付贤明道德之君，使其按用之，立与天地乃响应，是其大明效证验也。甲部第一又云：诵吾书，灾害不起，此古贤圣所以候得失之文也。又云书有三等：一曰神道书，二曰核事文，三曰浮华记。神道书者，精一不离，实守本根，与阴阳合，与神同门。核事文者，核事异同，疑误不失。浮华记者，离本已远，错乱不可常用，时时可记，故名浮华记也。又云：澄清大乱，功高德正，故号太平。若此法流行，即是太平之时。故此《经》云应感而现，事已即藏。又云：圣主为治，谨用兹文；凡君在位，轻忽斯典。然其卷数，或有不同。今甲乙十部合一百七十卷，今世所行。按《正一经》云，有《太平洞极》之经一百四十四卷。今此经流亡殆将欲尽。此之二经，并是盛明治道，及证果修因，禁忌众术等也。若是一百四十卷《洞极经》者，按《正一经》，此汉安元年太上亲授天师，流传兹目。若是甲乙十部者，按《百八十戒》云，是周赧王时，老君于蜀郡临邛县授于琅琊于吉，尔来又隐。近人相传云：海嵎山石函内有此经。自宋梁以来，求者不得。或往取之，每值风雨暝暗，雷电激扬。至陈祚开基，又屡取不得。每至山所，风雨如故。至宣帝立，帝好道术，乃命太平周法师，讳智响往取此经。法师挺素清高，良难可序。受请至山，清斋七日，将就取经。未展之顷，朝云暗野，晓雾昏山。师拜礼进趋，天光开朗。乃命从人数十，齐心运力，前跪取函，函遂不得开。法师敛气开之，乃见此经，

请还台邑。帝乃具礼迎接，安于至真观供养。经放大光明，倾国人民并皆瞻仰。帝命法师于至真观开敷讲说，利安天下，时称太平。自此以来，其文盛矣。帝因法师得此经，故号法师为太平法师，即藏靖法师之稟业也。

第三太玄者重玄为宗

《老君所说故经》云：玄玄至道宗。然其卷数，亦有不同。《正一经》云：《太玄道经》二百七十卷。今《玉纬》所撰，止有一百三十五卷。又非尽是本经，余者不见。当时运会未行，然此经所明，大略以玄为致，故《太玄经》云：无无曰道，义极玄玄。乐真人云：《道德五千文》，兹境之经也。旧云《道德经》有三卷。《玉纬》云：其中经珍秘，部入太清。亦未详此解。按《西升序》云：列以二篇，乃河滨授于汉文。又云：《素书》二卷，尹喜所受，凡得五卷。既说有三时，玄靖法师开为三部，宗致《道德》二卷，是先说以道德为体，其致则总，以其文内无的对扬之旨故也。《西升》次说以无欲为体，故云当持上慧，源妙真一。后说既盛明真一，故以真一为体。其源流者，所授尹生五卷，由渐甚多，今不更说。通诸一部者，按《正一经》云：太上亲授天师《太玄经》，有二百七十卷。推检是汉安元年七月得是经。尔来传世，乃至今日。但其零落阙遗，亦是运还天府耳。

第四正一者真一为宗

《太上所说正一经》，天师自云：我受于太上老君，教以正一新出道法。谓之新者，物厌故旧，盛新新出，名异实同。

学正除邪，仍用旧文，承先经教，无所改造，亦教人学仙，皆用上古之法。王长虑后改易法师，故撰传录文，名为《正一新出仪》。故天师云：后世男女，必改吾法。贪财爱色，不施散一切。汝曹重檐地狱为家，宜各慎之！《正一经》云：《正一法文》一百卷，今孟法师录亦一百卷，凡为十帙。未知并是此经不耳。斯经所明，总述三乘之用。故此经云：《正一》遍陈三乘。王长所撰《新出之仪》四十卷，但未有次第。长既随师升玄，于时多承口诀，祇录为卷名，未论次第也。其源流者，《玉纬》云：昔元始天王以开皇元年七月七日丙午中时，使玉童传皇上先生白简青篆之文，自然得乎此法。虚无先生传于唐尧，又后圣帝君命小有天王撰集宣行。青童云：自尔之后，得此文者乃七千人。皆飞龙玄升，或沦化潜引，不可具记。得道者藏文五岳，精思积感，先得此文。此文极妙，得之随缘。文来或出河洛，或戒经方，依因结果也。汉末有天师张道陵，精思西山，太上亲降，汉安元年五月一日，授以三天正法，命为天师；又授正一科术要道法文。其年七月七日，又授《正一盟威妙经》、三业六通之诀，重为三天法师正一真人。按《正一经治化品目录》云：《正目经》九百三十卷，符图七十卷，合千卷。付天师《正一》百卷即在其内。后会教重，自当具显道本。《尊卑经》云：真经要妙，其文无双，三十六万四千正言无数，不离正一。演气布化，《五千》为宗，真精要妙，三洞为最也。然此法虽复久远，论其所盛，起自汉朝。天师既升天后，以此法降与子孙、弟子、嗣师、系师，及诸天人一切内外至信者，修行传习。屡有传道之人，今不具载。此文因此行矣。谨按《正一经图科戒品》云：太清经辅洞神部金丹以下仙业；太平经辅洞玄部，甲乙十部以下真业；太玄辅洞真部，《五千文》以下圣业。《正一法文》宗道德，崇三洞，遍陈三乘。《

《太平经》云：辅者，父也。今言三太辅三洞者，取其事用相资，成生观解，若父之能生也。众生钝劣，闻深教不解，更须开说翼成，方能显悟，即是扶替之义也。

十二部

夫十二部经者，盖是通三乘之妙训，贯七部之鸿规；寻之者知真，玩之者悟理；实出生死之津梁，入大道之途径。故《正一经》云：三乘所修，各十二部。

夫十二部道义，通于三乘。今就中乘为释，余例可知。十二者：第一本文，第二神符，第三玉诀，第四灵图，第五谱录，第六戒律，第七威仪，第八方法，第九众术，第十记传，第十一赞颂，第十二表奏。言本文者，即三元八会之书，长行元起之说，其例是也。紫微夫人云：三元八会之书，太极高真所有。本者，始也，根也。是经教之始，文字之根。又为得理之元，万法之本。文者，分也，理也。既能分辨二仪，又能分别法相。既能理于万事，又能表诠至理。如木有文，亦名为理也。不名真文者，十二义通三乘真文教主中，洞非通义也。神符者，即龙章凤篆之文，灵迹符书之字是也。神，则不测为义；符，以符契为名。谓此灵迹，神用无方，利益众生，信若符契。玉诀者，如河上释柱下之文，玉诀玉诀：对奥秘经文的阐幽释难。解金书之例是也。玉名无染，诀语不疑。谓决定了知，更无疑染。灵图者，如含景五帝之像，图局三一之形，其例是也。灵，妙也；图，度也。谓度写妙形，传流下世。谱录者，如生神所述三君，立本所陈五帝，其例是也。谱，绪也；录，记也。绪

记圣人以为教法，亦是绪其元起，使物录持也。戒律者，如六情、十恶之例是也。戒者，解也，界也，止也。能解众恶之缚，能分善恶之界，防止诸恶也。律者，率也，直也，栗也。率计罪愆，直而不枉，使惧栗也。威仪者，如斋法典戒，请经轨仪之例是也。威是俨凝可畏，仪是轨式所宜，亦是曲从物宜，为威法也。方法者，如存三守一，制魄拘魂之例是也。方者，方所；法者，节度修行。治身有方所节度也。众术者，如变丹炼石，化形隐景之例是也。众，多也；术，道也。为趣至极之初道也。记传者，如道君本业，皇人往行之例是也。记、志也；传，传也。谓记至本业，传示学人。赞颂者，如《五真新颂》、《九天旧章》之例是也。赞以表事，颂以歌德，故《诗》云：颂者，美盛德之形容。亦曰偈。偈，憩也。以四字，五字为憩息也。表奏者，如六斋启愿，三会谒请之例是也。表，明也；奏，凑也。谓表心事，上共凑大道。通言部者，以部类为义，亦以部别为名。谓别其义类以相从也。无方释义，十二互通，从通制别，意如前释。然十二部内，唯本文有通相、别相，以十二部皆是文字为得理之本，通名为本文。本文犹是经之异名。十二部既通名为经，是通相本文也。于通相文内，则出一部是五篇真文，有生天立地之能，是一切法本，为别相本文也。不可言十二部皆是玉诀，别出一部是别相玉诀也。余部例然。又有长行为偈本称本文者。余二乘经望此可知。本文是生法之本，数自居前。既生之后，即须扶养，故次辩神符。八会云篆，三元玉字，若不谙炼，岂能致益？故须玉诀，释其理事也。众生暗钝，直闻声教，不能悟解，故立图像，助以表明。圣功既显，若不祖宗物情，容言假伪，故须其谱录也。此之五条，生物义定，将欲辅成，必须鉴戒，恶法文弊，宜前防止，故有戒律。既舍俗入道，出家箴于师室，须善容仪，故次明威仪也。又前

乃防恶，宿罪未除，故须修斋轨仪，悔已生恶也。仪容既善，宿根已净，须进学方术，理期登真要。假道术之妙，显乎记传，论圣习学，以次相从也。亦是学功既著，名传竹帛，故次记传。始自生物，终乎行成，皆可嘉称，故次有赞颂。又前言诸教，多是长行散说。今论赞颂，即是句偈。结辞既切，功满德成，故须表申灵府，如斋讫言功之例，故终乎表奏也。又前十一部，明出世之行；后之表奏，祛世间之灾。如三元涂炭，子午请命之流，皆关表也。

三十六部

三乘之中，乘各有十二部，故合成三十六部也。论其相摄者，一往大乘具有三十六部，中乘具有二十四部，小乘唯十二部。何者？以大得兼小故也。又大乘得学小，为遍行也。小不得兼学大，故止十二。中乘可知。此远论界内化门意也。再论三洞，即是会前三乘入此一乘，故三洞、大乘唯一耳。而又约三洞开三乘者，此欲示一乘之内，无所不包。又云有二经不同：一者，太玄部《老君自然斋仪》云：经有三条：一曰天经，天真所修；二曰地经，洞天所习；三曰人经，世间所行三景之法。相通而成一，曰三乘。三乘之用，各有十二部，交会相通，总曰三十六部。十二条：一曰无为，二曰有为，三曰无为而有为，四曰有为而无为，五曰续爱，六曰断爱，七曰不断不续，八曰分段，九曰无断，十曰知微，十一曰知彰，十二曰适用。当境而曰十二部。隐显兼施则有七十二部。今谓此文所出前之三经，自可是教。后之十二，意在行也。二者，正一所明十二

者：一者心迹俱无为，二者心无为迹有为，三者心有为迹无为，四者舍家处人间，五者携家入川泽，六者出世与人隔绝，七者与世和光同尘，八者断欲斯断，九者不断而断，十者游空中，十一者在地下，十二者住天上。三乘皆有十二，故成三十六部也。释此文意，已在位业义科。但此两经名味不同者，亦当教义自是一途之说耳。太玄所出，多据于心；正一所明，通论心迹。但太玄十二中第八一事言分段，考事涉迹，又不显十二部经科。

卷七 三洞经教部·本文

说三元八会六书之法

《道门大论》曰：一者阴阳初分，有三元五德八会之气，以成飞天之书，后撰为八龙云篆明光之章。陆先生解三才，谓之三元。三元既立，五行咸具。以五行为五位，三五和合，谓之八会，为众书之文。又有八龙云篆明光之章，自然飞玄之气，结空成文字，方一丈，肇于诸天之内，生立一切也。按《真诰》紫微夫人说，三元八会之书、建文章之祖，八龙云篆是根宗所起，有书之始也。又云八会是三才五行，形在既判之后。《赤书》云：《灵宝赤书》五篇真文，出于元始之先。即此而论，三元应非三才，五德应非五行也。此正应是三宝丈人之三气，三气自有五德耳。故《九天生神章》云：天地万化，自非三元所育，九气所导，莫能生也。又曰：三气为天至尊，九气为万物之根。故知此三元在天地未开，三才未生之前也。宋法师解八会，只是三气五德。三元者：一曰混洞太无元，高上玉皇之气；二曰赤混太无元，无上玉虚之气；三曰冥寂玄通元，无上玉虚之气。五德者，即三元所有。三五会即阴阳和。阴有少阴、太阴，阳有少阳、太阳，就和中之和，为五德也。篆者，撰也。撰集云书，谓之云篆。此即三元八会之文。八龙云篆之章，皆

是天书，三元八会之例是也。云篆明光，则五符五胜之例是也。八会本文，凡一千一百九字。其篇真文合六百六十八字。是三才之元根，生立天地，开化人、神、万物之由。故云有天道、地道、神道、人道、此之谓也。《玉诀》云：修用此法五篇，皆分字数，各有四条。

一者主召九上帝校神仙图篆，求仙致真之法；二者主召天宿星官正天分度，保国宁民之道；三者摄制酆都六天之气；四者敕命水帝制召龙鸟也。其诸天内音，一天有八字，三十二天合二百五十六字。论诸天度数期会、大圣真仙名讳位号、所治官府台城处所、神仙变化升降品次、众魔种类、八鬼生死转轮因缘。其十三字是五方元精名号、服御求仙、练神化形、白日腾空之法。馀一百二十二字阙元音解。

二者演八会为龙凤之文，谓之龙书。此下皆玄圣所述，以写天文也。

三者轩辕之时，仓颉傍龙凤之势，采鸟迹为古文，以代结绳，即古体也。

四者周时史籀，变古文为大篆。

五者秦时程邈，变大篆为小篆。

六者秦后盱阳，变小篆为隶书。又云汉谓隶书曰佐书，或言程邈狱中所造，出于徒隶，故以隶为名。此即为六书也。

云篆

又有云篆明光之章，为顺形梵书。文别为六十四种，播于三十六天。今经书相传，皆以隶字解天书，相杂而行也。

八体六书六文

一曰大篆，二曰小篆，三曰刻符，四曰虫书，五曰摹印，六曰署书，七曰殳书，八曰隶书。王莽时，使司徒甄丰校定文字，复有六书：一曰古文，孔子壁中书；二曰奇字，古文异书；三曰篆书；四曰佐书，即隶书；五曰缪篆，所以摹印；六曰鸟篆，翻言也。仓颉始书，已应有笔。《诗》云“彤管”，则是笔也。而言蒙恬造笔者，盖恬为秦将，三世有名，制削笔精，能独擅名也。汉和帝时，蔡伦始造纸，尔前唯书简牒。牒者，诌牒语事也；简者，在简而不繁也。但知本是天书金简，余地书已下八体六文，皆从真出外，学者自更详之。又未知何时书于此经，在纸作卷。今谓劫初已自有笔。太真所书，何言无也？及以八体六文等耶？以天尊造化，具一切法也。后人承用，自有前后耳。六文：一曰象形，日月是也；二曰指事，上下是也；三曰形声，河海是也；四曰会意，武信是也；五曰转注，考老是也；六曰假借，令长是也。

符字

一切万物，莫不以精气为用。故二仪三景，皆以精气行乎其中。万物既有，亦以精气行乎其中也。是则五行六物，莫不有精气者也。以道之精气布之简墨，会物之精气以却邪伪，辅

助正真；召会群灵，制御生死；保持劫运，安镇五方。然此符本于结空太真，仰写天文，分置方位，区别图象符书之异。符者，通取云物星辰之势；书者，别析音句铨量之旨；图者，画取灵变之状。然符中有书，参似图象；书中有图，形声并用。故有八体六文，更相发显。

八显

八显者，一曰天书，八会是也；二曰神书，云篆是也；三曰地书，龙凤之象也；四曰内书，龟龙鱼鸟所吐者也；五曰外书，鳞甲毛羽所载也；六曰鬼书，杂体微昧，非人所解者也；七曰中夏书，草艺云篆是也；八曰戎夷书，类于昆虫者也。此六文八体，或今字同古，或古字同今，符彩交加，共成一法，合为一用，故同异无定也。此依宋法师所说，未见正文。而三洞经中符有字者，如《古文尚书》中有古字，与今同者耳。

玉字诀

太上道君于南丹洞阳上馆，为学士王龙赐说此灵文玉字之诀，但未知定是何世所注，学者寻之。又说诸修行符醮五方思存禳灾等法，然正是解决八会之文，而就本文理中复明理，如解真文中更明感通之理。《定志经》又云：出思微之义，事中复有事，如玉诀中复明传经及盟授威仪之事。然诸经中凡有解

诀，皆通谓之玉诀也。

皇文帝书

《三皇经》云：皇文帝书，皆出自然虚无空中，结气成字。无祖无先，无穷无极，随运隐见，绵绵常存。

天书

《诸天内音经》云：忽有天书，字方一丈，自然见空。其上文彩灿烂，八角垂芒，精光乱眼，不可得看。天真皇人曰：斯文尊妙，不譬于常，是故开《大有》之始，而闭天光明，以宝其道而尊其文。其字宛奥，非凡书之体，盖贵其妙象而隐其至真也。

龙章

《灵宝经》云：赤明开图，运度自然；元始安镇，敷落五篇；赤书玉字，八威龙文；保制劫运，使天长存。此之龙章也。

凤文

《紫凤赤书经》云：此经旧文藏在太上六合紫房之内，有六头师子巨兽夹墙，玉童玉女侍卫凤文。

玉牒金书

《三元布经》：皆刻金丹之书，盛以自然云锦之囊，封以三元宝神之章，藏于九天之上大有之宫。谓之玉牒金书。又云：以紫玉为简，生金为文；编以金缕，缠以青丝。《太上太真科》云：玉牒金书，七宝为简，又名紫简。

石字

《本行经》云：道言昔禅黎世界，队王有女，字絳音。生仍不言，年至十四。王怪之焉。乃弃女于南浮长桑之阿、空山之中。女行山周匝，忽与神人会于丹陵之舍、柏林之下。神执絳音右手，题赤石之上。语絳音曰：“汝虽不能言，可忆此也。”天为其感，愍其疾，遣朱宫灵童，下教絳音治身之术，授其赤书八字。絳音于是能言。《灵宝玉诀经》云：道告阿丘曾曰

：“汝前生与南极尊神同在禅黎世界，于丹陵之舍、柏林之下，同发道意。尔时南极姓皇，字度明，执汝右手，俱题赤石，以记姓名南宫。即书汝笔迹题于南轩。今犹尚在，石字亦存。汝忆之不？”丘曾心悟，举目即见南极所主南壁刻书云：太甲岁七月一日，皇度明王、阿丘曾同于丹陵柏林下发愿。合二十三字，字甚分明。

题素

《五符经》云：《五符》一通，书以南和之缙；（南和，赤色缙也。）封以金英之函；印以玄都之章；付震水洞玄之君。《仙公请问经》云：《道德上下经》及《洞真玄经》、《三皇天文》、《上清众篇咏》等，皆是太上所撰而为文，书于南和之缙，故曰题素也。

玉字

《内音玉字经》云：天真皇人曰：《诸天内音》，自然玉字，字方一丈，自然而见空玄之上，八角垂芒，精光乱眼。灵书八会，字无正形。其趣宛奥，难可寻详。皆诸天之中大梵隐语，结飞玄之气，合和五方之音，生于元始之上，出于空洞之中，随运开度，普成天地之功。

天尊命天真皇人注解其正音，使皇道清畅，泽被十方。皇

人不敢违命，按笔注解之曰：形魂顿丧，率我所见，聊注其文。五合之义，其道足以开度天人也。和合五方无量之音，以成《诸天内音》，故曰五合之义也。

文生东

《太平经》云：文者，生于东，明于南，故天文生东北，故书出东北，而天见其象。虎有文章家在寅，龙有文章家在辰。文者生于东，盛于南。是知真文初出在东北也。

玉箒

《玉清隐书》：有帝简金书玄玉箒籍，可以传《玄羽玉经》也。又云自非帝图玉箒者，不得闻见上皇玉慧玉清之隐书，金玄隐玄之羽经也。

玉篇

《众篇序》云：元始命太真按笔，玉妃拂筵，铸金为简，刻书玉篇。五老掌箒，秘于九灵仙都之宫，云蕴而授葛仙公之经也。

玉札

《金根经》云：太上大道君以《大洞真经》付上相青童君，掌箒于东华青宫，使传后圣应为真人者。此金筒玉札，出自太上灵都之宫，刻玉为之。

丹书墨箒

《太真科》云：丹筒者，乃朱漆之筒，明火主阳也。墨箒者，以墨书文，明水主阴也。人学长生，遵之不死，故名丹筒墨箒，秘不妄传。

玉策

天皇手执飞仙玉策，人皇手执上皇保命玉策，地皇手执元皇定箒玉策。

福连之书

《三十九章经》曰：太上有琼羽之门，合延为胎命之王，玄一为三气之尊，元老为上帝之宾，并扶兆身，神台刊名于福连之简。又曰：太上金简玉札为福连之书。

琅虬琼文

《飞行羽经》云：金书玉篆，乃琅虬琼文也。

白银之编

《金房度命经》云：太常灵神都宫中，有金房度命回年之诀。皆铸金为简，刻白银之编，紫笔书编也。

赤书

《玉诀经》云：元始赤书五篇真文，置以五帝，导以阴阳，转轮九天之纽，运明五星之光也。

火炼真文

《本相经》曰：吾昔赤明元年，与高上大圣玉帝于此土中炼其真文，以火莹发字形。尔时真文火漏余处，气生化为七宝林，是以枝叶成紫书，金地银镂玉文其中，及诸龙禽猛兽一切神虫，常食林露，真气入身，命皆得长寿，三千万劫。当终之后，皆转化为飞仙，从道不辍，亦得正真无为之道。

金壶墨汁字

《圣纪》云：浮提国献善书二人，乍老乍少，隐形则出影，闻声则藏形。时出金壶四寸，上有五龙之检，封以青泥。壶中有黑汁若淳漆，洒木石皆成篆隶科斗之字，记造化人伦之始。老君撰《道经》垂十万言，皆写以玉牒，编以金绳，贮以玉函。及金壶汁尽，浮提二人乃欲剖心沥血，以代墨焉。

琼札

《玉清隐书金虎符》云：《郁仪赤文》，招日同舆；《结璘黄章》，与月共居。《上清消魔经》：启洞门于希林，寻灵迹于丹穴。发元天之朱匱，望上清之琼札。玄书既刻于玉章，绛名始刊于灵阙。四遇三元于玄宫，六造五老于灵室。

紫字

《八素经》云：《八素真经》玄文，生于太空之内，见于西龟之山，玄圃之上，积石之阴。《八素高玄羽章》，灵文郁乎洞标，紫字焕乎琼林，神光流辉于九元，金音虚朗于紫天。文威焕赫，气布紫庭。众真晏礼，称庆上清。

自然之字

《玉帝七圣玄记》云：尔乃回天九霄，白简青篆，上圣帝君受于九空，结飞玄紫气自然之字，玄记后学得道之名。灵音韵合，玉朗稟真。或以字体，或以隐音，上下四会，皆表玄名。空生刻书广灵之堂，旧文有十万玉言。字无正类，韵无正音。自非上圣，莫能意通。积七千年，而后昆仑之室，北洞之源，字方一丈，文蔚灿烂。四合垂芒，虚生晦暖，若存若亡。流光紫气拂其秽，黄金冶炼莹其文。遂经累劫，字体鲜明。至上皇元年九月十七日，七圣齐灵清斋长宫，金青盟天，〈贝危〉誓告灵，奉受灵文。高上解其曲滞，七圣通其妙音。记为回天九霄得道之篇。刻以白银之简，结以飞青之文，藏于云锦之囊，封以启命之章。付于五老仙都左仙公，掌录琼宫也。

四会成字

《玉帝七圣玄记》云：《七圣玄记回天上文》，或以韵合，或以支类相参，或上下四会以成字。音或标其正，讳或单复相兼。皆出玄古空洞之中，高真撰集以明灵文。后学之人，若有玄名者得见此文。青空揀（初角切）名，四司所保，五帝记名也。

琅简蕊书

《八素经》云：西华宫有琅简蕊书，当为真人者乃得此文。

石碯

《三洞珠囊》云：西王母以上皇元年七月，于南浮洞室下教，以授清虚真人王君，传于夏禹。禹封文于南浮洞室石 匱之中。碯有作此碯者。故《五符》云九天灵书犹封于石碯是也。今检诸字，类无此碯字也。《玉诀》下云：五老真文封题玉匱，亦其例也。孔灵符《会稽记》云：会稽山南有宛委山，其上有石，俗呼为石笈。壁立干云，累梯然后至焉。昔禹治洪水，

厥功未就，斋于此山，发石箠得金筒字，以知山河体势。于是疏导百川，各尽其宜也。

卷八 三洞经教部·经释

释《三十九章经》

《大洞真经》云：高上虚皇道君而下三十九道君，各著经一章，故曰《三十九章经》，乃大洞之首也。

第一章

高上虚皇君曰：元气生于九天之上，名曰辟非。辟非之烟下入人之身而为明梁之气，居人五脏之中，处乎心华之下。此至气之所在，长烟之所托。能知辟非之由者，乃得领祖太无。领祖太无者，尽体虚玄之大，冠道素之标矣。益元羽童，乃人鼻之神也。众风乱玄，人鼻之气也。四清抚闲，乃鼻下口上之间也。当令鼻气恒闲。又当数加手按，读此篇，捻鼻间乃高上之正座，天岳之混气。气之来也解百结。鼻神翩翩，列坐绿室。绿室者，唇上人中之际也。以帝一上景摄烟连众，长契虚运，反华自然矣。易有者，九天之上西北之门名也。若既登易有之门，乃得升帝堂之会。然后五涂既化，森罗幽郁，音暗（一云音响）太和，万唱幽发。百混九回，还而顺一耳。太一隐生之宝，人之心也。乃明梁之所馆，辟非之所栖。是故七祖反生，

道济帝简，高上之旨，理于此矣。读高上之洞经既毕，乃口祝曰：三蓝罗波逮台。此九天之祝言，高上之内名也。夫三蓝罗波逮台者，于地上之音曰天命长，人常宁也。易有者，于地上之音曰长台。

第二章

上皇玉虚君曰：玄归者，于九天之音曰泥丸也。天晨、金霄，帝一雌雄之道。天晨为雌，金霄为雄。雄一之神曰晨，雌一之神曰霄。玉州黄篆者，帝之金简也。德刃者，九天之台名也。

第三章

皇上玉帝君曰：玉帝有玄上之幡，一名反华之幡。皆玉帝之旌旗，招仙之号令也。以制命九天之阶级，徵召四海五岳之神王也。九天真人呼曰为“濯耀罗”。三天真人呼曰为“圆光蔚”。玉清天中有树似松，名曰空青之林。得食其华者身为金光。自非妙寻云景，而金房不登；自非重诵洞章，而玉宾弗见也。若既陟其途，则可以窥森然晃朗之门，而手掇空青之华也。

第四章

上皇先生紫晨君曰：太冥在九天之上，谓冥气远而绝乎九玄，惟读《大洞玉经》者可以交接其间也。故谓洞景寄以神道耳。又玉清天中有绮合台，下有万津之海，其水波涌，如连岳焉。

第五章

太微天帝君曰：九天真人呼风为“浮”。金房在明霞之上，九户在琼阙之内，此皆太微之所馆，天帝之玉宇也。

第六章

三元紫精君曰：紫精之天，处太无之中。三元之气，在上景之衢。秀朗者，玉清天中台名。太混者，玉清天中殿馆名。羽明者，上清天人之车名也。

第七章

真阳元老玄一君曰：真阳者，上清之馆名。玉皇者，虚无之真人。逸宅者，真气之明堂。丹玄乃泥丸之所在也。若能七转洞经于震灵之上，三回帝尊于白气之中，则真人定录而魔王立到，则注生籍于玉阙，招五老于金台矣。太上有琼羽之门，合延为胎命之王，玄一为三气之尊，元老为上帝之宾，并扶兆身神台，刊名于福连之简也。太上金简玉札，名为福连之书。

第八章

上元太素三元君曰：太素三元宫中，有三华之气，生于自然也。似芙蓉之晖。晨灯者，乃玉真天中明气之光，洞照于三元之台也。广灵堂者，上清之房名。兆若能存雌一于夙夜，诵洞章以万遍者，则太微小童负五图于帝侧，绛宫真人承五符于胎尊，合变于三素之气，得形于晨灯之光，则人无哭兆，终身

不亡矣。

第九章

上清紫精三素君曰：上清紫精天中有树，其叶似竹而赤，其华似鉴而明，其子似李而无核，名曰育华之林。食其叶而辟饥，食其华以不死，食其实即飞仙。所谓绛树丹实，色照五脏者也。自非长冥眇思，栖神太无，而育华之实不可得而食也。上清玉房生七宝之云，云色七重，其气九扇，以童子辟非、童女宣弥得乘此宝云，上入玉清之天也。而辟非者，太微之内神；宣弥者，玉清之神女。若兆能离合百神，间关帝一，变化九魂，混畅五七者，则辟非可赖，宣弥可致。七度死厄，三光所利。五老延日以曲照，太上三便以相入矣。三便者，太上金房之名也。

第十章

青灵阳安元君曰：青灵者，真人之位号。八气者，云色之相沓。元君者，虚皇之司命。三华者，玉清之房名，乃阳安元君之处也。

第十一章

皇清洞真道君曰：皇清，乃上清三仙皇之真人也。洞真，乃上清元老之君也。皆俱合生于太无之外，俱合死于广汉之上。能生能死，是以皇清、洞真三帝合生，理出于此矣。日母者，玉清之老母，主胞胎于尊神也，名曰“正荟条”。兆能知日母

之名，则胞结自解，七祖罪消。

第十二章

高上太素君曰：高上皇人常宴紫霄之上。玉根者，玉清天中山名也，乃五老上真之所治。太素真人拂日月之光于帝一之前，太素天中呼日为“眇景”也。玉门、兰室，并是上清宫中门户名也。月中树名骞树，一名药王。凡有八树在月中也。得食其叶者为玉仙。玉仙之身，洞彻如水精琉璃焉。

第十三章

皇上四老道中君曰：皇上四老真人，在日中无影。呼日名为“九曜”。生常乘明玉之轮，转宴于日中也。广霞者，玉清天中山名，乃九日之所出矣，日帝之所司也。

第十四章

玉晨太上大道君曰：道君保形景于法化之内，回眇镜于上清之上，解襟带于玉映之室，乘八素入于四明之门，反日中之神王，并月中之高灵矣。玉映者，玉晨之宫名。四明者，上清玉帝之南门也。

第十五章

太清大道君曰：太清天中有山名浮绝，三天神王之所治也。彼天人呼日为“太明”。又有金华楼，诸受真仙玉录者，皆在

此楼之中。

第十六章

太极大道元景君曰：太极有元景之王，司摄三天之神仙者也。太漠者，太清之外也。太极真人呼曰为“圆明”。

第十七章

皇初紫元君曰：皇初紫元之天，常有晖晖之光，郁郁如薄霞焉。乃九日之所出，有如一日照耳。六渊者，乃元君之宫名。寒童者，山名也。故曰登寒童之岳，会六渊之中矣。

第十八章

无英中真上老君曰：无英中真上老君处上真之宫，领五帝之籍，解兆五符于重结，化兆五神于胎骨，常游紫房明堂之内也。

第十九章

中央黄老君曰：中央黄老君，三元之真皇也。圆华者，黄老之宫名也。玉寿者，太微天中之山名也。皆黄老君之理所。

第二十章

青精上真内景君曰：青精之宫有上华之室。室中有自然青

气，号曰返香之烟。逆风闻三千里。紫空者，内景之山名也。青精君常乘羽逸之车，携玄景之童，登紫空之山，入玉室之内也。

第二十一章

太阳九气玉贤元君曰：太阳九气者，变化三晨之上，策驾紫駟于微玄之下。微玄者，日中之神，名曰主贤。天中或呼曰为“微玄”也。开阴太漠者，是胎神之所在也。胎门既塞，乃滞血之所秽；胎门既开，而婴神之所栖。太漠为玄重之根，开阴为常生之源。若胎开而明洁，则帝一之气全也。若太漠之内修，则五老之宴欢。故云开阴太漠，长保阳源。阳源者，犹人之有势也。兆能使阳源不倾，玄泉不动，淡然渊停，潭然天静，亦回老驻年，与灵均气也。

第二十二章

太初九素金华景元君曰：太初天中有华景之宫。宫有自然九素之气。气烟乱生，雕云九色。入其烟中者易貌，居其烟中者百变。又有庆液之河，号为吉人之津。又有流汨之池，池广千里，中有玉树。饮此流汨之水，则五脏明彻，面生紫云。

第二十三章

九皇上真司命君曰：九皇上真者，玉虚之元君也。四司者，天帝之禁宫也。晨晖者，玉虚司命之宫名也。飞霞者，玉虚天中之山名。逸录者，仙皇之符箓也。

第二十四章

天皇上真玉华三元君曰：天皇上真者，是上清真人之典禁主，玉华仙女之母，故号曰玉华三元君也。乘神徊之车，登云飀之宫，入流逸之室。神徊者，是真人一轮车名。九曲下户者，是男女之阴地也，男曰九曲，女曰下户。此阴地常生白云之气，以薰黄庭之间，是得道之候验也。

第二十五章

太一上元禁君曰：太一上元君者，万仙之司，主方岳真气也。主除死籍，刻书生简。赤气王者，日中之上神，其名曰将车梁。能知赤气王名者不死。

第二十六章

元虚黄房真晨君曰：元虚黄房者，是真晨仙君之所治也。玉宫者，是得道符籍之所在也。九元镇真者，是九元太帝之名也。太帝名镇，字真。兆能知之者不死。

第二十七章

太极主四真人元君曰：太极元君乘凌羽之车，结云气以雕华，控九龙以齐骤，扬威于高上之天，转轂于太明之丘，鸣钟于朱火之台。

第二十八章

四斗中真七晨散华君曰：玉清天中有散华之台，是四斗七晨道君之所治也。七晨天中有反生之香气，反冲于三宝之山。山在四斗之中，上有金琅之馆，名曰映清夷之宫。其中上皇真人皆项负宝曜，体映圆光，气合三宝，灵洞五藏也。洞经所谓香风扇三宝，五脏映清夷。

第二十九章

辰中黄景元君曰：辰中真人带迎延之符，登太霞之庭，飞羽轮于沧浪之台，佩玉章之文于太霞之宫。

第三十章

金阙后圣太平李真天帝上景君曰：金阙之中有上景之气，气色郁郁，晖照十方，乃后圣之灵都，太平之所会也。种年祚于日气之中，植三命于月宫之庭。五毒绝于沈没，解结生于天堂。

第三十一章

太虚后圣无景彭室真君曰：太霞之中有彭彭之室。结白气以造构，合九云而立宇；紫烟重扉，神华所聚，故号曰彭彭之室，而太虚元君之所处焉。

第三十二章

太玄都九气丈人主仙君曰：太玄都九气丈人乘晨徊之风，登荡滞之山，焕郁然之烟，入太暉之宫。伐胞树于死户，养胎气于冥初，济五毒于常关，定三命于金书。

第三十三章

上清八皇老君曰：上清之天在绝霞之外，有八皇老君运九天之仙，而处上清之宫也。乘广琅之车，把凤羽之节，登华便之山，入太老之堂。上清真人呼日、月为“太宝”、“九华”。

第三十四章

东华方诸宫高晨师玉保仙王曰：青童君东华者，仙真之州也，在始暉之间，高晨玉保王所治也。东华真人呼日为“紫曜明”，或曰“圆珠”。青童君乘雕玉之辔，御圆珠之气，登云波之山，入东华之堂。

第三十五章

搏桑太帝九老仙皇君曰：九老京者，山名也。在搏桑之际。九老仙皇处搏桑之际，治九老之京。太帝君治搏桑之杪，会方丈之台也。二道君时乘合羽之车。合羽车者，云沓之色。登搏桑之杪，会九老之京，出灵户之符，召大魔之王矣。

第三十六章

小有玉真万华先生主图玉君曰：小有玉真天中有万华之宫，

小有先生主图玉君之所治也。此宫之中藏录上帝之宝经、玉清之隐书也。又有洞观之堂，悬在太无之中。重泉曲者，魔王之阴府也。兆既得洞一之道，乃拔死于泉曲之籍，书仙名于灵羽之录。

第三十七章

玄洲二十九真伯上帝司禁君曰：玄洲有三溺之津，非飞仙而莫越也。又有羽景之堂，在太无之庭。又有绝空之宫，在五云之中，王灵仙母、金华仙女常所游也。司禁真伯上帝玉君时乘日月之辔，披虎文之裘，登重漠之山，入宴羽景之堂，濯纓帝川之池，会仙绝空之宫也。

第三十八章

太无晨中君刊峨嵋山中洞宫玉户太素君曰：太无在洞景之表，太素在幽玄之上。九宫列金门于大素之表，丹楼沓七重于大无之庭，乃太素三元君所游也。

第三十九章

西元龟山九灵真仙母青金丹皇君曰：昆仑山有九灵之馆，又有金丹流云之宫。上接璇玑之轮，下在太空之中。乃王母之所治也。西元龟山在昆仑之西，太帝玉妃之所在。

释《太上大道君洞真金玄八景玉策》

《经释》题曰：东华上仙名《太上八素隐书》，南华上仙曰《大洞真经》，西华上仙曰《金真玉光映天洞观玉经》，北华上仙曰《萧条九曜豁落七元上经》，玉皇中仙曰《太上高圣八景玉策》，中央黄老君、南极元君藏录二经于太素瑶台玄云羽室，封以郁林之笈，玉清三元之章。乃命北寒金台龙华玉女七百人，又命白空虞宫西灵玉童七百人侍卫焉。晋永和十一年，岁在乙卯，九月一日夜半，受经于紫微王夫人。凡二万二百三十字。其《大洞真经》一万字。

释《上清高圣太上大道君金玄八景玉策》

上清高圣太上大道君者，盖二晨之精气，庆云之紫烟，玉晖辉焕，金映流真，结化含秀，苞凝玄神，寄胎母氏，育形为人。讳次天真，字开元。母妊三千七百年，乃诞于西那天郁察山浮罗岳丹玄之阿。于是受书玉虚，眺景上清，位为太上高圣玉晨大道君，治蕊珠日阙馆七映紫房，玉童玉女各三十万人侍卫。于是振策七圃，杨青建朱，腾空舞旌，驾景骋飚，徘徊八烟，盘桓空涂，仰簪日华，拾落日珠，摘绛林之琅实，饵玄河之紫蕖，偃蹇灵轩，领理帝书。万神八拜，五德把符。上真侍晨，天皇抱图。乃仰空而言曰：子欲为真，当存日中君驾龙骖

凤，乘天景云，东游桑林，遂入帝门。若必升天，当思月中夫人驾十飞龙，乘我流铃，西朝六领，遂诣帝堂。精根运思，上朝玉皇。苍苍敷郁仪以躡景，晃晃散结璘以暨霄。双皇合辇，后天而凋。夫大有者，九天之紫宫；小有者，清虚三十六天之首洞。于是太上大道君初乘一景之舆，驾八素紫云，摄希微仓帝名录丰子，俱东行，诣郁悦那林昌玉台天，见玉清紫道虚皇上君，受九晖大晨隐符。

太上大道君次乘二景之舆，驾七素绛云，摄中微赤帝，名定无彦，俱南行，诣高桃厉冲龙罗天，见玉清翼日虚皇太上道君，受观灵元晨隐符。

太上大道君次乘三景之舆，驾六素红云，摄紫微白帝，名渠渊石，俱西行，诣碧空歌饮黎天，见玉清昌阳始虚皇高元君，受总晨九极隐符。

太上大道君次乘四景之舆，驾五素青云，摄玄微黑帝，名齐元旋，俱北行，诣加卍摩坦娄于医天，见玉清七静道生高上虚皇君，受沓曜旋根隐符。

太上大道君次乘五景之舆，驾四素黄云，摄始微上帝，名接空子，俱东北行，诣扶力盖浮罗天，见玉清太明虚皇洞清君，受玄景晨光隐符。

太上大道君次乘六景之舆，驾三素绿云，摄灵微中帝，名秉巨文，俱东南行，诣具谓耶渠初默天，见玉清始元虚皇太霄君，受合晖晨命隐符。

太上大道君次乘七景之舆，驾二素紫云，摄宣微下帝，名宏肤子，俱西南行，诣冲容育郁离沙天，见玉清七观无生虚皇金灵君，受齐晖晨玄隐符。

太上大道君次乘八景之舆，驾一素灵云，摄洞微真帝，名洄澄摅，俱西北行，诣单绿察宝轮法天，见玉清八观高元虚皇

淳景君，受高上龙烟隐符。

太上大道君又乘洞景玉舆，驾太霞紫烟玄景之晖，摄九微内帝君，名申明闲，及上皇九玄九天诸真仙王等，俱仰登弥梵罗台霄绝寥丘飞元云根之都玉清上天，见玉清紫晖太上玉皇明上大道君，受高清太虚无极上道君隐符。

释《太上神州七转七变 天经》

神州在天关之北，日月回度其南，七星轮转其中央。昼左回八纬，夜右转七经。七星运周，天光回灵，此上皇紫晨受化之庭。修七转之法，位登于玉清。

七转七变之道，上皇紫晨君受于九天父母，修行道成，以传玄感清天上皇君。皇君以传三天玉童，玉童以传紫极真元君，紫极真元君传天帝君，天帝君传南极上元君，南极上元君传太微天帝君，太微天帝君传后圣金阙君，后圣金阙君传上相青童君。承真相系，皆经万劫一传。小有天王后撰一通以封于西城山中。得者皆奉迎圣君于上清宫，给玉童玉女各二十一人典卫灵文，营护有经者身。

《神州玉章》凡十四章。乃十四帝君洞野之曲，百神内名，玉天之玄象，三晨之精。诵其章，玉响激朗。上元诵之万遍，白日升天。

释《神虎上符消魔智慧经》

神者，灵也。灵变无穷，阴阳不测，名之曰神也。虎者，威也。威震九遐之域，神光焕乎上清。上者，太上，秘乎灵都上宫，神虎七千，备于玉阙，因以为名。符者，信也。太上之信，召会群灵。消魔者，灭鬼也。凡有玉简紫名，得修上经，莫不为众邪所乘，鬼魔所试。兆当讽咏此经，则激百阳以生电，鼓千阴以吐威；六天失气，九魔消摧也。智者，日中之星也。慧者，宜以生生为急也。故慧字有两生，并而共乘一急之象者也。诵经五千遍，则神智开朗，圣慧明发。命八景以高登，骋神虎以飞升。此大威变之道，故以消魔为名。

释《太上素灵洞玄大有妙经》

太者，大也。弥纶而不可极，故曰太也。上者，处乎无穷之表，故曰上也。是道君之号也。素灵者，房名也。洞者，洞天洞地，无所不通也。玄者，幽冥之所出也。大有者，宫名也。妙者，微之极也。经者，营也。弘畅幽极，经理神关，故谓之经。而有玄丹上化三真元洞之道，本与玄气同存，元始俱生，三精凝化，结朗玉章。构演三洞之府，总御万真之渊。乃秘在九天之上，大有妙宫金台玉室素灵之房。蒹藁玄玄之上，萧萧始晖之中，是时上圣众帝，清斋三月，仰禀太冥，玄思感于大

寂，积稔启于上清而受焉。因经所藏之处而以为名。

释《回元九道飞行羽经》

回元者，运星元之纲轮也。轮空洞之大辐，调四气之长存。九道者，北斗九星也。九星之运，观涣五常。五行乘之以致度，万物稟之以得生，皆九道之运也。飞行羽经者，九天父母、太真丈人同宴景龙之舆，息驾无崖之端，忽致玄灵瑞降白鸾之车。黑翮之凤，口衔素章，登空步虚，经历无穷，因名《白羽黑翮飞行羽经》。

释《九灵太妙龟山元录》

龟山在天西北角，周回四千万里，高与玉清连界，西王母所封也。元录者，九虚上真始生变化大妙之法，记为名录也。皆刻书龟山，流精紫闾金华琼堂。其旨隐奥，其音宛妙，盖九天书录，名题龟山。

释《大有八稟太丹隐书》

大有，宫名也，在九天之上。八者，八节也。稟者，授节

度也。太丹，南宫名也。隐，藏也。书，文也。言八节吉辰天上宴会，八稟开真大庆之日，其时乃万神集议，皆列言大有之宫。为学之士以其日清斋首过，即上生于南宫也。

释《七圣玄记回天九霄经》

七圣者，高圣玉帝君、高圣太上大道君、上圣紫清太素三元君、上圣白玉龟台九灵太真西王母、上圣中央黄老君、上圣搏桑大帝君、后圣金阙帝君也。玄记者，七圣各逆注得道之人玄名也。回天者，太上道君携契玉虚紫宸，回天倾光，上登九层七映朱宫，徘徊明霞之上，萧条九空之中。列七范于仙录，刻王名于隐篇。九霄，九天也，一名九空。上圣帝君受命于九空，结飞气成自然之字，玄记后学得道之名。灵音韵合，玉朗稟真，或以字体，或以隐音，上下四会，皆表玄名。

释《曲素诀辞五行秘符》

曲者，台名也。素者，八方之素也。玄都上有九曲峻嶒凤台，皆结自然风气而成琼房玉室，处于九天之上、玉京之阳，虚生八会交真之气，十折九曲，洞达八方，上招扶摇之翮，傍通八素之灵，故以曲素为名。诀者，旨诣也。辞者，忧乐之曲也。结九元正一之气，以成忧乐之辞。上庆神真之欢，下悲兆民之忧，故曰忧乐之辞也。五行者，金、木、水、火、土也。

秘者，藏于上清琼宫也。符者，文也。五色流精，凝而成文也。混化万真，总御神灵。

释《天关三图七星移度经》

天关三图者，九天之上有关玉台，一名天关，一名天图，一名天开。是九天之生门，关之枢机也。其西五千里则金阙宫，东九千里则青华宫，上去玉清宫七千里，是众真之所经，神仙之所历，学者之所由也。七星者，斗星也。移度者，历转也。日月回周其境，七星历转其关，上运九天明皇之气，下润流洒梵行诸天。高上玉帝出入游宴之道，乃学者简录所通之门。上相所撰以挟后学。有知上帝宫馆之次第，上真所游处，克成真人也。

释《除六天玉文三天正法》

除者，罢也。六天者，赤虚天、泰玄都天、清皓天、泰玄天、泰玄仓天、泰清天。此六天起自黄帝以来，民人互兴杀害，不稟自然，六天之理，于兹而兴。太上给以鬼兵，使于三代之中驱除恶民，而六天临治，转自伪辞。太上下玉文，遂截六天之气，更出三天正法，割恶救善。三天者，清微天、禹馀天、大赤天是也。

释《青要紫书金根众经》

青要者，紫清帝君之别号也。紫书者，紫笔缮文也。金者，金简也。根者，日根也。众经者，科集众经之最要也。盖玉帝命高上侍真总仙君，科集宝目，采日根之法，合为众经，以紫笔缮文，金简为篇也。

释《石精金光藏景录形经》

石精者，妙铁也。石者铁之质，精者石之津。治之为剑而发金光。金者，剑之干。光者，刃之神。藏景者，隐身也。录形者，化身也。

释《太上九赤斑符五帝内真经》

太上者，是无极大道之号也。九赤者，乃九元之气也。九元者，五岳四海也。山海色杂，目之斑也。符者，真文也。五岳得之以镇，四海得之以润，五帝得之以灵，人得之以神仙也。

卷九 三洞经教部·经释

释《太霄琅书》

《太霄琅书妙经》云：九天九王，万炁之本宗，众帝之祖先，乃九气之精源。以天地未凝，三晨未明，结自然而生于空洞之内，溟滓之中，历九黄劫而分气各治，置立天地，日、月、星、辰于是而明。万气流演，结成道真，元始上皇、高上玉虚，并生始天之中；三十九帝、二十四真，遂有宫阙次序之官。上皇宝经皆结自然之章，以行长生之道，不死之方。符章玉诀，皆起于九天之王，传于世代之真。至三五改运，九灵应期，后圣九玄道君推校本元，以历九万亿九千累劫，上皇典格，多不相参。道君以中皇元年九月一日于玉天琼房金阙上宫，命东华青宫寻俯仰之格，拣校古文，撰定灵篇，集为宝经三百卷，以付上相青童君，使传后学玉名合真之人。

释《太微黄书》

《太微黄书》八卷素诀，乃含于九天玄母结文空胎，历岁

数劫以成自然之章。太皇中岁成《洞真金真玉光八景飞经》。元始天王名之《八景飞经》，广生太真名之《八素上经》，青真小童名之《豁落七元》，太上道君曰《隐书玉诀金章》。

释《太上金书秘字》

《金书秘字》出乎混洞太无，紫气练真，锋芒艳乎日月，断诸邪暗，飞彩空玄。太上有命，付诸天君。青真小童奉受修习，传太极真人、清虚真人、南岳赤松子、刘子先等，宝秘尤严，得者勿泄。

释《太上上皇民籍定真玉策》

凡欲定心，当受《上皇民籍定真玉策》。此策至要，为学之先，先能定心，仙名乃定。仙名者由此策焉。是三天正一先生所佩，以定得仙之名，传于玉帝三十九真也。

青童君请问太上道君曰：“治心入道，科术参罗，各云要妙，由之有缘。未审今之所最要，何方为胜？”太上答曰：“胜理虽多，其有最者，治心之要，在乎惭愧；动心举目，转体安身，常怀惭愧，不忘须臾，心神乃定。定则入道。此为最要也。”

青童曰：“何所惭愧，而得入道？”太上曰：“心有神识，识道可尊。尊由无为，而我有为，有为有累，志愿无为，无为

无累，不可便及。力进苦迟，负累稍至。为此惭愧，不离心中。又当思我稟生，生由父母。父母鞠养，辛苦劬劳。而我成长，学术不深，无奇方异法，令父母延年，长生不死，同得神仙。此期未克，供养又亏。公私愆过，父母垂忧。思虑不精，功行怠退。为此惭愧，不离心中。又父母爱念，令其携诱，从师学问，智慧通神，求得仙圣，为道种人。师又劝励，方便抑扬，善诱善接，既练既陶。而任欲肆心，负违师训。或将成而罢，叛正入邪，攻伐师友，反道破经，罪延尊上，祸灭己身。灾殃将至，不知改悛。或不自觉悟，以为真正。苦及方悔，悔无所追。为此惭愧，不离心中。又君王赏德，搜贤访美。举其宗乡，拔其萃类。爵禄光厚，宴集绸缪。不能竭力尽忠，赞宣圣化，贪荣慕势，阿谀面从，佞媚自进，抑绝高明，嫉害胜己，结对连仇。灾凶贼害，毒至不知。知不能脱，误及亲友。为此惭愧，不离心中。又崇道不忘，事亲能孝，奉君必忠，不负幽显，而前身宿障，否病相缠，公私口舌，诽谤横生。或斗讼牢狱，非意而及。或执勤守慎，清直异群。君上所憎，众邪所怨。或事师敬友，往还身心，遭罹凶丑。恶鬼恶人，交互劫掠，慑胁中伤。或为善成恶，舍财致怨，尽礼为佞，竭诚为奸。或起立馆舍，缮写经图。堂宇虽立，不得常安。篇部虽多，不得披览。公私罣碍，风火志失。惨疾饥寒，不从本忘。白日空去，素愿未成。一失生道，方向冥冥。幽苦烦恼，未测还期。今欲救之，未得要诀。为此惭愧，不离心中，心中有神。不知惭愧，则驰竞遑遑，无时得定，定由惭愧。惭愧既立，常在心中。心中有惭愧，俯仰思道。思道不忘须臾，则神明定乎内。内定则罪去，罪去则福来，福来则成真，成真则入道，入道由惭愧，惭愧则入神也。”

青童曰：“惭愧在心，谨闻命矣。请问惭愧在迹，其状可

闻乎？”太上曰：“善哉善哉，要尔之问也！夫有形则有心，有心则有事，有事则有迹，有迹则有状，有状则有言，有言则有法，有法则有道，有道则可陈矣。学士治心，惭愧在内，惭愧之迹，其状在外。豫兮若冬涉川，犹兮若畏四邻，是其状也。慎言语，惧恫总也；节饮食，虑贪饕也；衣粗而净，在素洁也；居陋而隐，守静笃也；恭敬一切，避凌辱也；不敢为先，免嫉谤也；始终贞信，潜化导也；进止和光，密行教也；挫锐解纷，明道有时也；出处变化，见神应之缘也。各有其法，同是惭愧之状也。”

释《太上仓元上箓》

《仓元上箓》，一名《太清内文》，又名《玉镜宝章》，又名《金图琼宇》，又名《破淹洞符》，又名《玄览宝箓》，又名《人鸟山经》，又名《金生策文》，又名《威武太一扶命》，玉晨君所修。秘于素灵上宫，得而奉行，能飞能沉，能隐能显，位为真人。

释《太上太素玉箓》

《太素玉箓》者，玉晨君所修。五帝神使秘于素灵上宫大有之房。得者飞行太空，能隐能藏。给玉童、玉女各二人。密修即验，泄露致灾。精加谨慎，谛忆师官也。

释《太上神虎玉符》

老君曰：《神虎玉符》，太真九天父母所出。太真丈人以传东海小童、九天真王，九天真王以传太上道君。太上道君常所宝秘，藏于太陵灵都琼宫玉房之里，卫以巨兽，捍以毒龙，神虎七千备于玉阙也。神虎班其匠，金虎亘其真，智慧标其干，消魔演其源。微旨幽邃，妙趣难详。皆署天魔隐讳，或标百神内名。诵其章，千精骇动；咏其篇，万祆束形。以三天立正之始，传付太微天帝君，使威制六天，斩馘万神，摄山召海，束缚群灵。威魔灭试，回转五星。

符在本经。

晋兴宁三年乙丑岁七月一日，桐柏真人授道士许远游，言至甲申、乙亥、壬辰、癸巳岁，九月一日、七月一日、四月八日，当有道士著七色法衣，手持九曲策杖，或在灵坛之所，或在人间告乞，或咏经诗，或作狂歌。子若见之，勤请其道，必授子《神虎上符》。此南岳真人，太上常使其时下在人间，察视学者之心也。

释《太上金虎符》

此符本刻于上清玉简《智慧》篇中，有七万言。灵音道妙，微旨难详。或著天魔隐讳，或表万神内名，或释幽论凝，决于

琼音也。小有王君抄出此符及《威神内文》之法，以制天地群灵，有一百言耳。此咒甚秘，名曰《三天虎书太元上篆》。受之者先斋七十日，赍金虎玉铃，素锦玄罗三十尺，以为金真之誓，盟天地不宣之约，依《四极明科》，听使七百年中得传三人。

符在本经。

释《太上金篇虎符》

太微天帝君以传金阙帝君。朱书白素，盛以紫锦囊。佩之头上以行，则制命天地群灵，神仙敬伏，玉华执巾，天丁卫躯，山岳稽精。加敕威神之祝，玉清之章，便得斩馘九魔，千妖灭形矣。此上清禁符，不传于世。得佩之者，飞升上清。

释《太上玉清神虎内真隐文》

太上道君曰：李山渊德合七圣，为金阙之主。方当参谒十天，理命亿兆；定中元于玄机，制阴阳于不测。以齐首拔真，擢领封河召海，断任死生，把执天威，馘灭六天，总罚三官。既以说之以《智慧》，又复记之以《消魔》。《智慧》可以驱神，《消魔》可以灭邪。复授之以《神虎真符》，助之以散秽去患也。文辞在本经中。

释《太上三元玉检布经》

《高上三元布经》，乃上清三天真书，上真玉检飞空之篇：《上元检天大策》、《下元检地玉文》、《中元检仙真书》。如是宝篇，高上皆刻金丹书，贮以自然云锦之囊，封以三元宝神之章，藏于九天之上大有之宫、金台玉室九曲丹房。南极上元君主之，以上元朱宫玉女七百人侍卫。

释《洞真太上九真中经》

《太上九真中经》，一名《天上飞文》，一名《外国放品》，一名《神州灵章》，虽有四号，故一书耳。

释《洞真玉晨明镜金华洞房雌一五老宝经》

一名《三元玉晨法》，一名《雌一隐玄经》。

释《洞真中黄老君八道秘言经》

太虚真人南岳赤松子曰：此经或名《九素上书》，或名《太极中真玉文》，或名《八道金策》。

释《洞神秘篆》

《小有经下记》曰：三皇治世，各受一卷，以天下有急，召天上神，地下鬼，皆敕使之，号曰“三坟”。后有八帝，次三皇而治，又各受一卷。亦以神灵之教治天下。上三卷曰“三精”，次三卷曰“三变”，次二卷曰“二化”，凡八卷，号曰“八索”。

释《玄真文赤书玉诀》

《东方九气青天真文赤书》，一名《生神宝真洞玄章》，一名《东山神咒八威策文》。

《南方三气丹天真文赤书》，一名《南云通天宝灵铃》，一名《九天神咒》，一名《赤帝八威策文》。

《中央黄天真文赤书》，一名《宝劫洞清九天灵书》，一名《黄神大咒》，一名《黄帝威灵策文》。

《西方七气素天真文赤书》，一名《金真宝明洞微篇》，一名《西山神咒》，一名《八威召龙文》。

《北方五气玄天真文赤书》，一名《元神生真宝洞文》，

一名《北山神咒》。

释《紫度炎光神玄经》

《紫度炎光神玄经》者，非紫度炎光有本元，乃是神经自生空虚之中，凝气成章，玄光炎映，积七千年，其文乃见。太微天帝君以紫简结其篇目，金简刻书其文。仍记为《紫度炎光神玄变经》者，从玄中变而名焉。

释《胎精中记》

九天丈人告三天玉童曰：《九丹上化胎精中记》，乃生九玄之初，结太空自然之气以成宝文。二十四真，三十九帝悉所修行。一名《琼胎灵曜经》，一名《洞真太丹隐书》，一名《帝君七化变景九形经》，一名《太一二度帝宝五精经》。

释《隐地八术》

《隐地八术》乃紫清帝君游隐之道，玄变之诀。旧文乃有八卷。变化八方，藏形隐影之事。

释《外国放品经》

《外国放品经》皆玄古洞空之书，自然之章，是上真帝皇以下，及学仙得道者，莫不受音于太空。

释《四十四方经》

《太上黄素四十四方》，皆九天之上书，八会之隐文也。是以太上大道君命上清高仙太极真人科集品目，陈其次序，合为黄素神方四十四首。

释《八素真经》

《八素真经》乃玄清玉皇之道。又有《地仙八素经》，论服王气吐纳之道也。又有《九素经》，论召鬼使精，行厨检魂魄之事。

释《三九素语》

《三九素语玉精真诀》，上相青童君曰：《三九素语》出九帝、三真命咒之辞。理气停年，开解灵关，五藏华鲜。

释《紫凤赤书》

《龙景九文紫凤赤书》曰：太上闲居峻嶒之台、金华九曲之房，说《龙景九文紫凤赤书》。

释《灵飞六甲》

《琼宫五帝灵飞六甲内文》，一名《太上六甲素奏丹符》，一名《五帝内真通灵之文》，一名《玉精真诀》，一名《景中之道》，一名《白羽黑翮隐玄上经》、《灵飞左右六十上符》，并生于九玄之中，结清阳之气以成玉文。

释《元始洞玄灵宝赤书五篇真文》

《五老灵宝五篇真文元始天书》，生于空洞之中，为天地之根。又云：《元始赤书五篇真文》上清自然之书，九天始玄，化空洞之灵章。成天立地，开张万真。

释《洞玄智慧大诫经》

《洞玄智慧大诫经》，元始天尊以开皇元年七月一日，于西那玉国郁察山浮罗之岳长桑林中，授太上大道君《智慧上品大诫法文》。

释《洞玄通微定志经》

天尊曰：“卿并还坐。吾欲以思微定志旨诀告卿。其要简易得悟，不亦快乎？”二真曰：“思微定志为有经也？”天尊曰：“都无文字。”二真曰：“斯徒解壁无底大痴。如无文字，何从得悟？”答曰：“即时一切经书，本无文字也。今日之言，不亦经乎？”

释《洞真黄气阳精三道顺行经》（一名《藏天偃月经》）

南极上元君曰：“吾爱高上顺行三道之要、黄气阳精之道。喻御灵晖，口啜皇华，仰餐飞根。存七曜于紫庭，行三道于金门。洞阔狭于渊景，明日月之方圆。睹朱阶于洞阳，入练汤于广寒。登七宝于玄圃，攀飞梯于灵关。回阳精于浮黎，采黄气于郁单。傍金翅于高木，回石景以映颜。修御灵图，遂感神真。乃三景垂映，七精翼轩，五灵交带，四司结篇，西龟定策，名题高晨，故位登南极上元之君。此道高妙，非庸夫狭学所可言论。今集其所禀，粗说高上玉帝口言，以标玄虚自然灵文。付上相青童君，掌录玄宫。经万劫之后，当授玄记白简青篆之人。”

释《洞真玉佩金珰太极金书上经》

玉佩者，九天魂精，九天之名曰晨灯，一名《太上隐玄洞飞宝章》。金珰者，九天魄灵，九天之名曰虹映，一名《上清华盖阴景之内真》。

释《洞玄太极隐注经》

《太上玉经隐注》曰：上清之高旨，极真之微辞，飞仙之妙经也。《灵宝经》或曰《洞玄》，或云《太上升玄经》，皆高仙之上品，虚无之至真，大道之幽宝也。《三皇天文》或云《洞神》，或云《洞仙》，或云《太上玉策》，此三洞经符，

立道之纲纪，太虚之玄宗，上真之首经矣。岂中仙之所闻哉？”

释《七经》（并序）

道学七经。经者，径也；由也；常也；成也。径直易行，由之得进，常通不塞。正以治邪，转败为成，经纬相会也。玄、素、黄帝、容成、彭铿、巫咸、陈赦，习学七经，演述阴阳，生生为先。先仁之志，非但七人。七人迹多，亦号七经。天门玉子，皆传斯道。外儒失道，不知道为儒本，儒为道末。本末不知，致无长寿之人，遂为淫乱之俗也。至于外儒，五经备有。《诗》首关雎。《礼》贵婚嫁。传嗣之重，历代所同；无后之罪，三千莫大；而知男女气数、阴阳兴衰，闻之疑怪，蚩鄙成灾，良可痛念！智者悟之，能归内道，救理外儒。《诗》、《礼》、《传》、《易》，至于《尚书》、《礼》、《乐》、《孝经》，敛末崇本。本孝合乎道，习乐同乎德。道德弘深，仁义备举。礼智恒用，信不暂亏。缘末入本，引外还内，上学之功，于此乎在。

七经者：一曰仁经。男女婚嫁，恩爱交接，生子种人，永世无绝。

二曰礼经。既生当长，壮不可恣，夫清妇贞，内外分别。尊卑相敬，和而有节。

三曰信经。既知礼节，亲疏相间。朝野忠直，无相违负。

四曰义经。既知忠直，有与有取。罚恶赏善，更相成济。

五曰智经。既知赏罚，防有枉滥。抑扬通流，除邪入正。

六曰德经。治邪保正，五德均平。无偏无苦，常乐长存。

七曰道经。常乐长存，腾泰无上。上德不德，教化立功。功成身退，权变无穷。

凡人学道，共修七经。经有所明，各有多少。仁经恩多，余事皆少。少不受称，多故立名。名为仁经，亦有《礼》、《义》、《信》、《智》、《德》、《道》六同若斯。唯《道》独多，少行均平，故号大道，一切所宗也。

卷十 三洞经教部·经

老君太上虚无自然本起经

道者，谓太初也。太初者，道之初也。初时为精，其气赤盛，即为光明，名之太阳，又曰元阳子丹。丹复变化即为道君，故曰道之初藏在太素之中，即为一也。太素者，人之素也。谓赤气初变为黄气，名曰中和，中和变为老君，又为神君，故曰黄神来入骨肉形中，成为人也；故曰人之素藏在太始之中，此即为二也。太始者，气之始也。谓黄气复变为白气，白气者，水之精也。名太阴，变为太和君，水出白气，故曰气之始也，此即为三气也。夫三始之相包也，气包神，神包精，故曰白包黄，黄包赤，赤包三，三包一，三一混合，名曰混沌。故老君曰：一生二，二生三，三生万物。又曰：混沌若鸡子。此之谓也。夫人形者，主包含此三一，故曰三生，又曰三精，又曰三形。元包含神，神得气乃生，能使其形安，止其气。如此三事，当相生成。

夫道为三一者，谓虚、无、空。空者，白也，白包无。无者，黄也，黄包赤。赤为虚。何为虚？虚者，精光明，明而无形质。譬若日、月及火，其精明然。而无有形质，故为虚。何谓无？无者，气也。气有形可见，无质可得，故为无。何谓空

？空者，未有天地山川，左顾右视，荡荡漭漭，无所障碍，无有边际，但洞白无所见，无以闻，道自然从其中生。譬若琴瑟鼓箫之属，以其中空，故出声音。是以圣人作经诫后贤者，欲使守道，空虚其心，关闭其耳目，不复有所念。若有所念思想者，不能得自然之道也。所以者何？道未变为神时，无端无绪，无心无意，都无诸欲，澹泊不动不摇。及变为神明，神者外其光明，多所照见，使有心意，诸欲因生，更乱本真。或曰思想不能复还反于道，便入五道，无有休息时。何谓五道？一道者，神上天为天神；二道者，神入骨肉形为人神；三道者，神入禽兽为禽兽神；四道者，神入薜荔，薜荔者，饿鬼名也；五道者，神入泥黎，泥黎者，地狱名也。神有罪过，入泥黎中考。如此五道，各有劫寿岁月，是以贤者学道，当晓知虚无自然。守虚无者得自然之道，不复上天也。常在世间变化，见死生，为世人师。守神者能练骨肉形为真人，属天官，当飞上天。此谓中自然也。守气者能含阴阳之气，以生毛羽，得飞仙道，名曰小自然。故神有广狭，知有浅深，明有大小。由是言之，学道赞诵圣文，寻逐明师，开解愚冥也。

夫守道之法，当熟读诸经，还自思惟我身。神本从道生，道者清静，都无所有，乃变为神明，便有光明，便生心意，出诸智慧。智慧者，谓五欲六情。五欲者，谓耳欲声，便迷塞不能止；目欲色，便淫乱发狂；鼻欲香，便散其精神；口欲味，便受罪入网罗；心欲爱憎，便偏邪失正平，凡此五欲，为惑乱覆盖。六情者，谓形识知痛痒，欲得细滑；耳闻声，心乐之；目见色，心欲之；鼻闻香，心逐臭；口得味，心便喜；身得细滑衣被，心便利之；得所爱，心便悦之。坐此六情以丧，故复名六情丧人。神但坐此六情所牵引，迷乱淫邪，垢浊暗蔽，使神明不畅达。便有肉人不能识别，听视不聪明，情志闭塞，皆

坐此五欲六情之所惑乱受罪，展转入五道死生，无有休息时。以是故当熟自思此意，其神本自清静，无此情欲；但思念此意，诸欲便自然断止，断止便得垢浊尽索，垢浊尽索便为清静，便明见道，与道合，便能听视无方，变化无常。人若复不解此意，且听吾说。譬如此类若镜。其师本作镜时，极令清明。至于人买镜持归，不肯护之，至使令冥无所光照，乃复令摩镜，师以药摩之，乃复正明，以明能见人形影。人神亦如此。神本从道生，道者清静，故神本自清静。而使以情欲迷惑，陷于暗冥。其镜冥者，药摩之便明。人神以欲自蔽冥者，亦当以经法自摩，诸欲乃得自然断止而复清静，乃有所见。又若天新雨之水，皆扰浊。若收此水置一器中，初时水尚浑浊，无所照见；久久稍自澄清便明，明便可于其中照见形影。人神以诸欲乱时如此浊水。人能断此情欲者，如澄清水。诸欲断，便自然清静澄明，明便为得道。当晓知其本者，诸欲便自然断。其余外道，不晓知其本清静，而反常相教断情欲。夫情欲，非有形质也，来化无时，不效有形之物，可得断截，使不复生。此神情欲思想，出生无时，不可见知，不可预防遏，不得断截。不效悬悬之绪可得寄绝；不效草木可得破碎；不效光明可得障蔽；不效水泉可得壅遏。故神无形，呼吸之间，丹炁不万封，以是故不可得断绝。但晓知其本，清静无欲，自然断止。而不晓知其本强欲自断情欲，终不能断绝之。譬如断树木使不生，当掘出其根本，根本已出，便不复生，痴人不晓之，而但齐地斫之，其根续生如故。人不晓情欲之本，而强断绝其末，如此情欲绝不断也，会复生如故。外道家不晓，人神本清静，而反入室强塞耳目断情欲，不知情欲本在于心意。心意者，神也。神无形，往来无时；情欲从念中生出，生出无时。以无形故不得断绝。但当晓知其本，自当断止其意，不复生。为道当熟明此意。若不明知

此，但自劳伤其精神耳。夫为道既知此情欲，当复解知道德经行之法。夫道者，谓道路也。经者，谓径路也。行者，谓行步也。德者，谓为善之功德也。法者，谓有成道经，可修读而得道也。谓有成道路之径可随而行之。夫有德之人，念施行诸善。行者谓举足从径行，乃得大道。此欲贤者因经法思念十善，施行功德，功德已行为得道。譬如举足，因成之径，行步以前，当得大道。假令人坚坐在家，殊不行步，何时得道？贤者若不思经法，施行功德，何能得道乎？人为道，但守一不移，而不作功德，譬若人生在家，未尝出入，不能见道路也。愚者虽守道，不作功德，亦不能得道也。故老君作《道经》，复作《德经》，使忠信者奉行之。假令但守道便可得遂，圣人但作一言之诀，何须并作诸经云耶？

夫道，得三乃成，故言三合成德。自不满三，诸事不成。夫三者，谓道、德、人也。人为一，当行功德；功德为二，功德行乃为道；道为三。如此人入道德，三事合乃可得。若有人但作功德，不晓道，而无功德亦不得道也。若但有道德而无人，人亦不得道也。譬若种谷，投种土中，不得水润，何能生乎？譬若酿酒，有曲有米而无水，何犹成酒乎？譬若有君臣而无民，当何宰牧乎？譬若有火有水而无谷食，人当何以自活乎？譬若有车有马而无人御之，何能自随行乎？如此譬喻，皆得三乃能成道。

夫道者有三三一。为三一：为三皇，为三神，为三太一。三太一：谓上太一，中太一。下太一。为三元，其三元各自有三三一。如此三三之一为九一，故有九宫。从一始到九终，九阳气从十月冬至始生黄泉之下，到新年六月更终。从十月到六月合为九月，阳气便终，故阳数九，故言九天，子午亦数。为道当知此九一之变化，始终之上下。

夫人形体为一，神为二，气为三；此三三一乃成人。又神为一，气为二，精为三；此三三一乃复成神。又天为一，地为二，人为三；此三三一乃复成道德。天地之本三一者，谓虚为一，虚中有自然，已立身也，亦道君、亦元阳子丹也、亦贵人也、亦神人也；其左方之一者，亦天也、亦日也、亦父也、亦阳也、亦得也、亦师也、亦魂也，为人主作政也；其右方之一者，亦地也、亦月也、亦母也、亦阴也、亦形也、亦司命鬼，为邪为魔，主为人作邪恶。贤者当晓了此三三一，分别善恶邪正。觉知此者，便能得道。

夫道当晓知此左右之一，善恶之教。中央之一正自我身。神者，即道子也。左右之一辅相我为善恶。左方之一，日月关告我为善，其功德日日盛强，我便为正道，右方之一不能复持邪事反戾我也，不能使我为恶也。右方之一，日日教告我为恶事，牵引我恶日日深大，便系属邪。右方之一此为属邪，日与恶通。贤者为道，但晓知其道而不作功德，便当属邪，不能自出于邪部界，邪则日日迷乱，入便暗冥，怒作妄语，邪精、邪鬼神日来附近人。贤者不晓此邪而强为静，闭塞耳目欲断情欲，此诸邪鬼便奸乱人。又为人造作邪念，前念适灭，后念复起，如此之间，无有解己。若有功德之人，至于静时便为左方之一，不能持邪事来干乱人也。以是言之，无功德之人而强为静，欲断情欲，则终为邪所乱，情欲不得定也。

夫自然有三法。守太虚无，谓高学功德之人，解道根元，深洞微妙。晓知三元九一之变化、玄中之玄始祖、无中之无极道，知其所始，见其所终。天地人物，皆各有形。物既有形，故有成败死生。精神无形，展转变化，故无止，故曰常在。不惑世所闻，不迷世所知，能知之明，览虚无之自然，故澹泊无忧喜，情欲不能倾。所以者何？此人但晓解其本，故不惑其末，

但为与人并有内形耳，智慧无穷极，此乃为虚无也。亦从学而知之，非有素自然也。其静守道时，当少食，正闭耳目，还神光明著绛宫，绝去诸念，不得强有所视思想也。久久，喘息稍微，从是以往，不复自觉喘息，泊然不自知有身无身。从是以往，为得定道之门。道者，虚也。当尔之时，神在天上虚无中，左顾右视，但皓然正白，中无所见。有状如雨雪时，四向树亦白、山亦白、地亦白、一切都白，皆无所见。所以者何？神出天上，前向视不复见日月星宿、山川河海，如此为复命返道，还入虚无也。若得是当下视，乃见天下诸事，便当回心念师言，为道当济度天下，但见是念，故便止前所见，白更冥，神便来还形中。不如此者，神便入道中，散形与道合，便为天下骨肉形，便踉蹌，故老君曰：知白守黑，为天下式。见白者为见空。守黑者，发心下视，念天下以有之故，便冥，是谓守黑。为天下式，谓神还形中，长在天下，为人道师，是谓大虚无之自然也。

夫守中自然之法，不能晓知天地人物所从出，不能知道之根源变化所由，缘不能及，不能知虚空之事。其所见闻，心便疑惑怪之，且迥然不知道独坐无，能生于自然。直受师言，告身中道云，言当守神者，亦当除情欲，闭塞耳目，还神绛宫。下视昆仑山，或有教令，将神升昆仑山，视其上，想见中黄道君。始时想见，久而见之，久久悉见。诸神与神语言，讲说天上事，无复有世俗之念。身中骨、脑、血，日变成万神盛强，共举身而上天受篆署，不得下在人间。此谓真人道也。名曰中虚无之自然也。

夫守小虚无自然之法，亦当除去情欲，闭塞耳目，还神绛宫，下视昆仑山，和合天地、日月、阴阳、雌雄、魂魄之精气，以养真人。以吾身阴阳气凝，精骨润光，便生毛羽，飞上五山。

时有奉使按行民间，亦不得久止也。此谓小虚无自然也。

夫从此大虚无、中虚无、小虚无以下，便有为之法，不及虚无也。

夫有为者，谓历藏导引，动作诸气，飞丹合药，吞符跪拜，带印禁忌，随日时王相醮祭名号精灵，使人解占候，此谓有为，不能知道何所谓也。亦有得仙，亦有住年，亦有得尸解，从此已下，便为鬼道，非得长生也。

夫得大虚无自然之道者，不属天，但属道君耳。便能散形与道合，能变化，听视无方，所在作为。欲得此道者，当行道教化，作功德，奉行经诫，平等其心，无所贪著，无亲无疏，一心等之，如天如地，不得杀生。所以者何？夫蛸飞蠕动之类，道皆形之大虚无象。有晓道而杀生者为害道，是以禁之。其守中自然者，为守中神，尚颇有杀生。所以者何？神有虚无，所以有虚形，故有食，有杀生祀祭。道无有，故无祭祀，不杀生。

夫得道者，但能已得。夫人耳目，听有声之声，见有形之形，不能听视无形无声也。所以者何？神赤。赤者阳，阳者离，离为日，为目，但能见前，不能见后，亦不能见头上。日者天目也，但能照天内，不能照天外也，亦不能照覆冥之中。是以得神道上天者，但能以天耳。夫道耳目所听视，无前无后，无覆冥，无障蔽，洞彻见无数天下事，能听无声之声，能见无形之形。夫作仙道者，当故持天耳目听视，乃能有所见。假令不故持天耳目听视，但独见目前事。所以者何？仙人持骨肉去故。

夫欲知神何以养象，神赤但有光，以光为虚形。譬若镜中、水中所见景，是为无所有。其所治止，常在天上，为生君，其寿有劫数，终不得在人间也。其天上寿续尽，当复入五道，更形生死如故耳。或时寿尽，取道便灭矣。

夫真人者，有形景，属天为吏，寿岁有万数。治天上，时

时有奉使人间。天上寿尽，便或上补神人，则不入五道中，受形生死矣。

夫守太虚无得自然之道，住身天上，劫有千数。寿尽，变化灭，神亦尽，神续入五道中，受形生死。如故天神都无死生也，但展转在五道耳。唯有昧兆常知智神，譬如火灭，无所复有，故取道。夫为道所已神有灭尽者何？此皆道人为不晓知道本空静，专心守空便著空，使人空灭尽。

夫守神之人不能知晓道本空静，但自信有不信无，以故自守神为守有，为著不还道何？以故神展转入五道中，无有灭尽时。唯有善譬，最为功觉。有晓了知道本空静，亦不守有，亦不守无，亦不念实，亦不念空。遍在三界中间，有慈悲之心，欲度脱勤苦者，不肯入空取道，因是乃有功德，便自然之道，无有寿也。亦不复入五道生死，亦不灭尽常在，久后功满，常补道君。贤者为道，当熟解此意，当知优劣，各有所致到。贤者学道，若知枝末，自谓深足，不肯复讲问穷究渊深，是不知道乃各自自用，有所致到，深浅微妙不齐等。闻仙便呼得道。贤者学道，譬若上山下视。言独是高径，住上至顶，乃复前有高处；住上高顶，直复见前有高高处。学道亦如此，从小师学道，得至中师，见大师乃知道根元。以是言之，学不可呼为足也。当努力求明师为道切，若言尔等何不取大道乎？而于小道止，是暗冥浅近哉！

夫贤者学道，不广闻深见，更阅众师者，此人学不足言也。夫日月不高，所照不远；江海不广，不能容纳。出名宝学之人，譬若陂中鱼，游到池四塞之下，自谓穷尽天下之水，终日终夜不能学大水之鱼，交会语言，不知外乃有江、湖、淮、济、河、海、恒、溺之水也。譬若深山中有痴人，从生至老不行出入，无所见闻，安知外方人士之学问、尊卑差序、车马衣服、鲜绮

甘香乎？譬若学经书之人，但闻天下九州共一天子，云言四边但有夷狄，以谓天地界际极尽于此，安能知其外复何等有乎？学道亦如此。从师受道，以谓尽于此，安能如学道修行，书不能记载也？

夫学仙道，自谓为足，定得飞仙上天，乃自知道不及真人也。学真人道，亦自谓为足，定得真人，乃自知道不及神人也。学神人道，亦自谓为足，定得神人，乃自知不及大道也。学既得，大道之中当复有尊卑者，谓知不等也。是以言之学，学无有极，天下神尚后行从君学道，何况内政灭神，光明变化各有所主，有所入，各有所致。

夫为太虚无之道，得无象无声教。无思想，都无识念之欲。守时亦法教，道不得取景梦候效也。或时神相见，尚不得与神共语言，所以者何？或有邪神来试人，此处无象，自然求道不求神也。略小取大，故可得自然。故老君曰：有光而不曜。谓欲养其光明至于彻视，不欲小电曜光，精独与一神相见也。如此不能悉见天下之事矣。

卷十一 三洞经教部·经二

上清黄庭内景经

梁丘子注释叙

夫万法以人为主，人则以心为宗。无主则法不生，无心则身不立。心法多门，取用非一。有无二体，随事应机，故有凡圣、浅深、愚智、真假，莫匪心神辩识运用之所由也。但天下之道，殊途而同归，百虑而一致。从粗入妙，权实则有二阶；吻迹符真，是非同乎一见。《黄庭内景经》者，东华之所秘也，诚学仙之要妙，羽化之根本。余褻习未周，而观想粗得，裁灵万品，模拟一形；义有四宗，会明七字；指事象谕，内外两言。绌聪隳体之余，任嘘从咽之暇，舐笔磨墨，辄贻原筮。

务成子注叙

扶桑大帝君命暘谷神仙王传魏夫人（暘谷神王，当是大帝之臣。授此经之时，与青童君俱来。夫人初在修武县中也）。

《黄庭内景》者（脾为黄庭命门。明堂中部，老君居之，所以云“黄庭内人服锦衣也”。自脐后三寸，皆号黄庭命门，

故下一云命门中有黄庭元王玄阙大君。又云坐当命门。犹如头中亦呼为泥丸洞房中也。此《经》以虚无为主，故用黄庭标之耳。其景者，神也。其《经》有十三神，皆身中之内景名字。又别有《老君外景经》。总真云：黄庭内外。涓子云：《黄庭内经》、《外经》者，皆是也。此神名与八景不同。又递述有无者，盖所施用处异也。名服既殊，源本亦别。太极太微者，品号域也），一名《太上琴心文》（琴，和也。诵之可以和六腑、宁心神，使得神仙。此十七字，本经所注也），一名《大帝金书》（扶桑大帝君宫中昼诵此经。以金简刻书之，故曰金书。此二十一字，本经所注也），一名《东华玉篇》（东华者，方诸宫名也，东海青童君所居也。其中玉女、仙人皆诵咏之。刻玉书之为玉篇。此三十三字，本经所注。夫此二宫之神仙犹诵之者，非复以辟邪，正谓和神耳。但诵万遍毕，当得洞经。不信此义，亦为一滞也）。

当清斋九十日，诵之万遍（此谓先斋九十日，乃就诵之。非九十日斋令诵得万遍也。诵日数无定限，若专此一法，日夜自可二十遍。若兼以余事者，乘闲正可四五遍耳。计得十遍，亦可依法礼拜。若遍限既毕，未能通感者，但更精心诵之，勿便止也）。使调和三魂，制炼七魄；除去三尸，安和六腑；五脏生华，色反孩童；百病不能伤，灾祸不得干。万过既毕，自然洞观鬼神，内视肠胃，得见五脏。其时当有黄庭真人中华玉女，教子神仙焉。此不死之道也（临目外观，则鬼神摛形，接手内视，则脏腑洞别，乃得表里无隔，栖真降灵，然后禀受玄教，施行妙诀也。既曰不死，则天地长存，复何索乎）。子有仙相，得吾此书（吾者，应是暘谷神王自称也）。此文罗列一形之神室，处胎神之所在耳（于形中诸神，乃不都尽，而目其室宅，亦备穷委密矣。胎神即明堂三老君，所谓胎灵大神也。

此最为黄庭之本)。恒诵咏之者，则神室明正，胎真安宁，灵液流通，百关朗清，骨髓充溢，肠胃虚盈（无复滓秽为虚，津液常满为盈。所谓六气盈满，神明灵也）。五脏结华，耳目聪明；朽齿白发，还黑更生。所以却邪痼之纷若者，谓我已得魂精六纬之姓名也（纷若者，犹乱杂也。今五脏并胆，是为六纬，并神魂之精爽矣）。形充魂精而曰欲死，不可得也。故曰内景黄庭为不死之道（人之死也，常在形神相离。今形既恒充，则神栖而逸；神既常宁，则形全无毁。两者相守，死何由萌？虽曰欲逝，其可得乎？此道乃未能控景登虚，高宴上清，而既无死患，形固神洁，内彻身灵，外降英圣，隐芝大洞，于是而至，端坐招真，不俟游涉，筌蹄之妙，岂得逾此）。受者斋九日，或七日，或三日，然后受之。授者为师，受者奉焉（此师及弟子俱应结斋。斋日多少，随其身事。若履涉世尘，宜须积日自洁。其山居清整者，三日便足也）。结盟立誓，期以勿泄。古有盟用玄云之锦九十尺，金简凤文之罗四十尺，金钮九双，以代割发歃血勿泄之约。此物是神乡之奇帛，非赤县之所有也。今锦可用白绢，罗可用青布，钮可用金钗，亦足以誓信九天，制告三官矣（诸经中信用金龙、玉鱼之例，多是宝贵，非寒栖能办，故许听以世中易得物比之。今罗、锦异类，事绝人工，理宜准代。犹应选极精洁者。绢九丈，当使连织。钗小细于钮，以上金九分作九双，于丰俭为适）。皆奉有经之师，散之寒栖。违盟负约，七祖受考于暘谷河源，身为下鬼，考于风刀（暘谷神仙王口诀。此七字本经中所注）。一人受书，得传九人（诸经多云七百年传三人，此非世上之格。今此虽限人数，不制年期，当是止就一生之身为言也）。

审视形气，必慈仁忠信、耽玄注真、不毁真正、敬乐神仙者，乃可示耳。自非其才，是为漏泄。谨量可授，亦诚难也（

人虽不可常保，或始勤而未怠，初善而后恶。但本性既能慈仁惠信，耽玄乐仙，应当无复为过咎矣。此六德则未可全亲，故后云宁慎密之）。

又当先求感应，推讯虚灵者乃佳也。审可传者，亦将得梦以告悟。临时之宜，亦玄解于心矣。宣泄之科既重，传之者良为嶮巇。有《黄庭内经》之子，宁慎密之（清虚真人口诀，夫《内景黄庭经》者，扶桑太帝君之金书，炼真秘言矣。二十六字本经所注。案此二篇，是说传授科格，非扶桑东华金书玉字本文，止是二匠授南真时口诀，故并题注言之也）。读《黄庭内景经》者，常在别室烧香洁净，乃执之也（凡欲读此经，皆当如此。施高座东向、烧香、沐浴、束带，舒经于案格之上，微其音响，吟讽斫咏，无使辍误。辍误之时，当依消摩法，重却前三十字更读也。记其遍数十过，则应起拜）。诸有此经，能辟百邪。若入山林空暗之地，心中震怖者，正心向北读《内经》一过，即神静意平，如与千人同旅而止（邪却则神安，故无复疑惧之患）。能读之万过，自见五脏肠胃，又见天下鬼神，役使在己（内视既朗，则外鉴亦彻。玉女尚来降授，鬼神何足役使也）。若困病者，心存读之，垂死亦愈（不能执书，故心存读之。若不堪首尾周遍，但取神名处诵之。涓子云，灵元是脾神，长四寸，坐脾上，如婴儿，著黄衣，位为中部明堂老君。若体中有疾，及饥饱不和适之时，但存中部老君之服色，便仿佛在脾。三呼其名毕，咽液七过，万病如愿也。此即经中所云“三呼我名，神自通”者也）。

大都通忌食六畜及鱼臊肉（六畜，牛、马、猪、羊、鸡、犬也。鱼臊，当谓生臊耳，故为禁也）。忌五辛（生葱、蒜、薤、韭、胡荽也）淹滯之事（世间所可为淹秽事者，皆宜避之，不复曲辩之也）。

若脱履淹漉之者，沐浴盥漱，烧香于左，读经一过，百疴除也（其余饮食所忌，学者本不待言。若脱遇淹秽，则可以桃竹而解之，烧香于左，以阳消阴。若不如此，则当致故气，百疴难除矣。按《经》后云“入室东向读玉篇”，而《序》云“北向读《内景经》一过”者，此谓却邪折恶时，与和神召灵时异也。今若依法恒读，自可依前所注东向之事也。又小君言山世远受孟先生法，暮卧先读《黄庭内景经》一遍乃眠，使人魂魄自制，但行此二十一年亦仙矣。是为合万过也。夕得三四过乃佳。北岳蒋夫人云读此经，亦使人无病，是不死之道也。如此暮临卧，每烧香东向，于寝床而诵之，旦夕一过者，至二十七年，正得万遍耳。今云二十一年，或是字误。若不尔，则夕不恒一过也。故复云夕三四过乃佳。计此十遍毕，亦可礼。所以云万过，亦是取其限义也。读不患数，患人不能勤耳）。

释题

黄庭内景（黄者，中央之色也。庭者，四方之中也。外指事，即天中、人中、地中；内指事，即脑中、心中、脾中。故曰黄庭内者，心也。景者，象也。外象谕，即日月、星辰、云霞之象；内象谕，即血肉、筋骨、藏府之象也。心居身内，存观一体之象色，故曰内景也）。

诵黄庭经诀

入室诵《黄庭内景玉经》，当烧香，清斋，身冠法服，入户北向四拜，长跪，叩齿二十四通，启曰：上启高上万真玉晨太上大道君，臣今当入室，诵咏玉经，炼神保脏；乞胃宫荣华，身得乘虚，上拜帝庭。毕，次东向揖四太帝，又叩齿十二通，启曰：上启扶桑太帝暘谷神王，臣某甲今入室披咏玉经，乞使静室神芝自生，玉华宝辉，三光洞明，万遍胎仙，得同帝灵。咒毕，东向诵经十遍为一过，便还北向四拜，东向四揖，不须复启。

上清章第一

上清紫霞虚皇前，太上大道玉晨君（上清者，三清名也。虚皇者，紫清太素高虚洞曜三元道君内号也。太上即高圣太真玉晨玄皇大道君也。理在上清协晨观蕊珠之房，紫霞焕落，瑞气交映也），闲居蕊珠作七言（蕊珠，上清境宫阙名也。述作此经，皆以七言为句也），散化五形变万神（散化形体，变通万神，明此经秘妙矣），是为黄庭曰内篇（真言叹美，又曰内篇也），琴心三叠僊胎仙（琴，和也。三叠，三丹田，谓与诸宫重叠也。胎仙即胎灵大神，亦曰胎真，居明堂中，所谓三老君为黄庭之主，以其心和则神悦，故僊胎仙也），九气映明出霄间（九天之气入于人鼻，周流脑宫，映明上达，故曰出霄间。《九天生神经》曰：三元育养，九气结形），神盖童子生紫烟（神盖谓眉也。童子，目神也。紫烟即目光气也），是曰《玉书》可精研，咏之万过升三天（此经亦曰玉书，谓精心研虑，诵满万遍即自升天矣。三天者，太清、上清、玉清也），千灾以消百病痊，不惮虎狼之凶残，亦以却老年永延（真经尊重，持

诵蒙恩，灾病自除，虎狼不犯，衰年转少，寿命延长。《道经》曰：摄生者，毒虫猛兽不搏也。此一章初说经之旨也。此经盖是太上弟子所撰记耳。犹如《孝经》、《礼记》，称孔子闲居也）。

上有章第二

上有魂灵下关元（魂，魂魄也。灵，胎灵也。魂在肝，魄在肺，胎灵在脾。关元，脐也。脐为受命之宫，则魂魄在上，关元居下），左为少阳右太阴（少阳，左目也。太阴，右目也），后有密户前生门（密户，肾也。肾为藏精宫，当密守之，使不躁泄。生门，命门也），出日入月呼吸存（谓常存日月于两目，使光与身合，则通真矣。《九真中经》曰：夜半生气，或鸡鸣时正坐闭气，存左目出日，右目出月，两耳之上为六合高窗，令日月使照一身，内彻泥丸，下照五脏肠胃之中，了了洞见。内彻外合，一身与日月光共合。良久，叩齿九通，咽液九过，微祝曰：太上玄一，九皇吐精，三五七变，洞观窈冥。日月垂光，下彻神庭，使照六合，太一黄宁。帝君命简，金书不倾。五老奉符，天地同诚。使我不死，以致真灵，却遏万邪，祸害咸平。上朝天皇，还老返婴，太帝有制，百神敬听），四气所合列宿分（四气，四时灵气也。列宿，三景也。谓常存元气合于身，兼思日月斗星分明焕照，久则通灵），紫烟上下三素云（三素者，紫素、白素、黄素也。常存三元妙气上下在身，则形神通感），灌溉五华植灵根（五华者，五方之英华，即气也。灵根，舌本也。谓漱咽津液，兼吸引五气而服之，则灵根永存，神府清畅），七液洞流冲牖间（牖间，两眉间，谓额也。七液者，谓四气三元结成灵液，流润脏腑，气冲脑盛也），回

紫抱黄入丹田（丹田，上丹田。在两眉间却入三寸之宫，即上元真一所居也。紫、黄者，三元灵气也），幽室内明照阳门（幽室，肾也。阳门，命门也。谓存念肾脏，令其内明；专气保精，无使泄散；朗照内外，兼守命门也。此一章先说黄庭宫府所在，气液周流，上下相通），

口为章第三

口为玉池太和宫（口中津液为玉液，一名醴泉，亦名玉浆。贮水为池，百节调柔，五脏和适，皆以口为官主也。一本有作“太和宫”，于文韵不便也。《大洞经》云：心存胃口有一女子，婴儿形，无衣服，正立胃管，张口承注魂液，仰吸五气。当即漱漏口中内外津液，满口咽之，遣直入玄女口中，五过毕，叩齿三通，微咒曰：玉清高上九天九灵，化液在玄，下入胃清，金和玉映，心开神明，服食日精，金华充盈），漱咽灵液灾不干（灵液真气，邪不干正），体生光华气香兰（不食五谷，无秽滓也），却灭百邪玉炼颜（肌肤若冰雪，绰约若处子），审能修之登广寒（广寒，北方仙宫之名，又云山名，亦曰广霞。《洞真经》云：冬至之日，月伏于广寒之宫，其时育养月魄于广寒之池。天人采青华之林条，以拂月光也），昼夜不寐乃成真（勤修静定，则为真人），雷鸣电激神泯泯（泯泯，取平声读。调神理气，魂魄恬愉，虽遇震雷，而不惊惧。又曰，雷鸣电激，为叩齿存思，乃是神用，不得言泯泯）。

黄庭章第四

黄庭内人服锦衣（黄庭内人谓道母，黄庭真人谓道父，人

身备有之。锦衣，具五色也。即谓五脏之真气也。三庭之中备有之），紫华飞裙云气罗（《十方经》云：高上玉皇衣文明飞云之裙，即神仙之所服也），丹青绿条翠灵柯（五色，杂气共生。枝条，仙衣之饰），七蕤玉龠闭两扉（外象谕也。七窍开阖以谕关龠，用之以道，不妄开也。蕤，龠之饰。存神必闭目，故名曰闭两扉也），重扇金关密枢机（金，取坚刚也。故《经》云：善闭者，无关键而不可开。言养生者善守精神，不妄泄也），玄泉幽关高崔巍（玄泉，口中之液也，一曰玉泉，一名醴泉，一名玉液，一名玉津，一名玉浆。两眉间为阙庭，两肾间为幽关。如门之左右象魏，中间阙然为道。肾在身中，故曰幽阙也。据肾在诸脏之下，而云高者，形状存神即在丹田之上，故言高也），三田之中精气微（内指事也。丹田之中神气变化，感应从心，非有无不可为象也。从粗入妙，必有其系，故以气言之。气以心为主，因主立象，至精至微，不可数求也。《道机经》云：天有三光日、月、星，人有三宝三丹田。三丹田中，气左青右黄，上白下黑也），娇女窈窕翳霄晖（《真诰》云：娇女，耳神名。言耳聪朗彻明，掩玄晖也），重堂焕焕明八威（重堂，喉咙名也，一曰重楼，亦曰重环。本经云“绛宫重楼十二级”，绛宫，心也。喉咙在心上，故曰重堂。喉咙者，津液之路，流通上下，滋荣一体，焕明八方。八卦之神曰八威也），天庭地关列斧斤（两眉间为天庭。紫微夫人祝曰：开通天庭，使我长生。列斧斤，言勇壮），灵台盘固永不衰（心为灵台。言有神灵君之，静则守一，动则存神，体安不衰竭矣）。

中池章第五

中池内神服赤珠（胆为中池。舌下为华池。小腹胞为玉池，

亦三池之通名。胆部曰“龙旂横天掷火铃”，赤珠者，火铃之服），丹锦云袍带虎符（丹锦云袍，心肺之色。在胆之上，故曰云袍符命也。《九真经》云：皇老君佩玄龙神虎符，带流金之铃。并道君之服也），横津三寸灵所居（内指事也。脐在胞上，故曰横津。脐下三寸为丹田，真人赤子之所居也），隐芝翳郁自相扶（谓男女之形体也。隐翳交合，自然之道。按《内外神芝诀》云：五脏之液为内芝。内芝则隐芝也。又云：隐，奥者也）。

天中章第六

天中之岳精谨修（天中之岳谓鼻也，一名天台。《消魔经》云：鼻欲数按其左右，令人气平，所谓溉灌中岳，名书帝录），云宅既清玉帝游（面为云宅，一名尺宅。以眉、目、鼻、口之所居，故为宅也。修之清通，则神仙矣。《洞神经》曰：面为尺宅，字或作“赤泽”），通利道路无终休（《太素丹景经》曰：一面之上，常欲两手摩拭之，高下随形，不休息，则通利耳目鼻口之气脉），眉号华盖覆明珠（明珠，目也），九幽日月洞空无（《五辰行事诀》云：眉上直入一寸为玉瑯紫阙，左日右月。又《玉历经》云：太清上有五色华盖九重，人身亦有之。当存目童如日月之明也），宅中有真常衣丹（真谓心神，即赤城童子也，亦名真人，亦名赤子，亦名子丹。心存见之，常在目前，与心相应。衣丹，象心气赤色也），审能见之无疾患（元阳子曰：常存心神，则无病也），赤珠灵裙华茜粲（玄膺之象也。外谕也），舌下玄膺生死岸（内指事也。玄膺者，通津液之岸也。本经云：“玄膺气管受津府。”），出青入玄二气焕，子若遇之升天汉（谓吐纳阴阳二气，焕然著明也。人

能善遇吐纳之理，则成天仙矣）。

至道章第七

至道不烦决存真（专心则至），泥丸百节皆有神（神者，妙万物而为言。因象立名，则如下说），发神苍华字太元（白与黑谓之苍。最居首上，故曰太元），脑神精根字泥丸（丹田之宫，黄庭之舍；洞房之主，阴阳之根。泥丸，脑之象也），眼神明上字英玄（目谕日月，在首之上，故曰明上。英玄，童子之精色，内指事也），鼻神玉垄字灵坚（阴垄之骨，象玉也。神气通天，出入不竭，故曰灵坚），耳神空闲字幽田（空闲幽静，听物则审，神之所居，故曰田也），舌神通命字正伦（咽液以舌，性命得通；正其五味，各有伦理），齿神嵒锋字罗千（牙齿坚利如剑嵒刀锋，摧罗众物而食之也），一面之神宗泥丸（脑中丹田，百神之主），泥丸九真皆有房（《大洞经》云：三元隐化，则成三宫；三三如九，故有三丹田，又有三洞房，合上元为九宫，中有九真神。三九二十七，神气相合，人当存见之。亦谓天皇九魄变成九气，化为九神，各居一洞房），方圆一寸处此中（房有一寸，故脑有九宫），同服紫衣飞罗裳（九真之服，皆象气色。飞，犹轻也），但思一部寿无穷（存思九真不死之道也），非各别住俱脑中（丹田之中，众神所居），列位次坐向外方（神绕丹田而外其面以扞不祥。《八素经》云：真有九品，向外列位，则当上真上向，高真南向，太真东向，神真西向，玄真北向，仙真东北向，天真东南向，灵真西南向，至真西北向，天真者不视而明，不听而聪，不言而正，不行而从），所存在心自相当（心存玄真，内外相应）。

心神章第八

心神丹元字守灵（内象谕也。心为脏府之元，南方火色。栖神之宅，故言守灵也），肺神皓华字虚成（肺为心之华盖。皓，白也，西方金之色。肺色白，其质轻虚，故曰虚成也），肝神龙烟字含明（肝位木行，东方青龙之色也。于脏主目。日出东方，木生火，故曰含明），翳郁导烟主浊清（翳郁，木象也。得火而烟生，得阳而气生。清则目明，浊即目暗。有别本无此一句），肾神玄冥字育婴（肾属水，故曰玄冥。肾精为子，故曰育婴也），脾神常在字魂停（脾，中央土位也，故曰常在，即黄庭之宫也。脾磨食消，神康力壮，故曰魂停），胆神龙曜字威明（胆色青黄，故曰龙曜。主于勇捍，故曰威明。外取东方青龙，雷震之象也），六腑五脏神体精（资系一身，废一不可，故曰神体精。心、肝、肺、肾、脾为五脏。胆、胃、大肠、小肠、膀胱、三焦为六腑。所言府者，犹府邑之府，取中受物之义，故曰府也。脏者，各是一质，共藏于身，谓之脏也。言三焦者多矣，而未的言其所在。盖心、肝、肺三脏之上，系管之中为三焦。《中黄经》云：肺首为三焦，当指其所也。又据五方之色脾为黄，应为五脏之主，而今共以心为主者何也？答曰：心居藏中，其质虚受也。夫虚无者，神识之体，运用之源，故遍方而得其主，动用而获其神，不可以象数言，不可以物类取也），皆在心内运天经（五脏六腑，各有所司，皆有法象，同天地，顺阴阳，自然感摄之道，故内运天经也），昼夜存之自长生（依上五神服也，思存不舍，不死之道也。《仙经》曰：存五脏之气，变为五色云，常在顶上，覆荫一身。日居于前，月居于后，左青龙，右白虎，前朱雀，后玄武。即去邪长生之道也）。

肺部章第九

肺部之宫似华盖（金宫也。肺在五脏之上，四垂为宇也），下有童子坐玉阙（童子名皓华。肺形如盖，故以下言之。玉阙者，肾中白气，上与肺连也），七元之子主调气（元阳子曰：七元之君负甲持符，辟除凶邪而布气七窍，主耳目聪明。七元，七窍之元气也），外应中岳鼻齐位（中岳者，鼻也，又为脐也。脐为昆仑之山，鼻为七气之门，位犹主也），素锦衣裳黄云带（素锦衣裳，肺膜之色也。黄云带者，肺中之黄脉，蔓延罗络，有象云气），喘息呼吸体不快（有时而然），急存白元和六气（白元君主肺宫也。《大洞经》云：白元君者，居洞房之右是也），神仙久视无灾害（邪不干正），用之不已形不滞（常存此道，形气华荣，至诚感神之所致也）。

心部章第十

心部之宫莲含华（火宫也。心脏之质，象莲花之未开也），下有童子丹元家（心神丹元，字守灵，神在心内而云下者，据华盖而言），主适寒热荣卫和（寒热，阴阳静躁之义也。人当和适以荣卫其身。老子《经》云：躁胜寒，静胜热。清静以为天下正），丹锦飞裳披玉罗（象心脏之色也。有肺之白气象玉罗），金铃朱带坐娑娑（金铃，肉蕊之象。朱带，血脉之象。坐娑娑者，言神之安静也。《九真经》云：黄老君带流金之铃，仙服也），调血理命身不枯（心安体和，则无病矣），外应口舌吐五华（心主口舌吐纳五脏之液，辨识五行之味，故言外应），临绝呼之亦登苏（人有病厄，当存丹元童子朱衣赤冠以救护

之也），久久行之飞太霞（常行此道，能获飞仙）。

肝部章第十一

肝部之中翠重裹（木宫也。肝色苍翠，大小相重之象也），下有青童神公子（肝，东方木位，主青，故曰青童。左位为公子。公子一名含明。上有华盖，故曰下），主诸关镜聪明始（于时主春，青阳之本始；于窍主目，五行之关镜，故曰聪明之始），青锦披裳佩玉铃（青锦，肝之色。玉铃，白脉垂之象也。《升玄经》云：三天玉帝，带火玉之珮。《素灵经》云：灵耀君衣青锦单裳。皆神仙之服也），和制魂魄津液平（内指事也。东春和煦，万物生成），外应眼目日月清（肝位属眼，象日月明），百疴所钟存无英（左为无英，肝神在左，故存之。一本为无英。无英者，物生之象也），同用七日自充盈（五脏兼在，故言同用。七日为一竟。一竟，一复也。故《周易》曰“七日来复”是也），垂绝念神死复生（存念青衣童子，形如上说），摄魂还魄永无倾（《太微灵书》云：每月三日、十三日、二十三日夕，三魂弃身游外，摄之者当仰眠，去枕，伸足，交手心，瞑目，闭气三息，叩齿三通，存心中有赤如鸡子，从内出于咽中。赤气转大，覆身；变成火以烧身，使匝。觉体中小热，呼三魂名曰：夹灵、胎光、幽精。即微咒曰：太微玄宫，中黄始青。内炼三魂，胎光安宁。神宝玉室，与我俱生。不得妄动，鉴者太灵。若欲飞行，唯诣上清。若有饥渴，得饮玄水玉精。又每月朔、望、晦日，七魄流荡，交通鬼魅。制捡还魄之法，当此夕仰眠，伸足，掌心掩两耳，令指相接于项上，闭息七遍，叩齿七通，心存鼻端白气如小豆大，须臾渐大，冠身上下九重。气忽变成两青龙，在两目中；两白虎在两鼻孔中，皆向外；朱

鸟在心，上向人口；苍龟在左足下，灵蛇在右足下。两玉女著锦衣，手把火光，当两耳门。毕，咽液七过，呼七魄名曰：尸苟、伏矢、雀阴、吞贼、非毒、除秽、臭肺。即微咒曰：素气九回，制魄邪奸。天兽守门，娇女执关。炼魄和柔，与我相安。不得妄动，看察形源。若有饥渴，听饮月黄日丹）。

肾部章第十二

肾部之宫玄阙圆（水宫也。玄阙圆者，肾之形状也。玄，水色。内象谕也），中有童子冥上玄（肾为下玄，其神玄冥，字育婴。心为上玄。上玄幽远，气与肾连，故言冥上玄），主诸六腑九液源（五脏六腑，九液交连，百脉通流，废一不可。六腑如上说。九液，九窍之津液），外应两耳百液津（肾宫主耳，气衰则聋。阴阳和合，血液流通），苍锦云衣舞龙幡（苍锦，肾色之象也。云衣，肾膜之象也。龙幡，青脉之象也。《九真经》云：道君服青锦衣、苍华之裙也），上致明霞日月烟（肾气充足，耳目聪明，阴阳不衰。外象谕也），百病千灾急当存（元阳子曰：寒暑相生，男女相形。肾中二神常衣青，左男戴日，右女戴月，存想见之，则充无灾患者也）。两部水王对生门（肾脏双对，故曰两部。肾宫水王，则化为赤子，故曰对生门），使人长生升九天（赤子化为真人而升九天者，谓九气青天，其气主生者也）。

脾部章第十三

脾部之宫属戊己（土宫也。戊己，中央之辰也），中有明童黄裳里（明童谓魂停。黄裳，土之色），消谷散气摄牙齿（

脾为五脏之枢。脾磨食消，性气乃全。齿为罗干，故摄牙齿），是为太仓两明童（太仓，肚府。此明童谓肚神，神名混康），坐在金台城九重（注念存思，神状当然），方圆一寸命门中（即黄庭之中，丹田之所也），主调百谷五味香（口中滋味，脾磨之所致也），辟却虚羸无病伤（内指事也。食消故也），外应尺宅气色芳（尺宅，面也。饥饱虚羸，形乎面色。）光华所生以表明（亦知虚实），黄锦玉衣带虎章（脾主中黄，谓黄庭真人服锦衣也。《玉清隐书》云：太上道君佩神虎大章也），注念三老子轻翔（三老谓元老、玄老、黄老之君也。念脾中真人自然变化。子谓受黄庭之学），长生高仙远死殃（《庄子》曰：方生方死，方死方生；方可方不可，方不可方可。以此而谈，其理均也。故长生者不死，寂灭者不生。不死不生，则真长生；不生不死，则真寂灭。何死殃之所及也）。

胆部章第十四

胆部之宫六腑精（胆、胃、大肠、小肠、膀胱、三焦，为六腑也。《太平经》云：积清成精。故胆为六腑之精也），中有童子曜威明（又云胆神龙曜，字威明。勇捍之义也），雷电八振扬玉旌（八方雷震，有威怒之象也。玉旌，则气之色也），龙旂横天掷火铃（胆，青龙之色。旂旗，威战之具也。火铃者，胆边肉珠之象也。怒则奋张，故言掷也），主诸气力摄虎兵（胆力牙用，主于捍难，故摄虎兵），外应眼童鼻柱间（内指事也。心之喜怒，形于眉目之间），脑发相扶亦俱鲜（人之震怒，发上冲冠），九色锦衣绿华裙（青锦，东方九气之色也。绿华裙，胆膜之象），佩金带玉龙虎文（胆神，威明之服饰也），能存威明乘庆云（内象谕也。思存胆神不倦，则仙道可致也），

役使万神朝三元（三元道君各处三清之上，诸天神仙并朝宗之故也）。

脾长章第十五

脾长一尺掩太仓（太仓，胃也。《中黄经》云：胃为太仓君。元阳子曰：脾正横在胃上也），中部老君治明堂（脾，黄庭之宫也，黄老君之所治。上应明堂，眉间入一寸是也），厥字灵元名混康（脾磨食消，内外相应。大肠为胃之子，混元而受纳之，康，安也），治人百病消谷粮（胃宫荣华则无病伤），黄衣紫带龙虎章（脾居胃上，故曰黄衣也。紫带龙虎章，胃络之象），长精益命赖君王（太仓混康，为君为王），三呼我名神自通（存思胃府之神，则心虚洞鉴也），三老同坐各有朋（上元老君居上黄庭宫，与泥丸君、苍华君、青城君及明堂中君臣、洞房中父母、及天庭真人等共为朋也。又中元老君居中黄庭宫，与赤城童子丹田君、皓华君、含明君、玄英君、丹元真人等为朋也。下黄老君居下黄庭宫，与太一君、魂停君、灵元君、太仓君、丹田真人等为朋也。常存三老和合，百神流通，部位营卫，无有差失也），或精或胎别执方（《玉历经》云：下丹田者，人命之根本，精神之所藏，五气之元也。在脐下三寸附著脊，号为赤子府。男子以藏精，女人以藏胎。主和合赤子阴阳之门户也。其丹田中气，左青右黄，上白下黑），桃孩合延生华芒（桃孩，阴阳神名，亦曰伯桃。《仙经》曰：命门脐宫中有大君，名桃孩，字合延。衣朱衣，巾紫芙蓉冠。暮卧存之，六甲、六丁来侍人也。生华芒，谓阴阳之气不衰也），男女偕九有桃康（男女合会，必存三丹田之法。桃康，下神名，主阴阳之事。偕三为九，故曰偕九。《大洞真经》云：三元隐

化，则成三宫。三宫中有九神，谓上、中、下三元君，太一、公子、白元、无英、司命、桃康，各有宫室，故曰桃康），道父道母对相望（阴阳两半成一，故曰相望），师父师母丹玄乡（道为宗师，阴阳之主也。丹玄乡，谓存丹田法也），可用存思登虚空（学仙之道），殊途一会归要终（合三以为一，散一以为三，道之要。《玄妙内篇》云：兆欲长生，三一当明），闭塞三关握固停（《经》云：“口为天关精神机，手为人关把盛衰，足为地关生命扉。又脐下三寸为关元，亦曰三关，言固精护气，不妄施泄），含漱金醴吞玉英（金醴、玉英，口中之津液。《大洞经》云：服玄根之法，心存胃口有一女子，婴儿形，无衣服，正立胃管，张口承注魂液，仰翕五气。当漱漏口中内外津液，满口咽之，遣入玄女口中。五过毕，叩齿三通，咽液九过也），遂至不饥三虫亡（《洞神诀》云：上虫白而青，中虫白而黄，下虫白而黑。人死则三虫出为尸鬼，各化为物，与形为殃，击之冲破也，其余众虫，皆随尸而亡。故学仙者精谨备于五情之气，服食药物以去三虫。又云：上尸彭踞，使人好滋味，嗜欲痴滞；中尸彭质，使人贪财宝，好喜怒；下尸彭矫，使人爱衣服，耽淫女色。亦名三毒），心意常和致欣昌（道通无碍），五岳之云气彭亨（五脏之气为五岳之云。彭亨，流通无拥之称也），保灌玉庐以自偿（玉庐，鼻庐也。言三虫既亡，真气和洽，出入玄牝，绵绵不绝，故曰自偿），五形完坚无灾殃（五体、五脏，自然相应故也）。

上睹章第十六

上睹三元如连珠（三元谓三光之元，日、月、星也。非指上、中、下之三元也），落落明景照九隅（三光在上而下烛九

隅。九隅，九方也。言常存日月，洞照一身也），五灵夜烛焕八区（五灵谓五星也，炳焕罗列一身。常能存之，则与天地同休也），子存内皇与我游（大道无心，有感则应），身披凤衣衔虎符（仙官之服御也），一至不久升虚无（一者，无之称也。学道专一，与灵同体，神仙可致也。《庄子》云：人能知一万事毕），方寸之中念深藏（方寸之中，下关元，在脐下三寸，方圆一寸，男子藏精之所。言谨闭藏之），不方不圆闭牖窗（方止圆动，不动不静；但当杜塞，不妄泄也），三神还精老方壮（还精神于三田，则久寿延年也），魂魄内守不争竞（魂阳魄阴，各得其一，故《易》曰：一阴一阳之谓道），神生腹中衔玉瑯（腹心内明，口吐珠玉。按《五辰行事诀》云：两眉间直上一寸、入一寸为玉瑯紫阙。窃观文意，未应是此也），灵注幽阙那得丧（存神守一，无横夭也），琳条万寻可荫仗（外象谕也。琳条，玉树。万寻，高远象。身形同真，则神明之所庇荫者也），三魂自宁帝书命（真道既成，名书帝录）。

灵台章第十七

灵台郁蔼望黄野（灵台，心也。谓心专一存见黄庭，则黄野也），三寸异室有上下（三丹田上、中、下各处各异，每室方圆一寸，故云三寸。今人犹谓心为方寸，即一所），间关营卫高玄受（三田之间各有关，关营卫分部，至高至玄。心当受以存念之也），洞房紫极灵门户（《大洞经》云：两眉直上却入三分为守寸双田。入骨际三分有台阙明堂。正深七分，左为青房，右为紫户。却入一寸为明堂宫，左有明童真君，右有明女真官，中有明镜神君。却入二寸为洞房，左有无英君，右有白元君，中有黄老君。却入三寸为丹田宫，亦名泥丸宫，左有

上元赤子，右有帝卿君。却入四寸为流珠宫，有流珠真人居之。却入五寸为玉帝宫，有玉清神母居之。其明堂上一寸为天庭宫，上清真女居之。洞房上一寸为极真宫，太极帝妃居之。丹田上一寸为玄丹宫，中黄太一真君居之。流珠上一寸为太皇宫，太上真君居之。故曰灵门户也），是昔太上告我者（我者，扶桑大帝君自谓也。言我道成，昔承道君授以黄庭之术也。言此道不远，止在丹田，故却言是昔也），左神公子发神语（按《大洞经》云：左有无英。此云公子，亦牙言耳。发神语者，用心专一，则教之以道），右有白元并立处（右为学道者之侍者也），明堂金匱玉房间（皆上元之宫。释如下说也），上真人当吾前（上元部神，想在天庭之际），黄裳子丹气频频（谓中元童子处于赤城。频频气盛不衰竭），借问何在两眉端（明堂之前），内侠日月列宿陈（《五辰行事诀》云：太上真人招五辰于洞房，南极元君受传。每夜半坐卧，心存西方太白星在两眉间，直上一寸，入一寸为玉珙紫阙，左日右月。又次存北方辰星在帝乡玄宫，在发际下五分直入一寸也。又次存东方岁星在洞阙朱台，洞阙朱台在目后一寸直入一寸是也。又次存南方荧惑星在玉门华房，玉门华房在两目眦际直入五分是也。又次存中央镇星在金匱黄室长谷，黄室长谷在人中直入二分是也。存之缀悬于上。毕，叩齿五通，咽液二十五过，微咒曰：高元紫阙，中有五神。宝曜敷晖，放光冲门。精气积生，化为老人。首巾素容，绿帔绛裙，右带流铃，左佩虎真，手把天刚，散绛飞晨，足蹑华盖，吐芒练身。三景保守，令我得真。养魂制魄，乘飚飞仙。是其事也。内象谕），七曜九元冠生门（七曜，七星；配人之七窍。九元，九辰；配人之九窍。废一不可，故曰生门）。

三关章第十八

三关之中精气深，九微之内幽且阴（谓关元之中，男子藏精之所也。又据下文，口、手、足为三关。又元阳子以明堂、洞房、丹田为三关。并可以义取而存之，则成三宫，是名太清、太素、太和。三三如九，故有三丹田，又有三洞房，合上三元为九宫中精微，故曰九微，言九微幽玄而不可见也），口为心关精神机（言发于情，犹枢机也），足为地关生命槩（言运用己身而生也，槩成为扉），手为人关把盛衰（纵舍由己）。

若得章第十九

若得三宫存玄丹（三丹田之宫，故曰三宫。玄丹，丹元；谓心也。存思在心，故偏指一所也），太一流珠安昆仑（太一流珠谓目精。《洞神经》云：头为三台君，又为昆仑，指上丹田也。又云：脐为太一君，亦为昆仑，指下丹田也。言心存三丹田，诸神皎然在目前。本经曰：“子欲不死修昆仑”。昆仑，山名也。），重中楼阁十二环（谓喉咙。十二环相重，在心上。心为绛宫，有象楼阁者也），自高自下皆真人（高下三田，十二楼阁，皆有真神。文如上说），玉堂绛宇尽玄宫（绛宫、明堂，上下，相应，皆宫室也），璇玑玉衡色兰环（喉有环圆动转之象也。兰环，其色也），瞻望童子坐盘桓（存见赤城童子丹皇真人坐，言其神安静），问谁家子在我身？（言己有之），此人何去入泥丸（与上元诸神上下相应，《洞神经》云：脑为泥丸宫），千千百百自相连（神本出于一。一生二，二生三，三生万物。变化不离身心），一一十十似重山（存见万物，重叠安坐。山象坐形），云仪玉华侠耳门（云仪、玉华，鬓发之

号。言耳居其间。《经》曰：“发神名苍华”。凡言华者，上敷荣之义，犹草木之花），赤帝黄老与己魂（赤帝者，南方之帝君也。黄老者，中黄老也。魂为阳神，魄为阴神，阴阳相推，故言与我魂。《太微灵书》云：人有三魂：一曰爽灵，二曰胎光，三曰幽精。常呼念其名，则魂安人身也），三真扶胥共房津，五斗焕明是七元（五斗，五星。七元，北斗也。又《灵宝经》有五方之斗，亦为五斗。《洞房诀》云：存九元、七元者，眠起初卧及食毕，微咒曰：五星开道，六合紫房，回元隐道，豁落七辰。生魂者玄父，变一成神；生魄者玄母，化二生身。摄吾筋骨者公子，为吾精气者白元。长生久视，飞仙十天），日月飞行六合间（天地内为六合。存念身中日月星辰，森罗万象，一如天地户间，了了然也），帝乡天中地户端（眉上发际五分直入一寸，亦为帝乡。又明堂上一寸为天庭，天庭即天中也。又鼻为上部之地户。心存日月星辰等诸神，皆当在其端。端谓鼻之上，发际之下也），面部魂神皆相存（内外星神，自相应也）。

呼吸章第二十

呼吸元气以求仙（探飞根，采玄晖，吞五牙，挹九霞，服食胎息之道，皆谓天地阴阳、四时五行之气），仙公公子已可前（此洞房诀也。洞房宫左为无英君，一名公子。仙公，直指黄庭学者。言学黄庭仙公，复行洞房之诀，而存见公子，故言在前），朱鸟吐缩白石源（朱鸟，舌象。白石，齿象。吐缩，导引津液。谓阴阳之气流通不绝，故曰源），结精育胞化生身（本已之所从来也），留胎止精可长生（《真诰》曰：上清真人口诀，夫学仙之人，安心养神，服食治病，使脑宫填满，玄精

不倾。然后可以存神服气，呼吸三景。若数行交接，漏泄施写者，则气秽神亡，精灵枯竭。虽复玄挺玉策，金书太极者，将亦何解于非生乎？在昔先师常戒于斯事云：学生之人，一交接则倾一年之药势，二交接则倾二年之药势，过此以往，则不止之药都倾于身。是以真仙常慎于此，以为生生之大忌也），三气右回九道明（三气谓三丹田之气。右回言周流顺绪，调和阴阳，则四关九窍，通流朗彻而无病也），正一含华乃充盈（存正守一，神气华荣，故能充满六合，乘物而变），遥望一心如罗星（存见赤城童子居在城中，如星之映罗谷），金室之下可不倾（谓心居肺下，肺主金，其色白，故曰金室。常能存之，长生不死也），延我白首反孩婴（内指事也。谓童颜不老也）。

琼室章第二十一

琼室之中八素集（谓上元清真琼室，体骨之象也），泥丸夫人当中立（《经》云：洞房中有父母。母即夫人也。亦名道母。泥丸、洞房，上已释），长谷玄乡绕郊邑（长谷，鼻也。玄乡，肾也。郊邑，谓五脏六腑也。言鼻中之气出入，下与肾连，周绕脏腑，心居赤城，存想内外。郭外曰郊。故为象谕也），六龙散飞难分别（言六腑之气，微妙潜通，难可分别，当审存之也），长生至慎房中急（气亡液漏，髓脑枯竭，虽益以呖泔，而泄以尾闾，不可不慎也），何为死作令神泣（房中不慎，伤精失明，故神泣也），忽之祸乡三灵歿（祸乡，死地。三灵，三魂也。谓爽灵、胎光、幽精歿亡者也），但当吸气录子精（呼吸吐纳，闭房止精），寸田尺宅可治生（谓三丹田之宅，各方一寸，故曰寸田。依存丹田之法以治生也。《经》云：寸田尺宅，彼尺宅谓面也），若当决海百渎倾（谓房中淫泄，不知

闭止也），叶去树枯失青青（象人死无生气），气亡液漏非己形（《仙经》云：闭房练液，不多言，不远唾。反是矣），专闭御景乃长宁（专闭情欲，存服日光。《老子》曰：善闭者，无关键而不可开。又《上清紫文灵书》有采飞根之法，常以日初出，东向叩齿九通，毕，阴咒日魂名、日中五帝字曰：日魂珠景照韬绿映回霞赤童玄炎飏象。祝呼此十六字毕，瞑目握固，存日中五色流霞来绕一身，于是日光流霞俱入口中，名曰日华、飞根、玉胞、水母也。向日吞霞四十五咽毕，又咽液九过也），保我泥丸三奇灵（泥丸，上丹田也。《大洞经》云：三元隐化，则成三宫。一曰太清之中三君，二曰三丹田之神，三曰符籍之神，故曰三奇灵也），恬淡闭视内自明（谓存思三丹田之法，一如上说），物物不干泰而平（行道真正，邪物不干），恚矣匪事老复丁（猛兽不据，攫鸟不搏。老者反壮，病者皆强。恚矣必然），思咏玉书入上清（精研《内景》，必获仙道）。

常念章第二十二

常念三房相通达（三房谓明堂、明房、丹田之房也。与流珠、玉帝、天庭、极真、玄丹、泥丸、太皇等诸宫，左右上下皆相通达），洞得视见无内外（存思三丹田，三三如九，合九为一，明玄洞彻，无有内外也），存漱五牙不饥渴（《灵宝》有服御五牙者，五行之生气以配五脏。《元精经》云：常以立春之日鸡鸣时入室，东向礼九拜，平坐，叩齿九通，思存东方安宝华林青灵始老帝君九千万人下降室内，郁郁如云，以覆己形，从口中入，直下肝府。祝曰：九气青天元始上精皇老尊神，衣服羽青，役御天官，焕明岁星，散耀流芳，陶溉我形。上食明霞，服引木精。固养青牙，保镇朽零，肝府充盈，玉芝自生，

延年驻寿，色反童婴。五气混合，天地长并。毕，引青气九咽止，便服东方赤书玉文十二字也），神华执巾六丁谒（神华者，《玉历经》云：太阴玄光玉女，道之母也。衣五色朱衣，在脾府之上，黄云华盖之下。六丁者，谓六丁阴神玉女也。《老君六甲符图》云：丁卯神司马卿玉女足曰之，丁丑神赵子玉玉女顺气，丁亥神张文通玉女曹漂之，丁酉神臧文公玉女得喜，丁未神石叔通玉女寄防，丁巳神崔巨卿玉女开心之。言服炼飞根，存漱五牙之道成，则役使六丁之神也），急守精室勿妄泄（精室，谓三丹田。上下资运而不绝，制之在心。心即中丹田也，缓急之所由，真妄之根本也），闭而宝之可长活（积精之所致也），起自形中初不阔（调心使气，微妙无形），三官近在易隐括（谓三丹田真官近在人身，隐括精气，常以心为君主者也），虚无寂寂空中素（外指事也。素，有二说），使形如是不当污（使形轻净，如悬缣素于空中也。又云身中虚空，使如器之练素，虚静当然。污谓有其事也），九室正虚神明舍（九室谓头中九宫之室及人之九窍。使上宫荣华，九窍真正，则众神之所止舍也。《洞神经》云：天有九星，两星隐，故称九天。地有九宫，故称九地。人有九窍，故称九生，言人所由而生也），存思百念视节度（存念身中百神呼吸上下，一如科法。文云“千千百百似重山”，皆神象），六腑修治勿令故（按《洞神经》云：六腑者，谓肺为玉堂宫尚书府，心为绛宫元阳府，肝为清冷宫兰台府，胆为紫微宫无极府，肾为幽昌宫太和府，脾为中黄宫太素府。异于常六腑也），行自翱翔入天路（谓升仙羽化也）。

卷十二 三洞经教部·经三

治生章第二十三

治生之道了不烦（无为清简，约以守志），但修洞玄与玉篇（谓洞玄灵宝玉篇真文《黄庭》也），兼行形中八景神（《玉纬经》云：五脏有八卦大神宿卫。太一八使者主八节日。八卦合太一为九宫。八卦外有十二楼，楼为喉咙也。脐中为太一君，主人之命也，一名中极，一名太渊，一名昆仑，一名特枢。主身中万二千神也），二十四真出自然（天有二十四真气，人身亦有之。又三丹田之所三八二十四真人，皆自然之道气也），高拱无为魂魄安（行忘、坐忘、离形、去智），清静神见与我言（能清能静，则心神自见。机览无外而与已言，即谓黄庭真人），安在紫房帷幕间（紫房帷幕，一名绛宫。谓赤城中童子所安之处。存思神其状如此），立坐室外三五玄（谓八景及二十四真神营护人身，则三田五脏真气调柔，无灾病也），烧香接手玉华前（玉华即华盖之前，谓眉间天庭也。百神之宗元，真人之窟宅，从面而存之也），共入太室璇玑门（《洞房经》云：天有太室、玉房、云庭，中央黄老君之所居也。玉房一名紫房，一名绛宫，通名明堂。上有华盖，东西宫洞通左右黄庭之内，人身具有之，如上文说，璇玑，中枢名），高研恬淡之

园（研精恬淡，真气来游），内视密盼尽睹真（入静存思，百神森森），真人在己莫问邻（《玉历经》云：老子者，天地之魂，自然之君，常侍道君左右，人身备有之也），何处远索求因缘（《道经》曰：大道汎兮，其可左右。言不远也）。

隐影章第二十四

隐影藏形与世殊（学仙之士，含光藏辉，灭迹匿端），含气养精口如朱（肌肤若水虚，绰约若处子），带执性命守虚无（虚静恬淡，寂寞无为），名入上清死录除（得补真人，列象玄名），三神之乐由隐居（理身无为则神乐，理国无事则人安。三神，三丹田之神也），倏欬游遨无遗忧（倏欬，疾发也。下文云“驾欬接生宴东蒙。”或云倏欬，龙名也。无遗忧，谓悬解），羽服一整八风驱（八风，八方之风，先驱扫路也。羽服，仙服也。按《上清宝文》，仙人有五色羽衣。又《飞行羽经》云：太一真人衣九色飞云羽章。皆神仙之服也），控驾三素乘晨霞（外指事也。三云九霞，神仙之所御也），金辇正立从玉舆（《元录经》云：上清九天玄神八圣，骖驾九凤龙车。玉舆，金辇，皆仙人之服器），何不登山诵我书（书即是《黄庭经》也），郁郁窈窕真人墟（山中幽邃），入山何难故踌躇（责志不决）？人间纷纷臭帑如（人间世，不可君。帑，弊恶之帛也）。

五行章第二十五

五行相推反归一（五行谓水、火、金、木、土。相推者，水生木，木生火，火生土，土生金，金生水，水又生木，周而复始。又相刻法：水刻火，火刻金，金刻木，木刻土，土刻水，

水又刻火，周而复始。相推之道也。反归一者，水数也，五行之首，万物之宗。《道经》云：道生一，一生二，二生三，三生万物。又《易》有太极，是生两仪。太极者，一也。两仪，天地。天地生万物，又终而归一。一者无之称。万物之所成终，故云归一），三五合气九九节（《玄妙经》云：三者，在天为日、月、星，名曰三光。在地为珠、玉、金，名曰三宝。在人耳、鼻、口，名曰三生。天、地、人凡三而各怀五行，故曰三五，其常精也。合三者为九宫。夫三五所怀，顺众类也。调和万物，理化阴阳，覆载天地，光明四海。风雨雷电，春秋冬夏，寒暑温凉，清浊之气，诸生之物，不得三五不立也。故曰天道不远，三五复返。三五者，天地之枢带，六合之要会也。九宫之气节，九九八十一为一章云云），可用隐地回八术（九宫中有隐遁变化之法，《太上八素奔晨隐书》是曰八术。又《太微八录术》云：太微中有三君：一曰太皇君，二曰天皇君，三曰黄老君。三元之气混成之精，出入上清太素之宫。能存思之，必得长生），伏牛幽阙罗品列（伏牛，肾之象。肾为幽阙。《中黄经》云：左肾为玄妙君，右肾为玄元君。罗品列，存思见之），三明出华生死际（天三明，日、月、星，人三明，耳、目、口，地三明，文、章、华，是生死之际。际音节也），洞房灵象斗日月（存三光于洞房。洞房、明堂已释于上者也），父曰泥丸母雌一（一明堂中有君臣，洞房中有夫妇，丹田中有父母。泥丸，脑神名。《道经》云：知其雄，守其雌。雌、无为一也），三光焕照入子室（明白四达），能存玄真万事毕（《庄子》曰：通于一，万事毕也），一身精神不可失（常存念之，不舍须臾）。

高奔章第二十六

高奔日月吾上道（吾，道君也。《上清紫文吞日气法》，一名《赤丹金精石景水母玉胞经》。其法常以日初出时，东向叩齿九通毕，微咒日魂名、日中五帝字曰：日魂珠景照韬绿映回霞赤童玄炎颺象。呼此十六字毕，瞑目握固，存日中五色流霞来接一身，于是日光流霞俱入口中。又《上清紫书》有吞月精之法：月初出时，西向叩齿十通，微咒月魂名，月中五夫人字曰：月魂暖萧芳艳翳寥婉虚灵兰郁华结翹淳金清莹灵容素標。咒呼此二十四字毕，瞑目握固，存月中五色精光俱入口中；又月光中有黄气，大如目童，名曰飞黄，月华玉胞之精也。能修此道，则奔日月而神仙矣），郁仪结璘善相保（郁仪，奔日之仙。结璘，奔月之仙。同声相应，同气相求，故二仙来相保持也），乃见玉清虚无老（升三清之上，与道合同也），可以回颜填血脑（魂魄反婴，得成真人），口衔灵芒携五皇（口吐五色云气，光芒四照，与五皇老君同游六合也），腰带虎篆佩金珙（仙人之服也。《九真经》云：中央黄老君腰佩玄龙神虎符，带流金之铃，执紫毛之节。篆，符篆也），驾欵接生宴东蒙（欵，倏欵。言乘风气忽发而往。或云欵也，龙名也。东蒙，东海仙境之山也。接生，长生也。与生气相接连，欵然而游其处）。

玄元章第二十七

玄元上一魂魄炼（资一以炼神，神炼以合一），一之为物叵卒见（一者，无之称。也心恬淡以得之，知得之而不可见），须得至真始顾眄（守真志满，一自归己），至忌死气诸秽贱（

凡飞丹炼药，服气吞霞等事，皆忌见死尸，殓穉之事，此卫生家之共悉也。然至道冲虚，本无净秽；未获真正，则净秽有殊；殊而不齐，则是非起于内，生死见于外，则清净者生之徒，浊秽者死之徒，故为养生之所忌也），六神合集虚中宴（六甲、六丁、六府等诸神俱在身中，身中虚空则晏然而安乐，不则忧泣矣），结珠固精养神根（结珠，谓咽液，先后相次如结珠。固精，不妄泄。神根，形躯也。夫神之于身，犹国之有君，君之有人。人以君为命，君以人为本，统相资籍以为生主，而调养之也），玉匙金龠常完坚（《道经》云：善闭者，无关键不可开。龠，锁龠。匙，或为匙也），闭口屈舌食胎津（屈舌导津液，食津而胎仙，故曰胎津），使我遂炼获飞仙（积功勤诚之所致也）。

仙人章第二十八

仙人道士非有神（修学以得之也），积精累气以为真（有本或无此句，遂闕注），黄童妙音难可闻（黄童，黄庭真人，一名赤城童子。妙音，谓黄庭真人之妙音也），玉书绛简赤丹文（《黄庭经》一名《太帝金书》，一名《东华玉篇》也），字曰真人巾金巾（真人即黄童也。金色白，在西方，主肺。肺白，在心上，故曰巾金巾。《九真经》曰：青帝衣青玉锦衣帔苍华飞裙，芙蓉丹冠，巾金巾。又元阳子曰：真人凭午，居子、履卯、戴酉，酉者金也），负甲持符开七门（《老君六甲三部符》云：甲子神王文卿，甲戌神展子江，甲申神扈文长，甲午神卫上卿，甲辰神孟非卿，甲寅神明文章。存六甲神名，则七窃开通，无诸疾病），火兵符图备灵关（《赤章》、《斩邪篆》皆役使三五火兵。又《卫灵神咒》曰：南方丹天，三气流光

；荧星转烛，洞照太阳；上有赤精开明灵童总御火兵，备守三宫。即火兵三五家事也。符者，八素六神、阳精玉胎、炼仙阴精、飞景黄华、中景内化、洞神鉴乾等诸符也。图谓《太一混合三五图》、《六甲上下阴阳图》、《六甲玉女通灵图》、《太一真人图》、《东井沐浴图》、《老君内视图》、《西升八史图》、《九变舍景图》、《赤界》等诸图，可以守备灵关，即三关、四关等，身中具有之），前昂后卑高下陈（列位之形象也），执剑百丈舞锦幡（神兵、幡、剑之状），十绝盘空扇纷纭（空中作气，炜晔挥霍），火铃冠霄队落烟（金精火铃，冠彻霄汉。部伍队阵，状如落烟屯云之势），安在黄阙两眉间（存思火兵气，状俱在天庭。天庭一名黄阙，两眉间是），此非枝叶实是根（学仙之本）。

紫清章第二十九

紫清上皇大道君（亦名玉晨君也），太玄太和侠侍端（太玄、太和、真仙之嘉号也），化生万物使我仙（道气之功绩也），飞升十天驾玉轮（乘欸而往），昼夜七日思勿眠（至诚则感），子能行此可长存（延年神仙之道），积功成炼非自然（学以致其道也），是由精诚亦由专（守一如初，成道有余），内守坚固真之真（不失节度也），虚中恬淡自致神（神以虚受）。

百谷章第三十

百谷之实土地精（草实曰谷，阴之类也），五味外美邪魔腥（非清虚之真气），臭乱神明胎气零（胎气谓无味之味，自然之正气也。服气有胎息之法。零犹失也），那从反老得还婴（

言不可得发白反黑，齿落更生。此一句应在自存神之下，超此不类者），三魂忽忽魄糜倾（忽忽，不恬淡。糜倾，朽败也），何不食气太和精（进劝服炼之道）？故能不死入黄宁（黄宁，黄庭之道成也）。

心典章第三十一

心典一体五脏王（神以虚受，心为栖神之宅，故为王也），动静念之道德行（谓念丹元童子也。夫念为有，忘为无。念则易心而后语，忘则厌心而神全，故道德行），清洁善气自明光（常念之故），坐起吾俱共栋梁（神以身为屋宅，故云栋梁。吾，丹元子也），昼日曜景暮闭藏（《庄子》云：其觉也形开，其寐也魂交。交，闭也），通利华精调阴阳（谓心神用舍，与目相应。华精，目精也。心开则目开，心闭则目闭。昼阳而暮阴，故云调阴阳）。

经历章第三十二

经历六合隐卯酉（举心之用舍，阴阳之所由也。昼为经历，暮为隐藏。六合天地内上下四方，卯酉为朝暮，幽隐属也），两肾之神主延寿（肾神玄冥，字育婴。配属北方，主暮夜人能止，精则长寿。河上公曰：肾藏精），转降适斗藏初九（九，阳数也。斗，北辰也。北辰主阴，谓阳气下与阴合。《易》曰：乾元，在无首。无首，藏也），知雄守雌可无老（守雌，则藏九之义也）。知白见黑急坐守（《道经》云：知其雄，守其雌；知其白，守其黑。皆藏九之义也）。

肝气章第三十三

肝气郁勃清且长（肝位东方。东方木，主春，生气之本也。清长，气色之象），罗列六腑生三光（存想生气，遍照五脏六腑，如日月星辰光曜明朗也），心精意专内不倾（能知一也），上合三焦下玉浆（言肝气上则与三焦气合，下则为口中之液。亦犹阴气上则为云，下则为雨。雨润万物，玉浆润百骸九窍也），玄液云行去臭香（真气周流，则无灾病），治荡发齿炼五方（云行雨施，无所不通。五方，五脏也），取津玄膺入明堂（咽液之道，必自玄膺下入喉咙。喉咙一名重楼。重楼之下为明堂，明堂之下为洞房，洞房之下为丹田。此中部），下溉喉咙神明通（身命以津气为主也），坐侍华盖游贵京（华盖，肺也。肝在肺之下。贵京，丹田也），飘飘三帝席清凉（三帝，三丹田中之道君也，亦名真人。言肝气飘飘，周流三丹田之所也。肝气为目精，故言席清凉），五色云气纷青葱（肝气与五脏相杂，上为五色云），闭目内眇自相望（常存念之，五脏自见），使心诸神还相崇（赤城童子与五脏真人合契同符，共相尊敬也），七玄英华开命门（七窍流通，无留滞也），通利天道存玄根（身为根本），百二十年犹可还（当急修行，时不可失），过此守道诚独难（去死近矣），唯待九转八琼丹（九转神丹，白日升天。抱朴子《九丹论》云：考览养生之书，鸠集久视之方，曾所披涉，篇已千计矣。莫不以还丹金液为大要焉。又《黄帝九鼎神丹经》云：帝服之而升仙，与天地相毕，乘云驾龙，出入太清。八琼：丹砂、雄黄、雌黄、空青、硫黄、云母、戎盐、消石等物是也），要复精思存七元（虽服神丹，兼习黄庭之道。七元者，谓七星及七窍之真神也。又五帝元君及白元无英君亦

为七元道君。《洞房诀》云：存七元者，其咒曰：回元隐遁，豁落七辰。乃七元也），日月之华救老残（左目为日，右目为月。目主肝，配东方，木行。木位春，春为生气，故云救老残），肝气周流终无端（《庄子》曰：指穷为薪而火传。生得纳养而命续也）。

肺之章第三十四

肺之为气三焦起（《中黄经》曰：肺首为三焦。肺之为气谓气嗽，气嗽起自三焦，故言三焦起。说三焦者多未的的，其实今以五脏之上系管为三焦。焦者，热也。言肝心肺头热之义也），视听幽冥候童子（童子，心神，赤城中者。元阳子曰：窥离而下存童子。童子是目童也。谓人欲知死生，当以手指柱目眦，候其目光，有光则生，无光则死也），调理五华精发齿（五华，五脏之气。《仙经》曰：发欲数栉，齿欲数叩也），三十六咽玉池里（口为玉池，亦曰华池。胆为中池，胞为玉泉。华池咽液入丹田，所谓溉灌灵根也），开通百脉血液始（身中血液，以口为本始也），颜色生光金玉泽（百节开道），齿坚发黑不知白（反老还婴），存此真神勿落落（专城不堕），当忆此宫有座席（此宫谓肺宫也。座席，神之所安。《中黄经》云：肺首为三焦，玄老君之所居也），众神合会转相索（众真同聚，虑有邪精），

隐藏章第三十五

隐藏羽盖看天舍（此明脾宫之事。脾为丹田黄庭，中央戊己，土行也。上观肝肺，如盖如舍也），朝拜太阳乐相呼（谓

魂神与众仙合会也。《素灵经》云：太上神仙有太阳君、少阳君、太虚君、浩素君，群仙宗道之游乐也），明神八威正辟邪（八威，八灵神也。《真诰》云：《北帝杀鬼咒》曰：七正八灵太上皓凶长颅巨兽，手把帝钟素杳三神威剑，神王卫法，辟邪之道也），脾神还归是胃家（脾神名常在，字魂停。脾磨食消，胃家之事也。《中黄经》云：胃为太仓。太仓，肚府也），耽养灵根不复枯（脾为黄庭，人命之根本。心专养之，延年神仙也），闭塞命门保玉都（元阳子曰：命门者，下丹田，精气出入之处也。养童下龠护其主。主，身也。身为玉都，神聚其所，犹都邑也），万神方胙寿有余（胙，报也。万神以养见报，故寿有余也），是谓脾建在中宫（脾主中宫，土德），五脏六腑神明主（以脾为主），上合天门入明堂（存五脏六腑之气，上合天门。天门在两眉间，即天庭是也。眉入一寸为明堂），守雌存雄顶三光（《道经》云：知其雄，守其雌。雌、牝；柔弱也。三光，日、月、星也），外方内圆神在中（外方内圆，明堂之象也），通利血脉五脏丰（神恬心静），骨青筋赤髓如霜（百脉九窍，皆悉真正），脾救七窍去不祥（脾磨食消，耳目聪明），日月列布设阴阳（日阳月阴，日男月女），两神相会化玉英（男女阴阳，自然之津液也），淡然无味天人粮（神虽合会，当味无味），子丹进饌肴正黄（饌，气也。子丹真人进丹田之真气。脾为中黄，脾磨食消也），乃曰琅膏及玉霜（津液，精气之色象也），太上隐环八素琼（谓绛宫重楼十二环，即喉咙也。中有八素之琼液也），溉益八液肾受精（咽液流下入肾宫，化为玉精也），伏于太阴见我形（太阴，洞房。谓睹琼液之形象也），扬风三玄出始青（扬风，感风化也。阴阳二气与和气为三，三生万物，生物微妙，故曰三玄出始青。言万物生而青色也。《太平经》曰：积清成青也），恍惚之间至清灵（

阴阳生气，至微至妙），坐于飚台见赤生（调畅之气化为赤子。赤子，真人也。飚台，阆风台。神仙之游集也），逸域熙真养华荣（物外真气，自然养生），内盼沉默炼五形（内观形体，神气长存），三气徘徊得神明（三丹田之气也），隐龙遁芝云琅英（《仙经》云：肝胆为青龙，故曰隐龙。五脏九孔、八脉八脉：中医称人身十二经脉以外的阳维、阴维、阳跷、阴跷、冲、督、任、带为八脉。为内芝，故曰遁芝。云琅英，脾气之津液），可以充饥使万灵（服气道成，役使鬼神），上盖玄玄下虎章（神仙之服御也。《元录经》云：仙人有玄羽之盖，神虎玉章也）。

沐浴章第三十六

沐浴盛洁弃肥薰（盛，古净字。肥，鱼、肉。薰，五辛），入室东向诵玉篇（太帝在东故也），约得万遍义自鲜（不出身中），散发无欲以长存（《仙经》：服九霞必先散发。又胎息法：仰卧散发，令枕高二寸五分。屈两手大母，指握固闭目，申两臂，去身五寸。乃漱满口中津液，咽之满三。徐徐以鼻内气。气入五六息则吐之。一呼一吸为一息。至十吐气可少频申。频申讫，复为之。满四九为一竟矣。寻观文意，此散发非专此道也。盖散发，无为自得之意，无外情欲而已），五味皆至正气还（合五为一，自然之道），夷心寂闷勿烦冤（闷，静也。寂默清静。《道经》云：其政闷闷，其民淳淳），过数已毕体神精（专精所致），黄华玉女告子情（丹田阴神与己言也），真人既至使六丁（真人，指学者身也。至，谓精至。六丁，如上说者也），即授隐芝大洞经（隐芝，谓隐者也。以仙人喻芝英），十读四拜朝太上（《玉清真诀》曰：《东华玉篇》者，

必十读四拜。玉篇，谓此文），先谒太帝后北向（太帝在东，七元居北故也），《黄庭内经》玉书畅（仙道成矣），授者曰师受者盟（斯文可重，故以为盟），云锦凤罗金钮缠（信誓之物），以代割发肌肤全（契诚不假，出血断发），携手登山歃液丹（受行黄庭道者，必重盟而后传），金书玉景乃可宣（信洽方授），传得可授告三官（三官，天、地、水也），勿令七祖受冥患（传非其人，殃及先世。患，读为还也），太上微言致神仙（可尊可贵），不死之道此真文（一心敬重，奉而行之）。

太上黄庭外景经 务成子注

序

《黄庭经》者，盖老君之所作也。其旨远，其词微，其事肆而隐，实可为典要。强识其情，则生之本也。故黄者，二仪之正色；庭者，四方之中庭。近取诸身则脾为主，远取诸象而天理自会。然“谷神不死，是谓玄牝”。是以宝其生也。后晋有道士好黄庭之术，意专书写，常求于人。闻王右军精于草隶，而复性爱白鹅，遂以数头赠之，得乎妙翰。且右军能书，缮录斯文，颇多逸兴自纵，而未免脱漏矣。后代之人，但美其书璟而以为本，固未睹于真规耳。余每惜太上圣旨，万世莫测，今故纂注以成一卷，义分三部，理会万神。冀得圣人之教不泯，于当来矣。

上部经第一

老君闲居作七言（老子者，天之精魂，自然之君，造立神仙，万世常存。作斯七言，以示后生），解说身形及诸神（上谈元一，济活一身。从头至足，皆可得生。总统纲纪，形体常平。道无二家，究备者贤），上有黄庭下关元（黄庭者，目也。道之父母供养赤子，左为陵阳，字英明；右为太阴，字玄光。三合成德，相须而升），后有幽阙前命门（肾为幽阙目相连。脐为命门三寸，日出月入阴阳并，呼吸元气养灵根也），呼吸庐间入丹田（呼之则出，吸之则入，呼吸元气，会丹田中。丹田中者，脐下三寸阴阳户，俗人以生子，道人以生身），玉池清水灌灵根（口为玉池太和宫，唾为清水美且鲜。唾而咽之雷电鸣，舌为灵根常滋荣），审能修之可长存（昼夜行之去伏尸，杀三虫，却百邪，肌肤充盈正气还，邪鬼不从得长生，面有光），黄庭中人衣朱衣（目中小童为夫妇，左王父，右王母，被服衣朱，游宴与合会，多处丹田里。昼夜存思勿懈怠），关元茂龠阖两扉（冥目内视，无所不睹。闭口屈舌为食母。含咽玉英，终身无咎。无者，气也。齿为茂，舌为龠），幽阙侠之高巍巍（道有三元，恣意所从。下部幽阙，玄泉之常。中部幽阙，两肾为双。上部幽阙，两耳相望。金门玉户，上与天通。娇女弹箏，盛厉宫商），丹田之中精气微（丹田者，一室也，与明堂对。精气微妙，难可尽分，故曰微矣），玉池清水上生肥（口中唾也。亭动口舌，白唾积聚，状若肥焉。漱而咽之，可得遂生），灵根坚固老不衰（舌为灵根，制御四方，调和五味，去臭取香，啄齿咽气，化为饮浆），中池有土服赤朱（喉中若京为元土，中和之下阙分理，朱光衣服神为友），横下三寸神所居（明堂之宫，方圆三寸神所居，正在目中央。眉为华盖，五色青葱），

中外相距重闭之（中气当出，外气当入。当此之时门三关。二气相距，天道自然也），神庐之中当修治（教子去鼻中毛，神道往来则为庐宅。昼夜绵绵无休息也），玄膺气管受精府（喉中之央则为玄膺。元气下行，起动由之，故曰受府也），急固子精以自持（守精勿去也），宅中有土常衣绛（面为尺宅，真人官处其中央，被服赤朱，光耀灿然赤如绛），子能见之可不病（欲令世人深知道真，睹斯神功，终身不病也），横理长尺约其上（脾长一尺，约太仓上。中部明堂，老君昼所游止也），子能守之可无恙（守脾神老君所舍。深知知其意可无恙也），呼吸庐间以自偿（闭塞三关，屈指握固，呼吸元气，皆会头中，降于口中，含而咽之，则不饥渴，逐去三尸心意），子保完坚身受庆（人人有道，不能守之。保道之家，身形常平。上睹三光，状如连珠，落落象石，心中独喜，故以自庆），方寸之中谨盖藏（不方不圆，目也。闭户塞牖，中元不有。守之守之，得道之半），精神还归老复壮（精神欲去，常如飞云。上精不泄，下精不脱。魂魄内守，如年壮时也），心结幽阙流下竟（耳为心听，结连幽阙。鼻闻香则荫强，心达志通，则流下竟也），养子玉树令可杖（身为玉树，常令强壮。阴为玉茎，转相和唱。还精补脑，可得不病，长乐无忧在也），至道不烦无旁午（大道自然，不烦不虑，照察荡荡，则人本根至道，难得而易行焉），灵台通天临中野（头为高台，肠为广野。元气通天，玄母来下养我已也），方寸之中间关下（目央之中玉华际，大如鸡子黄在外，下入口中生五味，昼夜行之可不既也），玉房之中神门户（玉房，一名洞房，一名紫房，一名绛官，一名明堂。玉华之下金匱乡，神明门户，一之所从者哉），既是公子教我者（左为神公子，右为白元君。养我育我，常欲令我得神仙。父母供养子丹，日月相去三寸间），明堂四达法海源（三寸三

重有前后，使以日月归中升，洞达四方流于海也），真人子丹当吾前（象长一寸两眉端，俯仰见之心勿烦），三关之中精气深（口为心关，足为地关，手为人关。深固灵珠，更相结连，微妙难知，固为深焉），子欲不死修昆仑（头为昆仑，道治其中。子午为经，卯酉为纬。日月照明，丹焉游戏，百官宿卫也），绛宫重楼十二环（金楼五城，十二周匝，丹黄为郭，五彩云集。绛宫玉堂，真一所从出入也），琼室之中五色集（璇玑玉衡，命立中央。五色琅玕，极阴反阳。营室之中全室也），赤神之子中池立（喉中之神主池精，受符复行，传付太仓），下有长城玄谷邑（肠为长城，肠为邑。肾为玄谷，上应南北也），长生要慎房中急（房，玉房也。急而守之，共会六合。六合之中诚难语，子欲得道闭规矩也），弃捐淫俗专子精（贤者畜精，愚者畜财。捐去众累，一复何求？还精补脑，润泽发须），寸田尺宅可治生（寸田，丹田。尺宅，面也。道之经纬，不可废忽，努力求之，必得长生也），鸡子长留心安宁（大道混成自然子，濛濛鸿鸿，状如鸡子。专心一意，守之不解长安宁），推志游神三奇灵（大道游戏琬闾，琬闾权刚执志，观见道真，三灵侍侧，弹琴鼓箏也），行间无事心太平（恬淡无欲，以道自娱。施利不足，神明有余，则为太平也），常存玉房神明达（玉房，一室也。卧于山西，知于山东；处于幽冥，都见无穷。内外相须，故言明达也），时思太仓不饥渴（咀嚼太和，神注含太仓。胃管一神名黄常子。祝曰：黄常子，吾有长生之道，不食自饱。不得妄行，留为己使。辟谷不饥，所当得也），役使六丁玉女谒（清洁独居便利六丁之地，呼其神名字，玉女必来谒也），闭子精门可长活（阴阳交遘，此之时，精神欲去淫佚，淫佚纵情，五马不能禁止。以手抚弦囊，引玉龠，闭金门），正室堂前神所舍（正室之中五色杂，璇玑玉衡道所立，舍于

明堂游绛宫，变为真人丹田也），洗心自治无败湾（敬重天地，远僻嫌疑。闭目内视，思神往来，不与物杂，行不败湾，历观五脏视节度（五脏六腑，各有所主。修身洁白，绝谷勿食。饮食太和，周而更始，故不失节也），六府修治洁如素（心不妄念，口不妄言，目不妄视，耳不妄听，手不妄取，足不妄行。凡此六行，六府之候也。故能损之，道成德就，洁已如素也），虚无自然道之固（虚无恍惚，道之无，自然不存，俯仰自睹，常守玄素，须臾为早，知雄守雌，魂魄不离身也），物有自然道不烦（自然者，天地大神。不存不想，气自往来也），垂拱无为身体安（端壳自守，深畅元道。不犯天禁，身无灾咎，永保安也），虚无之居在帟间（虚无之性，乐于清静。修和独立，与神言语。施設帟帐，恶闻人声。观见玄德，五色徘徊。日月照察，使以东西。三五复反，转藏营机也），寂寞廓然口不言（隐藏华盖，归志洞虚，寂然广视，目睹明珠，昧然独息，不贪荣誉也），修和独立真人宫（太和之宫，在明堂垂华盖之下，衣朱衣。明堂四达知者谁？真人小童衣灿烂。欲知吾居处，问太微乎），恬淡无欲游德园（外如迷惑，内怀玉洁，恬淡欢乐，不贪世俗也），清静香洁玉女前（弃捐世俗，处无人之野，焚烧、香薰、便溺，六丁玉女自到，径来侍人也），修德明达神之门（德润身，富润屋。心达志通，视见神光、重楼绮户、金门玉堂）。

中部经第二

作道优游深独居（隐身藏形，与世绝逾。舍气养精，颜如丹珠也），扶养性命守虚无（决谢祖先，避世隐居。司命定录，死籍以除。改字易姓，坚守虚无也），恬淡自乐何思虑（恬淡

忽然，乐道守贫，不念不虑，至不烦也）？羽翼已具正扶骨（修道行仁，骨腾肉轻。道成德就，云车来迎。玉女扶辇，径升太清。非生毛羽也），长生久视乃飞去（万世常存，与一为友。玉女采芝啖之苗，食之。须臾立生毛羽，上帝徵聘，飞入沧海），五行参差同根带（五彩腾起，或参或差，混沌不别，共生根带），三五合气其本一（三五十五在中央，二友之隐，往来三阳。玄德微妙，其状似龙，见之独笑，勿以语人），谁与共之斗日月（雌在北极，雄在南宫。真人不远，近在斗中。三光洞明，天地相望。子欲得一问两童）？抱玉怀珠和子室碌碌如玉，连连如珠，调和室房，随世沉浮），子能守一万事毕（一为大神，天地之根，人之本命。子能知之，万事自毕），子自有之持无失（人人有一。有一不知守，素损本根，爱财宝。贤者得之以为友也），即欲不死入金室（却入三寸为金室，洞房之中当幽阙，变吾形为真人，真人所处丹田中），出日入月是吾道（日出太阳，月入太阴，回周返覆，受符复行），天七地三回相守（天七地三，囊龠缩鼻，引地气即上希也，故回相守），升降进退合乃久（地气上升，天气下降。阴阳列布，合于绛宫。或进或退，正气从容，乃得长久），玉石落落是吾宝（连珠玉璧，落落如石，出于太阳，气如火烟，转则不得，则吾重宝），子自有之何不守（人自有一，不知守之。守之者日还一日，失之命消也）？心晓根基养华彩（究备道真，深解无极，留年却老，自守本归根。开阖阴阳，布色华彩，常若少年），服天顺地合藏精（头为天，足为地。服食天气，灌溉身形，合人丹田，藏之脑户。天露云雨，何草不茂？）七日之午回相合（行道之要，七日一合），昆仑之上不迷误（昆仑，头也。上与天通，禀受元气不迷误），九原之山何亭亭（心为九原，真人太一处其中也。不出户房知四方。）中有真人可使令（真人，太一小

童子。金楼深藏伏不起，隐藏九原不可使），蔽以紫宫丹城楼（金楼玉城，丹黄为郭。百官宿卫，一为上客。绛宫玉堂，真人宅舍），侠以日月如明珠（左日右月，合精中央，五色混沌。昼如明星，暮如明珠。晃晃煌煌，曾不休哉！）万岁昭昭非有期（明珠来下，坚当守之。长生之符，万岁昭然，非复有期。司命定录，死籍已除），外本三阳物自来（三阳，三精也。状若冠纓。扉玄无主，用和为根。不呼自来，默默翻翻），内拘三神可长生（三神，三子。拘此三神，生道毕也），魂欲上天魄入渊（暮卧魂上天，送日中三足乌。鸡鸣忽朦，来还其处。魄者，形也。年七十、八十，魄欲入泉。老人愁思，形容欲别），还魂返魄道自然（拘魂制魄，不得行人，善守自然，不用筋力），庶几结珠固灵根（结珠，连珠也。入口中含咽其精，固灌灵根），玉颧金龠身完坚（玉颧，齿。金龠，舌。开口屈舌，食母之气。不传恶言，身保完全），戴地悬天周乾坤（人生地，道来附已，故言戴地。玄母在天下养万物，不用机素，神明微妙，非俗所闻。常欲令我得神仙，迫于乾坤，不可逾蹶哉！）象以四时赤如丹（四时五行，周则更始。真人子丹，一化为己。被服赤珠状若丹），前仰后卑列其门（仰，高也。前高后下，背子向午，右阴生阳，离楼门户），选以还丹与玄泉（选，取也。缩引还丹，及玄泉之气，所谓名上升泥丸，炼治发根，须臾微息，其道自然），象龟引气致灵根（龟以鼻取气。极停微息，闭口咽之致灵根），中有真人巾金巾（金宝真人巾金巾），负甲持符开七门（甲，子也。背子向午，要带卯酉，制御元气，受符复行，皇天大道君也，常窥看七门），此非枝叶实是根（上皇大道君老子，太和，常侍左右，化生万物，非为枝叶），昼夜思之可长存（常注意思念，自睹三光，道之至妙，近在斗中），仙人道士非异有（仙人度世，非有他神，守一坚固，上

精不泄，下精不脱，精神内守，千岁不死），积精所致和专仁（育养精气，专心一意。和气仁义，德合道真），人尽食谷与五味（俗人皆啖百谷之宝，土地之精，五味香连，当令饱食。厨内无真道，遂归黄泉），独食太和阴阳气（阴气上升，阳气下降合会，六合之中生五味，常自服食天相溉），故能不死天相溉（饮食太和，不死之药，食之不解，天自溉之），诚说五脏各有方（五脏象五行，六律肠胃方），心为国主五脏王（身有三百六十神，心为主。不出户，知天下；不下堂，知四方），受意动静气得行（志之所从，不可极也。清香洁善气自行），道自将我神明光（座与吾俱息，起与吾同衣。我饥来食，我居不行，客常日月三光相保守），昼日昭昭夜自守（昼日朗然，目睹景星。暮即徘徊，来归我已。知阳者明，不知阳，妄作凶），渴可得浆饥自饱（饥食自然之气，渴饮华池之浆。不饥不渴，可得长生也），经历六腑藏卯酉（两肾之神最为精，左王父，右王母。二气交错周六腑，上会目中，左卯右酉），通我精华调阴阳（阴阳列布若流星，流星七正益精华），转阳之阴藏于九（阳主阳中，乃种其类。阴生黍粟，阳生荧火，二气相得，更相包裹。九在口中也），常能行之可不老（知雄守雌，其德不离。知白守黑，常德不忒），肝之为气修而长（肝为青龙，肺为白虎，上与天通，故为长），罗列五脏主三光（心精意专，五内不倾；平床安卧，仰观三光），上合三焦下玉浆（上合三焦者，六合中也，流布四肢汗玉浆），我神魂魄在中央（拘魂制魄，不得动作。俱坐俱起，不得行止。明堂正在中央），精液流泉去臭香（精流液出，常如源泉。暮卧惺寤，荡涤口齿，去臭取香治发齿），立于玄膺舍明堂（明堂之中，方圆三寸，生道之根，大如鸡子黄如橘，过历玄膺甜如蜜），雷电霹雳往相闻，右酉左卯是吾室（午前子后之间，中央朝发太一华盖之

卿，阳气以下在绛宫）。

下部经第三

伏于志门候天道（志门，玄门也。候天道，守玄白），近在子身还自守（大道不远，近在身中。子自有之无求他），清静无为神留止（道为贤者施，不为愚者作。精心定志，神明欢也），精神上下开分理（精神上下，恍惚无常，求玄中之玄），精候天道长生草（上知天上，俯察地理。留年住命，白发如墨，则长生草），七窍已通不知老（耳听五音，目观玄黄，鼻受清气，口啖五味，不知老也），还坐天门候阴阳（天门，太阳一之门也。阴阳雌雄，微妙难睹。故坐伺候之），下于喉咙神明通（喉咙，咽也。啖食和气，则神明乃下降），过华盖下清且凉（华盖之下五色青葱，清灵之渊清且凉），入清灵渊见吾形（清灵之渊，微妙玄通。闭目内视，则见江海。伺候吾形，有顷相望，如照明镜深井，对相视，乐无极也），期成还年可长生（年到四十、五十，则不住还。得其理者，日益长久。不能明者，徒自苦耳），还过华下动肾精（华盖之下多阴凉，万神合会更相迎，引动肾气，上布紫宫），立于明堂望丹田（明堂、丹田相去不远，相望见），将使诸神开命门（一名大神。万物之先，保使群神，救护万民，出入命门），通利天道存灵根（九九八十一首，分为二部。从头至足，元气通流，周匝一身，灵根坚固，守之勿休也），阴阳列布若流星（三气升降，闭塞三关，百脉九孔，气候铄铄光晃晃，列布皮肤若奔星），肝气周还终无端（肝为青龙，出从吾左肺；为白虎，住在右。神道恍惚，无有端绪），肺之为气三焦起（肺有三叶三焦起，一名华盖，紫红色），上座天门候故道（天道，雄门。故道，本根。存本

守根，乃得长生），津液醴泉通六府，随鼻上下开两耳（闭气缩鼻，长久微息。呼吸元气，一上一下，缩鼻不止开其耳），窥视天地存童子（上窥天门，则睹三光。俯视地理，见小童子），调和精华治发齿（精液华池。常以鸡鸣，啄齿三十六，下漱咽之。常以管籥开闭九孔，皆上头中治发齿），颜色光泽不复白（门户开张，精神布合。颜色光润，须发滋荣不复白），下于咙喉何落落（存候天道要不烦，落落如石，中心独喜），诸神皆会相求索（大道游戏，众神合会，交游徘徊太素中），下入绛宫紫华色（下入绛宫丹城楼，金紫帟帐，徘徊四隅），隐藏华盖观通庐（暮隐华盖，昼游明堂。观望神庐金匱乡也），专守心神转相呼（心为国主太一宫，专心一意向太阳，执志清洁，众神喜乐相呼来），观我神明辟诸邪（一居中央，诸神宿卫。当此之时，仰观神光，元阳子丹辟万邪），脾神还归依大家（脾神朝进明堂，暮归其宫，故依大家太仓也），致于胃管通虚无（胃管，太仓口也。虚无之宫在太初），藏养灵根不复枯（藏养灵根使渐润，调和满口而咽之，内不枯燥），闭塞命门如玉都（关门闭牖以知天道耳。玉堂之阳，一神之都市，知万物之价数也），寿传万岁年有余（俗人有余财，圣人有余年，寿命无期），脾中之神主中宫（中宫戊己，主于土府。万物支行，土地之子。脾为明堂，神治中宫也），朝会五脏列三光（五脏六腑，神明之主。日月朝会，长幼有序。仰观三光日月斗），上合天门合明堂（天门开闭，出为雄雌。三光所生，侠在明堂。上圆下方，中无不有），通利六腑调五行（安神养己，六腑通畅，邪气却走，正气内守五行之精，金木水火土为荣），金木水火土为王（五行相生，土为其主。万物畴类，皆归于土），通利血脉汗为浆（含气养精，血脉丰盈，骨濡筋强，润滋皮肤，汗出若浆），修护七窍去不祥（同穴异窍，各隔东西。常

当修护，神明所依。辟却不祥，万物自化），二神相得化玉英（日月之神，阴阳之反。暮宿明堂，化生黄英下流口，淡如无味，用之不可既也），上禀天气命益长（坐常仰头鼻，受上清气，跨座随阳，四肢安宁。敬重天禁命益长），日月列布张阴阳（日月照察，万物瞻仰。阴阳设张，四时调和。凡此四行，亦在己躯也），五脏之主肾最精（肾之为气清且香。右为王母，左为王公。左青龙，右白虎，与天通），伏于太阴成吾形（太阴小童玄武里，赤神之子伏不起，转阳之阴成吾形，常存太素老小丁），出入二窍合黄庭（出入二窍两手间，黄庭中人主神仙，欲得吾处入阙山），呼吸虚无见吾形（虚无恍惚难悉言，呼吸元气环无端，欲睹吾形若临渊也），强我筋骨血脉盛（精气不泄，骨髓充满，常自壮强。血脉平盛，行若奔马，终身不倦），恍惚不见过青灵（恍惚中有物，青灵中有形。恍惚象大道有一，莫见其景也），坐于庐下见小童（神庐之下金匱野，顾见真人小童子，何从相求华盖下），内息思存神明光（闭目内视，存在神明见吾光。俯仰瞻之，青赤白黄），出于天门入无间（出于天门见四邻，入于无间睹太玄，太玄中有众妙之门），恬淡无欲养华茎（闲居静处，深固灵珠。素捐世俗，推刚就深含养玉茎，色如桃花），服食玄气可遂生（外为太玄，内为大渊。若如流俗，合四海源。审能服食，可得遂生），还过七门饮大渊（大渊玉浆甘如饴，近在吾身子不知，何处取之蓬莱溪），道我悬膺过青灵（太清之渊随时凉，青灵之台四远望，悬膺苑降太仓），坐于膺间见小童（金匱玉神小庐间坐，仙道见小童子，候吾规中道毕矣），问于仙道与奇方（仙道，谓虚无自然也。不行而至，举足万里，坐在立无。奇方，不死之药也），服食芝草紫华英（绝五谷，弃饴粮。使六丁玉女自来侍人，为取芝草金紫华英，得乃食之），头戴白素足丹田（真人致住，

常欲令人得神仙。昼日头黑，至头白如素也，足履丹田中也），沐浴华池生灵根（沐浴华池，炼身丹田之中，主润灵根。华池，玉池），三府相得开命门（老子，太和各为一府，共侍道君。常开阖命门，阳明无端也），五味皆至善气还（六合之中自生五味，演而食之，正气并来），被发行之可长存（大道万毕，被发僵卧，炼身五岳，则得长生），大道荡荡心勿烦（大道荡荡，昭然旷然。要道不烦，烦道不要，求于无形），吾言毕矣慎勿传（吾者，中央老君也。解说天道，从头至足，皆可生也。勿传非人，令道不明，慎之慎之）。

推诵《黄庭内景经》法

当入斋堂之时，先于户外叩齿三通。闭目想室中有紫云之气，郁郁来冠兆身。玉童侍左，玉女侍右，三光宝芝，洞映内外。咒曰：

天朗气清，三光洞明。金房玉室，五芝宝生。玄云紫盖，来映我形。玉童侍女，为我致灵。九帝齐景，三光同辘。得乘飞盖，升入紫庭。引气三十九咽，毕，入户北向四拜，长跪，叩齿二十四通，上启高上天真玉晨太上道君：某甲今当入室咏诵玉经，炼神宝藏。乞胃宫华荣，身得乘虚，上拜帝庭。毕，还东向揖大帝。又叩齿十二通，上启扶桑大帝暘谷神王：某乙今披咏玉经，乞使静室神芝自生，玉华宝耀，三光洞明，万遍胎仙，得同帝灵。毕，即东向诵十遍为一过。竟，还北向四拜，东向揖，不须复启也。但拜谒如法，随诵多少，然以十数为限。不依法而受经，亏损俯仰之格，徒劳于神，无益于求仙也。五

犯废功断事，十犯身死于风刀之考。死为下鬼，负石之役，万劫还生不人之道。当以八节日送金环、青缙九尺，以奉于有经之师。师得此信，速录上学弟子郡县、乡里、姓名、年纪、生月日时于九尺青缙之上，正中于山岳绝岩之侧，北向奏名青帝宫。叩齿二十四通，微咒曰：

天回道气，八道运精；三五应期，九祚代倾；命真玄寂，辅臣帝灵；玉札已御，今奏青名。谨关九府，五岳司灵，记我所列，上闻玉清。三年之后，来迎某甲微形，赐乘八景，升上帝庭。毕，埋青缙于绝岩之下。如此三年，有真人下降。一节不送，废功断事，不得入仙。三节违盟，告下三官，受考无穷。清虚真人曰：凡修《黄庭内景玉经》，应依帝君填神混化之道。读竟礼祝毕，正坐向东，临目内想身神形色、长短大小，呼其名字，还填本宫。不修此法，虽万万遍，真神不守，终无感效。徒亦损气疲神，无益于延命也。今故抄经中要节相示耳：

发神苍华字太元（形长二寸一分）。脑神经根字泥丸（形长一寸一分）。眼神明上字英玄（形长三寸）。鼻神玉垄字灵坚（形长二寸五分）。耳神空闲字幽田（形长三寸一分）。舌神通命字正纶（形长七寸）。齿神嵒锋字罗干（形长一寸五分）。右面部七神，同衣紫衣，飞罗裙，并婴儿形。思之审正，罗列一面，各填其宫。毕，便叩齿二十四通，咽气十二过，祝曰：

灵源散气，结气成神。分别前后，总统泥丸。上下相扶，七神敷陈。流形遁变，爰养华元。道引八灵，上冲洞门。卫驱摄景，上升帝晨。毕，次思心神丹元字守灵（形长九寸，丹锦飞裙）。肺神皓华字虚成（形长八寸，素锦衣黄带）。肝神龙烟字含明（形长六寸，青锦披裳）。肾神玄冥字育婴（形长三寸六分，苍锦衣）。脾神常在字魂停（形长七寸三分，黄锦衣）。胆神龙曜字威明（形长三寸六分，九色锦衣绿花裙）。右六

腑真人处五脏之内六腑之宫，形若婴儿，色如华童。思之审正，罗列一形，叩齿二十四通，咽气十二过，咒曰：

五脏六腑，真神同归。总御绛宫，上下相随。金房赤子，对处四扉。幽房玄阙，神室纽机。混化生神，真气精微。保结丹田，与日齐晖。得与八景，合形升飞。紫微真人曰：昔孟先生诵《黄庭》，修此道八年，黄庭真人降之。此妙之极也。《黄庭》秘诀尽于此矣。形中之神，亦可从朝至暮，恒念勿忘，不必待诵《黄庭经》矣。

卷十三 三洞经教部·经四

太清中黄真经（并释题）

释题

《中黄真经》者（中黄者，中天之君也。真者，得无为之身也。经者，为大道之径也）。九仙君譔（九仙者，天之真也。其位最崇，下管八天，上极真位，显两仪之成形。然大道之人，苞裹万景，含养天地，以慈爱为百行之源，以众善为资身之本；廓然洞达，存不舍之根；总察万行，无弃绝之智。是以出五明殿，入中和宫，放无极光，洞无极景。及与黄人论无极之义，显分圣教，须知无中不无，欲悟玄元，先了义趣。得之者同其生，失之者共其死。哀体内之莫测，病生灵之不悟。元气分散，随彼行之所生；体节分离，掩太阴之泉户。依余大教，必归云路）。中黄真人注（中黄者，九天之尊。余始自人间，登于圣路，保养和气，深藏其精。虑中行未成，切厉精诚，然后用其慈愍，剪其痴怒，去舍万端，百灵潜护，永绝爱欲，阴神私助，然可服灵气，固真一，知神仙可学也）。亦号曰《胎藏论》（夫《胎藏论》者，盖以人类受形于圣路，保和于气母。阴阳交配，随行所成。骨肉以精血为根，灵识以元气为本。故有浅深、

愚智、祸福不同。此经辨人伦之有形，明腹内之修养。穷本见末，寻苗识根。端明五脏，然可修身。用之以人，受之以法，守之以功。若亏是行，徒擅其能，亦不可学也。《胎藏论》者，盖九仙君兼真人之所集也。真人常观察元气，浩然凝结成质。育之以五脏，法五行以相应；明之以七窍，象七曜以昭晰（夫人腹内有五行之正气，顺之即无疾，逆之即为害。头应于天，足应于地。天欲得高，高即日月明；七窍欲得大，七窍大者道易成。为心气大，骨气大，和氣大，节气大，此为神宅，修道易成，亦主有寿）。其识潜萌，其神布行（夫人受形于胎，然布情识之根，心识为最。因心运已，得无不为。道有存神宅，皆以心识为用。即未若无心舍损，直上九天，为之大要）。安魂带魄，神足而生（魂生于天，魄生于地，入胎成形，诸神居位。婴儿在胞，善知人事，无息无声，合于至理。既出胎腹，六识潜萌，体袭五谷，贪恚相生。随识所用，坐变痴盲，故《太微灵书》有还魂制魄法，皆须用心存思。若暂有忘舍，前功悉弃。此书并不载，盖为舍损心识）。形神相托，神形相成。口受外味以亡识，身受内役以丧情，神离形以散坏，形离神以去生。殊不知皮肉相应，筋骨乃成。肝合筋，其外爪；心合脉，其外色；脾合肉，其外唇；肺合皮，其外毛；肾合骨，其外发。咸伤筋，苦伤骨，甘伤肉，辛伤气，酸伤血（《玉华灵书》云：阳为气，阴为味。味归形，形归气，气归精。精食气，形食味。味伤形，气伤精。初皆相因，后皆相反。初相生成，后皆克害。谷气盛，元气衰，即反壮成老。常欲得春七十二日省酸增甘，以养脾气。夏七十二日省苦增辛，以养肺气。秋七十二日省辛增酸，以养肝气。冬七十二日省咸增苦，以养心气。季月末各取十八日省甘增咸，以养肾气。但依此养生，亦可得三百岁矣。存神亦得奔于诸天，只得为仙官尔，不得列于尊位）。

故圣人曰：先除欲以养精，后禁食以存命。是知食胎气，饮灵元，不死之道，返童还年。此盖圣人之所重也。且夫一士专志，下学而上达：一夫有心，睹天道之不远。学而无志谓之愚（《准玄策》云：无志之夫，万行不成矣）。不学不知谓之蒙（《玄元章》云：三生修道未具志，今生方遇《中黄》秘，若能闭得养形章，阴神永不夺人志。学道修行，大忌轻言泄事。纵得玉策金章，终不成道。凡人遇异书奇术，皆天神助应，自是人愚慢其神理，难成道也。无分之人，永不相遇矣）。然三虫未去，子践荆榛之田；当三虫已亡，自达华胥之国（《玄镜章》云：华胥国者，非近非远乎！非人境所知，非车马所到。此国方广数万里，其国无寒热，无虫蛇，无恶兽，国内人民尽处台殿上，通诸天往来。人无少长，衣食自然，不知烟焰劳计之勤，不识耕桑农养之苦。所思甘膳，随意自生。百味珍羞，盈满堂殿。甘泉涌溜，注浪横飞。九酝流池，自然充溢。人饮一盞，体生光滑。异竹奇花，永无凋谢。祥禽瑞兽，韵合宫商。一国人民，纭相崇敬。然其国境外有三十里，草莽荆榛，四面充合。上有飞棘，罗覆数重；下有蒺藜，密布其地。欲游是国，先度此中。不顾凡身，然可得入。少生悔意，终不见达。凡言三十里荆棘者，为与三尸相持，身受虚羸寂寞，思食无味。等味及三虫亡后，身识冲和，情理安畅，冥心内境，自达胎仙。既入华胥，方验是迹。洞玄灵界，非凡所知）。显章云路，备述胎仙。知圣行之根源，辨仙官之尊位。至于霞衣羽服，玉馆天厨，盖为志士显言，聊泄天戒，非人妄告，殃尔明徵（准《玄元教令科》：凡是秘密天策，不可妄开尔，当有灭门之祸。轻言泄事，阴神为慢易玄科，天夺人志。虽欲学道，多逢难事隔塞也，大忌之）。密此圣门，必登云路（《三天教》云：闭言之人，与道合神；天助其德，有其玉骨。如此之人，修道必成无疑耳）

。慎无传于浅学，誓莫示于斯文（学道无成，谓之浅学。妄传此等，当有刑祸之殃。道教禁科，大忌违誓，兼获罪无量，诫之）！慢而折神，轻言损寿（《玄格》曰：与人诤曲直尚减（弄）寿，况泄天章轻文传示。彼既受祸，此亦获殃，家当横难，身备刀光）。若非志士，无得显言（夫志士学道，心迹无二，然可口传，勿示文字）。总一十八章，列成一卷（一十八章者，为入有五脏六腑，外有七窍显应，故有十八章。不言九窍者，同于北斗九星，两星不见。一卷者，万行归之于一，此皆事合形神，应于运理）。号曰《胎藏中黄经》。皆以篇目相衔，文句相继。义精于成道，言尽于养生。行显意直，事具文切。食气之理备载，归天之道以成。援笔录章，列篇于后

内养形神章第一（此章五句，三十五言）

内养形神除嗜欲（《洞元经》云：修养之道，先除嗜欲，内合五神；次当绝粒，心不动摇，六腑如烛。常修此道，形神自足），专修静定身如玉（夫人心起万端，随物所动。常令静居，不欲与众混同，内绝所思，外绝所欲。恒依此道，元气自足）。但服元和除五谷（世人常以五谷为肌肤，不知五谷坏身之有余。今取春三月，净理一室，著机案，设以厚暖床席。案上常焚名香。夜半一气初生之时，乃静心神，当叩齿三十六通，以两手握固，仰卧瞑目。候常喘息出时，便合口鼓满咽气，以咽入为度，渐渐咽之。若入肚，即觉作声，以饱为度，饥即更咽。但当坦然服之，无所畏惧。气入后如口觉干，即服三两盏胡麻汤，此物能润肠养气。其汤法：取上好苜蓿三大升，去皮，九蒸九暴；又取上好茯苓三两，细杵为末。先下苜蓿末煎三两沸，次下茯苓末，又煎数沸，即入少酥蜜。渴即饮一两盏，兼

止思食。或四时枸杞汤，时饮一两盏，亦善咽气，自得通畅。但觉腹中安和，咽气渐当流滑。一切汤水尽不要吃，自得通妙理。但服气攻盘肠粪尽，咽气自然如汤水直至脐下。初服气小便黄赤，勿恠怪也。心胸躁闷，亦勿惧。但心境不移，自合妙理。若不绝汤水，虽腹肠中滓尽，终不得洞晓是非。或若要绝水谷，只在自看任持，亦不量时限远近。亦有一月，亦有五十日，亦有百日者，三丹田自然相次停满。一月，下丹田满，六十日，中丹田满。九十日，上丹田满。下丹田气足，脏腑不饥。中丹田气满，体无虚羸。上丹田凝结，容貌充盛，三焦平实，永无所思，神凝体清，方鉴是非。下丹田满者，神气不泄；中丹田满者，行步超越；上丹田满者，容色殊绝。既三部充实，自然身安道泰，乃可栖心圣境，袭息胎仙。此为专气之妙门，求仙之捷径也。若或食或断，令人志散；好食诸味，难遣谷气。此二事者，习气之所疾，求仙之大病。《经》曰：咸美辛酸五脏病，津味入牙昏心境，致令六腑神气浊，百骸九窍不灵圣。人能坚守，禁绝嗜欲诸味者，九十日三丹田凝实；百日内观五脏；三百日鬼怪不藏形，阴神不敢欺；千日名书帝录，形入太微。必获寥天得真箬（凡飞炼上升，为下天仙官；存想无为气神，修三一之道，得上天仙官；若真子服胎息成者，得寥天升真箬，千乘万骑迎子，当获中天真尊），百日专精食气足（谓三丹田气足也。凡食气吞霞，言是休粮，盖非旦夕之功。先以德行护身，次以除阴贼嗔怒。此学道之志也。阴贼未息，三虫不除，或行非教之事，不复成矣。故《太微玄章》曰：除嗜欲，去贪嗔，安五脏，神足矣）。

食气玄微章第二（此章二十六句，一百八十二言）

食气玄微总五事（夫言玄微者，皆事理莫达，谓之玄妙。言五事者，但学绝粒，即魂魄变改，三尸动摇），大关之要莫能知（夫人内行未成，不知诸魔相违，谓言道法无效，盖不达真正理也。若是先具内行人，只服津液，由得不饥，况于服气乎）。元气初服力尚微（夫服气为有滓滞。至一七、二七已来，滓秽退出，渐觉体内虚弱，百节无力，但勿为惧。缘元气未达腹胃中，所以觉虚弱。但咽气，使渐通流，日胜一日。但当坚志守一，候下丹田满，顿无饥渴。假令未达，皮肤容色黄瘦，亦勿以为畏，后当悦怿矣。如不专志兼食，行即用气，无效也，亦爰数败。此亦为不具内行人即如此。有爱缘牵心，彼自使败），要子将心运守之（《太元经》曰：凡休粮诸门甚多，学道至近须九年以下。无成者唯有服气，坚守百日，禁诸汤水。子心不动，三尸自除，永无败矣。只为学者浮心未定，居二疑之端，使心神动摇，三尸齐起，百思既至，心迹难归。虽服气，易为退败里诚必不灵矣）。谷气未除子何别，气则难停而易泄（夫体服气，欲速达五脏，除汤药外，诸物禁断。四十九日，谷气自绝。若少食诸味，即难遣谷气。若要用气，使内藏分明，当服此元气。经五十日，百物不食，闭目内想脾藏中气从心起，散至四肢，仰卧祝曰：中央戊己，内藏元气，黄色力坚，运之可治。丹阳莫辞，朱阴共议。得达四支，黄云大起。每至五更鸡初鸣时常候，莫令参差。如此二十七日，内见脾藏中气郁郁如黄云，透过四支。后当使此气灭烛吹火。百步外便使之，如大风起，可以兴黄云闭彼形，人无见者。若不依五更初，及不能坚守，或则少一日，即无效矣。此中黄闭气法）。或即体弱而心虚，或即藏虚而力劣（用气未达四肢，当有虚弱之患，但志之勿为惧矣。《大洞经》云：守之如初，成道有余）。一者上虫居脑宫（《洞神玄诀》：上虫居上丹田脑、心也，其色白

而青，名彭居。使人好嗜欲、痴滞，学道之人宜禁制之。假令不绝五谷，常行此心，一年之外，上尸自终。人不知行，空绝五谷。若不绝贪欲，焉得虫终灭也。万端齐起摇子心，常思饮膳味无穷，想起心生若病容（学道者不得内行扶身，却为三虫所惑乱也）。二者中虫住明堂（《洞神玄诀》曰：中虫名彭质，其色白而黄，居中丹田。使人贪财好喜怒，浊乱真气，使三魂不居，七魄流闭。《洞玄经》曰：无喜无怒，中尸大惧；不贪不欲；和气常足；坐见元阳，万神来集）。遣子魂梦神飞扬，或香或美无定方，或进或退难守常，精神恍惚似猖狂，令子坐败食谷粮，子若知之道自昌（怡然不易，其道自成也）。三者下尸居腹胃（下尸，其色白而黑，居下丹田，名彭矫。使人爱衣服，耽酒好色。但学道之人心识内安，三尸自死，永无败矣）。令子淡泊常无味（若常守淡泊，三尸既亡，永无思虑矣）。静则心孤多感思，挠则心烦怒多起（服气未通，被三尸虫较力。或则多怒，或则多悲思，或则多嗜滋味）。使人邪乱失情理，子能守之三虫弃（《太上升玄经》曰：食气坚心，一月内一虫当死，二虫无托。人但能服气，志守三十日，上虫死；六十日，中虫死；九十日，下虫死；百日心不移，即体康神清，永永不败。若或食或断，令人志退，则无效也），得见五牙九真气（五牙，为五行气，生子五脏中。九真者，为九天之道也。此五脏成，还应九天，所以五脏之气名九天也。元气成，当自别得五行之气，驱使无所不通也）。

五牙咸恶章第三（此章六句，四十二言）

五牙咸恶辛酸味（若五味不绝，五脏灵气不生，终不断思欲之想。但令水谷除，何虑不生五气？五气既生，即五情自畅

；五脏既满，元气自凝；元气既凝，五神自见；五神既见，贱恶人间，何世累之所能牵也），为有三虫镇随子，尸鬼坐待汝身死，何得安然不惊畏（三尸之鬼常欲人早终，在于人身中，求人罪状，每至庚申日白于司命。若不惊不惧，不早修炼形神，制绝五谷，使年败气衰，形神枯悴，纵使志若松筠，亦复无成矣。一朝命绝，悔恨何及）？劝子将心舍烦事（服气人大要者，静持心神，止舍烦务。使三虫动而无效，神气行而有徵，自得五神获安，妙理潜达），超然自得烟霞志（能清能净，即自得志潜明，超然洞悟，烟霞之畅，在乎目前）。

烟霞净志章第四（此章四句，二十八言）

烟霞净志通神奥（若得水谷气除，自然诸脉通晓，五脏灵光生。纵舍自有深奥，故不可测也。灵光，神气也），令子坐知生死道（若能制绝诸味，百日后无不成矣。自得众灵潜伏。生死之路，备睹机械，天外阴司之道，常知矣）。蒸筋暴骨达诸关，握固潜通开百窍（谨案《胎息志理经》云：凡服气五十日后，假令未绝水谷气，遇日色晴明时景，朗曜景正午时，当于室宇内净软床席，散发于枕上，握固于两胁之傍，然后叩齿七通，端心瞑目，似觉微闷，即须用力握固，渐渐筋脉徐开，灵气潜通于骨肉之间，津液汗泽于皮肤之上，但当数数运用，自得颜色光悦，气力兼倍，发如新沐，髭若青丝。如不解闭气炼形，使用元气行通于毛发之间，自然每度鬢发跳踉。若不得此术，虽复休粮长生，有同瓦砾草木，无精光也）。

百窍关连章第五（此章四句，二十八言）

百窍关连总有神（百窍通于百穴，百穴通于百脉。眼上二穴通于肝，肝脉通于心，故心悲则泪发于脸间。腭上双穴通于鼻脉，鼻脉通于心脉，故心悲则鼻酸。鼻脉复通于脑脉，故脑热则鼻干。《洞神明藏经》云：百脉通流，百窍相望，百关相锁，百节相连。故一穴闭则百病生，一脉塞则百经乱。故服气无疾，诸脉常自通畅。道人不死，胃腹无物停留。鉴察吉凶，百神归集于体，寒热不近，元气调伏于身。毒物不干，五脏灵神固护，猛兽不转，土地常自卫持。隐现无难，骨肉合于玄化，即何虑不通于圣智也），由子驱除归我身（百关九节，皆神宅也。脏腑无邪气所生，即万神归集。邪气即谷气是也。若正气流行，所有疮痕点靨客气，自然消灭）。恬然得达自明真（故得洞鉴昭然，足辨邪正之类），自明真道永长存（致形神于不死之门，升子身于九天之上）。

长存之道章第六（此章四句，二十八言）

长存之道因专志（若不专不志，则难通于圣理也），返荷三魂知不死（气通之后，当即自荷形神，明不死之路也）。何物为冤七七里（服气滓尽后，绝水谷，最切者在四十九日。渐渐当百脉洞达，返照如烛，俗心顿舍，五脏恬和。若不能坚持，前功并弃），坚然慎守咸酸味（少食诸味，难遣谷气）。

咸美辛酸章第七（此章十句，七十言）

咸美辛酸五脏病，津味入牙昏心境（但是五味入牙，皆通于两眼之穴，散沾于百脉之内，使谷气坚实，藏腹停留。若求速达，请卓然断绝也）。致令六腑神气衰，百骸九窍不灵圣（

为神气不凝于丹田之中，灵光不照于脏腑之内）。子能慎守十旬终，诸脉洞然若明镜（使功满十旬，神气自当凝实，灵光炫耀如烛，无不洞达）。六腑明神不隐藏，与子言语说心境。（五脏神自见也）。滞子神功去路难，大都谷实偏为病（若谷气不除，即不见幽玄至理也）。

谷实精华章第八（此章六句，四十二言）

谷实精华与灵隔，缠罗六腑昏诸脉（谷气精华化为涎膜，缠罗五脏六腑、关节筋脉，故不可知。但是服气人经五六十日后，见肠胃中滓尽，将谓更无别物，不知谷气精华殊未出也。所以有思食虑散之意，反使情切心悬，不可堪忍，亦为尸鬼所祸也。自后但有物如脓如血，或若坏脂，或若鸡鸭粪，此乃谷气欲出，有此状也。后更三二十日，又有异物如涎如膜，此则谷实精华之状也。若先曾兼食服气，或断或绝，经历岁余，一旦顿绝，还校便成。若无此物，亦不怪也。但无谷气，则诸脉洞达，反照如烛。《大洞经》云：初服气，人亦觉肠中滓尽，又见所食汤水，旋于肠中出，谓腹内更无别物，不知谷气未出也。谷气若尽，想更有何所思？形神如归，豁然安泰，情无虑思，寂寞瘦弱等患疾亦何惧？退败不进之忧必审而思之，无得退也。若能顿绝汤水，得三十日已来，却退不能坚持，即若穿井及纆，见水而不取也。一何痛也！）元神不返欲何依？子心未达焉能测（谷气未除于脏腑之间，神气不守于丹田之内，故道者昧然无知神功在近也）？可惜玄宫十二楼，那知返作三虫宅（若不修炼形神，身上宫室皆为三虫之窟宅）。

三虫宅居章第九（此章四句，二十八言）

三虫宅居三部里（此虫常在三丹田内）。子能运用何忧死（但依圣人之言，用心修行，何殃累之所及也）？漂然郁郁常居此（元气常引内气周流身中，即却复丹田之内也），自辩元和九仙气（谷气尽，即自辨识元气也）。

九仙真气章第十（此章十二句，八十四言）

九仙真气常自灵，三虫已死复安宁（《大洞元经》曰：三虫亡，神气昌。内照五脏中气，使之如神，若居世游隐法，具在《胎息章》中说）。由子运动呼吸生（神气若足，呼吸运动，兴起云雾，自然得成，隐化无滞）。居在丹田内荧荧（服气成者，居在丹田中，凝结若鸡子，炳焕如烛，光照数里，内无不见，是为三丹田气，自然如此也），筋骨康强体和平（《三光经》曰：炼髓如霜，换骨如刚。服之千日，力倍于常。后能日驰千里，奔马不及也）。心识怡然自畅情，思逸神高心彩明（食气成者，心神常自畅悦。情高思逸，弃贱人间也）。却闻五味觉膻腥（观五味，见滓败。示五香，闻腥坏。寻苗见根，故有是闻，自然如此。为天气达也，俱有此见）。肌肤坚白筋骸清（《胎息章》中自有炼骨法，具载也）。地府除籍天录名，坐察阴司役神明，内合胎仙道自成（入胎息至五百息，当入异境。地籍除名，三天录仙。至千息，魂游上境）。

胎息真仙章第十一（此章四句，二十八言）

胎息真仙食气得，却闭真气成胎息（服气二百日，五脏虚

疏，方可学入胎息。准《九天五神经》云：先须密室无风，厚软毡席，枕高四指，才与身平。求一志人，同心为道侣。然后捐舍心识，握固仰卧。情无所得，物无所牵。灵气渐开，心识怡然。初闭息，经十息至五十息、至百息，只觉身从一处，如在一房中。只要心不动移，凡一日一夜十二时，都一万三千五百息。故《太微升玄经》云：气绝曰死，气闭曰仙；魄留守身，魂游上天。至百息后，魂神当见。其魄缘是阴神，常不欲人生。其神七人，衣黑衣，戴黑冠，秉黑玺。《洞神经》曰：为之玄母。此神是阴尸之主。若见此神，子当谨心存念，祝曰：玄母玄母，吾尸之主。长骨养筋，莫离尸户。吾与魂父，同游天去。次当见魂父，三人各长一尺五寸，衣朱衣，戴朱冠，秉朱玺。当引上元宫诸脑神百余人出。子当身见三丹田中，元气如白云，光照洞达。当呼三魂名：一曰爽灵，二曰胎光，三曰幽精。得此三魂，阳神领脑宫神引子元神游于上天。初出之时，只觉身从一黑房中出，当见种种鬼神形容：或伟大者数丈，或微小者如燕雀，或披发若乱蓬，或开眼如张电，为上界道路，皆是鬼神之过路。子但安心，无生惧意，亦须得良伴相助。缘元气上与魂神相应，若有惧心，元气当自口鼻出，即子身不得去也。但一夕之中，令傍人自记喘息数。至息已，子当与三元神同游上界也。其道当成，以后即不得微有泄漏。大慎大慎！但不顾于物，鬼神伏德。羽服彩霞何所得？皆自五脏生云翼（后炼形上升，自成五色羽衣。《中天羽经》曰：轻轻状蝉翼，璨璨光何极。蝉为饮气乘露，故生羽翼。人服元气，而天衣不碍于体，即可知也）。

五脏真气章第十二（此章十四句，九十八言）

五脏真气芝苗英（《太华受经》曰：元气含化，布成六根。吉凶受用，应行相从。内气为识，胎气为神。子能胎息，复还童婴。反魂五脏之始，先布于水。内有六腑，外应六根），肝主东方其色青（《太明五纬经》曰：肝主于木，生于水，克之于土。来自东方，其色苍，受之于阳。潜伏此气，千息生光。但常用气，未至胎息。当存想青气出之于左肋，但六时思之不辍。自子时常隔一时，至五十日，当见此气如青云。用此气可治一切人热疾、时行臃肿、疥癣、急瘦。但观前人疾状，量其浅深，想此气攻之，无不愈差。如观前人肝色枯悴，不可治也）。子但闭固千息经，青气周流色自成（胎息经：千息为内养，此气青色，当自凝结）。心主南方其色赤，伏之千息赤色出（《太明五纬经》曰：心主于火，生之于木，克之于金。来自南方，其色赤光，受之于朱阳，为夏天也。潜伏千息，当出心堂。常服气，未至胎息。每日午时，想赤气在心，大如鸡子，渐渐自顶而出自散。咒曰：南方丙丁，赤龙居停。阴神避位，阳官下迎。思之必至，用之必灵。自此三咒之，能常行此气，存想五十日不阙，当有赤气如火光自见。用此气可治人一切冷病。当用气攻前人病时，其人面色带青即不治，阴气不可治。凡存神气法，并不欲得遣人知）。肺主西方其色白，服之千息白色极（《太明五纬经》云：肺主于金，生之于水，克之于木。来自西方，其色白，澄净微芒。功达千息，光彻洋洋。常服，每至丑时，存想肺间有气，状如白珠，其光渐渐上注于眉间，后乃咒曰：西方庚辛，太微玄真。内应六腑，化为肺神。见于无上，游于丹田。固护我命，用之成仙。急急如律令！存念一遍，如此四十九日，肺中有气如白云自见。此气照地下一切宝物，及察人善恶，示表知里。如不行存想五气法，服气三年，方见五脏内事。此缘不具真行，使用不辨相克相生。如寒用心气，

缘是火气。如热用肾气，缘是水气。不辨用气，即无效也。《九气经》中亦不言气法，寥廓尚秘，况是人间也？）脾主中央其色黄，服之千息黄色昌（《太明五纬经》云：脾主于土，生之于火，克之于水。来自中方，其色黄。闭气千息，不敢伏藏。存想黄气，但一日一想，不限时节，亦无咒。其脾藏存之四十九日，自见此气，已后能用，可将身入墙壁，人尽不见）。肾主北方其色黑，服之千息黑色得（《太明五纬经》曰：肾主于水，生之于金，克之于火。来自北方，其色黑，微芒。伏之下元，主持命房。内有真白，守之不忘。此五脏神气，但至五更初，各存想气色都出于顶上讫，即止。亦不假一一别存想，兼不用咒亦得，只是较迟，满百日方有效验也）。驱役万灵自有则（服气心志正，兼行内行，内外相扶。一年后，应是人间鬼怪、精魅、及土地神祇，并不敢藏隐。所到去处，地界神祇先出拜跪，常随卫道者。阴司六籍，善恶具知，然亦不可便将驱使，缘未具三天真篆，虑有损折。若入胎息得升身诀，且要游人间，但依此经尸解法，然可游世，即无遮碍。不尔，未可忘道。若不务此术，但务化人矣，自他俱利）。乘服彩霞归太极（《胎息伏阴经》曰：内息无名，唯行想成。若不行戒行入胎息，未得合神。《太微灵隐书》曰：凡人入胎息，游人间，行尸解术，随物所化，故有托衣衾所化者。常以庚辛日取庚时，于一净室内焚名香一炉，于所卧床头兼须设机案，上著香炉，下著所拄者龙杖及履鞋等物，尽安置于头边。身衣不解，以衾盖之，首西而卧。自念身作死人，当阴念此咒七遍，咒曰：太一玄冥，受生白云。七思七召，三魂随迎。代余之身，掩余之形。形随物化，应化而成。急急如律令！此存念一食间，但依寻常睡。如当存念之，起一食久，辄不得与人语，若与人语，其法不成。如此常行四十九日，渐渐法成。后要作，不问行住坐卧，阴念

此咒七遍，随手捉物，身便别处去。众人只见所把之物，身将以死矣。后却见物还归本形。此法即可以下界助身，不可以便行非法之事。大须护慎其法，大须隐默。若卧在床上，但以被覆身，隐念一遍，便却出入，只见所卧衾被是身，不见被形。若于财色留心，当为神理销折矣）。

太极真宫章第十三（此章七句，六十三言）

太极真宫住碧空，绛阙崇台一万重，玉楼相行列危峰（上界宫馆，生于窈冥，皆有五色之气而结成。下界土地，皆是水气横凝扶住，故不得自在，不得坚长，不得平正。上界以八珍为土地，七宝为用器。至于宫殿，七珍合成，有自然不运之力，无人功兴动之用。上界以七珍精气为日月，下界以阴阳纯气为日月。下界言一年三百六十日，是上界一日十二时也。《太黄经》曰：不食土地精，生居太一城。为形神俱得去也）。瑶殿荧光彩翠浓（为七珍翠彩灿烂，光彻内外无隐碍。千阁万楼，互相影对，太仙真人犹居此外也）。红云紫气常雍容，玉壁金梁内玲珑（《玄宫玉堂经》曰：白玉为壁，黄金为梁，青珊为架，红璧为床。进以九霄之膳，酌以八琼之浆）。凤舞鸾歌游咏中（上界有天凤舞鸾霄之歌，并是曲名也）。玉饌金浆意任从（《九宴玄厨经》曰：一日十进九霄之膳，七献八琼之浆，一日十进食，八献酒）。九气真仙位列崇（胎息得列九真上仙）。

九气真仙章第十四（此章十句，七十言）

九气真仙衣锦衣，绡縠云裳蝉带垂（真君衣琼文锦、蝉縠

之衣也)。天冠摇响韵参差(冠摇众佩,响韵五音,为自然也)。九文花履锦星奇(九文锦为履,其花零乱如众星钻壁也)。却佩霓裳朝太仪(霓服,仙官朝裳。人初得仙,皆朝太仪真君九天主也)。十方彩女执旌麾,百灵引驾玉童随,前有龙幡后虎旗(前朱雀,后玄武,左青龙,右白虎。皆是百灵之数)。羽服飘幹八气吹(八气,八方正气,先治道路也)。更上寥天入太微(太微都在第五天,金星轮朱华宫,亦太微,管下界生死籍部。每四时八节,申籍奏闻上界太微。凡此官吏,有四十万众大数)。

太微玄宫章第十五(此章八句,五十六言)

太微直上寥天界,动静风调鸣竽籁(太微上界所有风摇,皆如笙竽之韵,如极乐之所,自然如此也)。殿阁穹崇何杳隗(香隗,谓虚峻极也。殿阁重数甚多,横壮尤丽也)。寿永衣轻人体大,九天各各皆相倍(九天羽服仪仗,各各相次加倍。羽衣转轻,人体转大。彩翠鲜华,日月转迈长远也)。是为因心得自在(因心运身,得出三界)。静理修真为圣人,九行门空列章戴(夫九行者,道人之窟宅,动息住持,不离其内。一者以慈愍为衣,二者以止舍为食,三者以正心为乘,四者以专志为才,五者以谦下为床,六者以顺义为器,七者以勤惠为屋,八者以修空为宅,九者以阴施为业。修道之子,不持此九行,去道疏矣)。

九行空门章第十六(此章十二句,八十四言)

九行空门至真路,大道不与人争怒,动息能持勿暂停,阴

神返照神常助（持心不息，其道易成）。诸行无心是实心，因心运得归天去（无心之心，因心运心；虽无有心，还因心有）。除苟无心是谓真（众事曰苟，无事曰除，除心止念，万行归余），自随胎息入天门（胎息以善行为要机，无念为至路）。玄元正理内藏身，无曲潜形体合真（《洞玄经》曰：心无曲，万神足）。三部清虚元气固，六腑翻成百万神（三元静，六腑调，真气归于真行，二理相合。五脏六腑诸神，共有百万，自然相和应也）。

六腑万神章第十七（此章十句，七十言）

六腑万神恒有常（五脏六腑，百关九节，有神百万，若日常清净修之，即当自见），元和净治谷实尽（但以元气攻运，何谷气之不去）？大肠之府主肺堂（肺为首三焦之主），中有元神内隐藏（脏腑既净，万神自藏。故《太明经》曰：大肠主肺也。鼻柱中央为候色也。重十二两，长一丈二尺，广八寸，在脐左边，曲叠积一十二盘。贮水谷一斗二升。主十二时。内有神，各具本色衣冠十二人。若除水谷气尽，元气自足，其神当见。各据本时，递相更直，以卫修道之子也）。肾府当明内宫女，外应耳宅为门户（《内神经》曰：精主肾，肾为后宫。内宫列女耳。肾之官承气于耳。左肾为壬，右肾为癸，循环两耳门中。有神五百人，内有元神，守自都管兼主志。凡人好嗔怒，即伤肾。肾伤即失志，俱丧元神。故道者忌嗔怒，道成，内神常见于人当卫道者也）。膀胱两府合津门，气海循环为要路（膀胱是两府气。肾合膀胱，乃受津之府，上应于舌根也。津液往来，常润肥泽舌岸，以应两膀胱气。若少不润，服气人未成，当欲少语，以养津也。语多即口干，口干难用气也。中

有神三百六十人，以应一年之数，气成当见。其神常抱无贪之行，故道者不贪，志合神理。《大洞升玄经》曰：行合神见，道成归天。此神人，行胎息即自出，常护卫人近道者也。子当得见内神章，终身不泄神常助。

勿泄天神章第十八（此章八句，五十六言）

勿泄天神子存志（终始不泄，天神助子）。凡是天章勿轻示，三十三篇世绝知，况复《中黄》秘中秘（道有《胎光经》三十三篇，禁绝不许妄传泄，况兹中黄灵句，秘之特重，慎之慎之！）先礼三真玉仙使，然后精心睹文字（《教令科》云：欲开示三真等经，先须择甲子日，净室烧香，心存南华真人，念三天真君同开作证。首东作礼四拜，然后云：某为求道，辄开九天大圣真文，传示一遍。故得百灵同助，身归太无，名入天户。不得示三人，切忌容易泄漏。若不依经教妄开示，如睹常文必有殃，责非浅，莫轻慢！）违教身罹非命殃，子孙受祸当须忌（余殃明罚，世世子孙受祸。大忌大忌）！

卷十四 三洞经教部·经五

黄庭遁甲缘身经

道言昔于蕊珠宫中，听黄庭妙义、《大道琴心灵篇》内固变化之道。人之受生，分灵道气，含和阴阳。逐恋声色，为滋味所惑，为奢淫所诱，亡失正念，虚度壮年。焉知动静出处，当依教修习，履历妙行，以辅养其神，则身安静，万灾不干，邪魔不挠。存念善道，远离恶道，往来出入，当呼今日日神姓名字云：某送我去来。如是呼之，乃行其道，直日神与人同行神道，众恶不干，能却百鬼，不逢恶毒。又奏表上谒贵人，皆书符持怀中，三呼“直日之神，与我同行！”入疾病家、死生家，置符于怀中，遇阴日右畔，阳日左边。若入山林避难者，三叩齿，直呼之神名字。并呼甲申神，山中鬼魅、狼虎之类，尽皆迸走。若辟除恶神鬼者，书六甲六乙符持行，并呼甲寅神，鬼皆散走。若入军阵辟兵，即书六丙六丁符，并呼其神姓名，仍呼甲午神名，兵刃不伤。若欲辟火者，书六壬六癸符，并呼其神，又呼甲子神姓名字云：与我同行！即不被烧热。若欲避水难者，书六戊六己符，并呼甲戌神，即免水溺。若县官口舌，书六庚六辛符，并呼其神姓名，又呼甲辰神，官符口舌悉皆解散。已上所言，书符带之，秘之勿传。假令甲子神姓王字文卿，

王自是姓，文卿是字。至癸亥他皆仿此。从神计八百七人，每日有一神当直。人能每日清旦，三叩齿，诵直日之神名云：某君为直日，与我俱行，使我所在，咸亨利贞！又每日三叩齿，诵本命神，须食之物，宜与本命神契，尤加福寿。更能于本命日，与本命神作大福利，吉庆尤甚。“某乞左青龙孟章甲寅，右白虎监兵甲申，头上朱雀陵光甲午，足下玄武执明甲子，月为贵人入中央。”右此一首，常密念之令熟，勿令出声，不要他人知。若有县官，或有殃害之气，军阵险难之处，及入他国未习水土，或遇疫病辰日，数数存念之。或入孝家临尸见丧，亦入门一步诵一遍，叩齿三下，当诵三遍。此我法也。来日平觉，便念四海神名：

东海神名阿明，西海神名祝良，
南海神名巨乘，北海神名禺强。
四海大神辟百鬼，荡凶灾，急急如律令！

《黄庭内景秘要六甲缘身经》曰：若人卒得疾，及痲癰、恶气、飞尸、百毒、恶梦之属，便闭气诵甲午至戊戌止，留气在上斗中。上斗中者，在两乳间也。闭气暗诵甲午至戊戌十遍，然后吐气，又诵甲子至戊辰止，留气在下斗中。下斗中气暗诵甲午至戊戌十遍，然后吐气，又诵甲子至戊辰止，留气在下斗中。下斗中者，脐中也。亦暗诵十遍，然后吐气，以治建八尺之质，含万有之躯。外有四支、九窍，内有五脏、六腑，各有神主，精稟金火，气谐水木（五脏者，是五神之府，含生之器。神欲安，气欲宽，导养之妙）。

火则躁而礼，金则勇而义。躁与勇，义与礼，阴阳之数也。长阴则杀，长阳则生，生杀之数也。故抑躁行礼义则生，长勇

罢礼义则死。外行礼义，内安脾胆，导养之秘也。以忠孝为先，不识其原，伤生之道。然知其本灵秘之术，若能安其神，炼其形，摄生得气，归正背伪，出其恍惚，入其玄妙，辨补写之理，诞延育之方，可升仙矣。子龟镜焉，道在其中也。黄帝敬受灵诀，专精行之，未逾一纪而神猷先鉴，行气使心，精步逾玄，含灵契理，入水不溺，入火不焚，气运于内，神应于外，岂非至真哉！谨具五脏玉轴图于后。

肺脏图

治肺当用呬。呬为泻，吸为补。夫肺者，兑之气，金之精，其色白，其象如悬磬，其神如白狩。肺主魄，魄化为玉童，长七寸，持仗往来于肺脏。其神多怒者，盖发于肺脏也。欲安其魄而存其形者，则当收思敛欲，含仁育义，不怒其怒，不声其声，息其生则含乎太和。肺合于大肠，上主于鼻。故人之肺有风则鼻塞也。色枯者，肺干也。人鼻痒者，肺有虫也。人之多怖者，魄离于肺也。人之体生白点者，肺微也。人之多声者，肺强也。人之不耐寒者，肺劳也。好食辛者，肺不足也。颜色鲜白者，肺无他恶也。人大肠鸣者，肺气壅也。夫肺主商，肺有疾当用呬。呬，肺之气也。其气义，则瘳疾，义以安神。人有怨怒填塞胸臆者，则呬而泄之，盖自然之理也。向若不呬，必致伤败。获呬而获生乎！故病用呬耳。夫人无苦，用呬者不祥也。夫肺处七宫惊门，主信，使人方正平直，习武先忠，则魄安形全也。且肺者，秋之用事。秋三月，天地气明，肃杀万物，雀卧鸡起，用安至精，公施抑怒改息，两相形长，秋之道也，逆之则伤肺。常以七月、八月、九月望旭旦，西面平坐，鸣天鼓七，饮玉浆三，然后瞑目，吸兑宫白气，入口吞之，以

补咽之损。肺以正白之用，以致玉童饯，则神安思强，气全兆体，百邪不能殃之，兵刃不能害之，延年益寿，名飞仙耳。盖所谓补写神气，安息灵魂之所致哉。

心脏图

治心当用呵。呵为写，吸为补。夫心者，离之气，火之精，其色赤，其象如莲花，其神如朱雀。心主神，化为玉女，身长八寸，持玉英，出入于心府也。其神躁而无准，人之暴急者，盖发于心脏也。欲安其神而全其形者，则全忠履孝，辅义安仁，止其风，静其急，自其炽，澄其神，而全其形，则合中和也。心合乎小肠，主其血脉，上于舌。人之血壅者，心惊也。舌不知味者，心亏也。上智者，心有七孔，中智五孔，下智三孔，明达者，心有二孔，寻常者有一孔，愚痴者无孔也。多忘者，心神离也。好食苦者，心不足也。多悲者，心伤也。重应者，心乱也。面青黑者，心冰也。容色赤者，心无他恶也。夫心主徵，心有疾当用呵。呵者，心气也。理其气体，呵能静其心而和其神，所以人之心乱者则多呵，盖天全之候也，人皆为而不知哉！向若不呵，当致愤怒者也。故心疾用呵，除邪气也。夫心处九宫惊门，主智，使人乐善好施，恭孝以修仁，则心和而形全也。且夫心者，夏之用事也，天地气交，万物华结，亥寝丑起，无厌于养。英成实长，夏之德也，逆之则伤心。常以四月、五月、六月弦朔清旦，南面端坐，叩金梁九，漱玄泉三，静思想，吸离宫之赤气，入口三吞之，以补呵之损，植其灵府，开心穴，饵离火，濯玉女，神平体安，众殃不害，金火不能伤，治神之灵也。

肝脏图

治肝当用嘘。嘘为泻，吸为补。夫肝者，震之气，水之精，其色青，其象如悬匏。肝主魂，其神如龙，化为二玉女、玉童，一青衣，一黄衣，各长七寸；一负龙，一持玉浆，出入于肝脏也。其神好仁，人之行惠者，盖发于肝也。欲安其魂而延其龄者，则当泽被刍棘，恩覃庶类，而后全其生，则合乎太清者也。肝合于胆，上主于目。肝盛则目赤。又主于筋，肝亏则筋急。皮枯者，肝热也。肌肉黑黯者，肝风也。好食醋味者，肝不足也。色青者，肝盛也。手足汗者，肝无他恶也。毛发枯者，肝伤也。夫肝主角，故肝有疾者，当用嘘。嘘者，肝之气也。其气仁也，故除毁痛。人之有伤痛者，则嘘之以止痛，皆自然之验也，岂不以为灵哉？此之至理也，通玄之道。且肝之主春，春之用事。春三月，天地气生万物，花叶繁茂，人及刍萌，顺阳之道也，逆之伤肝也。伤之则毛骨不荣也。常以正月、二月、三月寅时东向平坐，叩齿三通，闭气七息，吸震宫之青气三吞之，补嘘之损，以享青帝之祀，以致二童之饌。木精乘王，则肝欢寡忧，精之妙也。

脾脏图

治脾当用呼。呼为泻，吸为补。夫脾者，坤之气，土之精，其色黄，状如覆盆。脾主意，其神如凤。化为玉女，长六寸，循环于脾脏也。其神多嫉妒。人之疾妒，盖起于脾脏也。土无正形，故妒之无准也。妇人则妒剧者，乘阴气也。欲安其神，则当去欲寡色，少思屏虑，长其土德而后全其生也。脾合乎太

阴，脾连胃，上主于口，消谷之腑，如磨之转，化生而入熟也。食不消者，脾不转也，食坚硬之物，磨之不化也。人不欲食讫便卧，其脾则侧，侧则不转，食坚物，生食不化，则为宿食之患也。故食不调则伤脾，脾藏不调则伤质，质神俱损，则伤人之速，故人之不欲食生硬坚涩之物，全人之道也。人不欲食，为脾中有不化食也。多惑者，脾识不安也。多食者，脾虚也。食不下者，脾塞也。无颜色者，脾伤也。好食甘者，脾不足也。颜色鲜滑者，脾无他恶也。夫脾主于中宫土也，故脾之有疾当用呼。呼者能引脾疾，故人之中热者，呼之以驱热温之弊也。向若不呼，则热气拥于内，阴气息于外，致愤闷之患，形何从而安哉？夫脾位寄于土宫，宫主义也。使人宽舒广大，屈己济人以利，不争者也。且脾之无正形，寄王四季，随六气助成万物。脾育肠胃，义之道也。不以自专为德，不以物竞为功，长坤之理，逆之则伤脾。常以四季月末十八日旭旦，正坐中宫，禁气五息，鸣天鼓七，吸土宫之黄气，入口五吞之，补呼之损，饮玉醴以致神之和，以补于脾，以佐神气，则入山不畏虎狼，登险不惧颠蹶者，行气之精也。

肾脏图

治肾当用吹。吹为泻，吸为补。夫肾者，阴之精，坎之气，其色黑，其象如圆石，其神如白鹿，两头化为玉童，长一尺，出入于肾脏。其神和也，人之柔顺者，盖发于肾脏也。欲安其神，则当仁德平广，膏润万物，长其精，顺其志，而后全其生形，则合乎太清者也。肾合于骨，上主于齿。齿痛者，肾伤也。又主于耳，人之骨痛者，肾虚也。耳不闻声者，肾亏也。齿多楚者，肾虚也。齿黑<齿肖>者，肾风也。耳痛者，肾气壅也。

腰不伸者，肾冰也。色黄者，肾衰也。容色紫光者，肾无他恶也。骨鸣者，肾羸也。夫肾主羽，人之有疾当用吹。吹者肾之气，能瘳肾之疾，故人之积气冲臆者，则强吹也。肾气沉滞，吹彻则通。且肾者冬之用事，三月乾坤气闭，万物伏藏，戌寝寅起，与玄阴并，外阴内阳以养骨齿，以治其神，逆之则伤肾。常以十月、十一月、十二月，面北平坐，鸣金梁七，饮玉泉三，吸玄宫之黑气，入口九吞之，以补吹之损，以符呦鹿呦鹿：《诗·小雅·鹿鸣》有“呦呦鹿鸣”句，该诗旨为欢宴嘉宾。之词，以致玉童之饌。益肾气，神和体安，则群妖莫害，可致长生之道矣。

胆脏图

以前名五脏，加胆名六腑。胆亦受水气，与坎同道。胆有疾，当用嘻。嘻为泻，吸为补。图形已附在肝脏。夫胆者，金之精，水之气，其色青，其象如悬瓠，其神龟蛇，化为玉童，长一尺，戟其手，奔驰于胆。其神勇，人之勇决者，盖发于胆脏也。欲安其神，当息忿寝争，与仁辅义，其后全生也。胆合于膀胱，上主于毛发。毛发枯者，胆损也。发燥者，胆有风也。无惧者，胆洪大也。颜貌青光者，胆无他恶也。爪甲干者，胆亏也。毛焦者，胆热也。无事泪出者，胆劳也。好酸者，胆不足也。夫胆寄于坎宫，使人观智慕善，并邪去佞绝奸，治方直也。且胆者，生于金，金主于武，故多勇，且抑之大吉。夫胆乘阴之气，秉金之精，故主于杀。杀则悲，故人之悲者，金生于水，目中坠泪也。夫心主火，胆主水，火主辛，水主苦，所以人有弊者，即言辛苦。故为水火二气相背，则火得水而煎，阴阳交争，水胜于火，故目泪出，泪流也。苦而出，故曰泪。

夫悲啼号泣，其声称苦者，为泪出于胆，而以苦为词也。胆，水也，而主于阴；目，明也，而主于阳。阴从阳，故从目出。常以孟月，端居正北，思吸玄宫之黑气，入口九吞之，以补嗜之损，以食龟蛇之味，饮玉童之浆，然后神治体和，颠不能犯，邪莫之向，胆气所致也。

岐伯曰：夫人之受天地之元气生。气之来也谓之精，精之媾也谓之灵，灵之变也谓之神，神之化也谓之魂，随魂往来谓之识，并精出入谓之魄，管主精魄谓之心，心有所从谓之情，情有所属谓之意，意有所指谓之志，志有所忆谓之思，思而远慕谓之虑，虑而用事谓之智。智者，乃识见者也，盖精神、魂魄、意志、思虑、情智、见识之所用也。

抱朴子曰：一人之身含天地之象。具在身矣。则胸胁为宫室，四支为郊境，头圆象天，足方象地，左目为日，右目为月。发为星辰，齿为金玉。大肠为江河，小肠为川渚。两乳、脐、膝为五岳，肝、肾、脾、肺、心为五行。故修道者常理之，若不修辑，必致毁败。营卫不通，血气不流，齿发不坚，五脏不调，则倾化随及。故至人修其未毁，治其无疾也。

卷十五 三洞经教部·经六

黄帝阴符经叙

《阴符》自黄帝有之，盖圣人体天用道之机也。《经》曰：得机者万变而愈盛，以至于王；失机者万变而愈衰，以至于亡。厥后伊吕得其未分，犹足以拯生灵，况圣人乎？其文简，其义玄。凡有先圣数家注解，互相隐显。后学难精，虽有所主者，若登天无阶耳。近代李筌，假托妖巫，妄为注述，徒参人事，殊紊至源。不惭窥管之微，辄呈酌海之见。使小人窃窥，自谓得天机也。悲哉！臣固愚昧，尝谓不然。朝愿闻道，夕死无悔。偶于道经藏中得《阴符传》，不知何代人制也。词理玄邈，如契自然。臣遂编之，附而入注。冀将来之君子，不失道旨。

黄帝阴符经 张果注解

经曰：观天之道，执天之行，尽矣（观自然之道，无所观也。不观之以目，而观之以心。心深微而无所不见，故能照自

然之性。性惟深微而能照，其斯谓之“阴”。执自然之行，无所执也。故不执之以手，而执之以机。机变通而无所系，故能契自然之理。夫惟变通而能契，斯谓之“符”。照之以心，契之以机，而“阴符”之义尽矣。李筌以“阴”为“暗”，“符”为“合”，以此文为序首，何昧之至也）。故天有五贼，见之者昌（五贼者，命、物、时、功、神也。传曰：圣人之理，图大而不顾其细，体瑜而不掩其瑕。故居夷则遵道布德以化之，履险则用权发机以拯之。务在匡天地，谋在济人伦。于是用大义除天下之害，用大仁兴天下之利，用至正措天下之枉，用至公平天下之私，故反经合道之谋，其名有五，圣人禅之，乃谓之贼；天下赖之，则谓之德。故贼天之命，人知其天而不知其贼，黄帝所以代炎帝也。贼天之物，人知其天而不知其贼，帝尧所以代帝挚也。贼天之时，人知其天而不知其贼，帝舜所以代帝尧也。贼天之功，人知其天而不知其贼，大禹所以代帝舜也。贼天之神，人知其天而不知其贼，殷汤所以革夏命也。周武所以革殷命也。故见之者昌，自然而昌也。太公以贼命为用味，以取其喻也。李筌不悟，以黄帝贼少女之命，白日上腾为非也）。五贼在乎心，施行在乎天；宇宙在乎手，万化生乎身（《传》曰：其立德明，其用机妙，发之于内，见之于外而已矣。岂称兵革以作寇乱哉？见其机而执之，虽宇宙之大，不离乎掌握，况其小者乎？知其神而体之，虽万物之众，不能出其胸臆，况其寡者乎？自然造化之力而我有之，不亦盛乎？不亦大乎？李筌等以五贼为五味，顺之可以神仙不死。诬道之甚也）。天性，人也；人心，机也。立天之道以定人也（《传》曰：人谓天性，机谓人心。人性本自玄合，故圣人能体五贼也）。天发杀机，龙蛇起陆；人发杀机，天地反覆（《传》曰：天机张而不生，天机驰而不死。天有驰张，用有否臧。张则杀威行，驰

则杀威亡。人之机亦然。天以气为威，人以德为机。秋冬阴气严凝，天之张杀机也，故龙蛇畏而蛰伏。冬谢春来，阴退阳长，天之弛杀机也，故龙蛇悦而振起。天有寒暄，德亦有寒暄。德刑整肃，君之张杀机也，故以下畏而服从。德失刑偏，君之弛杀机也，故奸雄悦而驰骋。位有尊卑，象乎天地，故曰：天发杀机，龙蛇起陆，寇乱所由作；人发杀机，天地反覆，尊卑由是革也。太公、诸葛亮等以杀人过万，大风暴起，昼若暝。以为天地反覆，其失甚矣。天人合德，万变定基（《传》曰：天以祸福之机运于上，君以利害之机动于下，故有德者万变而愈盛，以至于王；无德者万化而愈衰，以至于亡。故曰天人合德，万变定基。自然而然也）。性有巧拙，可以伏藏（《传》曰：圣人之性，巧于用智，拙于用力。居穷行险，则谋道以济之；对强与明，则伏义以退避之。理国必以是，用师亦以是）。九窍之邪，在乎三要，可以动静（《传》曰：九窍之用，三要为机。三要者，机、情、性也。机之则无不安；情之则无不邪；性之则无不正。故圣人动以伏其情，静以常其性，乐以定其机。小人反此，故下文云：太公为三要，为耳、目、口。李筌为心，神、志，皆忘机也。俱失《阴符》之正意）。火生于木，祸发必克；奸生于国，时动必溃。知之修炼，谓之圣人（《传》曰：夫木性静，动而生火，不觉火盛，而焚其质。由人之性静，动而生奸，不觉奸成而乱其国。夫明者见彼之隙以设其机，智者知彼之病以圆其利，则天下之人，彼愚而我圣。是以生者自谓得其生，死者自谓得其死，无为无不为，得道之理也。天生天杀，道之理也）。天地，万物之盗；万物，人之盗；人，万物之盗。三盗既宜，三才既安（《传》曰：天地以阴阳之气化为万物，万物不知其盗。万物以美恶之味飧人，人不知其盗。人以利害之谩制万物，万物不知其盗。三盗玄合于人心，三才

静顺于天理。有若时然后食，终身无不愈；机然后动，庶类无不安。食不得其时，动不得其机，殆至灭亡）。故曰食其时，百骸治；动其机，万化安。人知其神而神，不知其神所以神也（《传》曰：时人不知其盗之为盗，只谓神之能神。《鬼谷子》曰：彼此不觉谓之神。盖用微之功著矣。李筌不知此文意通三盗，别以圣人、愚人为喻，何甚谬也）。日月有数，大小有定，圣功生焉，神明出焉（《传》曰：日月有准，运数也；大小有定，君臣也。观天之时，察人之事，执人之机，如是则圣得以功，神得以明。心冥理合，安之善也。筌以度数为日月，以余分为大小，以神气能生圣功神明，错谬之甚也）。其盗机也，天下莫能见，莫能知也。君子得之固躬，小人得之轻命（《传》曰：其盗微而动，所施甚明博，所行极玄妙。君子用之，达则兼济天下，太公其人也。穷则独善一身，夫子其人也。岂非择利之能审乎？小人用之，则惑名而失其身，大夫种之谓欤？得利而亡义，李斯之谓欤？岂非信道之不笃焉）？瞽者善听，聋者善视。绝利一源，用师十倍。三返昼夜，用师万倍（《传》曰：瞽者善于听，忘色审声，所以致其聪。聋者善于视，遗耳专目，所以致其明。故能十众之功。一昼之中三而行之，所以至也。一夜之中三而思之，所以精也。故能用万众之人。李筌不知师是众，以为兵师，误也）。心生于物，死于物，机在于目（《传》曰：心有爱恶之情，物有否臧之用。目视而察之于外，心应而度之于内。善则从而行之，否则违而止之，所以劝善而惩恶也。筌以项羽昧机，心生于物；以符坚见机，心死于物。殊不知有否臧之用）。天之无恩而大恩生，迅雷烈风莫不蠢然（《传》曰：天以凶象咎徵见人，人能儆戒以修德。地以迅雷烈风动人，人能恐惧以致福。其无恩而生大恩之谓也。李筌以天地不仁为大恩，以万物归于天为蠢然。与《阴符》本

意殊背)。至乐性余，至静性廉（《传》曰：情未发谓之中，守中谓之常，则乐得其志而性有余矣。性安常谓之自足，则静得其志而廉常足矣。筌以奢为乐性，以廉为静，殊乖至道之意）。天之至私，用之至公（《传》曰：自然之理，微而不可知，私之至也。自然之功，明而不可违，公之至也。圣人体之亦然。筌引《孙子》云：视卒如爱子，可以之俱死。何也？擒之制在气（《传》曰：擒物以气，制之以机，岂用小大之力乎？太公曰：岂以小大而相制哉？筌不知擒之义，误以禽兽。注解引云玄龟食蛇，黄腰啖虎之类，为是悲哉）！生者死之根，死者生之根。恩生于害，害生于恩（生者，人之所爱，以其厚于身。太过则道丧，而死自来矣。死者，人之所恶，以其损于事。至明则道存。而生自固矣。福理所及谓之恩，祸乱所及谓之害，损己则为物之所益，害之生恩也。筌引《孙子》用兵为生死，丁公、管仲为恩害。异哉）！愚人以天地文理圣，我以时物文理哲。人以虞愚，我以不虞圣。人以期其，我以不期其圣（《传》曰：观天之运四时，察地之化万物，无所不知，而蔽之以无知，小恩于人，以蒙自养之谓也。知四时之行，知万物之生，皆自然也。故圣人于我以中自居之谓也。故曰死生在我而已矣。人之死亡，譬如沉水自溺，投火自焚，自取灭亡。理国以道，在于损其事而已。理军以权，在于亡其兵而已。故无死机则不死矣，鬼神其如我何？圣人修身以安其家，理国以平天下，在乎立生机。以自去其死性者，生之机也。除死机以取其生情者，死之机也。筌不天道，以愚人、圣人、体道愚昧之人而验天道，失之甚也）。故曰沉水入火，自取灭亡（注在上矣）。自然之道静，故天地万物生（《传》曰：自然之道，无为而无不为。动静皆得其性，静之至也。静故能立天地，生万物，自然而然也。伊尹曰：静之至，不知所以生也）。天地之道浸，

故阴阳胜（《传》曰：浸，微也。天地之道，体著而用微，变通莫不归于正，微之渐也。微渐故能分阴阳，成四时。至刚至顺之谓也）。阴阳相推，而变化顺矣（《传》曰：圣人变化顺阴阳之机。天地之位自然，故因自然而冥之，利自然而用之，莫不得自然之道也）。是故圣人知自然之道不可违，因而制之（注在文上）。至静之道，律历所不能契（《传》曰：道之至静也，律历因而制之，不能叶其中鸟兽之谓也）。爰有奇器，是生万象；八卦甲子，神机鬼藏（《传》曰：八卦变异之伎，从是而生。上则万象，下则万机。用八卦而体天，用九畴而法地。参之以气候，贯之以甲子，达之以神机，闭之以诡藏，奇譎之荡自然也）。阴阳相胜之术，昭昭乎进乎象矣（《传》曰：阴阳相胜之术，恒微而不违乎本，明之信可明，故能通乎精曜象矣）。

天机经（解《阴符》也）

叙曰：有机而无其人者败，有其人而无其道者败，故《易》曰：“即鹿，无虞。惟入于林中。君子几不如舍，往吝。”故圣人观其时而用其符，应其机而制其事，故能运生杀于掌内，成功业于天下者也。《易》曰：“君子藏器于身，待时而动。”是以圣人保之于灵台，以观机变。卷之则自胜，舒之则胜人。察之则无形，用之则不极。《易》曰：“阴阳不测之谓神。”而《阴符》象之矣。故圣人不测之符，陶均天下而无所归怨矣。夫天为地主，道为德君，故圣人奉地而法天，立德而行道。举天道而为经首，明地以奉之。《易》曰：乃顺承天，待时而动。

是故圣人将欲施为，必先观天道之盈虚，后执而行之。举事应机，则无遗策。《易》曰：“后天而奉天时。”

昌

夫圣人法地而奉天，立德而行道。居天地道德之间，建莫大之功者，未有不因五贼而成也。五贼者：其一贼命、其二贼物、其三贼时、其四贼功、其五贼神、皇帝王霸权变之道也。是以圣人观其机而应之，度其时而用之，故太公立霸典而灭殷朝，行王风而理周室，岂不随时应机，驱驰五贼者也？故圣人立本于皇王之中，应机于权霸之内。经邦治身，五贼者备矣，则天下望风而从之，竭其性命而无所归其恩怨也。乃谓之曰：有道之盗，无形之兵。呜呼！寇莫大焉。五贼在心，擒纵在手，治身佐世，莫尚于斯经云：“见之者昌，”不亦宜乎？

身

术曰：夫人心，身之主，魂之宫，魄之府。将欲施行五贼者，莫尚乎心。事有所图，必合天道。此则宇宙虽广，览之只在于掌中；万物虽多，生杀不离于术内。则明天地不足贵以远，以厚，而况耳目之前乎？

机

夫杀机者，两朝终始之萌，万人生死之兆。处云雷未泰之日，玄黄流血之时。故天之为变也，则龙出于田，蛇游乎路，此为交战之机，故曰龙蛇起陆。人之为变也，则春行秋令，赏

逆罚忠，此为颠堕之机，故曰天地反覆。天人之机同时而发，虽千变万化，成败之机定矣。

藏

夫仁者必有勇，勇者不必有仁；智者能愚，愚者不必能智。故圣人时通则见其巧而建其功；时否则见其拙而昧其迹。故孔明《序》曰：太公八十，非不遇也，盖审其主焉。呜呼！性命巧拙之时，识达行藏之势，可以观变察机，运用五贼。所以然者，夫圣人所以深衷远照，动不失机，观天料人，应时而作。故《易》曰：知进退存亡而不失其正者，其惟圣人乎？

静

夫九窍者，在天为九星；在地为九州；在人为九窍。九窍之气不正，故曰受邪。受邪则识用偏，识用偏则不可发机观变。故九窍之急，在乎三要。太公曰：耳、目、口也。夫耳、目、口者，心之佐助也；神之门户也；智之枢机也；人之祸福也。故耳无聪不能别其音，目无明不能见其机，口无度不能施其令。夫三要精，上不能治国，下不能治家，况兵者乎？悬人之性命，为国之存亡，静动之间，不得无事，岂可轻而用之？

人

夫火生于木，火发而木焚。国生于奸，奸深则国乱。亦犹蚕能作茧，茧成则杀其身；人能生事，事烦则害其命。非至圣不能修身炼行，防之于未萌，治之于未乱。夫十围之木，起于

拱把；百仞之台，起于足下。治小恶不惧，必成大祸。呜呼！木不相摩，火无由出；国无乱政，奸无由生。有始有终，是非不动。能知之其惟圣人乎？

安

万物盗天地之精以生成，人盗万物之形以御用，万物盗人之力以种植，彼此相盗，各获其宜，俱不知为万物化。故能用机者，法此三事，以道之盗而贼于物。物亦知为盗之道。所以然者，贵得其时也；贵得其机也。故曰合其时而食则百骸治，应其机而动则万化安。乖时失机，则祸乱生也。

神

老君曰：功成不有，为而不恃。此全生立德之本也。夫小人者，贪其财则以身徇利，爱其名则以力争功，矜衒神迹而求神名，物共嫉之，必丧其命。欲益招损，是不神矣。夫君子建大功而不恃，防小祸于未萌，退己进人，推能让物，物共戴之，故不夺其利。自发神智，不能争物，物共让之。不居其后，为损招益，是以至神矣。故老君曰：为者败之，执者失之。诚哉言也！

圣

假如千年一圣，五百年一贤，应日月之数所生而大小之人定矣。夫大人出世，应明德而建圣功；小人当时，则废正纲而生祸乱。故太公说于西伯知人望而已归周；刘琨表于琅琊识天

时而未离晋陵；母自死知明主之必兴括，母不诛，见赵军之必败。故天道人事，贤者可以预知。佐非其人，夷于九族。故《易》曰：长子帅师，开国成家。小人勿用，必乱邦也。

命

夫成败之道未形，死生之机未发，小人能见，君子能知，则易见而难知，见近而知远也。夫见机者则趋时而就利，皆不保其天年。知机者则原始而要终，固必全其性命。

倍

瞽者善听，神不离于耳；聋者善视，心不离于目。其为听也，神则专耳；其为视也，心则专目。耳之与目，递为用师。当用之时，利绝其一。心之所主，则无事不精，犹有十倍之利，何况反覆以此用之？三思精诚一计，顺时隐显，应机行藏，以此用师，固万倍之胜利。

物

夫人之心，无故不动。生之与死，缘物而然。物动则心生，物静则心死。生死之状，其惟物乎？

目

目者神之门，神者心之主。神之出入莫不游乎目。故见机者莫不尚乎目，能知机者莫不尚乎心。

蠢然

夫道不为万物而生春，万物感春气而自生。秋不为万物而杀，万物感秋气而自杀。其为生也，不恃其恩，不求其报，故其恩大矣。其为杀也，不恃其威，不求其惧，其威大矣。凡物，取而得之者小，不取而得之者大。故圣人不取。夫君王有道无道，则人民治乱之机。歌谣或乐或哀，则时年丰俭之兆。时人不能省察，天地乃降征祥；或五云腾起，七曜变行，皆因国风，是以然矣。且宋君失德，荧惑守心，及乎谢愆，退之三舍。用令倂古，皎在目前；以彼喻斯，岂劳心术？故智者悟于人事之初，而愚者晦于星象之后矣。

生

老君以无为有母，静为躁君。夫静者，元气未分之初，形于元气之中，故能生天地万物。亦犹人弘静。其心不挠，则能生天下万物也。

胜

胜，浸长也。天地之道，各自浸长。天则长阳也，地则长阴也。阴阳相招，一昼一夜，递为君臣，更相制胜，故曰阴阳相胜。夫开国用师，必侵天道。亦犹金火相交，而非交不伏也。天且弗违，而况于人乎？

顺

《易》曰：刚柔相摩而生变化。变化不慝，故曰顺也。夫人之育身治性，尚不可逆时为之，而况经邦佐世之雄哉！

契

至圣之道，窈然无为。无为则无机，无机则至静。夫律历之妙，动则能知。体既虚无，莫得施其管术，亦犹兵者不失其机，不露其衅，虽有智士，从何制焉？

象

奇器者，阴阳之故，能生万物，亦犹人心能造万事象矣。进前，象状也。八卦六甲，鬼神机密之事，刚柔相制之术，昭昭乎前列其状矣。

卷十六 三洞经教部·经七

灵宝洞玄自然九天生神章经（一名《三宝大有金书》）

天宝君者，则大洞之尊神。天宝丈人，则天宝君之祖气也。丈人是混洞太无元高上玉皇之气，九万九千九百九十亿万气，后至龙汉元年化生天宝君。出书时号高上大有玉清宫。灵宝君者，则洞玄之尊神。灵宝丈人，则灵宝君之祖气也。丈人是赤混太无元无上玉虚之气，九万九千九百九十九万气，后至龙汉开图，化生灵宝君。经一劫至赤明元年出书度人时，号上清玄都玉京七宝紫微宫。神宝君者，即洞神之尊神。神宝丈人，则神宝君之祖气也。丈人是冥寂玄通元无上玉虚之气，九万九千九百九十万气，后至赤明元年化生神宝君。经二劫至上皇元年出书时，号三皇洞神太清太极宫。此三号虽年殊号异，本同一也，分为玄、元、始三气而治三宝，皆三气之尊神，号生三气，三号合生九气。九气出乎太空之先，隐乎空洞之中，无光无像，无形无名，无色无绪，无音无声。导运御世，开辟玄通。三色混沌，乍存乍亡。运推数极，三气开光。气清高澄，积阳成天。气结凝滓，积滞成地。九气列正，日月星宿，阴阳五行，人民品物，并受生成。天地万化，自非三元所育，九气所导，莫能生也。三气为万物之根，故三合成德，天地之极也。人之受生

于胞胎之中，三元育养，九气结形，故九月神布气满，能声。声尚神具，九天称庆。太一执符，帝君品命，主策勒籍，司命定筹，五帝监生，圣母卫房，天神地祇，三界备守。九天司马在庭东向读《九天生神宝章》九过。男则万神唱恭，女则万神唱奉；男则司命敬诺，女则司命敬顺。于是而生。九天司马不下命章，万神不唱恭诺，终不生也。夫人得还生于人道，濯形太阳，惊天骇地，贵亦难胜；天真地神，三界齐临，亦不轻也。当生之时，亦不为陋也。所以能爱其形，保其神，贵其气，固其根，终不死坏而得神仙，骨肉同飞上登三清，是与三气合德，九气齐并也。但人得生而自不能尊其气，贵其形，宝其命，爱其神，自取死坏，离其本真耳。《九天生神章》乃三洞飞玄之气，三合成音，结成灵文；混合百神，隐韵内名，生气结形自然之章。天宝诵之以开天地之光，灵宝诵之以开九幽长夜之魂，神宝诵之以制万灵，太一诵之以具身神，帝君诵之以结形，九天诵之以生人，学士诵之以升天，鬼灵闻之以升迁，凡夫闻之以长存，幽魂闻之以开度，枯朽闻之以发烟，婴孩闻之以能言，死骸闻之以还人。三宝神奥，万品生根，故非鬼神所知，凡夫所闻也。夫学上道，希慕神仙，及得尸解，灭度转轮，终归仙道。形与神同，不相远离，俱入道真，而无此文，则胞胎结滞，死气固根；真景不守，生气无津；九户阖塞，体不生神，徒受一形。若寄气而行；学得此法，可坐致自然。三宝尊重，九天至真，秘之大有九，重金格紫阳玉台，自非天地一开，其文不出。元始禁书，非鬼神所闻。窃之者风刀万劫，魂死无生。依科奉法，形神同仙。三元宫中宿有金名紫字，刻书来生应为三清神仙之人，当得此文。有其缘会，当贖金宝，奉师效心，依科盟受。闭心奉行，慎勿轻泄，风刀考身。修行之法，千日长斋，不关人事，诸尘漏尽，夷心默念，清心执戒。

入室东向叩齿九通，调声正气，诵咏宝章。诵之一过，声闻九天；诵之二过，天地设恭；诵之三过，三界礼房；诵之四过，天王降仙；诵之五过，五帝朝真；诵之六过，魔王束身；诵之七过，星宿停关；诵之八过，幽夜光明；诵之九过，诸天下临，一切神灵莫不卫轩。一过彻天，胞原宣通；二过响地，胎结解根；三过神礼，魂门练仙；四过天王降仙，魄户闭关；五过五帝朝真，藏府清凉；六过魔王伏诺，胃管生津；七过星宿朗明，孔窍开聪；八过幽夜显光，三部八景，整具形神；九过诸天下临，三关、五脏六腑、九宫、金楼玉室十二重门、紫户玉蟾，三万六千关节，根原本始一时生神。九遍为一过。一过周竟，三界举名五帝友，别称为真人。十过通气，制御万灵，魔王保举，列上诸天。百过通神，坐致自然，太一度符，元君受生。千过通灵，坐在立亡，仙童玉女，役使东西。万过道备，驰骋龙驾，白日登晨。

元始天尊时静处闲居，偃息云宫黄房之内，七宝帟中。熙夷养素，空碧炼真；耽咀洞惠，俯研《生神》；理微太混，啸朗九天。是时飞天大圣无极神王，玉辅上宰四协侍晨，清斋建节，侍在侧焉。恁琼颜而妙感，仰灵眸而开衿，窃神章而踊跃，餐天音而蒙生，敢乘机而悟会，冒灵盼而披心。于是飞天大圣无机神王前进作礼，稽首而言，上白天尊：

“贱臣幸会，得仰侍灵轩，不以短狭，叨濯冥津。重悟凝玄，位登神王。总御生死，领括天仙。赏监七觉，远览遐方。雍观上宰，对司侍晨。方当乘机应会，履九太阳，洞理阴符，抚掌兆民。大运将期，数终甲申。洪流荡秽，凶灾弥天。三官鼓笔，料别种人。考筭功过，善恶当分。自赤明以来至上皇元年，依元阳玉匮，受度者应二十四万人。开皇以后数至甲申，诸天选叙，仙曹空废，官僚不充，游散职司，皆应选人。

依元阳玉历，当于三代更料有心积善建功、为三界所举、五帝所保、名在上天者，取十万人以充其任。又当别举一十二万人以充储官。如此之例：或以宿名玄图；或骨像合仙；或以灭度，因缘转轮；或以笃好三宝，善功彻天；或供养师宝，为三官所称；或修斋奉戒，功德积感；或施散财宝，建立道堂；或救恤穷乏，载度天人；或为三师建功充足，天官有名。考筭簿录，三官相应，皆逆注种名，上下有别，毫分无遗。又九幽之府被东华青宫九龙符命，使拔九幽玉匱男女死魂，宿名有善、功德满足、应受开度者，取三十二万人以充。甲申驱除之后，开大有之民。当此之时，生死交会，善恶分判，得过者真为乐哉！然三官相切，文墨纷纭，龙门受会，鸟母督仙，万圣显驾，昼夜无闲。功过平等，使生死无偏，此之昏闹，亦臣之忧矣。大期既切，触事阙替，恒恐一旦受罹公门。伏闻天尊造大慈之化，垂怜苍生；开九天之奥以济兆民。明科有禁戒，非贱臣所可参闻。然大数有期，甲申垂终，运度促急，大法宜行。使有心者得于考筭之中闻于法音，开示于视听，劝化于未悟者也。缘兹上陈，惧触天颜，愿见哀愍，赐所未闻。”

于是天尊抚机高亢，凝神遐想。仰诵洞章，啸咏琳琅。良久，忽然叹曰：“上范虚漠，理微大幽，道达重玄，气冠神霄，至极难言，妙亦难超。子既司帝位，受任神王。飞天翼于琼阙，四宰辅于明轮。遐盼极览，领综无穷，雍和万化，抚料苍生。今大运启期，三五告辰，百六应机，阳九激扬，洪泉鼓波，万灾厉天。四宫选举，以充种民。三代昏乱，善恶宜分，子当劳心兆庶，疲于三官兴废之际，事须开能，今以相委，其勉之焉！宝书妙重，九天灵音，施于上圣，非鬼神所闻。明真有格，四万劫一行。今冒禁相付，子秘之矣，慎勿轻传！”登命九天司马侍仙玉朗，开紫阳玉笈云锦之囊，出《九天生神玉章》。

四辅别位，五老监真，太一命辰，玉帝唱盟，一依俯仰。明真具典，南向长跪以付飞天无极神王。法事既毕，诸天复位。

天尊重告飞天神王：“此九天之章乃三洞飞玄之气，三会成音结成真文。混合百神，隐韵内名。故太一试观，摄生十方，领会洞虚，启誓丹青。自无亿劫，因缘宿名帝图，不得参见。得眇篇目，九祖同仙。当采择其人应为仙者，七百年中，清斋千日，赍金缙誓心，依盟以传。慎之则享祚，漏之则祸臻。享祚则福延九祖，德重山海；招祸则考流亿劫，痛于毒汤，风刀相刑。可不慎之焉！”

郁单无量天生神章第一

帝真胞命元，元一黄演之气。

混合空洞气，飞爽浮幽寥。延康无期劫，眇眇离本条。苦魂沉九夜，乘晨希阳翘。大有通玄户，郁单降晨霄。黄云凝灵府，阴阳气象交。胞元结长命，恶根应化消。桃康合精延，二帝秀玉飘。灌溉胞命门，精练神不凋。九天命灵章，生神神自超。元君遏死路，司马诵洞谣。一唱万真和，九遍诸天朝。稽首恭劫年，庆此荣旧苗。

上上禅善无量寿天生神章第二

帝真胎命元，洞冥紫户之气。

无量结紫户，气尊天中王。开度飞玄爽，凝化轮空洞。故根离昔爱，缘本思旧宗。幽夜沦遐劫，对尽大运通。帝真始明精，号曰字元阳。婴儿史伯华，结胎守黄房。斩根断死户，熙颐养婴童。禅善导灵气，玄哺飞天芳。华景秀玉质，精练自成

容。务玄育尚生，罗列备明堂。太虚感灵会，命我《生神章》。一唱动九玄，二诵天地通。混合自相和，九遍成人功。大圣庆元吉，散华礼太空。诸天并欢悦，一切稽首恭。

梵监须延天生神章第三

帝真魄命元，长灵明仙之气。

须延总三云，玄元始气分。落落大范布，华京翠玉尊。明梵飞玄景，开度长夜魂。游爽赴期归，气气反故根。太帝号阳堂，字曰八灵君。九关回禄道，胎气生上元。陵梵度命籍，太一辅精延。泥丸敷帝席，三部八景分。魂生摄游气，九转自成仙。琅琅九天音，《玉章》生万神。三遍列正位，气参八辰门。玄关遏死户，灵镇津液源。应会感灵数，明道潜回轮。庆此婴儿蜕，稽首赞洞文。

寂然兜术天生神章第四

帝真魄命元，殒尸冥演由之气。

寂然无色宗，兜术抗大罗。灵化四景分，万条翠朱霞。游魄不顾反，一逝洞群魔。神公摄游气，飘飘练素华。荣秀椿劫期，乘运应灵图。空洞生神章，琼音逸九霄。一唱万真会，蹇爽合成家。九转景灵备，郁郁曜玉葩。兜术开大有，一庆享祚多。上圣回帝驾，婴儿歎以歌。不胜良晨会，一切稽首和。

波罗尼密不骄乐天生神章第五

帝真藏府命元，五仙中灵之气。

翻翻五帝驾，飘飘玄上门。游步黄华野，回灵骄乐端。采集飞空景，旧爽多不存。太微回黄旗，无英命灵幡。摄召长夜府，开度受生魂。公子辅黄宁，总录具形神。玉章洞幽灵，五转天地分。气炼元藏府，紫户自生仙。数周众真会，启阳应感繁。玉女灌五香，圣母庆万年。三界并欢乐，稽首礼天尊。

洞元化应声天生神章第六

帝真灵府命元，高真冲融之气。

应声无色界，霄映冠十方。回化轮无影，冥期趣道场。灵驾不待辔，朗然生神章。空洞谅无崖，玄爽亦为强。练胎反本初，长乘飞玄梁。薪畜丧天真，散思候履常。斩伐胞树滞，心游超上京。愿会既玄玄，悟我理兼忘。界福九天端，交礼地辰良。混化归元一，高结元始玉。稽道俦灵运，长谢嚣尘张。

灵化梵辅大生神章第七

帝真元府命元，高仙洞笈之气。

玄会统无崖，混气归梵辅。务猷运灵化，潜推无寒暑。乘数构真条，振袂拂轻羽。琼房有妙韵，泛登高神所。圆轮无停映，真仙森列序。上上霄衢邈，洞元深万巨。秀叶翳翠霞，停荫清冷渚。遨玩怡五神，繁想啸明侣。五难缘理去，冲心自怡处。爽魂随本根，亶亶空中处。七诵重关开，豁滞非神武。运通由中发，高唱稽首举。

高虚清明天生神章第八

帝真华府命元，真灵化凝之气。

清明重霄上，合期庆云际。玉章散冲心，孤景要灵会。焕落景霞布，神矜靡不迈。玉条流逸响，从容虚妙话。灵音振空洞，九玄离幽裔。感爽无凝滞，去留如解带。明识生神章，高游无终败。玄景曜云衢，迹超神方外。应感无方圆，聊以运四大。研心稽首诵，众圣共称快。

无想无结无爱天生神章第九

帝真神府命元，自然玄照之气。

无结固无情，玄玄虚中澄。轮化无方序，数来亦叵乘。谁云无色平，峨峨多丘陵。冥心纵一往，高期清神徵。良遇非年岁，劫数安可称？浮爽缘故条，反胎自有恒。灵感洞太虚，飞步霄上冰。津趣鼓万流，潜凝真神登。无爱固无忧，高观稽首升。

太极真人颂二首

大道虽无心，可以有情求。伫驾空洞中，回盼翳沧流。净明三界外，萧萧玉京游。自无玄挺运，谁能悟冥陬？落落天汉澄，俯仰即虚柔。七玄散幽夜，反胎顺沉浮。冥期苟潜凝，阳九无虞忧。亲此去来会，时复为淹留。外身而身存，真仙会良俦。

亶亶玄中趣，湛湛清禔波。代谢若旋环，椿水不改柯。静心念至真，随运顺离罗。感应理常通，神适逮自徂。淡游初无

际，繁想洞九霞。飞根散玄叶，理反非有它。常能诵玉章，玄音彻霄霞。甲申洪灾至，控翮王母家。永享无终纪，岂知年劫多？

卷十七 三洞经教部·经八

太上老君内观经

老君曰：天地构精，阴阳布化，万物以生，承其宿业，分灵道一，父母和合，人受其生。始一月为胞精，血凝也；二月为胎形，兆胚也；三月阳神为三魂，动以生也；四月阴灵为七魄，静镇形也；五月五行分藏，以安神也；六月六律定腑，用滋灵也；七月七精开窍，通光明也；八月八景神具降，真灵也；九月宫室罗布，以定精也；十月气足，万象成也。元和哺食，时不停也。太一帝君在头，曰泥丸君，总众神也；照生识神，人之魂也；司命处心，纳心源也；无英居左，制三魂也；白元居右，拘七魄也；桃孩住脐，保精根也；照诸百节，生百神也；所以周身神不空也。元气入鼻，灌泥丸也。所以神明形固安也。运动住止，关其心也；所以谓生有由然也。子内观之，历历分也。心者，禁也，一身之主，禁制形神，使不邪也。心则神也，变化不测，无定形也，所以五藏藏五神也。魂在肝，魄在肺，精在肾，志在脾，神在心，所以字殊随处名也。心者，火也，南方太阳之精，主火。上为荧惑，下应心也。色赤，三叶如莲花，神明依泊，从所名也。其神也，非青非白，非赤非黄，非大非小，非短非长，非曲非直，非柔非刚，非厚非溥，

非圆非方，变化莫测，混合阴阳，大包天地，细入毫芒，制之则正，放之则狂。清净则生，浊躁则亡，明照八表，暗迷一方，但能虚寂，生道自常，永保无为，其身则昌。世以无形，莫之能名。祸福吉凶，悉由之矣。所以圣人立君臣，明赏罚，置官僚，制法度，正以教人。人之难伏，惟在于心，心若清净，则万祸不生。所以流浪生死，沉沦恶道，皆由心也。妄想憎爱，取舍去来，染著聚结，渐自缠绕，转转系缚，不能解脱，便至灭亡。犹如牛马，引重趋泥，转增陷没，不能自出，遂至于死，人亦如之。始生之时，神源清净，湛然无杂。既容纳有形，形染六情；眼则贪色，耳则滞声，口则耽味，鼻则受馨，意怀健羨，身欲轻肥，从此流浪，莫能自悟，圣人慈念，设法教化，使内观己身，澄其心也。

老君曰：谛观此身，从虚无中来，因缘运会，积精聚气，乘业降神，和合受生，法天象地，含阴吐阳，分错五行，以应四时，眼为日月，发为星辰，眉为华盖，头为昆仑，布列宫阙，安置精神，万物之中，人称最灵，性命合道，当保爱之。内观其身，谁尊之焉？而不自贵，妄染诸尘，不静臭秽，浊乱形神。孰观物我，何疏何亲？守道全生，为善保真。世愚役役，徒自苦辛。

老君曰：从道受生谓之命，自一禀形谓之性，所以任物谓之心，心有所忆谓之意，意之所出谓之志，事无不和谓之智，智周万物谓之慧，动以营身谓之魂，静以镇形谓之魄，流行骨肉谓之血，保神养气谓之精。气清而馥谓之荣，气浊而迟谓之卫，总括百骸谓之身，众象备见谓之形，块然有闾谓之质，状貌可则谓之体，大小有分谓之躯，众思不得谓之神，莫然应化谓之灵，气来入身谓之生，神去于身谓之死，所以通生谓之道。道者，有而无形，无而有情；变化不测，通神群生。在人之身，

则为神明，所谓心也；所以教人修道，则修心也；教人修心，则修道也。道不可见，因生以明之；生不可常，用道以守之。若生亡则道废，道废则生亡。生道合一，则长生不死，羽化神仙。人不能保者，以其不内观于心故也。内观不遗，生道常存。

老君曰：人所以流浪恶道，沉沦滓秽，缘六情起妄而生六识。六识分别，系缚憎爱，去来取舍，染著烦恼，与道长隔，所以内观六识因起，六识从何而起？从心识起。心从我起，我从欲起。妄想颠倒，而生有识。亦曰自然，又名无为，本来虚净，元无有识。有识分别，起诸邪见。邪见既兴，尽是烦恼。展转缠缚，流浪生死，永失于道。

老君曰：道无生死，而形有生死。所以言生死者，属形不属道也；形所以生者，由得其道也。形所以死者，由失其道也。人能存生守道，则长存不亡也。

老君曰：人常能清静其心，则道自来居，道自来居则神明存身，神明存身则生不亡也。人常欲生而不能虚心，人常恶死而不能保神，亦犹欲贵而不肯用道，欲富而不肯求宝，欲疾而足不行，欲肥而食不饱也。

老君曰：道以心得，心以道明。心明则道降，道降则心通。神明之在身，犹火之在卮。明从火起，火自炷存，炷因油润，油藉卮停。四者若废，明何生焉？亦如明缘神照，神托心存，心由形有，形以道全。一物不足，明何依焉？所以谓之神明者，眼见耳闻，意知身觉，分别物理，微细悉知。由神以明，故曰神明也。

老君曰：所以言虚心也，遣其实也；无心者，除其有也。定心者，令不动也。正心者，使不邪也。清心者，使不浊也。净心者，使不秽也。此皆已有，今使除也。心直者，不反覆也。心平者，无高低也。心明者，不暗昧也。心通者，不质碍也。

此皆本自然也。粗言数者，余可思也。

老君曰：知道易，信道难；信道易，行道难；行道易，得道难；得道易，守道难。守道不失，身常存也。

老君曰：道也者，不可以言传口受而得之，当虚心静神，道自来也。愚者不知，乃劳其形，苦其心，役其志，躁其神，而道愈远，而神愈悲。背道求道，怨道不慈。

老君曰：道贵长存。保神固根，精气不散，淳白不分。形神合道，飞升昆仑，先天以生，后天长存，出入无间，不由其门，吹阴煦阳，制魄抱魂。亿岁眷属，千载子孙，黄尘四起，骑牛真人。金堂玉室，送故迎新。

老君曰：内观之道，静神定心，乱想不起，邪妄不侵，周身及物，闭目思寻，表里虚寂，神道微深，外观万境，内察一心，了然明静，静乱俱息，念念相系，深根宁极，湛然常住，窈冥难测，忧患永消，是非莫识。

老君曰：吾非圣人，学而得之。故我求道，无不受持，千经万术，唯在心志也。

洞玄灵宝定观经

（灵者，神也，在天曰灵。宝者，珍也，在地曰宝。天有灵化，神用不测，则广覆无边；地有众宝，济养群品，则厚载万物。言此经如天如地，能覆能载，有灵有宝，功德无穷。证得此心，故名灵宝。定者，心定也。如地不动。观者，慧观也。如天常照，定体无念，慧照无边，定慧等修，故名定观。）

天尊告左玄真人曰（左者，定也。玄者，深妙也。真者，

纯也，一而无杂。人者，通理达性之人也。曰者，语辞也）：夫欲修道，先能舍事（进趣之心，名为修道；一切不染，名为舍事）。外事都绝，无与忤心（六尘为外事，须远离也。六尘者，色、声、香、味、触、法，更不染著，名为都绝。境不来忤，心即无恼。心不起染，境则无烦。心境两忘，即无烦恼。故名无与忤心）。然后安坐（摄澄烦恼，名之为安。本心不起，名之为坐）。内观心起。若觉一念，起须除灭，务令安静（慧心内照，名曰内观。漏念未除，名为心起。前念忽起，后觉则随；起心既灭，觉照亦忘，故称除灭。了心不起，名之为安。觉性不动，名之为静。故称安静）。其次虽非的有贪著，浮游乱想，亦尽灭除（众心不起，妄念悉忘。乱想不生，何有贪著？故曰灭除）。昼夜勤行，须臾不替（昼之言净，夜之言垢。垢净两忘，无有间替，故名不替）。唯灭动心，不灭照心（妄想分别，名曰动心。觉照祛之，故名为灭。慧照常明无有间，故名不灭照心）。但凝空心，不凝住心（不起一切心，名空心。一切无著，名之不凝住心）。不依一法，而心常住（若取一法，即名著相。心不取法，名为不依。照而常寂，故为常住）。然则凡心躁竞，其次初学，息心甚难。或息不得，暂停还失（言习性烦恼，难可灭除。定力未成，暂停还失也）。去留交战，百体流行（心起染境，境来牵心，心境相染，故名交战。妄念不息，百非自生，名曰百体流行）。久久精思，方乃调熟。勿以暂收不得，遂废千生之业（定心不起，则契真常。一念不收，千生遂废）。少得净已，则于行立坐卧之时（初得清净，正慧未生，故云少得净已。四威仪之时也）。涉事之处，喧闹之所，皆作意安（见一切诸相，为涉之处。起一切诸心，名为喧闹之所也。息乱归寂，名为作意；恬淡得所，名之为安也）。有事无事，常若无心；处静处喧，其志唯一（有无双遣，寂用俱忘

；万法不二，名之唯一）。若束心太急，又则成病。气发狂颠，是其候也（偏心执静，名曰束心。心外见相，名为颠也）。心若不动，又须放任；宽急得所，自恒调适（从定发慧，名为放任。定慧齐融，名曰得所。定多即愚，慧多即狂；定慧等用，名曰调适）。制而不著，放而不动；处喧无恶，涉事无恼者，此是真定（寂而常照，照而常寂；空而常用，用而常空。得本元寂，故为真定）。不以涉事无恼，故求多事；不以处喧无恶，强来就喧（习性尘劳，常须制御，不可纵逸）。以无事为真宅，有事为应迹（见本性空寂，故为真宅。慧用无边，故为应迹）。若水镜之为鉴，则随物而现形（本心清静，犹如水镜，照用无碍，万物俱现。名为现形）。善巧方便，唯能入定（诸法性空，寂无所起，故为入定）。慧发迟速，则不由人。勿令定中急急求慧。急则伤性，伤则无慧（急求知见，真定乃亡。贪著诸相，故云无慧）。若定不求慧，而慧自生，此名真慧（心体寂静，妙用无穷，故名真慧）。慧而不用，实智若愚（了无分别，名之不用。韬光晦迹，故曰若愚）。益资定慧，双美无极（寂照齐融，故云双美无极）。若定中念想，多感众邪，妖精百魅，随心应见（为心取相，诸相应生。一切邪魔，竞来挠乱）。所见天尊，诸仙真人，是其祥也（此为诸相不可取著）。唯令定心之上，豁然无覆；定心之下，旷然无基（前念不生，故云无覆。后念不起，故曰无基）。旧业日销，新业不造（宿习并尽，名曰旧业日销。更不起心，故名新业不造）。无所挂碍，回脱尘笼（一切不染，故名无所挂碍；解脱无系，故云迴脱尘笼）。行而久之，自然得道（智照不灭，名曰行而久之。契理合真，故云得道）。夫得道之人，凡有七候：一者心得定易，觉诸尘漏（心得清静，尘念尽知，故曰觉诸尘漏）。二者宿疾普销，身心轻爽（真气胎息，故疾尽瘳。体道合真，身轻不老）。三

者填补天损，还年复命（骨髓坚满，故填补天损。驻颜不易，名为还年复命也）。四者延数万岁，名曰仙人（长生不死，延数万岁，名编仙箓，故曰仙人）。五者练形为气，名曰真人（得本元气，故曰练形为气。正性无伪，故曰真人）。六者练气成神，名曰神人（真气通神，阴阳不测，故曰神人）。七者练神合道，名曰至人（真神契道，故曰至人）其于鉴力，随候益明（鉴力者，常照不息也。益明者，明明不绝也）。得至道成，慧乃圆备（若了本性，得道成真，智慧圆明，万法俱备）。若乃久学定心，身无一候，促龄秽质，色谢方空。自云慧觉，又称成道者，求道之理，实所未然（通神合道，即身得道真。心证身亡，不离生死。《西升经》云：是故失生本，焉能知道源？）而说颂曰：

智起生于境，火发生于缘。各是真动性，承流失道源。起心欲息知，心起知更烦。了知性本空，知则众妙门。

老君清净心经

老君曰：夫道，一清一浊，一静一动。清静为本，浊动为末。故阳清阴浊，阳动阴静；男清女浊，男动女静；降本流末，而生万物。清者浊之源，静者动之基。人能清静，天下贵之。人神好清而心扰之，人心好静而欲牵之。常能遣其欲而心自静，澄其心，而神自清，自然六欲不生，三毒消灭，而不能者，心未澄，欲未遣故也。能遣之者，内观于心，心无其心；外观于形，形无其形；远观于物，物无其物。三者莫得，唯见于空，观空亦空，空无所空；既无其无，无无亦无；湛然常寂，寂无

其寂；无寂寂无，俱了无矣，欲安能生？欲既不生，心自静矣。心既自静，神既无扰。神即无扰，常清静矣。既常清静，及会其道，与真道会，名为得道。虽名得道，实无所得，既无所得，强名为得。为化众生，开方便道。

老君曰：道所以能得者，其在自心。自心得道，道不使得。得是自得之道，不名为得。故言实无所得。

老君曰：道不能得者，为见有心。既见有心，则见有身。既见其身，则见万物。既见万物，则生贪著。既生贪著，则生烦恼。既生烦恼，则生妄想。妄想既生，触情迷惑，便归浊海，流浪生死，受地狱苦，永与道隔。人常清静，则自得道。于是而说偈曰：

天尊妙用常眼前，举体动心皆自然。
息个动心看动处，动处分明无际边。
边际由来本性空，非观心照得虚空。
自悟因缘无自性，翛然直入紫微宫。
宫中宫外光且明，万法圆中一道平。
清心清镜皎无碍，无碍无心心自在。
平等道平无有异，天堂地狱谁安置？
神既内寂不亏盈，善恶若空何处生？
只为凡夫生异见，强于地上起纵横。
纵横遮莫千般苦，一一谛观无宰主。
谛观无主本无宗，只个因缘即会中。
中间虽会常无会，放会无为任物通。

若时有人知是经意，行住坐卧，若能志心念诵，深心受持，则能灭除无量一切宿障诸恶，冤家皆得和合，无受苦报。邪魔外道，道能降伏。告诸众生，欲度厄难，各已清静，信受奉行。

卷十八 三洞经教部·经九

老子中经（上）（一名《珠宫玉历》）

第一神仙

经曰：上上太一者，道之父也，天地之先也。乃在九天之上、太清之中、八冥之外、细微之内，吾不知其名也，元气是耳。其神人头鸟身，状如雄鸡，凤凰五色，珠衣玄黄。正在兆头上，去兆身九尺，常在紫云之中，华盖之下住。兆见之言曰：上上太一道君，曾孙小兆王甲。洁志好道，愿得长生。

第二神仙

经曰：无极太上元君者，道君也。一身九头，或化为九人，皆衣五色珠衣，冠九德之冠，上上太一之子也。非其子也，元气自然耳。正在兆头上紫云之中，华盖之下住。兆见之言曰：皇天上帝太上道君，曾孙小兆王甲好道，愿得长生。养我育我，保我护我。毒虫猛兽，见我皆蛰伏，令某所为之成，所求之得。太清乡，虚无里，姓朱愚，名光，字帝乡。乃在太微勾陈之内一星是也。号曰天皇大帝耀魄宝。兆常念之，勿忘也。人亦有

之，常存之眉间，通于泥丸，气上与天连。

第三神仙

经曰：东王父者，青阳之元气也，万神之先也。衣五色珠衣，冠三缝，一云三锋之冠。上有太清云曜五色。治于东方，下在蓬莱山。姓无为，字君鲜，一云君解。人亦有之，在头上顶巅，左有王子乔，右有赤松子，治在左目中，戏在头上。其精气上为日，名曰伏羲。太清乡，东明里，西王母，字偃昌。左目为日月，在目为日，右目为月。目中童子，字英明。王父在左目，王母在右目，童子在中央，两目等也。兆欲修真，当念东王父、西王母、正在头上，有三人并立，乃合日月精光，下念紫房、太一、绛宫、黄庭、太渊、丹田，行其真气五周，施于腹中。复行气十二周，施于一身中。道毕，即止朱雀阙门。阙门，两乳是也。左乳曰君阿，右乳曰翁仲，当两乳下有玉阙，天狗、天鸡在其上，主晨夜鸣吠。

第四神仙

经曰：西王母者，太阴之元气也。姓自然，字君思。下治昆仑之山，金城九重，云气五色，万丈之巅；上治北斗，华盖紫房，北辰之下。人亦有之，在人右目之中，姓太阴，名玄光，字偃玉。人须得王父王母护之两目，乃能行步，瞻视聪明，别知好丑，下流诸神，如母念子，子亦念母也。精气相得，万世长存。夫人两乳者，万神之精气，阴阳之津沟也。左乳下有日，右乳下有月，王父王母之宅也。上治目中，戏于头上，止于乳下，宿于绛宫紫房，此阴阳之气也。

第五神仙

经曰：道君者，一也；皇天上帝中极北辰中央星是也。乃在九天之上，万丈之巅，太渊紫房宫中。衣五色之衣，冠九德之冠，上有太清元气，云曜五色。华盖九重之下，老子、太和侍之左右。姓制皇氏，名上皇德，字汉昌。人亦有之，在紫房宫中，华盖之下，元贵乡，平乐里，姓陵阳，字子明。身黄色，长九分，衣五色珠衣，冠九德之冠。思之长三寸，正在紫房宫中，华盖之下。其妻太阴玄光玉女，衣玄黄五色珠衣，长九分。思之亦长三寸，在太素宫中，养真人子丹，稍稍盛大，自与己身等也。子能存之，与之语言，即呼子上谒道君。道君者，一也。乘云气珠玉之车，骖驾九极之马，时乘六龙以御天下。子常思之，以八节之日，及晦朔日，日暮夜半时祝曰：

天灵节荣真人，王甲愿得长生，太玄之一，守某甲身形，五藏君候，愿长安宁。

第六神仙

经曰：老君者，天之魂也，自然之君也。常侍道君在左方，故吾等九人，九头君也。吾为上首作王父，余人无所作也。人亦有之，金楼乡，小庐里，姓皮，名子明，字蓝蓝。衣青衣，长九分，把芝草，持青幡，侍道君在左方，从仙人仲成子。思之长三寸，常在己左方，正与己身等也。其妻素女，衣黄衣，长九分，思之亦长三寸。

第七神仙

经曰：太和者，天之魄也，自然之君也。常侍道君在右方。人亦有之，乌抬乡，姓角里先生，字<漂寸>々。衣白衣，长九分，持金剑，捧白幡，侍道君在右方，从仙人曲文子。思之亦长三寸。起坐行止，常在已右。其妻青腰玉女，衣青衣，长九分，思之亦长三寸。

第八神仙

经曰：泥丸君者，脑神也。乃生于脑，肾根心精之元也。华盖乡，蓬莱里，南极老人泥丸君也，字元先。衣五色珠衣，长九分，正在兆头上脑中，出见于脑户目前。思之长九分，亦长三寸。兆见之言曰：南极老人，使某甲长生，东西南北，入地上天，终不死坏迷惑，上某甲生籍，侍于道君，与天地无极。

第九神仙

经曰：南极者，一也，仙人之首出也，上上太一也，天之侯王太尉公也。主诸灾变，国祚吉凶之期。上为荧惑星，下治霍山。人亦有之，在长吴乡，绛宫中元里，姓李，名尚（一名常），字曾子。衣绛衣，长九分，思之亦长三寸，在心中。其妻，玉女也，衣白衣，长九分，思之亦长三寸。常思心中有华盖，下有人赤帻大冠，绛章单衣，名曰天侯，玉带紫绶，金印玄黄。子能见之，彻视八方，千日登仙时。候视脑中，小童子见之是也。

第十神仙

经曰：日月者，天之司徒、司空公也。主司天子人君之罪过，使太白辰星，下治华阴恒山。人亦有之，两肾是也。左肾男，衣皂衣；右肾女，衣白衣，长九分，思之亦长三寸。为日月之精，虚无之气，人之根也。在目，故人之目，左为司徒公，右为司空公。两肾各有三人，凡有六人。左为司命，右为司录；左为司隶校尉，右为延尉卿。主记人罪过，上奏皇天上帝太上道君。兆常存之，令削去死籍，著某长生。属太初乡，玄冥里。司录，六丁玉女，字道明，皆在神龟上，乘紫云气之车，骖驾双鲤鱼，字太成子。玄母，道母也。在中央，身之师也。主生养身中诸神，在五色云气华盖之下坐，戴太白明星明月之珠，光曜照一身中。常存以八节之夜，卧祝曰：司命司录，六丁玉女，削去某甲死籍，更著某甲长生玉历。

第十一神仙

经曰：中极黄老者，真人之府中斗君也，天之侯王，主皇后素女宫也。人亦有之，黄庭真人，道之父母也，赤子之所生也，己吾身也。皇后者，太阴玄光玉女，道之母也，正在脾上中斗中也。衣五色珠衣，黄云气华盖之下坐，主哺养赤子。常思两乳下有日月，日月中有黄精赤气，来入绛宫，复来入黄庭紫房中，黄精赤气填满太仓中，赤子当胃管中，正南面坐，饮食黄精赤气，即饱矣。百病除去，万灾不干。兆常思存之，上为真人。故曰同出而异名也。有注云：日月同出异名。太素乡，中元里，中黄真人，字黄裳子，主辟谷，令人神明乍小乍大，常以鸡鸣、食时祝曰：

黄裳子，黄裳子，黄庭真人在于已。为我致药酒，松脯，粳粮，黍臠诸可食饮者，令立至。祝讫，瞑目有顷，闭口咽之

二七过，即饱矣。

第十二神仙

经曰：吾者，道子之也。人亦有之，非独吾也。正在太仓胃管中，正南面坐珠玉床上，黄云华盖覆之，衣五彩珠衣。母在其右上，抱而养之；父在其左上，教而护之。故父曰陵阳，字子明，母曰太阴，字玄光玉女。己身为元阳，字子丹。真人字仲黄，真吾之师也。常教吾神仙长生之道，常侍吾左右，休舍太仓，在脾中与黄裳子共宿卫吾，给事神所当得，主致行厨。故常思真人子丹正在太仓胃管中，正南面坐，食黄精赤气，饮醴泉。元阳子丹长九分，思之令与己身等也。父母养之，乃得神仙。常自念己身在胃管中童子，服五色彩衣，坐珠玉之床，黄云赤气为帐，食黄金玉饵，服神丹芝草，饮醴泉，乘黄云气五色珠玉之车，驾十二飞龙，二十四白虎，三十六朱鸟。思之九年，乘云去世，上谒道君。吾之从官，凡三万六千神，举吾宗族，皆得仙道，白日升天。常以四时祠吾祖先：正月亥日鸡鸣时祠郊庙；二月亥日祠社稷、风伯两师；四月、五月申卯日、七月、八月己午日，十月、十一月卯戌日，四季月不祠。但解滂土公，逐去伏尸耳。郊在头上脑户中，庙在顶后骨之上，社在脾左端，稷在大肠穷，风伯在八门。八门者，在脐旁五城十二楼也。雨师在小肠穷，四渎云气出昆仑，弱水在胞中，诸神食厨在于太仓中。以次呼神名召之，勿忘也。

第十三神仙

经曰：璇玑者，北斗君也，天之侯王也。主制万二千神，

持人命籍。人亦有之，在脐中，太一君，人之侯王也。柱天大将军，特进侯也。主身中万二千神。中极乡，璇玑里，姓王，名阳，字灵子。冠三缝之冠，衣绛章单衣，长九分，思之亦长三寸，其大与自身等也。太一君有八使者，八卦神也。太一在中央，主总阅诸神，案比定录，不得逋亡。八使者以八节之日上对太一，故脐中名为太渊都乡之府也。常以秋分之日案比（弄）之。斋戒沐浴，静卧三日勿出。日三呼之，三日九呼之，常如此，诸神不得逋亡，名上仙箓，定为真人。故太一不得妄上白事，不吉则凶，但八使者耳。故以八节日、晦朔弦望日，右手拊脐二七，左手拊心三七，祝曰：

天灵节荣真人，某甲愿得长生，太玄真一守某甲身形，五脏诸君侯愿且安宁。公兆七遍，庶兆二七。明日平旦，复祝曰：

太一北极君，敬守告诸神，常念魂魄安宁，无离某甲身形。此所谓拘魂制魄者也。常以十二月晦日人定时，向月建太一于空室中，再拜，正坐，瞑目，祝曰：

五脏之君，魂魄诸神，某乞长生，无得离身。常与形合，同成为一身。男女各三通。常以八节日于室中，向其王地再拜，瞑目，祝曰：

大道鸿滓鸿滓，天节之日，万兆魂魄皆上诸天。真人身与神合。某甲欲得长生，独在空室之中，不豫死籍数。男女各三遍。常以十二月晦日，宿夜昼朝至平旦，于室中向寅地再拜，祝曰：

鸿滓鸿滓，某受大道之恩，太清玄巛，愿还某甲去岁之年，魂魄保身。男女各三通。

第十四神仙

经曰：脐者，人之命也。一名中极，一名太渊，一名昆仑，一名特枢，一名五城。五城中有五真人。五城者，五帝也。五城之外有八吏者，八卦神也；并太一为九卿。八卦之外有十二楼者，十二太子，十二大夫也；并三焦神合为二十七大夫。四支神为八十一元士。故五城真人主四时上计，八神主八节日上计，十二大夫主十二月以晦日上计，月月不得懈怠。即免计上事，常当存念留之，即长生矣。故太一常以晦朔、八节日夜半时，五城击鼓，集召诸神，校定功德，谋议善恶。有录者延命，众神共举；无录者终亡，司命绝去生籍。故常以晦朔、八节之日夜欲卧时，念上太一、中太一、下太一、五城、十二楼真人，祝曰：

天帝太一君，天帝太一君，敬存诸神，与之相亲。司录司命、六丁玉女，削去某死籍，著某生文，皆当言长生。

第十五神仙

经曰：五城真人者，五方五帝之神名也。东方之神名曰句芒子，号曰文始洪崖先生，东方苍帝东海君也。南方之神名曰祝融子，号曰赤精成子，南方赤帝南海君也。西方之神名曰蓐收子，号曰夏里黄公，西方白帝西海君也。北方之神名曰禺强子，号曰玄冥子昌，北方黑帝北海君也。此皆后神也，天地人神等耳。风伯神名吒君，号曰长育。雨师神名冯修，号曰树德。诸神常当存念之，令与司命君、司录君共削去某死籍，既为真人长生矣。不与相知存念之，即为疾风暴雨，雷电霹雳，持子远去，杀子之身，埋子深山，投子深渊；或为毒气所中，众鬼害人。子欲为道，宜致敬之。此神能害人，王者之治，不可不知也。中央之神名曰黄裳子，号曰黄神彭祖，中央黄帝君也。

与中太一并治，度人命，爱养善人，成就人，常侍黄天真人。人亦有之，常侍真人，名曰子丹，给神所得。兆欲志道，常思念之，即不饥渴，长生久视，上为真人，能致行厨，役使鬼神。社稷、河伯之神，名曰冯夷，号曰元梁使者。

第十六神仙

经曰：八卦天神下游于人间，宿卫太一，为八方使者，主八节日上计，校定吉凶。乾神字仲尼，号曰伏羲；坎神字大曾子；艮神字照光玉；震神字小曾子；巽神字大夏侯；离神字文昌；坤神字扬翟王，号曰女娲；兑神字一世（注一云字八世）。常以八节之日存念之，其神皆在脐中，令人延年。

第十七神仙

经曰：丹田者，人之根也；精神之所藏也；五气之元也；赤子之府，男子以藏精，女子以藏月水；主生子，合和阴阳之门户也。在脐下三寸，附著脊膂，两肾根也。丹田之中，中赤，左青，右黄，上白，下黑，方圆四寸之中。所以在脐下三寸者，言法天、地、人。天一、地二、人三、时四，故曰四寸；法五行，故有五色。清水乡、敖丘里、丹田名藏精宫。神姓孔，名丘，字仲尼，传之为师也。兆常以夜半存心之，赤气上行至绛宫、华盖，各右绕之。太一入黄庭，满太仓，养赤子，复入太渊，忽忽不知所在。复念太一，气还入丹田中止。常念太一玄光道母养真人子丹，正吾身也，自兆名也，勿忘之。

第十八神仙

经曰：大肠、小肠为元梁使者，主逐捕邪气。三焦关元为左社右稷，主捕奸贼。上焦元气上入头中为宗庙，兆身与天地等也。天地万物不可犯触也，天地之神则知之矣，而人身体四支，亦不可伤也。有痛痒者，神亦知之。由是言之，昭然明矣。天不可欺，地不可负，修身慎行，勿令懈怠也。兆欲除邪气，治百病，啄齿二七过，祝曰：

左社右稷，元梁使者，逐捕灾殃，急急如律令！五咽一咒，三十咽止。一日一夜三百六十咽，三十日邪气去，六十日小病愈，百日大病愈，三虫皆死，三尸走出，面目生光，与神为友。六祝一止，十二为之一周。

第十九神仙

经曰：两肾间名曰大海，一名弱水。中有神龟，呼吸元气，流行作为风雨，通气四支，无不至者。上有九人，三三为位。左有韩众，右有范蠡，中有太城子；左为司徒公，右为司空公，中有太一君；左有青腰玉女，右有白水素女，中有玄光玉女。玄光玉女者，道元气之母也。左有司录，右有司命，风伯雨师，雷电送迎，仙人玉女，宿卫门户，故名曰太渊之宫。先正紫房宫太一玄女赤子，故玄女常戴太白明星，耳著太明之珠，光照一身中，即延年而不死也。

第二十神仙

经曰：胃为太仓，三皇五帝之厨府也。房心为天子之宫，诸神皆就太仓中饮食，故胃为太仓，日月三道之所行也。又为大海，中有神龟。神龟上有七星北斗，正在中央。其龟黄色，

状如黄金盘，左右日月照之。故脐下为地中，中有五岳四渎，水泉交通，昆仑弱水，沈沈滉滉，玄冥之渊也。日月之行，故天昼日照于地下，万神皆得其明。人亦法之，昼日下在脐中，照于丹田，脐中万神皆得其明也。夜日在胃中，上照于胸中，万神行游嬉戏，相与言语，故令人有梦也。天不掩人不备，故召其神问善恶吉凶之事，令贤者自慎也。夜月在脐中，下照于万神；昼月在胃中，上照胸中万神。更相上下，无有休息。故胃中神十二人，谏议大夫名曰黄裳子、黄腾子、中黄子，主傅相太子；玄光玉女主取金液、神丹、芝草、玉液、松脯诸可饮食者，立至矣。

第二十一神仙

经曰：兆审欲得神仙，当知天地父母赤子处。兆汝为道，不可不知此五神名也，当自苦耳。知之，行之，坚守之，常念之，即神仙矣！《经》中俱有，但当心解耳！既知其神，当须得太一神丹金液，乃得神仙耳。诸神元气，虚无无为，自然为圣人耳，不为俗人所施也。兆不能服神丹金液，劳精思念，当自苦耳！故谓兆汝昼日常念脐中有日，赤黄精气光明照于脐中，胃中有月，白光赤黄精气填满胃中；暮卧念日在胃中，赤黄精气光明照于胸中，月在脐中，赤黄白光精气，照于脐中。以此为常，万世无止。

第二十二神仙

经曰：头发神七人，七星精也，神字录之。两目神六人，日月精也，左目字英明，右目字玄光。头上神三人，东王父也。

脑户中神三人，泥丸君也。眉间神三人，南极老人元光天灵君也。两耳神四人，阴阳之精也，字娇女。鼻人中神一人，名太一，字通庐，本天灵也。口旁神二人，厨宰守神也。口中神一人，太一君也，字丹朱。颐下神三人，太阴神也。颈外神二人，玉女君也。两手中神二人，太阳之精也，字魂阴。项中神二人，字上间也。肩背神二人，少阴少阳之精也，字女爵。胸中神二人，虎贲神也。两乳下，日月也；日月中有太神各一人，王父母也。两腋下神二人，魂魄兆神也。小腹中神二人，玉女也。两襞内神二人，亦玉女也，字阴隐。两胫神二人，金木神也，字随孔子。两足神二人，太阴之精也，字柱天力士。头发神字禄之，两耳神字娇女，两目神字英明、玄光，鼻孔中神字通庐，口神字丹朱，肩背神字朱雀，一云字女爵，两手神字魄阴，上元神字威成子，中元神字中黄子，下元神字明光子，一云字命光，阴神字穷英，两襞神字阴隐，两膝神字枢公。兆欲卧，瞑目，从上次三呼之，竟，乃止。其有病痛处，即九呼其神，令治之，百病悉去，即为神仙矣。

第二十三神仙

经曰：肺神八人，大和君也，名曰玉真宫，尚书府也。其从官三千六百人，乘白云气之车，骖驾白虎，或乘白龙。心神九人，太尉公也，名曰绛宫，太始南极老人元光也。其从官三千六百人，乘赤云气之车，朱雀为盖，丹蛇为柄，骖驾朱雀或乘赤龙。肝神七人，老子君也，名曰明堂宫兰台府也。其从官三千六百人，乘青云气之车，骖驾青龙或乘白鹿。胆神五人，太一道君也，居紫房宫。乘五彩玄黄紫盖珠玉云气之车，骖驾六飞龙。从官三千六百人。脾神五人，玄光玉女，子丹母也。

乘黄金珠玉云气之车，骖驾凤凰或乘黄龙，从官三千六百人。真人子丹在上，卧胃管中，黄云气为帐，珠玉为床，食黄金玉饵，饮醴泉玉液，服太一神丹，啖玉李芝草，存而养之，九年成真矣！千乘万骑，上谒太上黄道君，东谒王父，西谒王母，南谒老人元光之前，真人得道，与天地合。元阳子丹者，吾也。吾道成乃去，白日升天。或乘黄金云气珠玉之车，骖驾六飞龙，辔无极之马，从官凡万八千人。天师大神使万八千人来下著吾身，合三万六千人，故能白日升天也。胃神十二人，五元之气，谏议大夫也。脐中神五人，太一八人，凡十三人。合二十五人，五行阴阳之神也。神龟之上神三人，玄女、虚无、道母也。肾神六人，司徒、司空、司命、司录、司隶、校尉、廷尉卿也。乘神龟之车，驾六鲤鱼，一云白鱼，玄白云气之盖。丹田神三人，人之根也。三合成德，以应道数也。三焦神六人，左社、右稷、风伯、雨师、雷电、霹雳也。大肠、小肠神二人，为元梁使者。虎贲神二人，为力士，在朱雀阙门，延年益寿为龄，下侍真人凤凰阁。玄谷神五人，大将军司马也。阴神三人，上将军也，万神之精也，男子字穷英，女子字丹城。天之神万八千人，人之神万八千人，都合三万六千人，共举一身升天，即神仙矣！

第二十四神仙

经曰：东方之神女名曰青腰玉女。南方之神女名曰赤圭玉女，中央之神女名曰黄素玉女，西方之神女名曰白素玉女，北方之神女名曰玄光玉女。左为常阳，右为承翼，此皆玉女之名也。五行之道，常以所胜好者为妻。假令今日甲乙木，木胜土，则甲以己为妻。故言甲己，乙庚，丙辛，丁壬，戊癸，此皆夫

妻合会之曰也。言肝、胆木也。木帝以中宫戊己素女为妻。他皆效此。此二神玉女之来，敬而侍之，慎无妻也。妻之杀人，终不得道也。兆欲为道，慎勿淫，淫即死矣。此玉女可使取玉浆，致行厨也。

第二十五神仙

经曰：太上神字元光太一君。其欲得太一之神也，非心神也，乃天神南极老人元光也。下在人心中，常以平旦、日中，甲午日，丙午日，呼之曰：南极老人元光太一君，某甲欲愿得太一神丹长生之道。因瞑目念心中太一童子，衣绛章单衣，其色正赤黄如日，九十息顿止。心中神，字光坚，中太一中极君也。在脾中，主养兆身。常以鸡鸣、食时、日西黄昏时、辰戌丑未日，呼之曰：中极光坚太一君，某甲欲得真人神仙黄庭之道。因瞑目默念黄气满太仓胃管中脾上有一黄人，五十息顿止。心下神，字玄谷，北极君也，玄光道母也。常以夜半时，甲子、丙子、戊子、庚子、壬子日，呼之曰：北极君玄谷道母，某甲愿欲得金液醴泉可饮食者。因瞑目念肾间有白气，中有神龟，龟上有玄女，女右有司命，左有司录，见之呼曰：司命司录，六丁玉女，削去某甲死籍，著玉历生录。皆当言长生。故曰能知三神字，可以还命延年。此三神者，乃天地神道君三元君字也，人之先也。常念勿忘也，三元天之贵神是也。

第二十六神仙

经曰：子欲为道，当先历藏皆见其神，乃有信。有信之积，神自告之也。先念天灵君，天灵君青身白头，正在眉间，思之

三日，即见其神。念玄膺，状正赤生光。念咽喉中正白如银，环十二重。凡三日，念遍。乃念肺色正白，名曰鸿鸿，七日。念心色正赤，名曰响响，九日。念肝色正青，名曰蓝蓝，三日。念胆色正青，名曰护护，三日。念脾色正黄，名曰俾俦，五日。念胃色正黄，名曰旦旦，五日。念肾色正黑，名曰漂寸々，三日。念脐中太一色赤，人名曰玉灵子，三日。念大肠正白色，名曰胴胴，一作洞洞，七日。念小肠色正赤，名曰契契，九日。念丹田色正赤，中有赤人，名曰藏精，三日。念玄丈方丈，其中有人到住，七日。念金玉印乾燥完坚，三日。念玄英正黑，润泽有光，三日。念两脾，一作褫，左右脾内各有一玉女，衣绛帔襦、青裙，正立两褫上，三日。念两足下各有一人，正白，三日。念为道竟矣。不出静室，辞庶俗，赴清虚，先斋戒，节饮食，乃依道而思之。

第二十七神仙

经曰：子审欲为道，神仙不死，当先去三虫，下伏尸。三日百六十息食气，三十通一止，九十通一休息，日四为之。常以夜半、鸡鸣时祝曰：东方青牙，紫云流霞，饮食青牙，服食朝华。三咽之。南方朱丹，焕耀徘徊，服食朱丹，饮以丹池。三咽之。中央黄气，黄庭高仙，服食黄气，饮之醴泉。三咽之。西方明石，皓灵金质，服食明石，饮以金液。三咽之。北方玄滋，玄珠润滋，服食玄滋，饮以玉飴。三咽之。如此三十日，三虫皆死，伏尸走去，而三神正气自安定，伏尸不敢复还兆身中，即神仙不死，玉字金名，乘云而上升。

卷十九 三洞经教部·经十

老子中经（下） （一名《珠宫玉历》）

第二十八神仙

经曰：常以六甲之日，平旦时拊心祝曰：

苍林玄龟，流水如河，炎火周身（身，一作宫），安能知他？道来归已，道来归已！因念肝色正青，润泽生光，其上高危，在左方。次念胆色正青圆，中黄外青，润泽清滋，傍生拊心，著肝，肝覆其巅，此道之始也。念之既毕，乃呼其神曰：肉（一本作皮）子蓝蓝，与已为友，留为已使。某欲得太一神丹服食之，令某甲长生，勿去某身，常在紫房宫中，与道合同也。因瞑目念日精青气来下著身，入鼻孔中，念肝色青气与之合于目前，来入口中，咽之三七而止。思行青气周遍一身中，九十息止。至乙日复存其神，呼曰：太一紫宫（一作紫房）素女，与已为友，留为已使。某甲欲得太一华符服之。至甲寅、乙卯之日复存之。

第二十九神仙

经曰：常以六丙之日禺中时，拊心祝曰：

朱雀丹液，天海地河；愿求不死，服食天和（天和，一作至和）。因瞑目念心色正赤如日，在肺叶间乃止。念日精赤黄气来在目前，入口中咽之，三九而止。思行赤气周遍一身中，百八十息止。呼其神曰：李尚（李尚，一作李常）、曾子，与己为友，留为己使。某甲愿求太一神丹如金钊可饮食者，常在绛宫中，与己合同。至丁日复存其神，呼曰：天皇绛宫玉女，与己为友，留为己使。某甲欲得天皇长生之道。至丙午、丁己之日复存之。

第三十神仙

经曰：常以六戊之日鸡鸣时、日西黄昏时，拊心祝曰：

天道天道，愿得不老，寿比中黄，升天常早，愿延某命，与道长久。因瞑目念脾中黄气来上至口中，上念天精黄气来在目前，入口中咽之，三五而止。思行黄气周遍一身中，百五十息止。呼其神曰：玄光玉女、养子赤子、真人子丹、服食元气，饮宴醴泉。故言一身神有父母凡三人。至己日复存之，呼其神曰：真人黄庭玉女，与己为友，留为己使。某甲欲求真人黄庭神仙之道。至戊辰、己未、戊戌、己丑之日复存之。

第三十一神仙

经曰：常以六庚之日日晡时，拊心祝曰：

本子本子，白云卒起，雾合万里，愿云来归已，常为我使，

反复仙命，终而复始。因瞑目念肺色正白，令白气来止至口中；念曰，天精白气来下在目前，入口中咽之，三七而止。思行白气周遍一身中，百四十息止。呼其神曰：先生<漂寸>々，与己为友，留为已使，奉持华盖，金液玉英，常在勿出，侍我道君，共合为一身。至辛日复存其神曰：光黄玉堂，青腰玉女，与己为友，留为已使。某甲欲得彭祖长生不死之药服之。至庚申、辛酉之日复存之。

第三十二神仙

经曰：常以六壬之日夜半时，拊心祝曰：

愿睹天镜，玄滋玉池；还白使黑，常为婴儿。神来归己，五藏相随。因瞑目念两肾间白气周行一身中十二遍，翕然布散，流行四肢。乃复念两肾巍隗，状如双鲤鱼，右黑左赤，侠脊而居，炫耀光明，相照一身中。乃念青天太清元气，下在目前，入口中咽之，一九而止。思行太清白元气周遍一身，还藏丹田中，呼其神曰：司录、六丁玉女，削去某死籍，使某甲长生，上为真人，十二太一皆当言生。至壬子、癸亥之日复存之。

第三十三神仙

经曰：所存念五脏神皆毕，乃更念玄厘、玉英、金液，恒勿忘也。更念玄厘，欲其润泽而起行列也。别念玉英，其中有一人大回倒竖，小童子服饰也。存之欲令坚强，长大自倍也。念金液，欲令其乾燥而缓也，如紫谷盛水银也。念此尽遍，而复存之，法十二周，精神处之，和气自来，百病去除，寿命与天地期，长生无极，安知死时？

第三十四神仙

经曰：食日之精，可以长生；缘兹上天，上谒道君。其法常以月一日、二日、五日、七日、九日、十一日、十三日、十五日初出时，被发向日，瞑目念心中有一小童子，衣绛衣，文彩五色，灼灼正赤；两手掌中亦正赤；以两手掌摩面，下至心止，十二反为之。念天日精正赤黄气来下在目前，存入口中咽之，一九，以手摩送之，拊心祝曰：

景君元阳，与我合德，俱养绛宫中小童子。须臾复念心下至丹田中止，以手摩送之。以日托心，心得日精，己乃神仙矣。

第三十五神仙

经曰：食月之精，以养肾根，白发复黑，齿落更生，己乃得神仙。常以夜半时，思肾间白气周行一身中，上至脑户，下至足心。自然之道，易致难行。常以月十五日，向月祝曰：

月君子光，与我合德，养我丹田中小童子。因瞑目念月白黄精气来下在目前，入口中咽之，三七而止。以手摩送之，下至丹田之中。丹田中气正赤，气中有一人，长九分，小童子也。衣朱衣，故丹田中赤外黑，左青右黄上白，五色气已具。但以其月托肾，肾得月精，乃得升沈。丹田中赤者，太阳之精也，心火之气也；其外黑者，太阴之精也，肾水之气也；其左青者，少阳之精也，肝木之气也；其右黄者，中和之精也，脾土之气也；其上白者，如银盘而照覆之者，少阴之精也，肺金之气也。其中有五人，即五脏之太子也，五行之精神也。人须得丹田成，乃为真人。故生子仁者，肝之精也。礼容者，心之精也。义慧

者，肺之精也。和乐者，肾之精也。忠信笃厚者，脾之精也。辩勇者，胆之精也。缓和者，胆之气衰也。盲者，肝之气衰也。懦者，肺之气衰也。癩者，心之气衰也。濡者，肾之气衰也。不肖暗聋者，脾之气衰也。其五脏衰者，皆自见于己也。忧悲不乐则伤肝，伤肝则目瞑头白，当思肾心以养之。淫乐过度即伤肾，伤肾则腰疼痛，身沉重，大小便脓血，思肝肺以养之。恚怒则伤心，伤心则病狂吐血，思肝脾以养之。遭患忧难则伤肺，伤肺则思脾肾以养之。饮食绝饱，酒醉过度则伤脾，伤脾则思心肺以养之。令其子母相养之，即病愈疾除（求神仙之人，恶伤五脏，学士明照之）。

第三十六神仙

经曰：食太极之精，乃得长生。常以六戊之日，时加其辰（辰一作神），道士于室中，冠带北向，再拜曰：皇天上帝太上道君，曾孙小兆壬甲好道，愿得长生。暮夜卧，上念北斗太极中央大明星精，正黄气来下，在兆目前，入口中咽之，三五而止。黄精气填满太仓黄庭中，下至丹田中。乃念绛宫中有赤人；紫房宫中有五人：太一君在其中，老子、仙人仲成子在左，太和、曲文子在右；明堂宫中有玄光玉女，左有黄裳子，右有中黄真人，俱宿卫真人子丹也。乃复下念玉堂三公，呼曰：司录、六丁、玉女，削去某甲死籍，令某甲长生。气定，乃复念真人子丹中胃管中，祝曰：

玄光玉女，养我真子丹，服食元气，饮宴醴泉。以北斗中极托脾，脾得斗极之精，乃为真人。

第三十七神仙

经曰：肺为尚书；肝为兰台；心为太尉公；左肾为司徒公，右肾为司空公；脾为皇后、贵人、夫人；胆为天子、大道君；胃为太仓，太子之府也，吾之舍也；大肠、小肠为元梁使者；下元气为大鸿胪；中元气为八十一元士；上元气为高车使者，通神于上皇；故肺为玉堂宫；心为绛宫朱雀阙门；肾为北极幽阙玄武掖门；脾为明堂，侍中省阁也；胃为上海，日月之所宿也；脐为下海，日月更相上下至胃中。故太初者，元气之始也，道也，一也；心上为天。太始者，为万物之始也，山川也，地也，为肾。太素者，人之始也，精也，脾也，土也。上亦有三宫，两目为绛宫，两耳为玉堂宫，鼻口为明堂宫。眉间为郊山。能合三元气以养其真人小童子，则列然彻视矣。

老君曰：万道众多，但存一念子丹耳。一，道也。在紫房宫中者，胆也。子丹者，吾也。吾者，正己身也。道毕此矣。

第三十八神仙

经曰：道士练水银，消沙液、珠玉、八石，以作神丹，服一刀圭，飞升天宫。身常食气，乃得长生神仙。存神食丹，乃为真人。真人得道，上佐上皇治。故真人以水土溟溟浩浩，天地溃溃濛濛，不知所存藏。万八千岁乃成天、地、人。故真人以土作人，呼吸饮食，从骑伏使，令土不得独处，人不得独存。故言黄土，本人之先也。真人去之，上升九天；世人无道，下入黄泉。益土三升子（一作子）无骨筋（一本作肋）。故九天丈人有言曰：食于天者，以身报天，上为真人（神仙戏游）；食于地者，以身报地，下为尸鬼；食于人者，以身报人，骨毛弃捐。兆欲为道，勿食飞鸟。天之所生，杀之数数，减子寿年。人畜食之，可以为厨宰六畜也。避六丁神，兽类也勿食。丁卯

兔也，丁丑牛也，丁亥猪也，丁酉鸡也，丁未羊也，丁巳蛇也，此大禁之，六丁神之讳也。乘气服丹入室之时，无令生物，禁食五畜肉。五畜肉者，马、牛、羊、猪、狗也，但得食鸡子、鱼耳。禁食五辛，臭恶自死之物慎勿食，服丹尚可，乘枿禁之。

第三十九神仙

经曰：道者，吾也，上上中极君也。兆常以日出时、日中时、酉时、夜半时（一云日申、酉），上念太极中央太黄星，其精气来下在兆额上眉间止，正赤黄白如日状，以意致之下，入口中咽之，令其气下入绛宫紫房黄庭中。咽之三五而止，祝曰：

皇天上帝太上道君，曾孙小光壬甲好道，愿得长生。此吾之气也，吾从此气生。念之万遍，无止也。令兆长生，上为真人，云车下迎，飞升天宫，上谒上帝南极老人元光之前。

老君曰：圣人销珠，肾人水玉。销珠水玉，其道同法。销珠者，服日之精，左目日也。水玉者，食月之精，右目月也。被发，正偃卧，瞑目，常念两目中黄精赤气来下入口中，咽之，三九而止。令人神明，彻视八方。食肺之精，常念肺中白气来上出至咽喉入口中，咽之，三七而止。令人神明，身生光泽，辟邪致神，玉女侍之，即长生辟百鬼矣。常念身中小童子衣绛衣，在中央。中央即神明也。时念心中有紫华盖，下有一人，著赤帻大冠，绛单衣，彳钊箭引弩，愤然而嗔，即能辟兵，役使鬼神矣。

第四十神仙

经曰：常思顶中紫云出如车盖，状如火气，文彩五色，上与天连。以意极布之，与天相率下。念胃中黄气如橘，忽长稍大，身形如日。念目下元气、赤人黄人，道气行布四支，登高入日中（登高，一作登台），上至绛宫紫房太一。祝曰：

太一北极，敬告诸神，常令魂魄安宁，无离某甲身。是谓自然无形者也。

第四十一神仙

经曰：鬼箭十二，可以辟兵。常思心中十二芝茎，上与肺连，以意挹之，名曰鬼箭。兆常行之，五兵自辟，凶恶自亡。以击四夷，捐捻电光，但间兵楯刀戟、金银，天神皆助真也，雷公击鼓也。太白扬光，白帝持弩，蚩尤辟兵，青龙守门，武夷在庭，珣蛇玄武，主辟凶殃。白兔捣药，蟾蜍在傍，太一和剂，彭祖先当；服一刀圭，面目生光，身出毛羽，上谒上皇。此道也，使诸神气与子合同，慎之，勿解殆也。

第四十二神仙

经曰：常以庚申之日申时，被发，西南首，申地偃卧，纵体，瞑目，念肺正白，润泽光明，中有芝草，茎大如小指，其中空而明，下与心相连。其中有青赤气，上下交通，出心入肺之中。念之至下晡时止。肺者，人之天也；心者，人之日也；日气上出如赤丹之精，未尝有之时，人须得此气以生耳。失此气者，则死矣。名曰自然之道。道通神灵矣。

第四十三神仙

经曰：常念心中赤气如日，内青外黑，三合成德，以应道数。师曰：常以平旦，念心中正赤如日，日中有人，著大冠赤帻，衣绛单衣。兆见之呼曰：天皇太一君，使某甲长生，上为真人。

第四十四神仙

经曰：还精绛宫之中法：常以月一日、十五日、晦日，以日初出时，被发，东首向日卧，以左手摩两乳间，下至心，九反而止。甘心言曰：神手神还绛宫，无离己身；神乎安，君静处，与己言语。如此三，乃止。师曰：每摩两乳间者，使气上下道也；拊摩其心，存小童子，此名虚无。还精绛宫者，月三日为之也，神仙之道也。

第四十五神仙

经曰：元阳赤人，太一也；元阳道君，中太一也；元阳子丹，己吾身也；元阳玄光玉女，道之母也；元阳皇人，太一王也；元阳丹田，藏精宫也。师曰：元者，气也；阳者，日也。当思心中有日，日有赤人，著赤帻大冠，衣绛单衣。次思胆中有太白明星，三光耀而相照，星上各有一人，衣绛朱衣，冠九德之冠。道君在中央，左有老子、仲成子，右有太和、曲文子，凡五人、是一也。次念脾上正黄，中有日，日中有三人，道母玄光玉女在中央，左有黄裳子，右有中黄直。次念胃管中有真人子丹，坐珠玉之状，上黄金色云气为帐，玉女小童子侍之。次念脐中太一，衣五彩朱衣，冠三绛之冠，左青人，右有白人，前有赤人，后有黑人。次念丹田中有赤气，赤气中有三人，赤

人在中央，左有青人，右有黄人，赤气绕之，内青外黑，上白中黄。念此毕，卧，有所见，神气来语人也。

第四十六神仙

经曰：常念脾中有黄气升上至口中，咽之，三五而止，即饱矣。可以辟谷，坐在立亡。师曰：常思脾中有日，日中有黄金匱，匱中有书，封之以黄玉户，广三寸，字曰威喜。精而思之，则耶自出。兆能见而读之，心开目明，即时神仙矣。

第四十七神仙

经曰：常思念胃中，正自如凝脂，中有黄气，填满太仓，上至口中，咽之即饱。师曰：胃者，太仓也。诸神皆就太仓中饮食。中黄金釜，金甌。玉女小童，主给使之。故呼曰黄裳子，致行厨矣。

第四十八神仙

经曰：肾者，元气之根也。常思肾间白气，上升至头中，下至足心十指之端，周行一身中十二遍而止，手足皆热，可以不饥，不渴，不寒，令人不老，白发复黑。兆常念行之。

第四十九神仙

经曰：常以月朔、望日，思两肾间白气，上顶中，下至足心。神龟五彩为甲，文若总系，上有玄光玉女，二公相对坐，

前有太一，后有玄冥司录、司命，共议死生。人精念之，三十息止。咒曰：司录君、司命君、六丁玉女，削去某死籍，著上生文，此当言长生。神龟呼吸，吐故纳新，恣意所为。白龟之神，元气布行，四友皆温。人须得肾气，神龟呼吸乃生耳。常以甲子日及壬子日存行之，即长生矣。

第五十神仙

经曰：常以甲午之日日中时，被发，南首偃卧，瞑目，念脐下三寸丹田中黄，其气正赤，大如手掌，其外黑，次其外青。脐上有白气覆之，肺气也，左有青，右有黄，各大如手掌。此三者，肝气、脾气、肺气。师曰：丹田中赤者，太阳气；其外黑者，太阴气；次外青者，少阳气。三合成德，三气守之，即长生矣。

第五十一神仙

经曰：心为虚，肾为元。虚气以青上为天，元气以宁下为地，入于太渊。故虚气生为呼，元气生为噏。心为日，肾为月，脾为斗。心气下，肾气上，合即为一，布行四友不休息。故心为血，肾为气，合即流行，名曰脉。脉者，魂魄，人之容也。魂魄以去，主人寂寂，故伯脉尽即气绝，气绝即死矣。是以为道者不可不存其神，养其根，益其气。兆汝努力努力，将去矣。真人得道，万八千岁一会；道士得道，千岁一会，故作《中经》，以遗后世。本上皇藏之金匱，道人得，千金勿传出也。

第五十二神仙

经曰：三元之日会，合于己亥。三元者，太一、太阴、宫气是也。三元俱起己亥。太一左行，岁一辰；害气右行，四孟，岁行一孟；太阴右行，三岁一辰，九年行方。四九三十六年，三元俱合于亥。三合之岁，水旱兵饥，灾害并起。三合之岁，阴阳隔并，感天动地，害气流行，昼行则伤谷，中有人即疾疫，中谷即饥、贵。兆汝居其间，不能自生也。可不努力勉时学道哉？当期之世，水旱蝗虫，五谷饥贵，兵革并起，人民疾疫，道路不通，负老提幼，散流他方，其父母妻子兄弟，哀气内发，摧肝绝肠，略为奴婢，不知县乡。于期乃欲学道，岂不晚哉！岂不晚哉！吾深戒子，存神作丹，早自防。即遭乱世，远去深藏；圣主明世，道可照而行也。故天地之会，四十五岁一小贵，九十岁一小饥；一百八十岁一大贵，三百六十岁一大饥。五百岁，肾者一小聚；千岁，圣人一小聚；三千六百岁圣人大会。万八千岁，真人一小出治；三万六千岁，至极仙人一出治；三百六十万，岁天地一大合，元气溟滓，濛鸿元形，人为万物，不知东西南北，人化为禽兽，禽兽化为人。真人乃在元气之上，仙人乃在绝域无崖之际，道人隐居，可以贵重也。

第五十三神仙

经曰：天都京兆，合在勾陈之左端，号曰安德君，主与天太一北君共釭计说诸神，主人魂魄，会于南极。有录者延寿，众神共举之；无录者终矣，司命绝去之人，魂魄会于北极。有功德于人、天地、万物者，子孙富贵，寿考鲜明，身得封侯，复出为人。无德者有三：一曰残贼酷虐、害逆天地四时；二曰咒咀嫉妒淫泆，慢易天地神灵；三曰不忠、盗窃阴贼、推埋杀人。犯此三者，子孙绝灭。人生自有三命，至娶妇嫁女，复定

其一命；移徙葬埋，复定其一命。得吉身者寿考，子孙富贵；得凶者死，子孙贫困屯。汝居世间，当何著于天地？神可畏也。故天置日月、北斗、二十八宿、五星主之；六甲六丁诸神，主行民间。兆汝不知，汝甚可畏之。常复有邪鬼精魅至于家，思不祥、里社、水土公、司命、门户、井灶、清溷、太阴水渎，皆能杀人者。兆汝欲却邪辟鬼，当被符，次服神药。符者，天地之信也；药者，人丹也。益其气力，身轻坚强，即邪气官鬼不能中人也，即成神仙矣。鬼者，神之使也。鬼见天信即去矣。人亦有之，京兆舍中极乡璇玑里夏里黄公，字德皇，正在脐中央，太一是也。一名玉灵子。衣五彩朱衣，总阅黄神。常以八月秋分之日，案比计釭。常先之一日，后之一日，正节之日，凡三日，入室勿出，常以鸡鸣时思之，平旦兆悦之，至日禹中时止，为之三日。被发西北向，偃卧纵体，无令他人见之，豫敕家中人无得有声。先斋戒沐浴，至其日入静室中，安心自定，先祝之曰：鲁孙小兆某甲好道，愿得长生。今日秋分之日，天帝使者夏里黄公来下入吾身中，案比总阅，诸神不得逋亡，皆当来会。从上三呼之，比为之日三呼之，三日九呼之，日中乃止。即言曰：司录、六丁、玉女，削去某死籍，更著某长生神仙玉历，急急如律令！即日有天帝无极君，教自应曰：诺。下床回向再拜，谢天神。一身道毕此矣。

第五十四神仙

经曰：子欲知真人、仙人何类？仙人衣揲衣，生毛羽；真人无影，衣五彩朱衣。其居无常处，东春、南夏、西秋、北冬，浮游名山昆仑、蓬莱、大野九域之上，时上谒。上谒上皇，故真人得道，八千万岁。乘珠玉云气之车，驾元极之马，时乘六

飞龙，佐上皇治。中仙之士，中天而上。乘云往来，历越海江。下仙之士，法当尸解。晦日朝会拜礼，不得解怠，当为神使。道非有所异也，但有尊卑等故耳。故百岁之人黄头发，二百岁之人两颧起，三百岁之人万物耳，四百岁之人面纵理，五百岁之人方瞳子，六百岁之人肋助胼，七百岁人骨体填，八百岁之人肠为筋，九百岁之人延耳生，千岁之人飞上天，上谒上皇太一。为仙真人重瞳子，故能彻视八方。食芝服丹即不老。人万八千岁更为童子，男八女七，从此始。

第五十五神仙

经曰：子欲制百邪百鬼及老精魅，常持符、利剑，亭水瓮上，于中视其形影。凡行出入，卒逢非常怪物，于日月光中视其形影，皆可知也。以丹书制百邪符，置于瓮水上。邪鬼见之，皆自然消去矣。诸精鬼魅、龙蛇、虎豹、六畜、狐狸、鱼鳖龟、飞鸟、袴鹿、老木，皆能为精物。犯人者，符刻之斩之，付河伯、社令。常召今日直符使六丁神守之宿卫。左文字，在八十一首玄图六甲宫四十九真中。亦有珠胎、七机、华盖、清观皆能制百邪。此四符者，恶秽人不可服也。当被服威喜、巨胜、左契、右射、太极、太清、太玄、阳章、参天、包元气、太虚，此大道也。可常被服，无所不防，亦无禁忌也。上制文曰：皇天上帝，太上道君，曾孙小兆王甲好道，愿得长生，所愿从心来，自在心也，不多言。上封文曰：皇天上帝太上道君天一太一北斗君、日月阴阳君、司命君、司录君，曾孙小兆王某好道，愿得长生，唯司命司录君削去死籍，更著长生玉历仙籍，定为真人。臣某即日除为太一使者，再拜受命。上皇道君。中黄门子，再拜著契封符传，当清洁先解过，常以西四时除日及八节

日，以酒脯于东流水上解过，南流亦可。神仙玄图曰：玉历五十五章姓名符信，本在上皇金匱玉笈玉笥中，封之九重。兆得之，慎勿妄传。子慎之，勿受钱之。得其人即传之，可得神仙。吾时时自案行此三篇。三篇，上下《中经》也。吾常使司命教鬼守汝，勿妄增减吾文。一字不具，吾即知之，兆汝慎之！慎之！如吾言符与下字以丹青之，此吾之信也。兆汝审欲神仙，当先服还丹金液，存神，即时仙矣，上为真人。兆汝不服神丹金液，当自苦耳。为寒温风鬼所系，司命不救汝也。道神无奈汝何。兆为道，温衣适食，守虚无，为自然，鬼亦不能救杀也，年寿终竟，自死矣。何以言之？以其不坚守神故也。譬犹万物之生，非欲求死，但自然老枯槁腐死，其人亦如此矣。吾以喻汝，努力求师，吾教八十一弟，皆仙。其十人布在民间，游箕谷仙。吾越度秦项不出，为汉出，合于黄世，见吾大吉。

卷二十 三洞经教部·经十一

太上飞行九神玉经（一名《金简内文》）

太上大道君告北极真公曰：吾昔游于北天，策驾广寒；足践华盖，手排九元；逸景云宫，遨戏北玄；逍遥朔阴之馆，赏于洞毫之门；眇璇玑以召运，促劫会以舞轮；叹万物之凋衰，俯天地而长存；乃觉九星之奇妙，悟斗魁之至灵也。夫九星者，实九天之灵根，日月之明梁，万品之渊宗也。故天有九气，则以九星为其灵纽；地有九州，则以九星为其神主；人有九孔，则以九星为其命府；阴阳九宫，则以九星为其门户；五岳四海，则以九星为其渊府。五九参列，纲维无穷，制御天宿，回转三辰。调理四五，致天地得存，万品之所宗，神仙之所凭。夫天无九星则无以为高清；地无九星则无以为至灵，人无九星则九孔不明；上帝兼之以通真，神仙凭之以得成，五行乘之以致度，万物禀之以得生也。天清地静，则九星焕明；天激地否，则九星翳昏。璇玑召劫度之期，天关运五行之气，轮空洞之大辐，促九天之应会。是以神光转灼，玄监万生；傍行越位，以告灾祥。天地所以有大运之交，百六应符，皆九星纬转数终，所以阴阳勃蚀，二气否激，天翻地覆，九海冥一，金玉化消，毫末不失也。悉九星之所回，璇玑之所促；明天地之用，玄纲之妙

；得其中则有空常，隐步藏景，逃形变化，三辰万物，立成黑点，隐沦二十五名。其趣幽微，秘不下传。上有九辰华君，中有九皇夫人，魂精魄灵，皆九斗之威神，吐焕七曜之光，流映九天之门，洞朗幽虚，无毫不彰也。其星阳芒则为流金火铃，阴芒则为豁落七元，皆高上之灵策，元始之威章也。龙飞尺素之诀，隐讳口口之中，列帛华晨之下。羊雁礼天以招真，则玄光曲照于盟场，九晨下降于灵宇，夫人欢悦于寝席，玄斗记名于隐书。有知此道，存之便足以免大劫之会，度洪灾于甲申也。修之二七年，便得晏鸿翻而腾翔，斥紫霄而升晨也。此玉清之上道，不比上清之中仙也。玉清则上清之高真，上清则太清之高神，太清则飞仙之高灵。凡行玉清之道，出则诸天侍轩，给玉童玉女各三千人；建三七色之节，驾紫云飞辇；十二琼轮前导，凤歌后从；玄钧六师启路，飞龙翼轸。其位准高仙，列图玉清。行上清之道，出则五宿侍卫，给玉童玉女各一千五百人；建紫毛之节，驾飞云丹舆；前吹凤鸾，后奏天钧；玄龙启道，五帝参轩。位准上清左右位卿。行太清之道，出则五帝侍卫，给玉童玉女各八百人；建五色之节，驾龙舆飞烟，前啸九凤，后吹八鸾；白虬启道，太极参轩。故真中有高卑，玄中有阶次也。玉清之道，玄远绝邈，不比中真及飞仙之徒。九星上法玄映之道，吾昔受之于元始，于今七亿万劫，经天地成败，万品衰灭，而其道独存，今犹修之于云景之上，而不能忘之于时节者，意玩此道高妙，爱乐夫人接遇也。况来生始学飞晏之举，而不知幽寻步空之法，何由得披重霄之门，观天地之始终乎？既无此道，与九晨乖域，夫人绝游也。徒有玄名帝录，超卓高腾，正可得策驾云龙，游眇五岳，但不死而已。如此望践斗魁，旋步华晨，腾景玉清，当未有期也。子方当匡御劫运，封掌十天，科简玄录，理判神仙，宜受此法以综万生，今出相付，子

秘而修焉。九晨真人曰：行飞步之道，先一日沐浴斋净。是日于中庭布星图，随斗建也。北向长跪烧香于玄冥星下，叩齿三十六通，闭眼存岁星在左胁，太白星在右胁，荧惑星在头上，辰星在脐下，镇星在心。次覆衣九星，先举左手屈于头上如斗势，存阳明星在左手掌中，阴精星在左肘上，真人星在左乳上，玄冥星当心（故烧香于玄冥星下而启事，因心而应天明也）。

丹元星在右襟上，北极星在右膝头上，天关星在右足胚上，辅星在脐下，弼星在头上，毕，微咒曰：

衣天斗，戴金巾，乘魁纲，入斗门，朝真人，拜华晨，二十八宿，覆络我身，乘空步虚，飞升自然。毕，咽气九过止。次举右手如斗势临头上，存阳明还右手掌中，阴精星右肘上，真人星在右乳上，玄冥星当心上，丹元星在左襟上，北极星在左膝头上，天关星在左足胚上，弼星在左目上，辅星在右目上。毕，微咒曰：

我乘天纲，步九元，履斗魁，行飞仙，得天心，万神欢。隐形藏景，变化万端。敢有干试，收系斗门。扫除不祥，正真明分。左焕火铃，右辉灵幡。威光万里，啸命立前。玉帝所咒，靡不如言。毕，咽气十六通止。次乘斗旋行斗星之外，步斗魂魄，从天枢星上，对阳明，次登天璇，天机，以次周于隐元，往反三过。毕，于隐元星上歌《三洞飞空章》而登阳明也（便立思夫人，形象如左也）。

第一天枢星，则阳明星之魂神也。天枢星威而不曜，光而不照，潜洞太虚，围九百二十里，对阳明星之西北门。其星则号元斗宫魁精玄上真皇夫人，姓明通，讳寰玄，真名上精。头建飞云华颊之髻，馀发散至腰。衣紫、黄、青三色之袿属，带九铃之绶。口恒吐青气之光，以注于阳明星上，以明星之焕也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，然后咒，则魂神澄正，明星

欢悦，天光洞映，使魂影俱飞登晨也。并足上天枢星上，对阳明星，左手抚心，右手指阳明星，叩齿九通，咽液九过，闭气三息，而微咒曰：

天妃九星，凝气结真，七曜缠络，号曰玉晨；上建华盖，下蹶斗魁，身乘天机，飞步琼轩；魂精魄灵，与形合仙，保元日月，天地长存；随运变化，夫人齐连，上升九天，浮景自然。毕，闭气三息。次左足蹶天璇，进右足与左足并，通气。

第二天璇星，则阴精星之魂神也。天璇星景而远映，照而不焕，潜洞太虚，围五百五十里，对阴精星之西门。其星则号玄斗宫虚精上玄皇夫人，姓玄镜，讳郁勃光，真名金归。头建飞云华颊之髻，馀发散至腰。衣飞锦罗裙，凤文锦帔，带灵飞紫绶。口恒吐黑气之光，以注于阴精星上，以明星之晖曜也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上天璇星上，对阴精星，左手抚心，右手指阴精星。叩齿九通，咽液九过，闭气九息，而微咒曰：

北玄皇灵，九上开清，玉华潜映，纬络紫庭；今日飞步，万道通明，魂魄澄正，安附我形；无使飞翔，同升北星；上喻玄精，饮以玉泉；变化九微，保命天灵。毕，闭气三息。次进左足蹶天玑星，次右足来并，通气。

第三天玑星，则真人星之魄精也。天玑星猛而不显，晖而不曜，潜洞太虚，围七百七十里，对真人星之东南门也。其星则号上精宫灵妃元皇夫人，姓常明，讳化云，真名流燭。头建晨婴宝冠，衣飞云明光锦襜属，带六山飞晨之绶。口恒吐黄气之精，以注真人星上，以明星之曜也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上天机星上，对真人星，右手抚心，左手指真人星，叩齿九通，咽液九过，闭气十二息，而微咒曰：

灵妃元皇，九星中真，上理玑度，总监诸天；下试群方，

游景紫烟；是日上吉，皇道敷陈；润流九外，曲洒我身；飞行羽步，上入帝晨、与皇同眉，永享劫年。毕，闭气三息。次进左足，蹠天权星，进右足与左足并，通气。

第四天权星，则玄冥星之魄精也。天权星微而隐，隐而同映，潜焕太虚，围八百里，对玄冥星之东门也。其星则号纲极宫上灵神妃华皇夫人，姓开生，讳运明，真名婴关。头建七称之冠，衣绯罗凤文之）袿属，带金真玉光。口恒吐赤气之精，以注玄冥星上，以明星之焕曜也。修习步之道，当思夫人姓讳形像，并足上天权星上，对玄冥，右手抚心，左手指玄冥，叩齿九通，咽液三过，闭气三息，而微咒曰：

神妃上灵，号曰华皇；安镇华盖，北上之宫；左待玉女，右卫灵童；道引七精，九晖之光；为我致真，飞步天纲；使我魂魄，俱升帝堂。毕，闭气三息。次进左足蹠玉衡，进右足与左足并，通气。

第五玉衡星，则丹元星之魂灵也。玉衡星大而嘿，踊而不焕，潜洞太虚，围七百二十里，对丹元星东北门也。其星则号纪明宫北上金盖中皇夫人，姓元方，讳神武，真名勃。头建紫晨飞华之冠，衣九色之）袿属，带神虚玉文。口恒吐白气之光，以注丹元星上，以明星之晖也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上玉衡星上，对丹元星右手抚心，左手指丹元，叩齿三通，咽液三过，便闭气三息，而微咒曰：

皇华中妃，上元所居，九斗吐晖，精焕八嵎；流烟郁勃，散灵朱庐；使我魄灵，天地同符；形魂俱升，驾空策虚；玉光缠络，丹駟紫舆；飞行北上，参受隐书。毕，闭气三息。次进左足蹠闾阳星，进右足与左足并，通气。

第六闾阳星，则北极星之魂灵也。闾阳星朗而潜照，晖而不焕，洞微太虚，围七百七十里，对北极之下开北洞之门也。

其星则号紫极宫安上晨华元皇夫人，姓王元，讳根华，真名冥会。头建玉晨进贤之冠，衣飞青羽袿属，带流金火铃。口恒吐绿气之精，以注北极星上，以明星之曜晖也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上闾阳星上，对北极星，而左手抚心，右手指北极，叩齿三通，咽液五过，闭气五息，而微咒曰：

九天上帝，黄华之宗；运转璇玑，总轮八方；使我飞步，躡纪天纲；反覆交并，三五纵横；通灵八微，羽衣玄黄，龙舆玉景，飞行太空；长享眉寿，天地同功。毕，闭气五息。次左足躡摇光星，进右足并，通气。

第七摇光星，则天关星之魂太明也。摇光星则光转空洞，回旋天关也。潜焕太虚，围九百里，上对天关星之南门，下对北极星也。其星则号运天宫玉华灵皇夫人，姓度元，讳终会，真名启光。头建飞华颓云之髻，馀发散至腰。衣七色夜光云锦之裙，九色锦帔，九天威灵玉策。口恒吐赤气之精，注天关星上，以明星之大光也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上摇光星上，对天关星，而左手抚心，右手指天关，叩齿九通，咽液九过，闭气三息，而微咒曰：

天地回转，七光大明，旋轮九气，上应玉清；中有夫人，号曰华灵，玄映九外，无毫不生；是日良吉，飞步紫庭；使我魂魄，安附身形；变化空洞，出幽入冥；天地同轮，万劫不倾；保仙上元，九晨齐精。毕，闭气七息。次左足躡洞明星，进右足并，通气。

第八洞明星，则辅星之魂精阳明也。洞明星则光回诸天，总轮上宿，流畅太虚，围九百九十里，上对辅星西南门也。在天关之上梁，北极之阳芒也。其星则号空真宫太明常皇夫人，姓幽升，讳无韵，真名空变。头建飞云华颓之髻，馀发散至腰。衣飞罗文袿属，带九光之绶。口恒吐青气之精，注于辅星之上，

以常阳大光也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上洞明星上，对辅星，而右手抚心，左手指辅星，叩齿九通，咽液九过，闭气三息，而微咒曰：

三五飞行，天地开张；九元回纲，合纽上京；天真散灵，万道溢昌；夫人曲映，是日吉良；飞步斗魂，旋行玉纲；头戴华盖，足履常阳；游戏三清，变化万方；保仙自然，享寿无穷。毕，闭气十二息。次左足蹶隐元星，进右足并，通气。

第九隐元星，则弼星之魂明空灵也。隐元星则隐息华盖之下，潜光曜于空洞之中，围九百九十里，上对弼星之东南门也。其星则号元宝宫空玄变灵上皇夫人，姓冥通，讳万先，真名常阳。头建飞云七称玉冠，衣青文锦襜属，带九光夜烛，口恒吐黑气之精，注于弼星之上，以明焕隐洞之光也。修飞步之道，当思夫人姓讳形像，并足上隐元星上，对弼星，而左手抚心，右手指弼星，叩齿十二通，咽液一过，闭气一息，而微咒曰：

上步天纲，飞行羽门，出入三生，逃身隐沦，变化形影，千合万分；神安气镇，练度仙魂；举体同飞，衣服锦裙，流铃交落，身佩虎文；啸咤五帝，策驾景云；上造北晨，朝谒皇君。毕，闭气一息止。还并足上天枢星上，单步往反三周，不须复存思咒说也。步斗魂事毕，存咒正初登星一过行之尔。往反三过。毕，还立天枢星上，向阳明星而歌诵《徘徊游行九晨羽章》三篇。毕，便登纲上阳明星上，行飞步也。

羽章

云纲落天纪，九斗翠玉虚。紫盖重霄岭，玄精朗八嵎。上

有九晨宾，吟咏隐与书。飞步遨北汉，长龄天地居。

控轡玄羽台，飞行九元所。洞虚深幽邃，云纲乘空举。下有采真士，仰照玉晨府。三周阳明上，九回入洞野。高步登帝尊，长歌龙飞语。

玉霄映北朔，琼条翠隐柯。空生九灵台，焕精曜太遐。天关运重冥，劫会屡经过。乘我羽行驾，飞步织女河。保灵空常化，永忘天地多。

此三章出玉清上宫，诸九阳玉童、九华玉女皆恒歌诵之于华晨之上，以和形魂之交畅，启灵真于幽关也。

凡修飞步七，元行九星之道，无此歌章，皆不得妄上天纲，足躡玄斗也。犯之九星则执子魂魄，闭于斗纲之下也。令人猖狂失性，嗔怒妄兴，不出三年，无不丧身。非道不欲使人得仙，而人不能明道渊源耳。如此岂可不详而行焉？九星则九天之根，玉清之明精；九魂则九星之明灵。人徒知步七星之妙，而不知九星魂魄之至灵也。非七星不欲运人上斗，而人身魂神畏斗星之灵魄，不敢随人而腾空也。欲修飞步之道，宜知斗星之魂魄，九皇夫人内名、空常之隐诀也。而按图修行，岂当不得飞登北元，上谒华晨者哉？但此道高妙，玉清宝秘不行，中仙鲜有得者。知其法则九星内映，夫人降席，斗魂感悦，则共携兆而升入九元之内宫。

阳明星，天之太尉，司政主非。上总九天上真，中监五岳飞仙，下领后学真人，天地神灵功过轻重，莫不隶焉。星围九百二十里，皆琉璃水精。中有玉树、青实，金翅之鸟栖其上，自生青精玉芝，食之一口，寿九万年。星有九门，有四光芒，皆焰照九亿万里中。上有青城玉楼据斗真人，号曰太上宫青城玉楼九晨君，姓上云，讳法婴容，字董洞阳摇天槌。头建九晨玉冠，衣青羽飞裳，手执斗中玄图，坐玉楼之中。有玄名玉录，

当得知九晨君内讳。知者玉晨下映，明星玄降。修其道，飞行太空，升入九门之内也。修飞步之道，当先于阳明星上，右手指心，左手指天东北，闭气九息，叩齿九通，咽液三过，闭眼思九晨君姓讳形像，留立阳明星上，便微祝曰：

飞天九晨，上据玄魁，威振八焕，司政紕非；今日飞步，万道通开，九真齐景，天转地回；鬼谋截颈，人逆斩摧，三纲所捕，逆者将衰；神灵侍卫，享福巍巍；得天之心，骨化形飞；手攀七纲，足践九扉；云行雨步，上升太微。毕，左转阳明星上，九回，立向鬼门，闭气三息。转左足蹑阴精，进右足并于阴精星上通气。

阴精星，天之上宰，主禄位。上总天宿，下领万灵及学仙之人。诸学道及兆民宿命禄位，莫不隶焉。星围五百五十里，亦皆琉璃水精，中有玉树，黑实，金翅之所栖，自生玄芝玉饴，食之一口，得寿五万年。星有五门，门有四光芒，焰照九亿万里中。上有五色玉楼攀魁真人，号曰中元宫五色玉楼北上晨君，姓育婴，讳玄上笏，字昌阳文激明光。头建玄精玉冠，衣玄羽飞裳，手执五色羽节，坐玉楼之中。若有玄名朱台，当得知上晨君内讳。知者则北上下映，阴精玄降。修行其道，则飞行太空，升入五门之内也。修飞步之道，当先于阴精星上，左手指本命，右手指心，闭气五息，叩齿五通，咽液五过，闭目思北上晨君讳字形像，留立阴精星上，便微咒曰：

玄晨北灵，五气上精，体隐六纪，心藏景星，日月侠映，三光饬形；今日元吉，步纲紫庭，上开天户，受福朱灵；享祚无极，禄位尊荣；万愿交覆，所向利贞；腾飞华盖，遨翔玉清；上诣北晨，九真齐辔。毕，左转阴精星上，五回，向本命上立，闭气三通。转左足蹑弼星，进右足并，通气。不得蹑真人星，但蹑弼星耳。

真人星，天之司空，主神仙。上总九天高真，中监五岳灵仙，下领学道之人。真仙之流莫不隶焉。星围七百七十里，亦皆琉璃水精，中有玉树，黄实，金翅之所栖，自生黄精玉芝，食之一口，得寿三千万岁。星有十二门，门有四光芒，焰照九亿万里中。上有黄台玉楼真人，号曰真元宫中黄台玉楼主仙华晨君，姓归并，讳妙阳光，字通度元度凝脂。头建飞晨宝冠，衣青羽飞裳，手执斗中青箒，坐玉楼之中。若有玄名方诸，当得知华晨君内讳。知者则华晨下映，真人玄降。修行其道，则飞行太空，升入十二门之内也。修飞步之道，皆不得躐真人星也。当并足弼星上，所谓偃息华盖者也。北老真公曰：子欲腾身，勿干真人；子欲飞行，勿枉天纲；子欲神仙，当拜华晨。行道当避真人星，立弼星之上，拜真人，朝华晨，而求飞空也。弼星曰空，辅星曰常。常者，常阳；空者，隐藏。其有讳，不得传于人口，可于华晨之下，羊雁礼天，烈素盟而传。得此秘讳，心存而行之，轻泄，七祖负考风刀也。当于弼星上，右手抚心，左手指西北，闭气九息，叩齿九通，咽夜九过，闭眼思主仙华晨君姓讳形象，留立真人星上，便微咒曰：

太微通真，弼辅华晨，吐焕九精，结气紫烟，飞霞流映，光曜十天；上理元衡，下携神仙；今日飞步，请礼真人，一求空行，二乞隐身，三愿上升北掖，四便龙衣羽服，锦帔青裙，驾乘八景，浮游九玄得入天宿，与帝同轩。毕，左回弼星七过，向真人，闭气三息。转左足躐玄冥，进右足并，通气。

玄冥星，天之游击，主伐逆。上总九天鬼神，中领北帝三官，下监万兆，伐逆不臣，诸以凶勃莫不隶焉。星围八百里，亦皆琉璃水精，中有玉树，赤实，金翅之所栖，自生丹芝流璜，食之一口，得寿八千万年。星有三门，门有四光芒，焰照九亿万里中。上有朱台玉楼出斗真人，号曰纽幽宫中朱台玉楼玄上

飞盖晨君，姓冥枢，讳定宣觉，字法明度摇天柱。头建三华宝晨冠，衣丹锦飞裳，手执命灵之桔，坐玉楼之中。若有玄名玉格，当得飞盖晨君内讳。知者则飞盖下映，玄冥玄降。修行其道，则飞行太空，上升入三门之内也。修飞步之道，当先于玄冥星上，右手抚心，左手指天，闭气九息，叩齿三通，咽液三过，闭眼思飞盖君姓讳形像，留立玄冥星上，便微咒曰：

天真行道，步景藏形；七元焕落，九晨齐并；手把天衡，足践飞星，左辅火甲，右御朱兵，威振十天，流焕上清，先戮谋议，后伐妖精，敢有干正，斩以刀刑，三纲所制，莫不伏听；变化往反，适心华庭；乘空飞步，上造帝灵。毕，左回三转，向天闭气三息。转左足践丹元星，进右足并，通气。

丹元星，天之斗君，主命录籍。上总九天谱篆，中统鬼神部目，下领学真兆民命籍。诸天诸地，莫不总统。星围七百二十里，亦皆琉璃水精，中有赤树，白实，金翅之所栖，自生金精冶炼之膏，食之一口，得寿七万年。星有七门，门有四光芒，焰照九亿万里中。上有素台金楼躡纪真人，号曰纲神宫中素台金楼躡纪真人金魁七晨君，姓上开，讳冥通光，字朱焕元变五道。头建七宝飞天冠，衣白锦飞裙，手执青元篆籍，坐金楼之中。若有玄名昆台，当得知七晨君内讳。知者则七晨下映，丹元玄降。修行其道，则飞行太空，上升入七门之内也。修飞步之道，当先于丹元星上，右手抚心，左手指天关，闭气七息，叩齿三通，咽液三过，闭眼思七晨君姓讳形像，留立丹元上，便微祝曰：

飞行躡纪，上步丹元；乘魁落宿，呼命斗魂，削死勒生，青白简分；三合成道，年命长延；亨利眉寿，齐生华晨；肉飞骨轻，驾景乘云；仙衣羽服，流铃纷纷；五色焕耀，升入七门。毕，回星上七转，还向天关，闭气七息。转左足践北极，进右

足并，通气。

北极星，天之太常，主升进。上总九天真，中统五岳飞仙，下领学者之身，凡功勤得道，转轮阶级，悉总之焉。星围七百七十里，亦皆琉璃水精，中有黑树，白子，金翅之所栖，自生玄芝水瑛，食之一口，寿五万年。星有八门，门有四光芒，焰照九亿万里中。上有玄台玉楼步纲真人，号曰纪明宫中玄室主台玉晨飞华君，姓明灵，讳长明化，字渊洞源昌上元。头建飞精华冠，衣紫锦飞裳，手执九斗玉策，坐玉楼之中。若有玄名金台，当得知飞华君内讳。知者则飞华下映，北极玄降。修行其道，则飞行太空，上升八门之内也。修飞步之道，当先于北极星上，右手抚心，左手指金门，闭气八息，叩齿三通，咽液三过，闭目思飞华君姓讳形像，叩齿立北极上，便微咒曰：

天行三五，中元回旋；飞步华盖，御斗乘晨；落纪三命，徘徊游烟；今日元吉，上希神仙；名书玉简，列字紫篇；青襦羽服，丹帔锦裙；八景丹舆，运我升轩，位为仙卿，北上之君，请求所咒，靡不如言。毕，回星上八转，还向西方闭气八过，转左足践天关，进右足并，通气。

天关星，天之上帝，主天地机运。如四时长养，天地否泰，劫会莫不隶焉。星围九百里，亦皆琉璃水精，中有三华之树，五色之实，金翅之所栖，生自然九味芝膏，服之一口，身生九色之光，得寿九万年。星有一门，门有九光芒，总运九天之气，焰照九亿万里中。上有九层玉楼乘龙真人，号曰关会宫九层玉楼总云九元北盖晨君，姓玄枢，讳转光，字会元终明天徒。头建九元宝冠，衣九色锦裳，手执晖神之章，坐玉楼之中。若有玄名九天帝图玉篆，当得知北盖晨君内讳。知者则北盖君下映，天关玄降。修行其道，飞行太虚，升入一门之内也。修飞步之道，当于天关星上，左手抚心，右手指地户，闭气一息，叩齿

三通，咽液三过，闭眼思北盖晨君姓讳形像，留立天关星上，便微咒曰：

天元运关，地纪转维；九灵交度，三五相推；四七幡宿，五帝徘徊；承玄步虚，上躡玉机；衣斗履斗，流铃焕威，顺我者吉，逆我者衰；我行天真，万里廓开；身腾苍辔，魂升形飞；长离劫会，升入太微。毕，回星上一转，还向地户闭气一息。转左足践转星，进右足并，通气。

辅星，天尊玉帝之星也，曰常。常者，常阳。主飞仙。上总九天，领九地。五岳四渎神仙之官，悉由之焉。星围九百九十里，亦皆琉璃水精，中有青华之树，自有九音之字，上有青鸟、三足鸟，生自然琉璃芝瑛，食之一口，得与玉帝同真。星有八门，交通八气。门有四光芒，焰照九天之上。中有紫气玉楼游行三命真人，号曰帝席宫中紫气玉楼帝尊九晨君，姓精常，讳常无瓮，字玄解子空正上开延。头建飞精玉冠，衣九色衣，手执火铃，坐玉楼之中。若有玄名上清，得知帝尊内讳。知者则帝尊下映，辅星玄降。修行其道，飞行太空，升入八门之内也。修飞步之道，当于辅星上，右手抚心，左手指荧惑星，闭气三息，叩齿三通，咽液三过，闭眼思帝尊姓讳形像，留立辅星上，便微咒曰：

乾坤交覆，三命接灵；上步天宿，飞行九星；左把隐书，右执羽经，拜谒帝尊，受帝之名，得越华盖，腾翔紫庭；今日行道，万庆交并：受福巍巍，永享长生；身变毛羽，飞升玉清。毕，回星上三过，还向南方闭气三息，转左足还践弼星上，进右足并，通气。

弼星，太帝真星也，曰空。空者，恒空隐也，主变化无方。星围九百九十里，亦琉璃水精，中有三华之树，自生九天玉章，上有金口之风，口衔火铃，中生自然七曜之晖，得食晖一口，

与太帝同真。星有九门，交关九天。门有四光芒，焰照八极之外，无央之中也。中有玉台紫馆徘徊三阳真人，号曰上尊宫中玉楼紫馆帝真元晨君，姓幽空，讳空无先，字隐元觉冥阳晖幽寥元。头建飞天玉冠，衣九天龙衣手，手执帝章，坐紫馆之中。若有玄名九天，得知帝真内讳。知者则能隐形藏身。修行其道，则飞升九门之内也。修飞步之道，当于弼星上，右手抚心，左手指北辰星，闭气五息，叩齿三通，咽液七过，闭眼思帝真元晨君姓讳形像，却立弼星上，便微咒曰：

道合三微，玄虚举真，出常入空，逃形天关，浮翔八极，驾景紫烟，飞步九天，变化亿千。遨戏北盖，啸命句陈，所求所愿，靡不如言；长龄天地，保年华晨。毕，回星上五转，还向北辰星，闭气七息，左转两足，还并立阳明星上。从阳明星单行禹步，周回九星，往反九回，止。皆不须复存咒也。毕，还弼星上，平坐，偃息华盖，存九晨覆衣如初法。闭眼思己身在绛云之内，乘天纲飞空上升九天之门，随纲转轮九过。毕，觉身如落空，还坐星图之上，便以手拭目九过，捻两耳门九过，而行周天大咒，叩齿九通，仰西北而咒曰：

高上九灵，皇上华君；总仰天宿，回度三辰；变化四节，五行成仙；是日行真，普命万神，五岳四渎，及诸灵山，天地水官，悉卫我轩；太阳激电，六阴吐云，猛兽驱除，万精四奔，毒龙食鬼，平灭邪源，谋我者刑，干我者烦，乐我者寿，愿我者仙；我带灵策，体佩七元，流金火铃，焕落我身；头戴华盖，足蹑景云；口衔天精，手握天关；空常变化，千合万分；金木水火，立成自然；飞行禹步，徘徊九门，出入三清，天地长存。毕，又叩齿三通，咽气二七过，都止，九晨之道毕于此也。行九晨之道，当以正月、七月、四月、十月、四孟月同用上旬五、九，唯一日也，平旦；二月、八月、五月、十一月、四仲月同

用中旬十五、十九，正中；三月、九月、六月、十二月，四季月同用下旬二十五、二十九，夜半。此一月六日，旬适取其一，一月三过。行之一年三十六过，以应天关转轮九天之气三百六十度之数也。以其日行道，皆九天书名，得过阳九百六之运，身免洪波大劫之灾。九年乃得晏飞纲而上步，乘空纪而超足也。

《九晨玄图金简文》曰：修飞步九晨之道，亦当依步天纲之日，兼而行之，益求飞天之远，玄斗屡鉴也。若兼修者，当先行九晨，而后行步天纲也。此二法咒，咒为异，原同一法。

步天纲

太微帝君昔授皇清洞真君，步天纲，飞地纪；据玄斗，攀星魁；接九真，乘飞龙；游三命，浮二生；固三宝，出六害；隐六阴，入六纪；镇天英，守延期；存元辅，蹶大弼；用流丹房，上升文昌，展转九道，位为九老。行之二十年，受书为上真人。凡人望七星为近，不知步之甚远。道士苟知天纲之可步，而不知魂魄不追其身，非身之不将魂魄也，魂魄畏七星之威，不敢追身而上行也，故三魂不摄，七魄荡散，徒以空尸步纲而神不我从，实徒劳也。子欲步纲，澄心虚静，不思哀忧，不念荣味。于是回行三匝，登星启祝，使魂魄二神俱过灵关，豁然纵体，奄忽自忘，盛洁乃步，恒如蹈空，一年辟非，二年辟兵，三年辟死，四年地仙。千害万邪，众莫敢干。自此以往，福庆无端，致神使灵，骖驾飞龙；太极赐芝，玉帝给童。行二七年，为上真人。步法勿横行干纲也。直画连星之界分曰纲

也。犯横天纲皆伐断天道，大禁也。步纲勿躐真人星，大忌。犯此二者，皆脱巾叩头谢纲象。以布帛为之，长九尺，广六尺，罗列星位于帛上，以青笔为星，丹笔为纲，盛之洁箱。每欲施行，烧香出之。侍书有玉女七人，卫星有玉童七人。妇人步纲用绛帛。太微帝君教授步天纲之经，谨案神真上法，先烧香于行事之所，闭气七回，行斗星之外三匝。始于阴精，匝于阳明。毕，乃通气，始得足躐于七星身上，步于阳明耳。于是向阳明星又闭气，而心祝曰：

阳明大魁，玄极文昌，使某魂魄俱游天纲。祝毕，乃左足躐阳明，又进右足躐阴精，心祝曰：

阴精北极，太上璇玑，使某魂魄，俱过神津。次左足躐北极，心祝曰：

北极天光，回适玄辰，使某魂魄，俱至玄关。次右足躐天关，进左足前与并，乃通息，大祝之，一闭息。不竟纲者，可于丹元星上，通息更闭，微祝曰：

金木水火土，五行相推，七星焕焕，天纲最威；辅星镇盛，弼星却衰；九真太上，太极太微；三府玉帝，三尊辟非，天动地转，魂魄相随；使我飞仙，真光徘徊；名入金房，玉门乃开；乘龙陟空，日月同辉；游行上清，鸣铃翠衣；左躐流电，右御奔雷；地上万邪，伏死敢追，恶心视我，使尔斩摧；帝命玉女，营侍以归；魂真魄神，合形升飞。

倒行法

止于天关，倒向北极，微祝曰：

太上元辰，华盖紫灵，北极玉房，藏景化精；太微玄台，九真玉城，愿某飞仙，得行云庭；反步天纲，魂魄俱生；乘龙华宫，得道之英；左佩玉珰，右腰金铃，虎带龙裙，啸摄天兵；乘景三素，飞登上清。祝毕，乃闭气，举左足蹶北极，右足蹶丹元。次举左足蹶玄冥，前右足与左足并，而向真人之星，通息，微祝曰：

太极九精，上皇高真，出登元清，入隐玄阴，育某长某，使某好仙；玉台忽开，金堂八门；乞某佩书，绛龙青裙；上佐紫微，后圣之君；乘十飞龙，玄盖景灵，列名元图，日月同并。祝毕，因又闭气，左足蹶弼星，进右足蹶阴精，又进左足蹶阳明，前右足与左足并，乃通息，微祝曰：

天魁正阳，斗运低昂，前转元机，后动灵纲；制魄以宁，拘魂以康，魂魄与身，俱行天堂；向见金关，高上太皇，右扶仙母，左扶仙公；紫翠飞华，龙袍虎裳，带真巾玉，顶生圆光，手把神铃，腰佩金珰；口咏洞真，七变妙章；先自虚无，生而为王；飞行九道，据斗攀纲；前从太一，后从玄朗；告某口诀，坐在立亡；反行至要，位为仙卿；五藏自生，与天相迎；所愿如念，所求克昌；万邪伏害，易地隐藏；恶我天伐，水灭火丧。

反行法

又闭气，右回斗星之外三匝，始于阳明，匝于阳明，通息，祝曰：

高上太真，七耀至尊，反行寻生，上步天元；使某飞仙，得入紫门。因又闭气，左足蹶阳明，右足蹶阴精。先前右足蹶

玄冥，左足躡丹元。次右足躡北极，左足躡天关，右足前与并，乃通息，祝曰：

七变返旋，上行玉宿；六纪辅我，三纲合步；玉帝左眄，高上右顾，教我乘星，腾登玄路；乞赐飞仙，不死之祚；游行上清，乘华三素，金青翠裙，出入九舍，北皇见揖，南真见谢；名书仙台，千变万化；得友圣君，太平辅佐；所愿从心，万事成就；有恶我者，刀刑火墓。顺行、倒行、反行三道都毕。乃又举两足俱上阳明星。以右手抚心，左手指玄冥星，闭气三息，叩齿三七，咽液三九，名曰“据斗”。微祝曰：

阳明太素，立辰黄房，中有大神，左拊上皇，右把高真，龙衔翠衣，飞锦虎文，腰带玉符，首戴莲冠，出无入虚；金真玉光，灵尊巍峨，号曰阳明，足躡朱烟；口咏洞章，赐某隐书，见教步纲。周行三复，据斗自忘；使某飞仙，超虚浮空，名书上清，乘玄驾龙；意有所之，愿乐皆从；三尊合德，魂魄内通；致给神官，玉女玉童；有恶某者，刑之电风，奸谋断舌，裔之十方。祝毕，存心中忽然忘身，良久而下。据斗之道既毕，又两足俱上阴精星。以左手抚心，以右手指真人星，闭气三息，叩齿三通，咽液三过，名曰“攀魁入太微”。微祝曰：

阴精玄素，华阙生门，中有玉帝，北极至尊；凤肃华领，龙翠碧裙，腰虎佩铃，扶芝丹冠；号曰阴精，太上之君；授某隐书，使步七元，攀魁上升，遂游灵关；外拘七魄，内制三魂；魄炼俗累，魂宝胎神；魂魄守身，与之俱仙，飞行上清，还气婴颜；所向如心，万欲无难；有恶某者，形死三官；威摄六天，役使群神。攀魁之道既毕，乃又两足俱上弼星。并足向真人星四拜毕，跪，闭气四息，叩齿四通，咽液四过，名曰“接真”。跪，微咒曰：

太极九精，上元明真，正机把衡，吐纳紫烟，金光玉映，

威照十天；摄御三光，调阳和阴，理元赋气，改易故新；上治中宿，玄关之玄，金室玉户，北掖四便；出驾八景，浮游太元；龙锦凤衣，虎翠飞裙，绛旒绿帔，紫羽七缘，腰带神符，首戴扶冠；上栖九虚，下翔天渊；自号玉皇，九天极真；哀某好道，授某隐篇；躬登粥魁，朝拜灵君；乞愿丹书，为生之缘；治天三五，飞行八玄；五藏自生，上品飞仙；得翼玉帝，后圣之臣；位高大夫，乘云飞轮；所愿皆合，众邪莫干；有恶我者，暴形破门。接真之道既毕，乃又两足俱上玄冥星。以右手抚心，以左手指丹元星，闭气三息，叩齿三七通，咽液三过，名曰“步斗”。微祝曰：

洞天神光，回隐玄冥；气盈太虚，去来无形；隐天藏地，周灌无生；忽登天纲，上步紫庭；北视雷房，南顾电城；眩惑万变，非复故形；恍惚流景，触手立成；欲求藏身，得我姓名；虚无傲兀，九变玄冥；坐起六甲，谒署六丁；赐某隐书，步斗行星；仰见上皇，披丹巾青；手把灵光，腰带玉铃；上乞飞仙，与天俱生，名书太微，浮化上清；下乞变化，藏景录形，万事如愿，所向皆平；有恶我者，戮以神兵。《太极真经金根上文》曰：子登玄冥，步斗隐形；子欲变化，当得我名；回天动地，万物立成。步玄冥时，及欲隐时，当心存此名字。步斗之道既毕，乃又两足俱上丹元星。以左手抚心，以右手指北极星，闭气三息，叩齿三通，咽液三过，名曰“躡纪”。微祝曰：

太上九台，丹元玄纪，外管北枢，内正天理；金阙映外，玉庭耀里，中有至尊，号曰赤子，治在丹元，绛房之中；翠云绣华，龙帔虎裳，右执皇篆，左把魁纲，足躡景云，首巾紫冠，右佩流铃，左带玉珰；赐某隐书，躡纪游行；上乞飞仙，乘玄驾龙，书名丹台，太极玉堂；所向所求，福禄来迎；有恶某者，

愿为灭亡；给侍神官，玉女玉童。躡纪之道既毕，乃又两足俱上北极星。以右手抚心，以左手指天关星，闭气三息，叩齿三通，咽液三过，名曰“步纲”。微祝曰：

玄上太微，北极紫盖，下有太真，游翔九外；翠华飞裙，金铃青带，腰佩玉光，玄云奄蔼；赐某隐书，上行七气，登清戏烟，真人合会；乞丐飞仙，书名丹室；所向如愿，无灾无害；有恶我者，令彼伤败。步纲之道既毕，乃又两足俱上天关星。以右手抚心，左手指天关，闭气三息，叩齿三通，咽液三过，名曰“乘龙”。微祝曰：

太上七极，紫微绝辰；宝玄金房，外有玉门；周运九宫，调和天关；中有尊神，号曰紫皇；授某隐书，携某乘龙，上游九天，下飞地元；景云丹舆，玄华翠裳，腰佩龙策，头巾虎文；包生万物，教训飞仙；脱某死名，天地长存；乘龙步斗，所向受恩；有恶我者，风刀火然。乘龙之道既毕，乃又两足俱上辅星。闭气一息，叩齿三通，咽液一过，名曰“游行三命，旋步天英”也。微祝曰：

太极辅星，精在紫关；养生育命，宝守神魂；金房再开，奉见辅君；赐某隐书，使某游旋，列名圣皇，飞仙九天；巾金佩真，出入洞门。游行三命既毕，乃回行诣弼星。两足俱上，闭气一息，叩齿三通，咽液一过，名曰“徘徊三阳，出入三生”。微祝曰：

太虚泥丸，紫宫天尊，玄空真纽，为帝之先；在道玉皇，在身泥丸；冯感歎生，气贯霄元；精入明堂，强胎益魂；朱山再开，奉近灵元；左采日华，右掇月根；流火万丈，金罗碧裙；腰带天骨，首戴华冠；赐某隐书，得行天关；乞愿飞仙，役使万神；万向皆会，福德如山。行事时，皆北向执隐书而为之也。亦可案文视星，不必暗诵而作也。春步七星名曰“步三纲”

，夏步七星名曰“躡六纪”，秋步七星名曰“生六害”，冬步七星名曰“登六绝”。

卷二十一 天地部一

总序天

《三天正法经》曰：九天真王与元始天王俱生始气之先。天光未朗，郁积未澄，溟滓无涯，混沌太虚。浩汗流冥七十馀劫，玄景始分，九气存焉。一气相丢九万九千九百九十岁。清气高澄，浊气下布。九天真王、元始天王禀自然之孕，置于九天之号。九气玄凝，日月星辰于是而明，便有九真之帝。上之三真，生于极上清微之天；次中三真，生于禹馀之天；下有三真，生于大赤之天。

《玉京山经》曰：玉京山冠于八方诸大罗天，列世比地之枢上中央矣。山有七宝城，城有七宝宫，宫有七宝玄台。其山自然生七宝之树。一株乃弥覆一天，八树弥覆八方大罗天矣。即太上无极虚皇大道君之所治也。

《大洞经》曰：大冥在九天之上。盖谓冥气极远，绝乎九玄，惟读《大洞玉经》者可以交接，然后玉帝乘丹霄而启道，太冥披绿霞而朗焕也。《元始经》云：大罗之境，无复真宰，惟大梵之气，包罗诸天。太空之上有自然五霞，其色苍黄，号曰黄天。黄天之上，其色青苍，号曰苍天。苍天之上，其色玄空成青，号曰青天。故颂曰：

三界之上，眇眇大罗，上无色根，云层峨峨。

三界宝篆

上四天

《诸天灵书经》曰：飞步入北清者，是三界之上四天帝王北真天也。言此四帝上为三清玉京之巅，应化接引，中为三界四八，御运五气；帝主下降无象通生天，人各为一天，璇玑玉衡、三十六帝，五斗魁主，亦象人脑，四象合成。故《放品经》云：四天王天在玉清之上，九天之巅，恒以八节之日命三界四帝周行天下，开度道学建斋之人也。先师疏云：北清天者，北斗是也。又云：北斗之下昆仑上宫，故人头首上象昆仑。下愚小解将为是误，此去弃贤，既在昆仑山南，望将中斗则为北清，未审中斗已北北方北清别在何处。今依《度人经》说：东斗主算，西斗记名，北斗落死，南斗上生，中斗大魁，总监众灵。此名一天五斗魁主，即明中斗已北而有北斗也。今又按《灵书正经》本文经云，天尊言此四章并是四天帝王度命妙品，四方正土，偏得法音。其《东方品章经》云：九气青天东华宫中，青童大君封以青玉宝函之中，印以元始九气之章。其《南方品章经》云：南方三气丹天朱陵上宫，南极上元君封以赤玉宝函之中，印以太丹三气之章。其《西方品章经》云：西方七气素天西华宫中，西王母封以白玉宝函之中，中以太素七气之章。其《北方品章经》云：北方五气玄天元始北上宫中，玉晨大君封以玄玉宝函之中，印以太玄五气之章。即明东方而称东

华，南方而称南极，西方而称西灵，北方而称北真。上即明北真而处三界之上，最上之天。四天帝主下通一天，四序生化，非是一天五斗之位也。今按《灵书正经》，并是三界之上四天帝王正名正位，未称一天五斗名位。今乃独脱北方，取中为上，不审更上北真天也。比先所错，上下相承，古今疑惑，皆从此起。又寻先师所错，本意者，言三十二天上下重叠，亦为一天。二十八宿，即错将中斗而摄北位，独脱北方，此方以中为上，又中为上亦复是误。言九天初构，上下重叠，亦为一天，比地九宫。言郁单之天上上气上，先立于子而处一宫，即明一宫亦为四梵最上第一天也。若将人身以等于天，头为昆仑，目为日月，上下相合，其义正是。若以身观身、以天下观天下，不及更上头象三界之上，四人四天帝主天也，又乃不及，更上头象三清之上，玉京之山大罗天地，故《大洞隐注经》云：昆仑山上接九气，以为璇玑之轮，在太空之中。中斗既在昆仑山上，即大罗天阙亦在玉京山上也。《生神经》云：飞仙翼于琼阙，四宰辅于明轮。既在三界中斗之上，即大罗天关、玉京琼阙亦在玉京山上也。又明一天三界应位，上下重叠，比地既殊，取上为下，上下失科，四天帝主阙而不述，东华、南极、西灵、北真，境界不论，何处别立？

中四天

《三界图》云：三十二天四傍并，分列四方，一重四天，积气相承，扶摇而上，其天独立，亦无八方。未审此由，有何气候？若无八方，则无比地九宫；若无正中，则无中斗。上无

九气，下无八方，三十五分、八景何来？人身之中尚有三一、三元，九宫一体，即是帝一、太一帝君等神，岂云三界而无三元三十六帝？若三界正中既无三一，人身三一从何而来？比先学者唯见《隐注宝诀经》云，玄阶与扶摇台在东北方癸地，名为玄天也，言天阶发起于扶摇台，羊角边周，仍登梵行入三清也。既睹此经，错将三界四天傍并，其扶摇台既在东北方癸地，未审三界总在东北方癸地，如不以此，并是错，误注经也。今言扶摇者，三十六天上下相承，中为天关，皆为中斗璇玑，四方二十八宿渐次升上，故言扶摇，故云玄阶与扶摇台在东北方玄天也。又明上下三十二天皆有七宿璇升，四方亦言四天也。今言四天者，东方有九气青天，南方有三气丹天，西方有七气素天，北方有五气玄天。四方四天，故言四天，非是天外更别四天也。故《度人经》云：旋斗历箕，回度五常，三十五分，总气上元。又明三十六天每一天中皆有七宿三十二帝。其太皇黄曾天位居箕宿，皆在东初；又贾奕天斗宿，皆处北末，故云旋斗历箕，回度五常，则明三界三十六天，皆有中斗璇枢，四方二十八宿，各为一天璇玑、玉衡。此是二十八宿上下扶摇，上通三清，上下天关，非是别天羊角而上，故明三元各主八方。天有九气，上下九宫合中宫位，始名三界也。若三界之内三十二天亦列四方四傍并，上下天关九宫何在？比地九宫亦无次序。故明一天三界有异也。《河图》、《五炼》等经，说一天二十八宿，四七相并，以为三界，二十八天馀有四星，上在中斗，亦将三界四七相并，傍上列位以为玄围，而安三界二十八天，馀上四天上为四人，一处傍比列位，不审一天二十八宿上通三界二十八天，上合四人三十二位，傍并不同，大小有异。今言一天比地四天者，《真人口诀经》云：中斗之中，五斗位者，阳明为东斗，丹元为南斗，阴精为西斗，北极为北斗，天关一

星以为中斗。上及玄冥，真人以为一天三十五分，上及上元天帝，合为一天三十六位也。言上界四人等位者，今按《赤书》及《九天谱》等经云，三十二天上下相去，各有气数，上及四梵合为三界三十六帝，不同一天四方傍并也。

《三清图》云：将以玄、元、始三气，以为三境三天。又以《生神经》九天乃于三天之下，各并著三天。又以四方三十六天而取二十七天，各于九天之下各并著三天，一单三并以为九天。未审九天各生八方，上下应会，何所分立？故《大洞经》云：玄元始三气各生八方，而为二十四帝；九宫各生八方，而为七十二宫。即明《生神》九天无有一单三并，九气天关，上下不应，言三洞生化，故立三光，三乘各三，故立九帝，九气分化，各生三天，故为三境三十六天也。若以九天各于三天之下一单三并，上下重叠，唯有六重之天，天若积阴，亦任六重，天既积阳，即合九重，如何九品二等不同？上下九宫其天何在？故《赤书》经云，天有九分之关，转轮三气，九度明焉。故明三元九天，九重是也。故《道德经》云：道生一。一是元气，一是应化元始天尊也。于此妙一而生三洞。故《灵宝五符经》云，三洞以为天尊三公天也。三生九气，九气以为天尊九卿天也。又此九气各生三天，故立三九二十七位，故此二十七位上为天尊二十七大夫天也。欲此二十七位上合九天三元，各有一十二位，合为三洞三十六天也。此言三清降生三界，各于八方以下而生五亿五万五千五百五十五亿等，比地无极三界各禀三清，皆承此象，上下重立，是其义也。

今言傍并者，别有一义。故《洞真回元九道飞行羽经》云：三清天中而有三万六千天公卿等品，并各有官僚公卿大夫侯伯，置署如一，更相管统，降生三界，遍备天人，皆禀此气，各禀至道妙一之分。三公、九卿、二十七大夫、八十一元士、

百二十郡、千二百县、万二千乡、三万六千亭，同禀此气，或单或并，以为生神万象之主也，非是九天傍次分列也。三界图书相传为错者，言三清九气降为三界一天，气馀九色。又杂也，言三清九气各成一天，降为三界，上禀本气，未经说五色共成，故《灵宝经》云：上从大宝，初降妙一，始生于元，元生于玄，三生万物，莫不相承也。又按《九天生神》及《玄门论》等经云，始生于混沌，为苍色，而成郁单无量天，下生三天上圣三品之位；复次混生于洞，洞为赤色，而成上上禅善天，下生三天中圣三品之位；复次洞生于浩，浩为青色，而成梵监须延天，下生三天下圣三品之位；复次元生于旻，旻为绿色，而成寂然兜术天，下生三天上真三品之位；复次旻生于景，景为黄色，而成不骄乐天，下生三天中真三品之位。复次景生于遁，遁为白色，而成洞元化应声天，下生三天下真三品之位；复次玄生于融，融为紫色，而成灵化梵辅天，下生三天，上仙三品之位；复次融生于炎，炎为碧色，而成高虚清明天，下生三天中仙三品之位；复次炎生于演，演为乌色，而成无想无结无爱天，下生三天下仙三品之位。故此九气，九色光明，上为三境三十六天也。三境降气，三界方生，各于三清八方已下降生三界五亿等天也。故《九天谱经》云：上从梵行太清之天，三境九气降为三界，天各一色，上禀气生，未见五色，一时混杂也。今所错者，亦可知委。故《诸天内音经》云：三十二天皆以五合之气而成，空洞结而成章者，此是五篇真文，生成五方，通为五行，合为五脏，混为二仪，四序生化，此应五方五合所育也，非关九气混为五色，今以五色合为云气，相参盘郁，是其错也。

后四天

旧说四梵名为四民之天，今按《九天谱经》云，三界应化三十二天，上从梵行太清天中，气渐流降，始生于混，混为苍色，而生二万二千气，其色苍，气澄凝而成贾奕天，即明贾奕天是四民最上初天，即明四民非是太清四梵四天王天也。今言帝王者，统领八方，始名帝位，不审太虚无上常融天、太释玉隆腾胜天、龙变梵度天、太极平育贾奕等天，乃是一天，北方五气玄天，光同四方，比地各为小八天也。故明三界三十二天，上下重叠，三元品生，亦为一天，分别四方，各属四正，四九列位，及其分应，上下相临。故东方九气青天，上为三界东华天也；南方三气丹天，上为三界南极天也；西方七气素天，上为三界西灵天也；北方五气玄天，上为三界北真天也。《五符经》云：升为五云，化为五气。又按《灵宝经》云，五篇经文生天立地，普植神灵，上为三境之玄根，标天地以长存，镇五气于灵馆，制劫运于三关。即明五篇经文上为三清之上四天王位；中为三界四天帝主，应为太清梵行四天，而为四八三十二帝八天生主；下为一天二十八宿三十二帝。又为比地各列四方，四九列位。又为一天五方净土。故按《上清经》及《玄门论》等云，三界之上而有八清天名，三清降气下生三界。今按八清天内而有太清天名，重明太清梵行之天而生四民贾奕、龙变、太释、常融等四天也。故《法轮经》云：超度过三罗八难，于是名灭，度如脱胞，旷朗睹八清也。朗明四梵而处三清之下，四民三界之巔，上为八清之天，三界劫周二十八天，已上八清四民等八天终无劫坏，故名三界八清天也。

或云，三界之中从此天上，自有华光，不假日月，自然明朗。此是讹言，妄为大语，各自审明，取证即解。何者言三清三界？凡圣降差，有无不同，动寂各异。欲界六天，六欲见生；次上色界一十八天，在下六天舍欲爱色，次中六天渐舍色乐，

又上六天色心随净；次上无色，由四轻尘色声香味出于触体，渐舍心识，有待都忘，升虚入无，出生灭境也。言三清上境妙化难思，九色宝光不假日月，无有昼夜，亦无去来，言三界之内假合成身者，《洞真经》云，天有一气，则五气生焉。五篇真文，附合生体；两半相合，以为生身；以身为宅，心为主人，以神为本，神感应生也。故明神托五气共合为识，又明神合阴阳以为魂魄。若人六识清静，感生六慧；六欲烦浊，耽入六尘。故此生身命终之后，魂阳归天，魄阴归地，自守魄骨以为尸主，生时罪福，并以神当，神更托生，别感诸气，四生六趣，应感俱然，上天下地，清浊有异，应化三界，并感阴阳，既感阴阳，宁无日月？若是仙家道品，自有仙光，不假日月，神通明朗，三界见著，色欲染尘，二景共滋，日月皆有，并具昼夜，三光齐临，二十八宿璇玑不定，宿有时转，天有劫期，上下数交，百六运会。今按《灵宝九天生神经》云，日月星宿，阴阳五行，人民品物，并受生成，则明三界皆有日月也。

又按《玄妙经》云，于此界外，八方世界皆上有罗天，重重别置，日月五星、二十八宿，亦与南天下宛利同，无异也。又按《玄门论》及《大洞经》云，九天真人呼日为“濯曜罗”，三天真人呼日为“圆光蔚”，太素天中呼日为“眇景皇”，上清真人呼日为“九曜生”，泰清天中仙人呼日为“太明”，太极天中呼日为“圆明”，玉贤天中呼日为“微玄”，东华真人呼日为“紫曜明”，亦名“圆珠”，亦谓“始晖”，亦谓“太明”，亦谓日名“郁仪”，亦谓月名“结璘”，亦生人首上为眼目。故《玉京山经》云，俯仰存太上，华景秀丹田，左顾提郁仪，右眄携结璘。普明天人皆有眼目，三界日月亦同人目也。

《三界图》云：其天中心皆有昆仑山，又名“须弥山”也。其山高阔，傍障四方，日月绕山，互为昼夜。日在东方于遯境

界，日正中时光及南方，浮利境界以为日出；日在南方于正中时，耶尼境界以为日出；西方日正中时光及北方，郁单以为日出；日在北方于正中时，东方境界以为日出者，今虽四序合宿，是同冬夏二至昼夜不等，日若绕山，四方合停，出没既异，则无山隔，今以形象难诘，或详日出处即有映体，东方日中，南即渐明，南方初出，日既映山，其日合如立竖半镜，今泰山上而有日观，遥望日初出在于地中，其状形如横出半镜，以望初出非映山也。若其日出之处即是须弥，其山不高，不能映日，即知日出在地中也。故《易证》云：爻也者，效也；效也者，象也。象效于天，以为爻象也。故日在地下，“明夷”之卦为日，处夜阳降阴升也。日出地上，阳升阴降也，故地上有日，“晋”卦是也。故在午后，日祇之丛刊本、四库本、辑要离，不鼓缶而歌，阴生阳降也，言阴阳璇玑，昼夜递兴，日直绕山，证何律吕？日若绕山，璇玑须停，四方度量，何为不等？言二月、八月昼夜各中，馀月长短南北互差。故月建在子冬至之分，日极于南，昼短夜长，日出于巽，日没于坤，从左行而至于巽，历于夜分，西北东方三方天下一十九位，分为五更，皆处于夜，昼以己丙午丁未等以为昼日，即明夜统西北东方三方，天下皆处于夜，唯独南方以为昼日，即明日月非隔山也。又月建在午夏至之分，日极于北，夜短昼长，日出于艮，日入于乾，从艮左行而历昼位，东南西方一十九位，三方天下以为昼日，唯独北方亥壬子癸丑等五辰而处于夜，重明日月非隔山也。又明夏至之日出没艮乾，东南西方三方天下一时为昼，冬至之日出没巽坤，西北东方三方天下一时为夜。日既绕山，四方互明，未审此节日映山不？又明夏至之日，日出于艮，日入于乾，其昆仑山合近于子，日既远山，不合更远，何故起难为日映山也？其昆仑山向北百千万里则非东方，日正中时南方卯地以为日出

也。又明月建在子，冬至之日，日出于巽，日没于坤，其昆仑山既是映日，即合移就南方在于午分，其此土人不是南方，即合住在昆仑山北，其山既是天心，不移即明日月非映山也。又明一年四时行焉与日月合宿，以定律吕，故一月建寅，寅与亥合，其神徵明者，徵召万物，而明月建在卯，合宿天魁；月建在辰，合宿从魁；月建在巳，合宿传送；月建在午，合宿小吉；月建在未，合宿胜先；月建在申，合宿太一；月建在酉，合宿天刚；月建在戌，合宿太冲；月建在亥，合宿功曹；月建在子，合宿大吉；月建在丑，合宿神后；十二月建合宿行神，璇玑玉衡，以定四序，四方七宿，日夜互更，即明一天律吕同则南方律吕也。普天既同，四方同天，不合山隔也。后宣八景，三光同兹，五篇真文，二象通应，具在玉京流光品中，问宣经理，答申应用也。

或有胡人摩尼珠，说皆托一物百六数期，三清八景，降气通生，西戎即序，全无分晓。或云言此天是属于地住，或云杂报世界，故近则不入六欲之天，远则不在三界二十八天之数。次上太皇黄曾天上人者，始名欲界，最下天也。下愚小解因述便答，三界之内，三元通生元各十二，共三十六位。一天三界，上象俱然，四梵八清，下通元气。既云地住，别号谁天？杂报世界，何气寄立？次上璇玑，下摄何方？下地杂报，上属何天？夫言天者，在上，巔也。在上广覆，谓之天也，在下厚载，谓之地也。言天上天下，上下咸差，一天之中，上属玄枢，一天之上更属上象。此天即是太皇黄曾天中人也。言三界之内五种感生虽同，一天善恶两种，所感杂报命短无，上品仙家寿九百万岁。五方净土皆定寿年，洞室虚宫上下不等，诚仙棋暂玩，柯烂樵人，或二日逢仙，则经二百馀岁，诸仙人寿具显，后章唯此，下地净秽，两别远明，三清升降元气，下生三界法象，

降成真仙圣位，各备修科，虽居三界，仙道原深。故《消魔经》云：三清上境三十六天，下备三界三十六帝，其三界劫尽，被劫火所烧，其三洞仙家不觉有火也。故明杂报世界善恶同天，善者福寿遐年，恶者浊辱短促。净秽二土，咸备一天。博地下方亦有上道。先标前错一十二条，审而观详，他义总晓，请详图录，入道机要，次后显章，具明前疑。

四梵三界三十二天

太上曰：第一欲界六天：一曰太皇黄曾天，二曰太明玉完天，三曰清明何童天，四曰玄胎平育天，五曰元明文举天，六曰七曜摩夷天。

右欲界六天，有色有欲，交接阴阳，人民胎生。是故举其重，因名为欲界。

第二色界一十八天：七曰虚无越衡天，八曰太极蒙翳天，九曰赤明和阳天，十曰玄明恭华天，十一曰曜明宗飘天，十二曰竺落皇茄天，十三曰虚明堂曜天，十四曰观明端静天，十五曰玄明恭庆天，十六曰太焕极瑶天，十七曰元载孔升天，十八曰太安皇崖天，十九曰显定极风天，二十曰始黄孝芒天，二十一曰太黄翁重天，二十二曰无思江由天，二十三曰上揲阮乐天，二十四曰无极昙誓天。

右色界十八天，云其界有色无情欲，不交阴阳，人民化生。但絳香，无复便止之患，故曰色界。

第三无色界四天：二十五曰皓庭霄度天，二十六曰渊通元洞天，二十七曰翰宠妙成天，二十八曰秀乐禁上天。

右无色界四天，云无复色欲。其界人微妙无色想，乃有形，长数百里而人不自觉，唯有真人能见，故曰无色界。

四梵天元始曰：二十九曰常融天，三十曰玉隆天，三十一曰梵度天，三十二曰贾奕天。

四天之上则为梵行。梵行之上则是上清之天，玉京玄都紫微宫也。乃太上道君所治，真人所登也。自四天之下，二十八天，分为三界，一天则有一帝王治其中。其天人皆是在世受持智慧上品之人，从善功所得，自然衣食，飞行来去，逍遥欢乐。但死生之限不断，犹有寿命，自有长短。下第一天人寿九万岁，以次转增之。

卷二十二 天地部二

总说天地五方

《外国放品隐元内文经》云：天地五方，皆有制御刚柔之色，使不得落。其地深二十亿万里，得润泽。润泽下二十亿万里，得金粟泽。金粟泽下二十亿万里，得金刚铁泽。金刚铁泽下二十亿万里，得水泽。水泽下八十亿万里，得大风泽。大风泽下五百二十亿万里，乃纲维天地，制使不陷，如今日月星辰，为风所待也。学者不知地下之境润色深浅，即五帝不过兆身于外国之境也。

东方弗于岱，九万里之外，极豪林之墟。其国音铭呵罗提之国。国地形正员，土色如碧脂之鲜，无有山阜，广狭九十万里。其国人形长二丈，寿四百岁。国有六音之铭，是高上始气置于外国胡老之品。高上恒吟歌其音，以化胡老之人，令知外国有不死之教。其国人皆行礼而诵其音，是得四百岁之寿，无有中天之命。上学之士知外国地色，恒吟咏六品之音者，则致胡老仙官卫兆之身。九年，自然得游呵罗提之国，与胡老交言，变化飞空，游行东极之境也。

南方阎浮利，三十万里之外，极洞阳之野。其国音则铭伊沙鹞之国。国地平博，无有高下，土色如丹，广狭八十一万里。

其国人形长二丈四尺，寿三百六十岁。国有六音之铭，是高上置于外国越老之品。高上恒吟歌其音，以化越老之人，令知其国有不死之教。其国人皆行礼，而诵其音，是得三百六十岁之寿，无有中天之命。学者知外国地色，恒吟咏六品之音者，则致越老仙官卫兆之身。九年，自然得游伊沙鹞之国，与越老交言，变化朱宫，飞行南阳之境也。

西方俱耶尼，七十万里之外，极浩素之垄。其国音则铭尼维罗绿那之国。国地形多高垄，与天西关相接，土色白如玉，广狭六十八万里。其国人形长一丈六尺，寿六百岁。国有六音之铭，是高上置于外国氏老之品。高上恒吟歌其音，以化氏老之人，令知其国有不死之教。其国人皆行礼，诵咏其音，是得六百岁之寿，无有中天之命。学者知外国地色，恒吟咏修行，则致氏老仙官卫兆之身。九年，自然得游尼维罗绿那之国，与氏老仙官交言，能飞行玄虚，游戏浩素之垄也。

北方郁单，五十万里之外，国极朔阴之庭。其国音则铭旬他罗之国。国地长流平演，土色黑润，广狭五十八万里。其国人形长一丈二尺，寿三百岁。国有六音之铭，是高上置于外国羌老之品。高上恒吟歌其音，以化羌老之人，令知其国有不死之教。其国人皆行礼，而诵咏其音，是得三百岁之寿，无有中天之命。学者知外国地色，恒吟咏修行，则致羌老仙官卫兆之身。九年，自然得游旬他罗之国，与羌老交言，飞行玄虚，游宴朔阴之庭也。

上方九天之上，清阳虚空之内，无色无象，无形无影，空洞之铭元精青沌自然之国。以青气为世界，上极无穷，四覆诸天，则高上玉皇万圣帝真受生之根元，寿命无量，惟劫为年。其空洞之内亦有六音之铭，则元始置于真皇自然之品。高上吟歌其音，以延群仙，令知玄空有无量之真。其国玉皇万圣帝真

皆行礼，悉吟咏其音，是得无量之寿。学者知空洞之色，吟咏修行，则致三元下降，五帝诣房，授兆灵音。九年，则得乘驾浮云，上造玉清太空之中也。

中国，直下极大风泽，去地五百二十亿万里，纲维地源，制使不落，土色如金之精。中国音则铭太和宝真无量之国。中岳昆仑即据其中央。诸天之别名，上有玄圃七宝珠宫，与天交端上真飞仙之馆。中国周回百二十亿万里。其国人形长九尺，皆学导引之术，寿一千二百岁。国有六音之铭，是高上置于中国之品。高上玉皇帝君悉吟咏其音，以化中国伧老之人，令知其国有不死之教。其国人皆修上清之道，行礼诵咏，是得寿一千二百岁，无有横夭之年。学者知中国地色，吟咏修行，则伧老仙官卫兆之身。九年，自然与伧老交言，玄察太空，飞行上清。

九地三十六音

诸天内铭、九地三十六音，以元始同存空灵，建号结自然之名，表于九玄，演流外国三十六音。如是天地各有三十六分。天则有三十六天王，以应三十六国；地则有三十六土皇，以应三十六天。天王典真，土皇主仙。为学不知天之内音，则天王不领兆名；不知地下之音，土皇则不灭兆迹，闭不得仙。有见其文，受其诀音，天王玄鉴，七圣刻篇，西龟定录，东华书名，土皇灭尸，落迹九阴，保举上清，五灵敬护，十界扶迎，周流六国，平灭群凶，五兵摧伏，天魔束形。九年，乘空飞行上清。真道高妙，不得妄宣。轻泄宝音，七祖充责，已身殒亡；三涂

五苦，万劫不原。上真之士，慎科而行。

朝礼诀法

诸天王恒以八节及月朔之日，游观无崖，历戏云房，逍遥玉清，流眄十方。于明霞之上，恒咏诸天内音飞玄之章，上庆天真，内欢神衿；玉响虚朗，琼韵合音。当北之日，五老浮位，九帝临轩，四司鉴试，五帝卫灵，众真齐唱，万仙礼音；三光停晖，七元焕明；山海静波，诸天肃清；八素散华，四皇拂尘；灵风扬香，绿霞吐津；天元溟滓，玉虚含欣；朗朗高清之馆，渺渺太漠之中，洞虚入微，周览无穷。有得其道，与帝结朋。勤诵其章，位准仙王。德同诸天，寿齐三光。

凡学上仙之道，志登玉清，奉礼帝尊，而不知三十六天之音飞玄之章，则三十六天王不领兆名，徒为精勤。天不降真，四司不敬，五帝不迎，天魔侵真，终不成仙。欲飞行玄虚，游晏五岳，而不知九地三十六土皇内名，则九阴不落兆尸，九地不灭兆迹，徒劳幽山，望飞反沉。欲行此道，每至八节月朔日，沐浴清斋，入室烧香，朝礼诸天。北向叩齿三十六通，微咒曰：兆臣甲乙，志慕神仙；八庆之日，朝礼天尊；上愿腾景，乘空落烟，飞超玉清，洞游诸天；中愿变形，致五神升入月门，仰啜八鸾，石景水母，玉胞飞根，长披朱日，与光同存；下愿四极，授我口言，西华侍卫，役使金晨，携提五老，八景同轩；上庆交合，五愿开陈；得如所愿，体合自然；真灵下降，赐登上仙。毕，便六拜，仰咽六气；次西向六拜，咽六气；次南向六拜，咽六气；次东向六拜，咽六气；次西北六拜，咽六气

；次东南六拜，咽六气；合六方三十六拜，朝三十六天。毕，还北向平坐。咏三十六天飞玄之章一遍，竟，又六拜六咽气，都止也。此高上朝三十六天上法。行之九年，天降云舆，三光诣房，书名玉清，刻简青宫；四司右列，十界敬迎；乘空飞行，上升玉晨。其法高妙，不得妄宣。轻泄宝文，七祖充责，身役鬼官。长闭三徒，万劫不原。

高上九玄三十六天内音

第一无上元景无色郁单无量天英勃天王，姓混（讳雾網罗）

。

第二无形清微天化升天王，姓冯（讳堤阿沙）。

第三无精波罗褥天玄黑天王，姓云（讳奎零）。

第四入色水无量亿罗天飞宗天王，姓王（讳阿卫）。

第五无极洞清上上禅善无量寿天云罗天王，姓不升??（讳漾網扑）。

第六玄微自然上虚禹馀天梵咽天王，姓罗（讳彼犁荼）。

第七玄清上无那首约诤天玄那天王，姓梵（讳摩首波）。

第八梵行上清气稽那边净天云携天王，姓騫（讳首苛）。

第九无穷洞虚极上须延天回摩天王，姓泽（讳芘罗）。

第十玄梵玉虚无精气罗迦净月天云阿天王，姓周（讳阿迦须）。

第十一气玄元达上灵赤天重慕天王，姓丹（讳清静 央）。

第十二大梵玄无气离 行如天世毕天王，姓周（讳分若）。

第十三无极上灵玉虚玄洞寂然天家王天王，姓津（讳瀆裏）

- 第十四宝梵无色上真气潘罗玄妙天云持天王，姓随（讳黎沐音）。
- 第十五飞梵行真上玄答谩福德天部利天王，姓王（讳惟钵离）。
- 第十六云梵流精中元近匡际淳天世良天王，姓朱（讳梨藹）。
- 第十七玄上洞极无崖不骄乐天流芬天王，姓凝（讳{ 须}霍{ 持}）。
- 第十八大梵玄青元精答 近际天元深天王，姓阿（讳明秀）。
- 第十九行梵紫虚上元首带快见天洞干天王，姓刘（讳且扇）。
- 第二十虚梵上清化灵须鸞结爱天飞衣天王，姓彭（讳移那）。
- 第二十一上极无景洞微化应声天玉携天王，姓辉（讳 ）。
- 第二十二大梵九玄中元气阿那给道德天天葵天王，姓捷（讳尼姤）。
- 第二十三行梵元清下灵气须达天总几天王，姓周（讳难首）。
- 第二十四极梵洞微九灵气须带阿那天九曲天王，姓竺（讳明和）。
- 第二十五无名至极洞微梵宝天□□天王，姓精（讳雾云{ 梓}）。
- 第二十六微梵玄天气带扇给道德天□□天王，姓洛（讳须阿摩）。

第二十七虚梵天气蝉然识慧天□□天王，姓云（讳元隋）。

第二十八空梵中天绩元伊檀天□□天王，姓朱（讳仲生）。

第二十九太极无崖紫虚洞幽梵迦摩夷天世罗天王，姓云（讳）。

第三十绿梵自然识慧入天云九天王，姓迦（讳释文罗）。

第三十一玄梵大行无景无所念慧天宗提天王，姓伊（讳檀阿）。

第三十二天云梵上行维先阿檀天正群天王，姓仲（讳云勋勃）。

第三十三无色玄清洞微波梨答 天□□天王，姓王（讳灵檐）。

第三十四洞微玄上梵气阿竭含那天□□天王，姓桓（讳墮世宗）。

第三十五玄上绿梵灭然天□□天王，姓朱（讳鹞云弥）。

第三十六极色上行梵泥维先若那天□□天王，姓袁（讳员珠）。

三十六天内名生于空洞元气之先，文华表见，题于昆仑之山。高上音其玉文，上相集其妙篇。禀受太空自然之章，上标玄图，中统六国三十六音，下总九地三十六土皇。灵篇洞畅，玉慧虚鲜，皆天王之游歌，空玄之宝章。六六韵合，四四齐真，九帝分号，三十六天，万气总隶，普领群仙。上极无崖无色，下极洞源洞渊。诸为上真飞仙，不禀玉音，则不得游观无崖之天。有得其文，天王书名，刻字紫紫，结录玉晨。三十六年，克得上登无色之天，下洞九地之源。上妙之道，不传下仙。轻泄宝音，七祖充责，身负刀山，三徒五苦，万劫不原。

洞渊九地三十六音内铭

- 第一垒色润地正音土皇，姓秦（讳孝景椿）。
第一垒色润地行音土皇，姓黄（讳昌上文）。
第一垒色润地游音土皇，姓青（讳玄文基）。
第一垒色润地梵音土皇，姓蜚（讳忠阵星）。
第二垒刚色地正音土皇，姓戊（讳坤文光）。
第二垒刚色地行音土皇，姓郁（讳黄母生）。
第二垒刚色地游音土皇，姓玄（讳乾德维）。
第二垒刚色地梵音土皇，姓长（讳皇萌）。
第三垒石脂色泽地正音土皇，姓张（讳维神保）。
第三垒石脂色泽地行音土皇，姓周（讳伯上仁）。
第三垒石脂色泽地游音土皇，姓朱（讳明车子）。
第三垒石脂色泽地梵音土皇，姓庚（讳文敬士）。
第四垒润泽地正音土皇，姓贾（讳云子高）。
第四垒润泽地行音土皇，姓谢（讳伯无元）。
第四垒润泽地游音土皇，姓己（讳文秦阵）。
第四垒润泽地梵音土皇，姓行（讳机正方）。
第五垒金粟泽地正音土皇，姓华（讳延期明）。
第五垒金粟泽地行音土皇，姓黄（讳龄我容）。
第五垒金粟泽地游音土皇，姓云（讳探无渊）。
第五垒金粟泽地梵音土皇，姓蒋（讳通八光）。
第六垒金刚铁泽地正音土皇，姓李（讳上少君）。
第六垒金刚铁泽地行音土皇，姓范（讳来力安）。

第六垒金刚铁泽地游音土皇，姓长（讳李季元）。

第六垒金刚铁泽地梵音土皇，姓王（讳驷女容）。

第七垒水制泽地正音土皇，姓唐（讳初生映）。

第七垒水制泽地行音土皇，姓吴（讳正法图）。

第七垒水制泽地游音土皇，姓汉（讳高文彻）。

第七垒水制泽地梵音土皇，姓京（讳仲龙首）。

第八垒大风泽地正音土皇，姓葛（讳玄升先）。

第八垒大风泽地行音土皇，姓华（讳茂云长）。

第八垒大风泽地游音土皇，姓羊（讳真洞玄）。

第八垒大风泽地梵音土皇，姓周（讳尚敬原）。

第九垒洞渊无色刚维地气正音土皇，姓极（讳无上玄）。

第九垒洞渊无色刚维地气行音土皇，姓升（讳虚元浩）。

第九垒洞渊无色刚维地气游音土皇，姓赵（讳上伯玄）。

第九垒洞渊无色刚维地气梵音土皇，姓农（讳勤元伯）。

右九垒之地，极下洞渊洞源，纲维天地，制使不落。上则去第一垒五百二十亿万里，下则无穷无尽，无边无际，皆纲维之气。如是第九垒土皇以三月一日、六月二日、九月三日、十二月四日，一年四过，乘五色云舆，九色飞龙，执中元命神之章，从佺老仙官耀天羽骑万二千人，上诣波梨答天，奏九地学道得仙人名，言于四天之主。

凡学上法，当以其日日入时，入室向太岁，黄书白纸上四土皇内音服之，叩齿十二通，仰存四土皇姓讳，悉著玄黄五色之衣，头戴九元通天宝冠，足著五色师子交交之履，执文身保命之符，乘黄霞飞舆，从五帝玉女三十六人，飞行上升波梨答天。便咒曰：

二象回周，九精洞灵，皇老应符，腾虚入清，四通八达，飞霞紫琼，上登金华，奉对帝灵；记仙元录，青宫刻名，得道

白简，封字七灵；九垒灭尸，东井炼形；三九降真，我道已明；得乘飞景，上登玉庭。毕，心拜九拜，咽气十二通止。行之三十六年，得乘黄霞飞鞚，上升波梨答之天。九地九垒直下九重，合三十六音三十六土皇，上应三十六天，中应三十六国。如是土皇皆位齐玉皇之号，但分气各治，上下之别名耳。土皇三十六年，转号上清之宫，袭三十六天之王。玉司之官于九垒之下，皆举学道得仙之名，上奏九天天王。为学不知九垒地音三十六土皇内讳，九地不灭兆迹，九天丞相不受兆名，五岳不降云舆，五帝不卫兆身，徒明外国之音，故不得緜会而升也。故天、地、人各禀三三之气，三合成真，然后得仙也。

凡知九地之音三十六土皇内讳，则九气丈人恒以四方五色灵官防卫兆身；出入游行，登陟五岳，则仙官侍送，灭魔威试，降致神真。九年飞空，坐在立亡；三十六年上升太清。居世得此文，七玄九祖则为九气命灵，土皇司官，奉卫形骸，抚慰灵魂；蒿里父老，丘丞相掾，皆为驱除；无复拘闭谪役之患。居则在地保安无凶，十二守将营扞八门，通真致神；欲富则富，欲官则官，欲仙则仙，欲神则神。此道秘妙，非可言宣。上相青童禀受高上口诀宝篇，妄泄灵文，七祖充役，万劫不原。

登山住止安居审地吉凶法

若欲登山住止及安居宅，审地吉凶，当以戊己之日，黄书九地三十六音文白纸上，置所居中央，以盆覆之，三宿开看。若有黄色润纸，大吉；若有青色，则下有死灵之尸；若有白色，则凶；若有赤色者则惊恐；若有黑色者则主财宝；若有紫色者

得神仙。都不异，则止可三年安，过此必折伤。

东方呵罗提国

第一品铭 正音（无夷）。

第二品铭 正音（波泥）。

第三品铭 正音（久难）。

第四品铭 正音（吉罗）。

第五品铭 正音（无思）。

第六品铭 正音（云芝）。

东方去中国九十万里外，名为呵罗提之国，一名日生国。国外有扶桑，在碧海之中。地一面方万里，上有太帝宫，太真王之别治。其上生林如桑，皆数千丈。大者三千围，两两同根而生。有实，赤如桑椹。仙人所啖食，体作金光色。其实皆九千岁一生。又有生洲，在扶桑外，西接蓬莱，地面方二千五百里，去岸二十三万里。上有仙家数万人。地无寒暑，时节温和，多生神仙芝草，食之飞空而行。扶桑东又有祖洲，在东海之中。地方五百里，去岸七万里。上有不死芝草，形状似菰苗，长三四尺，一名养神芝。其叶似菰，生不丛株。食之飞行上清，已死之人，覆之则生。神奇妙药，入其国宜知其名，存胡老仙官采之于祖洲，思其色而服之，三年，面有流光，延寿万年。久久，自然有仙人赍此神物降送于身也。

南方伊沙蓐国

第一品铭 正音（盈华）。

第二品铭 正音（玉家）。

第三品铭 正音（握魔）。

第四品铭 正音（耀葩）。

第五品铭 正音（武都）。

第六品铭 正音（飞蒲）。

南方去中国八万一千里外，名阎浮黎之外，极洞阳之野，国名伊沙鹍之国，一名火庭天竺之国。国外有长洲，一名青丘，在南海辰巳。地方五千里，去四方之岸二十万里，则生天树，长三千丈，大者二千围。甚多灵药，甘液玉英，无所不有。其上有民，人皆寿三百六十岁。又有灵狐之兽，大者如犬，色如金，叫声响四千里，威制虎豹万禽，得衣其毛，寿同天地。青丘左则有风山，山恒震声，上有紫府宫，天真神仙玉女所游观。又有炎洲，在南海中央，地方二千里，去岸九万里。上有风生兽，似豹，青色，大如狸。积火连天烧之，经月不死，毛亦不然，斫刺不入，以铁锤交锻其头数千下乃死，张口向风，须臾复活。以石上菖蒲塞其鼻即死，取其脑，和菊花服之，寿同天地。又有火林山，山中有火光兽，大如鼠，毛长三四寸，或赤或白。于是夜半望山上林木及此兽，光照如然火。取其兽毛作布，名之火浣布。小污，以火烧之，即鲜白，则伊沙鹍国人所衣。得此毛，仙人降形。学者存其国之音，思越老仙官，三十六年，神人当以此兽及本国神奇之物献送于兆也。

西方尼维罗绿那国

第一品铭 音曰（华莲）。

第二品铭 音曰（高轩）。

第三品铭 音曰（明身）。

第四品铭 音曰（土缠）。

第五品铭 音曰（星震）。

第六品铭 音曰（朱天）。

西方去中国六万里外，名俱耶尼之外，极皓素之垄，寒穴之野，则尼维罗绿那之国，一名云胡月支国。国人寿六百岁。国外则有流洲，在西海之南，地方三千里。去东岸十九万里。其上有仙家数万，上有山生昆吾之石。治石成铁作剑，光明照洞如水精，割玉如土。凤麟洲在海中央，地方一千五百里。四面有弱水，鸿毛所不浮。上有仙家数千，凤麟为群。上有吉光之兽，如狸，能作胡语，声如梵音，与其国人通言。兽毛生光奕奕，悉仙人所衣。得衣其毛，寿同天地。学者存其国音、氏老仙官，三十六年，当献送昆吾之剑，吉光之兽于兆也。

北方旬他罗国

第一品铭 音曰（玄家）。

第二品铭 音曰（文多）。

第三品铭 音曰（山庐）。

第四品铭 音曰（武都）。

第五品铭 音曰（盈家）。

第六品铭 音曰（玄摩）。

北方去中国五万里外，名郁单，极朔阴钩陈之庭，国名甸他罗之国，一名天镜之国。国人寿三百岁。国外则有玄洲，方七千二百里。四面是海，去岸三十六万里。上有太玄都，仙伯真公所治。有鸞鷲之鸟，如浮气；多丘山，名为风山，与天西北门连界。金堂玉室宫府生金玉紫芝，是三天所治。其外则有元洲，地方三千里，去南岸十万里。上生五芝玄涧，涧水如蜜，饮之与天地同年。中有三万仙家，悉饮此水，得仙不死。学者存其国音，羌老仙官，三十六年，降献玄涧五芝水也。

上方元精青沌自然国

第一品铭 正音（重权）。

第二品铭 正音（玉金）。

第三品铭 正音（三林）。

第四品铭 正音（正精）。

第五品铭 正音（吸铃）。

第六品铭 正音（绿婴）。

上方九天之上，清阳恢空之内，无色无象，无形无影，空洞之铭元精青沌自然之国，一名洞澳清衍之国。以青气为世界，上极无穷，四覆诸天惟有玉虚紫馆结空洞之烟，而虚玄青沌之内也。为学存高上之音，则天人授子飞仙之方。

中央太和宝真无量国

第一品铭 正音（山庐）。

第二品铭 正音（世家）。

第三品铭 正音（嵯峨）。

第四品铭 正音（盈华）。

第五品铭 正音（翟葩）。

第六品铭 正音（罗那）。

中国四周百二十亿万里，下极大风泽五百二十亿万里。昆仑处其中央，弱水周匝绕山。山高平地三万六千里，上三角，面方长万里，形似偃盆，中央小狭，上广。其一角正北，千辰星之精，名曰阊风台；一角正西，名曰玄圃台；其一角正东，名曰昆仑宫。一处有积金为天墉城，面方千里。城上安金台五所，玉楼十二。其北户山、承渊山并其支辅。又有墉城金台、玉楼，相似如一。流精之阙，光碧之堂，琼华之室，紫翠丹房；景云烛日，朱霞九光；西王母之所治。上通璇玑，元气流布五常玉衡，普引九天之澳，灌万仙之宗根，天地之纽，万度之柄矣。上生金银之树，琼柯丹宝之林；垂苏瑚以为枝，结玉精以为实；其树悉刻题三十六国音诸天玉文，上栖紫燕凤鸾、白雀朱鸛、鸚鸡灵鹄、赤鸟青鹄；下则飞禽游兽，与昆仑同生；初无死耗，但玄文宝经隐书古字，有千二百亿万言。在玄圃之上，积石之阴，仙人有九万人，皆停散于灵山。学者恒诵诸天内音外国三十六音、地下九垒之音九年，仙人自当降送灵山之神奇；三十六年，得乘五色云舆，上登昆仑之山也。

卷二十三 日月星辰部一

总叙日月

《黄气阳精三道顺行经》曰：日，阳之精，德之长也。纵广二千三十里。金物、水精晕于内，流光照于外。其中有城郭人民、七宝浴池；池生青黄、赤、白、莲花；人长二丈四尺，衣朱衣之服；其花同衰同盛。日行有五风，故制御日月星宿游行，皆风梵其纲。金门之上，日之通门也。金门之内，有金精冶炼之池，在西关左之分，故立春之节日，更炼魂于金门之内，耀其光于金门之外，四十五日乃止。顺行之洞阳宫，洞阳宫，日之上馆也。立夏之日，止于洞阳宫，吐金冶之精，以灌于东井之中，沐浴于晨晖，收八素之气，归广寒之宫也。月晖之围，纵广二千九百里，白银琉璃水精映其内城郭人民与日宫同有七宝浴池，八骞之林生乎内；人长一丈六尺，衣青色之衣，常以一日至十六日采白银琉璃炼于炎光之冶，故月度盈则光明。比十七日至二十九日，于骞林树下采三气之华，拂日月之光也。秋分之日，月宿东井之地，上广灵之堂，乃沐浴于东井之池，以炼日魂，明八朗之芒，受阳精日晖，吐黄气于玉池。诸天人悉采玉树之华，以拂日月之光。月以黄气灌天人之容，故秋分是天人会月之日也。

《老子历藏中经》云：日、月、者，天地之司徒、司空也。日姓张，名表，字长史；月姓文，名申，字子光。《太丹隐书》云：紫微夫人姓王，讳清娥，字愈音。云是西王母第二十四女。紫微宫在北溟外羽明野玄垄山，山在昆仑之东北。紫微说阿母言曰：欲存日月气者，当知日月景象：日圆形而方景，月方精而圆象；景藏形内，精隐象中；景赤象黄，是为日月之魂。若知其道，乃可以吐纳流霞耳。

三奔录

三奔之道，当按奔景之神经。经中节度，晓夕修行，不得传及非人。如怠慢不专，轻泄漏慢之者，身受冥责，一如经戒。

奔日

日中赤气上皇真君，讳将车梁，字高骞奕。此位号尊秘，《经》虽无存修之法，而云知者不死。当宜行事之始，心存以知，不得辄呼。月法亦然。

奔月

月中黄气上黄神母，讳曜道支，字玉荃条。其奔月斋静存思，具如日法。

奔辰

木春王，火夏王，金秋王，水冬王，皆依历以四立日前夜半为王之始。冬七十二日至分、至日前各王十八日，分、至日之前夜夜半为王之始。有星时可出庭中，坐立适意，有五星中相见者。次当修服之时而出庭中，坐胜于立。可于庭坛向星敷席施按，烧香礼拜讫，正坐而为之。若无星之时，天阴之夕，可于寢室中存修之也。星行不必在方面，亦随所在向而修行，谓五星所在而向之，不必依星本方之面，犹如木或在西也。一夕服五星，常令周遍。随王月以王星为先。若静斋道士，亦可通于室中，存五星之真文、方面而并修之。不闲算术，不知星之所在。又久静长斋者，可常于室中，依五星本位之方面而存修之也。

太上玉晨郁仪结璘奔日月图

《太上隐书·中篇》曰：子欲为真，当存日君驾龙骖凤，乘天景云，东游希林，遂入帝门。精思乃得，要道不烦。名上清灵，列位真官。乃执《郁仪文》。《太上隐书·中篇》又曰：子欲升天，当存月夫人驾十飞龙，乘我流铃，西到六岭，遂

入帝堂，精思乃见，上朝天皇。乃执《结璘章》。

太上玉晨郁仪奔日赤景玉文、结璘奔月黄景玉章

右奔日月隐道，太上、上清、太极、九皇四真人所宝秘，玄灵元君之玉章也。自非有金简玉名及绿字东华，皆不闻见此二章之篇目矣。行之者先清斋百日，绝交人事，乃可为之也。久久行之，上奔日月，得给玉童玉女各五十人。《太上郁仪赤文》、《结璘黄章》，乃太上玉帝君之灵秘篇也。藏之于九天之房，丹瑶之台，非勤心好真，宿有飞玄天仙之骨录者，莫得而见闻也。闻其篇目，皆不可妄言称及，犯者受考三官，天地不赦。初令三百年得宣传一人，却后七百年乃复得一人。若神真宣告有宜授者，传之也。传授之法，皆师友相受，以宗玄科也。授非其人，不遵法度，为泄宣天文也。漏慢违誓，死为下鬼，乃七祖受考风刀之罪。自非同气，宁当闭口。西玄山洞台中有此二经，刻以玉简，书以金字。及王屋清虚天皆有而不备具，唯太玄宫高上台及蓬莱府北室金柱玉壁刻文，并备具也。中宫仙人、泰清诸官并不知此书是何事也。

峨嵋山北洞中石室户枢刻石书字

“郁仪引日精，结璘致月神；得道处上宫，位称大夫真（一云帝君真）”凡二十字。下仙见之，甚自不解其意义是何等

事也。如此，仙人自有不见其篇目录者多矣。其金液九丹，盖小术也。皆不得飞行上清。欲行此道，不必贤愚，但地上无此文耳。真官玄法启誓乃传。有得而行，位为上真，乃乘八景琼轮，游行九晨，诣太素宫，见太一帝君，俱朝元晨，故秘言曰：子得《郁仪》、《结璘》，乃成上清之真。不修此道，不得见三元君。

太上郁仪日中五帝讳字服色

日中青帝，讳圆常无，字昭龙輶。衣青玉锦帔，苍华飞羽裙，建翠芙蓉晨冠。

日中赤帝，讳丹虚峙，字绿虹映。衣绛玉锦帔，丹华飞羽裙，建丹符灵明冠。

日中白帝，讳浩郁将，字回金霞。衣素玉锦帔，白羽飞华裙，建浩灵芙华冠。

日中黑帝，讳澄增停，字玄绿炎。衣玄玉锦帔，黑羽飞华裙，建玄山芙蓉冠。

日中黄帝，讳寿逸阜，字颺晖像。衣黄玉锦帔，黄羽飞华裙，建芙灵紫冠。

右日中五帝君讳字、服色。欲行奔日之道，当祝识名、字，存五帝服色在我之左右前后。

月中夫人魂精内神名暖萧台嫫。

右月魂配五帝，次又存祝之。能知月魂名，终身无灾，万害不伤。太上藏日、月帝君、夫人讳字于太素宫。有知之者神仙。

太上结璘月中五帝夫人讳字服色

月中青帝夫人，讳隐娥珠，字芬艳婴。衣青华琼锦帔，翠龙凤文飞羽裙。

月中赤帝夫人，讳逸寥无，字婉筵灵。衣丹蕊玉锦帔，朱华凤落飞羽裙。

月中白帝夫人，讳灵素兰，字郁连华。衣白珠四出龙，锦帔素羽鸾章飞华裙。

月中黑帝夫人，讳结连翘，字淳厉金。衣玄琅九道云，锦帔黑羽龙文飞华裙。

月中黄帝夫人，讳清营襟，字炁定容。衣黄云山文锦，帔绿羽凤华绣裙。

已上五夫人，头并頰云三角髻，发垂之至腰。

右月中五帝夫人讳字、服色。欲行奔月之道，当祝识名字，存夫人服色在己之左右前后。

日中五帝魂精内神名珠景赤童。

右日魂、月魄、五帝、五夫人，次又存祝之。能知日魂名，终身无疾，万灾不犯。太上藏日、月魂名于紫灵玉宫。有知之者，通神使灵。

存奔日月道者，任意所便行尔，不必尽为之也。欲得静室隐止，唯令日月之晖处也。若不绝人事，与外物相干者，不得行此道也。夜半常烧香，存五帝五夫人名字，心祝曰：

愿与帝君，太一五神，合景如一。于是二十四年，亦白日升天。亦不必行奔存之道也。常存在我之左右，并心祝窃诵，

勿令耳闻。

太素真人受太帝君日月诀法

太素真人曰：子存日精五帝君，口含《太上郁仪文》。须此道成，乃见日中君。无此徒劳自烦冤。

太素真人曰：子存月精五夫人，口含《太上结璘章》。须此道成，乃见月中夫人。无此徒劳自悼伤。

右二条太素真人受太帝君诀言《太上隐书》云，存时执之，帝君云含之；太素真人教裴君存时含一文，执一文，并行之也。

太素真人传清灵真人裴君二事《太上郁仪》、《结璘之章》，以致日月之精神，上奔日月通天光，飞太空之道也。皆乘云车羽盖，驾命群龙，而上升皇天紫庭也。《内视中方》曰：子欲步空，当存日月王；欲登清灵，当存五星。密室密行，不出宇庭，此之谓也。《素奏丹符》曰：大哉《郁仪》，妙乎《结璘》，非上真不见，非上仙不闻。以日月五精之神，乘龙步空，足躡景云，遂与五帝上入天门。有人闻之，慎勿妄言！去世可出，誓金乃传。要传弟子有心之人，勿道篇目，玉童上言；泄则被考，身终不仙；玉女玉童去而弗还，书文必失，获刑三官。子其慎言！言为罪源。

大方诸宫服日月芒法

常存心中有日象，大如钱，在心中，赤色。又存日有九芒，从心中出喉至齿间，而芒回还胃中。如此良久，临目存自见心胃中分明，乃吐气、漱液、服液三十九过，止。一日三为之，行之十八年，得道，行日中无影。恒存日在心中，月在泥丸宫。夜服月华如服日法，存月十芒，白色从脑中下入喉，芒亦未出齿而回入胃。

太上玄真诀服日月法

东卿司命君曰：先师王君，昔见授《太上明堂玄真上经》。清斋休粮，存日月在口中，昼存日，夜存月。令大如钗。日赤色，有紫光九芒；月黄色，有白光十芒。存咽服光芒之液，常密行之无数。若不修存时，令日月还住面明堂中，日居左，月居右，令二景与目瞳气合通也。此道以摄运生精，理魂神，六丁奉侍，天兵卫护，此上真道也。大都口诀正如此。

服日子三五七九玄根气法

食玄根之气法，使人体中清朗，神明八聪；身有日映，面有玉泽；眼生明光，齿含紫气；坚肠华藏，长生久视；服吸朝液，悬粮绝粒。道要于金液，事妙于水玉。所谓吐纳自然之太和，御九精之灵气者也。夫道之为用，贵自然也；德之为静，尊恬愉也。摄自然以表真，抱冲漠以不邪者，则横犯不生，非

害自灭。此乃三五七九之气，可谓要道之旨也。

兆卧未起之时，存口中有一白气，大如鸡子黄；鸡黄之外，又有五色气；五色气宛转自生，结溢黄外，须臾乃满心口中，名曰三五七九日子玄根之气也。又存心胃口之中有一女人，如婴儿之形，无衣服也。正立胃管门口，号曰九天玄女。承注魂液，仰噙口中鸡子黄之五色气也。常漱满口中，内外上下，以舌回吸日气五色津液，满口吞之。存使津液下入玄女之口，如此三过。毕，又叩齿三通，微祝曰：

玉清高上九天九灵，治在玄府，下入胃清；金和玉映，先自虚生，名曰淳钗，字曰艳精；炼魂抱魄，心开神明；服食日子，金华充盈。良久都毕，以手拭两目二七，又以两手相拭，极力摩面眉目之间，鬓肤之际小热，使薰薰然也。此太上服三五七九日子玄根之道也。

服日月气法

服日气之法，以平旦采日华，以夜半存之，去面前九寸，令方景照我泥丸，下及五藏，洞彻一形。引气入口，光色慰明。良久乃毕，则常得长生矣。

又法

夜半生气时，若鸡鸣时，正卧闭目，存左目中出日，右目

中出月，并径九寸，在两耳之上。两耳之上名为六合高窗也。令日月使照一身，内彻泥丸，下照五脏肠胃之中，皆觉见了了，洞彻内外；令一身与日月光合。良久毕，叩齿九通，咽液九过，乃微祝曰：

太上玄一，九皇吐精，三五七变，洞观幽冥；日月垂光，下彻神庭；使照六合，太一黄宁；帝君命简，金书不倾，五老奉符，天地同诚；使我不死，以致真灵；却遏万邪，祸害灭平；上朝天皇，还老反婴；太帝有制，百神敬听。毕，乃开目，名为日月练根，三元校魂，以制御形神，辟诸鬼气之来侵，使兆长生不死，多存之矣。

又法

又存左目为日，右目为月，共合神庭之中，却上入于明堂，化生黄英之体，下流口中九咽之，以哺太一，常以生气时存之。毕，微祝曰：

日月上精，黄水月华，太一来饮，神光高罗；使我长生，天地同柯。毕，五日一行之。口中舌上为神庭。存日月既毕，因动舌，觉有黄泉如紫金色，从舌上出，上流却入明堂，为黄英之体也。存思之时，常闭目施念。

太一游日服日月法

太一常以甲午、丙午、戊午日日出时，下游绛宫，合形真人及兆身。绛宫真人者，处心中之丹田，中元真人居其心中也。先存思真人忽然与太一合形，又存我入绛宫中，忽然复与太一合形。于是绛宫之中，惟觉有太一之身，身形象服如兆体也。但令形细眇然，似初生孩子之状。又存两鼻孔下左有日，右有月。日中有黄精赤气，月中有赤精黄气。精者，二明之质；色气者，日月之烟也。二气郁郁来入绛宫，绛宫溢满二气，复上入洞房中，洞房中郁满，又下至黄庭中。黄庭中者，脐下三寸、下丹田宫中也。二气既满，又入填溢太仓中。二气洞彻，郁郁积胃管中。存太一上行正当胃管中，南向呼召下元丹田黄庭真人，衣黄衣，巾黄巾，与太一共坐饮食精气，二十七咽。良久毕，存黄庭真人，咒曰：

日月之华，黄赤二精，圆光合气，上发大明。三元饮食，太一受灵。又存太一与中元真人还入绛宫，黄庭真人还下丹田，太一与我合形，还六合宫。

求月中丹光夫人法

求仙之道，当以夏至之日夜半，入室南向，眠坐任意，闭眼内思月中丹光夫人姓讳，形长八寸，分头作颧云之髻，著丹锦裙，口衔月光，入兆身心绛宫之中，须臾月光散为黄气，币降一形。夫人在月中央，采空青之林散拂黄气之中，口吐阳精赤气，以灌兆形。从向币外，黄赤二气更相缠绕，洞映一身。夫人以紫书丹字六音授于兆身，便引黄气二十四咽，引阳精十二咽，止，即叩齿二十四通，仰咒曰：

流火万顷，洞阳之精，阳安之馆，三华玉城；金仙内映，八素四明；九曜降气，上仙高灵；夫人焚香，散玉华清，丹书紫字，结音空清，澜池玉润，流丽八溟，朱光流翳，普天鲜荣，回晨曲曜，映监我形；形与朱日，同死同生；乘空驾虚，参御飞骈；玉女弼位，金童辅灵；翠羽轻盖，上造帝庭。毕，咽气二十四过，咽液十二过，止，便服紫书丹字。行此道八年，夫人授兆丹书真文、月中玉瑁，令飞升上造洞阳之宫。

服日月六气法

夫气者，神明之器，清浊之宗。处玄则天清，在人则身存。夫死生亏盈，盖顺乎摄御之间也。欲服六气，常以向晓寅丑之际，因以天时告方面之时也；太霞部晖，丹阳诞光，灵景启晨，朱精启时之始也。先存日如鸡子在泥丸中，毕，乃吐出一气，存气为黑色，名之尸气；次吐二气，为白色，名之故气；次吐三气，存气为苍色，名之死气。思其气吐亦良久也。凡出三色，合吐六气也。毕，又徐徐引纳黄气四过。毕，辄咽液三过，为之三。毕，乃存泥丸中，日从目中出，当口前，令相去九寸，临目仿佛如见之。覆止，乃起坐，动摇四体，俯仰伸引，令关脉调转。存咽津，佳夜即存月在泥丸中，如存日法。若存月，当以月一日夜至十五日住，从十六日至三十日，是月气衰损，天胎亏缩，不可以夜存也。此法至妙，能行者仙。

金仙内法

金仙内法，感降灵瓢，常以月五日夜半子时存日乌从兆口入，住在心中，使光照一心。一心之内，与日同光，共相合会。赫赫炯炯，当觉心暖，霞晖映暖，良久有验，乃密咒曰：

太明育精，内练丹心，光晖体合，神真来寻。毕，咽液九过，叩齿九通，止，到十五日、二十五日、二十九日复作如前。一月之中四度，如上使人开明聪察，百关解通，万神洞彻，面有玉光，体有金泽。行之十五年，太一遣宝车来迎，上登太霄，游宴紫极。行之务数，不必一月四辰也。

存思日月法

凡入山，思日在面前，月在脑后。凡暮卧，思日在面上，月在足后；赤气在内，白气在外。凡欲从人，各思日月覆身而往，当无所畏。

向日取嚏法

欲得延年，洗面精心（至日更洗漱也）。日出二丈，正面向日，口吐死气（服日后便为之，死气四时吐之也），鼻噓日精，须鼻得嚏便止，是为气通（若不得嚏，以软物通导之，使必得嚏也）。以补精复胎，长生之方也。向日正心。欲得使心正，常以日出三丈（取嚏讫仍为之），错手著两肩上（左手在上，以日当心，开衣出心，令正当之），常能行之佳。

双景翼形隐道

鸡鸣时（东方天色才变之时。坐卧任意，闭目握固。），存日月之象在六合之府，日左月右（六合府在两目之上角，即眉后空处是也。入皮一分，仍辟方九分。日色赤，九紫芒；月色黄，十白芒也）。存使光明洞形，令仿佛在位（存令日月合照，光芒交映而洞彻身面也）。闭目极念，无得遗脱。毕，叩齿七通，咽液九过，而微祝曰：

太明灵神，化度郁青，招霞藏晖，灌练五形；宫驾六合，七神调平；使我飞仙，登行上清。行之十五年，玉皇遣三素云迎兆也。

食竹笋（鸿脯附）

服日月之精华者欲得常食竹笋者，日华之胎也，一名大明。又欲常食鸿脯者，月胎之羽鸟也，一名月鹭。欲服日月，当食此物气感运之。太虚真人曰：鸿者，羽族之总名也。其鹄、雁、鹅、鸥，皆曰鸿鹭也。古歌曰：

鸿鹭十年鸟，为肴致天真。五帝衔月华，列坐空中宾（此古之渔父歌也）。

卷二十四 日月星辰部二

总说星

《玄门宝海经》曰：阳精为日，阴精为月。分日月之精为星辰。纲者，连星也。纪者，缀星也。星形正圆如丸，不应似贯珠穿度，又不容作铃鼻相缀理，宜如破箭竿，还相合以成体。天地初成，无子举翹飞上，乃在华盖之下，左有北辰，右有北斗，星辰稍备，东西南北稍正，星辰共以真道要养万二千物，下及六畜、粪土，草木皆被服其秘道要德而生长焉。

北辰星者，众神之本也。凡星各有主掌，皆系于北辰。北辰者，北极不动之星也。其神正坐玄丹宫，名太一君也。极之为言者界也，是五方界俱集于中央，是最尊居中也。中极，一名为天中上极星也，是最居天之中。东方少阳，名为东极星；西方少阴，名为西极星；南方太阳，名为南极星；中央名为中和上极上星，故最高最尊，为众星之主也。北极星，天之太常，其神主升进。上总九天，中统五岳，下领学者。北极星围七百七十里，中有玄台玉楼，真人号飞华君，姓羽灵，讳昌元，著飞精华冠，衣紫锦裳，执玉策。太极君名北辰主帝，制御万神（中央星是）。北极神人坐绿炁之光。北斗星者，太极之紫盖，玄真之灵床，九皇之神席，天尊之偃房。第一太星精名玄枢，

神曰阳明；第二元星名曰北台，神曰阴精；第三真星名曰九极上真，神又曰真人；第四纽星名曰璇根，神曰玄冥；第五纲星名曰太平，神曰丹元；第六纪星名曰命机，神曰北极；第七关星名曰玄阳，神曰天关；第八帝星名曰高上皇，神曰八景虚元君；第九尊星号太微玉帝君，神曰太素七晨元君。斗有魂魄之星回旋在斗外，裹缠于斗，斗在内也。阳明、阴精二星之间，星斗魂魄魁首也，名曰天枢魂神斗；次第二星名曰天璇魂神斗；次行第三星名曰天机魄精斗；次行第四星名曰天权魄精斗；次行第五星名曰玉衡魄灵斗；次行第六星名曰闾阳魄灵斗；次行第七星名曰摇光大明。七星去地四十万里，围七百二十里，皆金精琉璃为其郭，七曜紫晖开其光，号为帝车，运于中央，临制四方，分调阴阳，四时五行，皆禀之焉。

北斗君字君时，一字充。北斗神君本江夏人，姓伯，名大万，挟万二千石。左右神人姓雷，名机，字太阴，主天下诸仙人。又招摇与玉衡为轮，北斗之星精曜九道，光映十天。

北斗九星七见二隐，其第八、第九是帝皇太尊精神也。汉相国霍光家有典衣奴子，名还车，忽见二星在斗中，光明非常，乃拜而还，遂得增年六百。内辅一星在北斗第三星，不可得见，见之长生，成神圣也。外辅一星在北斗第六星下，相去一寸许，若惊恐厌魅，起视之吉。

黄帝曰：以鸡鸣时，想北斗七星，而天神下不死药，益寿不老。又以丁亥之日仰存七星，使焕明于北方，良久，阴祝曰：

召书上清，役使万神，上登玉庭，驾景乘空，与天相倾。

又每立春日，东向存北斗来下却盖头，柄指于前，吉。南斗神君字流时，南斗字君元。南斗君是河东人，姓赵，名赦先，字君迁。南斗君坐左右神人姓戴，名道，字叔生，大道君子也。

东斗主击君，西斗主伐君，中斗伏逆君。紫微宫内神姓柳，

字君明。紫微君字露光，夫人姓王，讳叔华。太微星君字卿元。太微内有三皇，一曰皇君，二曰天皇，三曰皇老，此即三元之气，混沌之真，在太微总领符命也。文昌星神君字先常，天子司命之符也。土官星所主，能致山内果实。旦为猿，昼为猴，暮为死石。璇玑星君字处行，钩陈水星主之，常陈天之虎贲也。五车，天之五岳，能致甘露、麒麟。三台星，天之陞官，旦为龙，昼为蛇，暮为鱼。三神者，三台之灵也。上台神君字显真，上台名虚精，主金玉。中台神君字章明，中台名六淳，主禄位。中台两星小阔，晋张华为司空，死，其星开。下台神君字际生，下台名曲生，主土田。轩辕星，天之后妃土官也。其神旦为羊，昼为蟹，暮为鳖。洞明星，姓幽升，讳幽韵。真人星姓归珩，讳妙光，字度元，天之司空，主五岳灵仙。

五星者，是日月之灵根，天胎之五藏。天地赖以综气，日月系之而明。东方岁星真皇君，名澄澜，字清凝；夫人名宝容，字飞灵。南方荧惑真皇君，姓皓空，讳维淳散融；夫人讳华凝，字玄罗。太白真皇君，姓皓空，名德漂；夫人名颺英，字灵恩。辰星真皇君，名启咍，字积原；夫人名玄华，字龙娥。镇星真皇君，名藏睦，字耽延；夫人名空瑶，字飞贤。二十八宿为籥落也，织女水官星能致神芝，食之寿与天地无极。传舍水官星主天符，南戒星同北戒水官星，旦为马，昼为鹿，暮为獐。天市星，天之仓曹神，能致明月珠，旦为木，昼为兔，暮为貉。平门土官星能致神女倡乐，旦为生木，昼为豕，暮为蜺螭。玄冥星姓冥枢，讳定宣觉，字法开度，真名执，天之游击也，主伐逆。上总九天鬼神，中领北帝三官，下监万兆。谷土星能致飞鸟，来朱雀，旦为鸡，昼为鸟，暮为鸢。积水星能致四方万物，恣其所欲，坐在立亡。狼星能致天帝君百二十神。

夫下有其官，则上有其星；下署置官失，则上星为其乱。

若露慢三光，指斥七曜，呵骂风雨，欺罔玄灵，则致日月薄蚀，星宿流飞。常以十二月四日候天西北水母星，长九丈，大三围，本末正等，见即大水满天下，急走奔高山可逃也。计然，葵丘濮上人也，姓辛，字文子，习星历之数，知所富利之术。

二十八宿

甲从官，阳神也，角星神主之。阳神九人。姓宾，名远生，衣绿玄单衣，角星宿主之。乙从官，阴神也，亢星神主之。阴神四人，姓扶，名司马。马头赤身，衣赤缙单衣，带剑，亢星神主之。丙从官，阳神也，氐星神主之。阳神十三人，姓王，名师子。衣青纱单衣，氐星神主之。丁从官，阴神也，房星神主之。阴神八人，姓洪，名寄生。衣绛緋单衣，房星神主之。戊从官，阳神也，心星神主之。心星，火也，为工，故在东方。阳神五人，姓女，名涂祖，牛头人身，衣黄单衣，带剑，心星神主之。己从官，阴神也，尾星神主之。阴神十一人，姓涂，名徐泽。兔头人身，衣青单衣，尾星神主之。庚从官，阳神也，箕星神主之。桑木者，箕星之精也。阳神十一人，姓（元阙），名仲。衣飘飘玉妙单衣，箕星神主之。辛从官，阴神也，南斗星神主之。阴神四人，姓阳，名多，衣青单衣，持矛，南斗星神主之。壬从官，阳神也，牛星神主之。阳神十二人，姓柳，名将生。衣绛玄单衣，牛星神主之。癸从官，阴神也，女星神主之，阴神姓刁，名徐，字郁子。犬头人身，女星神主之，寅从官，孟神也，虚星神主之。槐者，虚星之精也。孟神四人，姓木，名徐他。鼠头人身，衣银黑单衣，带剑，虚星神主之。

卯从官，仲神也，危星神主之。仲神十一人，姓刘，名归生。衣琼纹单衣，带剑，危星神主之。辰从官，季神也，营室星神主之。营室之内，五色杂神，营室天子受命之司，水官星神主之。季神八人，姓吕，名升，衣黄锦单衣，营室星神主之。巳从官，孟神也，东壁星神主之。孟神七人，姓石，名苏和，豕头人身，衣黑单衣，带剑，东壁星神主之。午从官，仲神也，奎星神主之。仲神六人，姓黑，名石胜。衣丹纱单衣，带剑，奎星神主之。未从官，季神也，娄星神主之。季神十三人，姓竺，名远来。衣流荧单衣，娄星神主之。申从官，孟神也，胃星神主之。孟神八人，姓冯，名谢君。衣流黄单衣，带剑，胃星神主之。酉从官，仲神也，昴星神主之。仲神四人，姓张，名弩小。衣绿青单衣，昴星神主之。戌从官，季神也，毕星神主之。季神姓桑，名公孙，带剑，衣白毛单衣，毕星神主之。亥从官，孟神也，觜星神主之。孟神十一人，姓王，名平。衣龙青单衣，觜星神主之。子从官，仲神也，参星神主之。仲神八人，姓铜，名徐舒，衣黄绯单衣，带剑，参星神主之。丑从官，季神也，井星神主之。季神九人，名博阳。衣黄水单衣，带剑，能致凤凰、玄武，东井星神主之。震，乾之长男也，鬼星神主之。长男神五人，姓作，名涂于。蛇头黑身，带剑，衣赤野单衣，鬼星神主之。坎，乾之中子也，柳星神主之。中男神四人，姓角，名石襄，羊头人身，衣黄韦单衣，柳星神主之。艮，乾之少子也，七星神主之。少子神五人，名胜子。衣飞霞单衣，七星神主之。巽，坤之长女也，张星神主之。长女神五人，姓李，名神子。衣赤血单衣，张星神主之。离，坤之中女也，翼星神主之。中女神十人，姓张，名奴子。衣赭黑单衣，带剑，翼星神主之。兑，坤之少女也，轸星神主之。少女五人，姓符离，名苏子。衣流黄单衣。

北斗九星职位总主

《黄老经》曰：北斗第一天枢星，则阳明星之魂神也。第二天璇星，则阴精星之魂神也。第三天机星，则真人星之魂精也。第四天权星，则玄冥星之魂精也。第五玉衡星，则丹元星之魂灵也。第六闾阳星，则北极星之魂灵也。第七摇光星，则天关星之魂大明也。第八洞明星，则辅星之魂精阳明也。第九隐元星，则弼星之魂明空灵也。

阳明星，天之太尉，司政主非。上总九天上真，中监五岳飞仙，下领后学真之人。天地神灵、功过轻重，莫不隶焉。

阴精星，天之上宰，主禄位。上总天宿，下领万灵及学仙之人。诸以学道及兆民宿命禄位，莫不隶焉。

真人星，天之司空，主神仙。上总九天高真，中监五岳灵仙，下领学道之人。真仙之官，莫不隶焉。

玄冥星，天之游击，主伐逆。上总九天鬼神，中领北帝三官，下监万兆，伐逆不臣，诸以凶勃，莫不隶焉。

丹元星，天之斗君，主命录籍。上总九天谱录，中统鬼神簿目，下领学真兆民命籍。诸天诸地，莫不总统。

北极星，天之太常，主升进。上总九天上真，中统五岳飞仙，下领学者之身。凡以功勤得转轮阶级，悉总之焉。

天关星，天之上帝，主天地机运。如四时长短。天地否泰、劫会，莫不隶焉。

辅星，天尊玉帝之星也。曰常者，常阳。主飞仙。上总九天，下领九地。五岳四渎神仙之官，悉由之焉。

弼星，太常真星也。曰空者，常空隐也。主变化无方。

《河图宝录》云：第一阳明星，天之太尉，司正主非。上总九天之真，中监五岳飞仙，下领后学真人，天地神灵，功过轻重。围九百二十里，有青城玉楼，据斗真人号九晨君，姓上灵，讳摇天捶。冠九晨玉冠，衣青羽飞裳，执《斗玄图》，坐玉楼中。知内讳者，玉晨下映，飞行太空。

第二阴精星，天之上宰，主禄位。上总天宿，下领万灵及学仙之人。围五百五十五里，有五色玉楼。攀魁真人号北上晨君，姓育婴，讳激明光。冠玄精玉冠，衣玄羽飞裳，执五色羽节。

第三真人星，天之司空，主神仙。上总九天高真，中监五岳灵仙，下领学道之人。围七百七十里，有黄台玉楼。真人号主仙华神君，姓归珙，讳度众，冠飞晨宝冠，衣青羽飞裳，执斗中青录。

第四玄冥星，天之游击，主伐逆。上总九天鬼神，中领北帝三官，下监万兆。围八百里，有朱台玉楼。步斗真人号玄上飞盖晨君，姓冥枢，讳摇天柱。冠二华宝晨冠，衣丹锦飞裳，执九灵之节。

第五丹元星，天之北斗君，主命箴籍。上总九天诸箴，中统鬼神簿目，下领学真兆民命籍。诸天诸地，莫不总统。围七百二十里，有素台金楼。躡纪真人号金魁七晨君，姓上开，讳变五道。冠七宝飞天冠，衣白锦飞裳，执青元籍。

第六北极星，天之太常，主升进。上总九天上真，中统五岳飞仙，下领学者阶级。围七百七十里，有玄台玉楼。步刚真人号北晨飞华君，姓明灵，讳昌上元。冠飞精华冠，衣紫锦飞裳，执九斗玉策。

第七天关星，天之上帝，主天地机运，四时长短，否泰劫

会。围九百里，有九层玉楼。乘龙真人号总灵九元北盖晨君，姓玄枢，讳开天徒。冠九元宝冠，衣九色锦裳，执晖神之印。

第八辅星，天尊玉帝之星，曰常阳也。主飞仙。上总九天，下领九地，五岳四渎神仙之官。围九百九十里，有紫炁玉楼。游行三界真人号帝尊九晨君，姓精常，讳空上开正延。冠飞精玉冠，衣九色凤衣，执火铃。

第九弼星，太帝真人星，曰空隐也。主变化无方。围九百九十里，有玉楼紫馆。徘徊三阳真人号帝真元星君，姓幽空，讳冥阳晖幽寥。冠飞天玉冠，衣九天龙衣，执帝章。

兆若诉彼之非，明此之是，过他之恶，申己之善，自责而不怨人，通理而各祈祐，除罪延福，告请天之太尉第一玉皇君。

兆若阴阳学官，干禄求位，告请天之上宰第二玉皇君。

兆若学道期仙，通神达圣，告请天之司空第三玉皇君。

兆若制服鬼神，恶逆诛伐，幽显凶邪，告请天之游击第四玉皇君。

兆若立功建德，益算延年，告请天之斗君第五玉皇君。

兆若屈滞疾厄，乞申希免，告请天之太常第六玉皇君。

兆若天地否激，炁候不调，告请天之上帝第七玉皇君。

兆若襁却众灾，飞上履下，告请天之尊玉帝第八玉皇君。

兆若变化无方，应救一切，告请天之太帝第九玉皇君。

右九皇君、九夫人内姓隐讳，知之延寿千年。常夕夕观之，想见皇君夫人形象威光，忆其姓讳，谛存在心，得见第八、第九星，延寿无穷。

太上大道君曰：空常者，天地之魂魄，阴阳之行用。唯斗君名姓别有，具列于后。诀唯有一诀步刚咒，启乞愿由人临时作辞及口启之。在其二十八宿名星图，具在《流珠正经》，以意详用。

次南斗君及七宿法老君曰：南斗君姓唐，名粗，字宣道，太原人。

次西斗君及七宿法老君曰：西斗君姓刘，名起，字石婴，长安人也。

次北斗君及七宿法老君曰：北斗君姓陈，名奉，字百万，江夏人云云，在《流珠》中。

右四斗君，四人官二十八人，皆受志人配使，并乞愿皆如心手相应，无事切不得妄行，却招祸返损人也。

次司命法

老君曰：左司命一人也。姓韩，名思，字元信，长乐人也。司录，司伐等属焉。左司命有三十六大员官。

右司命姓张，名获，字子良，广阳人也。司录、司非等属焉。右司命亦有三十六大员官。

天师曰：韩、张二司命，皆是汉高帝之臣也。

老君曰：得左、右二司命名，可以六甲日躡地纪步咒，如前二十八宿法。唯诀各随命配为司命诀，捻之，往往行之二年，便获长生；请出灾厄秘妙之法，久久精修，白日升举。

卷二十五 日月星辰部三

北极七元紫庭秘诀（一名《北帝七元延生真经》）

吴赤乌二年，葛仙公受之于太上。魏朝时，叶先生传之于世，太主虚无北帝真要，上通紫庭。

魁（身）<鬼勺>（禄）<鬼藿>（福德男女）<鬼行>（命）
魍（官职）<鬼甫>（寿考）魍（妻妾奴婢）。

已上七位，用灯七碗，于道靖内明点，占其明暗，即知本位灾厄。凡醮用晦朔之日。

《七元经》云：此日北帝七元真人下降人间，检句罪福，凡人每醮，求解灾厄，即得吉，无不利。

又云：本命日及禄命合日相生之日，犬鼠不至处，铲削草秽，净地之上，用丑、亥、未时祭之礼，是谓扫地而祭。亦可使白茅藉之。若人能知星名及所食之物，所行之处常得吉胜也。

右件醮时皆须沐浴斋洁，以灯列位，每星下用桌子一只，上安供养物，各以茅香水洗过，并洒扫庭室，乃祀之位，北立一纸钱漂，则候漂上钱动，真乃降矣，必除殃降福也。仍不可驻目视真座。凡人但知本属星名，即得无灾，何况久能醮之？祀讫，即看风从何方来，此是求名之方。仍各减少许星粮，以一囊可方一寸贮之，头戴而行有急难，三呼本命星名，求其救

助。及求馀事，亦呼本命星名。醮用清酒、名茶、净果、油饼，钱财多少，计自于人。用单状一纸，列其真位，并述所求意。

一阳明星（应五七）。

二阴精星（应第四星，第六星，一直也）。

三真人星（位别，亦下步）。

四玄冥星。

五丹元星。

六北极星。

七天关星。

辅星。

弼星。

已上并头戴宝冠，身披霞帔，手执玉简，真人形状。醮时存见，启祝。

第八帝星高上玉皇景光君，见，增三百岁。

第九尊星太微玉帝神君，又云大帝七辰元君，见，增六百岁。

已上帝王装束，并与北斗相近。一云帝在第四星内，尊星在第二星内，皆是帝王天尊之精神。醮时存见，常以每月初三、二十七日夜窃候之，勿令杂人见。诚心久之，无不见者。二星大如七星，光皆紫华，有异常宿，焕然可畏。见皆叩头，请乞长生飞仙，及心告临时。既见之后，二帝君当授子真官矣。

上台星名虚精，求之感帝王之梦及金玉，念名求之，必应。中台星名六淳，求官禄盛兴，念名求之，必得吉遂。下台星名曲生，求妻妾奴婢，念名求之，必遂。

右太微帝君曰：欲得延年长生，富贵高迁，须修此术。若久久步之，乃设醮者能拔七祖罪累，并身灾厄。凡有厄患，求之自灭。若帝王求道，寿齐三光，千变万化，坐在立亡，福如

山岳，为人重爱。修道之者白日升天，三公卿相自感帝王爱梦，官禄兴盛。须是至净人家有此法者，辟一切病患及诸不祥。昔汉刘景被百万贼军围绕，飞矢如雨，士卒失色，唯景安然无怖，散披汗衫，步七星纲，嘿许设醮，即有神人解围，贼皆散走。此犹是常步醮之法，况此秘密真诀，向来皆真仙口传之，按《七元科》，每一百年乃传一人。须有骨录者，不可妄传，殃及九祖。如世人未能步纲，但一月两醮，自当感应。一年辟非横，二年辟非厄，三年辟死灾。四年见真形，千灾万邪，莫能侵害，永无患矣。

一阳明星（子生人属之，食黍米）。

二阴精星（丑、亥生人属之，食粟米）。

三真人星（寅、戌生人属之，食糯米）。

四玄冥星（卯、酉生人属之，食小豆）。

五丹元星（辰、申生人属之，食麻子）。

六北极星（巳、未生人属之，食大豆）。

七天关星（午生人属之，食小豆。）

醮物料：

代人（一十二躯）白米（饮）命绢（一疋）帖体衣（一对）命巾（一丈二尺）金环（一对）玉环（一对）盐（一斗二升）禄米（一石二斗）铜钱（一千二百文）鼓（一斗二升）案表纸（一百二十张）笔（一管）墨（一挺）香炉净水案（一面）镇信彩。

东方（青绢九丈九尺）南方（绯绢三丈三尺）西方（素绢七丈七尺）北方（玄绢五丈五尺）中央（黄绢一十二丈二尺）果子所食：李、栗、桃、杏、枣、梨、胡桃、乾柿。净床（二张）北壁（安一张）。

七元图（安西南）图用青绢两幅，长九尺，画之。

凡醮时，烧香了，下食都毕，退后。良久，凝神执简，躬身相去一丈五尺，微咒曰：

维某年某月某时，弟子具銜。次云命属某星下。稽首再拜，次对，谨请上闻：

七元真君，阳明阴精，光明焕赫；今夜降灵。飨兹薄礼，暂降净庭；赐臣无畏，身魂安宁；除臣死籍，注臣长生；所求皆得，所作皆成；上感帝王，下感人情；众人钦爱，飞升紫庭，降临醮席。稽首再拜，次对，谨请上闻：

七元真君，真人玄冥，降臣净庭，响臣微醮；知臣丹诚，愿升仙都；太阴无名，役使万神，六甲六丁，上感。

天心，下救苍生，降临醮席。稽首再拜，次对，谨请上闻：

七元真君，丹元北极，降臣净域，削臣死名，乞臣道力，寿齐三光，福庆万亿，神人卫身，玉女下直，降临醮席。稽首再拜，次对，谨请上闻：

七元真君，天关大神，照耀臣身，愿臣长生，得为帝宾；颜如日月，四时长春；下界垢秽，速登上真；左盼郁仪，右携结璘；玉童为使，玉女为亲，降临醮席。稽首再拜，次对斗口，谨请上闻：

尊帝二星，北极之灵，人不曾见，见即长生；注臣飞仙，勾臣死名；福庆无穷，与天齐倾；速超仙都，游行上清，降临醮席。稽首再拜，次对，谨请上闻：

辅弼真君，一隐一显，至真至神，佐相北极，环绕紫宸；愿施道力，成臣道因；上扶天意，下度迷津，降临醮席。稽首再拜，次对西坐，谨请上闻：

上台虚精，中台六淳，下台曲生；小臣沥恳，再拜奉迎，臣具薄礼，臣意不轻，尽心竭力，知臣丹诚；除臣死籍，注臣长生；位在高迁，列官天庭；心意开廓，耳目聪明，三魂永久，

七魄不倾，上朝金阙，下谒玉京，乘驾云龙，位作仙卿，降临醮席。稽首再拜，都毕，退后，任真飧食。如有心告临时，启闻了，宣读单状，皆不可高声，及杂人知见。其天地水三官，设三位斗杓之下，其土地直日二分，预烧钱供养，使关奏却秽矣。

祭文：

维某年、某月、某日、某时，具州里衔次，敢昭告于
上天神后，北极灵殿，七元真君（事意撰文）。谨奏此章，
冒犯北极，轻黷明神，倍深战栗之至，谨奏。又朝夕朝礼，亦
心念之，咒曰：

谨请上闻：

七元真君，阳明阴精，真人玄冥，丹元北极，天关之灵，
去臣死籍，注臣长生，所求皆得，所作皆成，众人钦爱，飞升
紫庭。次念，谨请上闻：

尊帝二星，北极之灵，愿臣早见，见即长生，福庆无穷，
与天齐年。次念，谨请上闻：

三台至诚，虚精六淳，曲生之名，愿臣高迁，列官天庭，
心意开爽，耳目聪明，三魂永久，七魄不倾。又北斗延生神咒
念之，安神延寿，北斗七元，七灵玉名，贪狼巨门，保臣长生，
禄存文曲，护臣生魂，廉贞武曲，卫臣生门，破军辅弼，保臣
长生，除却灾厄，绝去邪精，落下死籍，注上生名，脱免三灾，
技散九横，至真摄鬼，群魔摧倾，学道修真，愿臣早成，七元
守卫，身飞紫庭。凡未下床，及临眠时，存礼安神度厄之咒，
皆默念一遍，方下足及卧，咒曰：

贪狼之讳，阳明之星，玉皇尊福，亿万众兵，来扶我身；
巨门之讳，阴精之星；禄存真人，文曲玄冥；廉贞丹元，武曲
之讳；北极之星，破军之讳；天关之星，七星尊神；千千万万，

在吾左右；左有青龙名孟章，右有白虎名监兵，前有朱雀名陵光，后有玄武名执明；建节持幢，负背钲鼓，在吾前后，左右周匝，数千万重，急急如律令！

此法王侯行之，夷夏率服，民人富昌，长生久视，与天同光。道人修之上升，世人行之延寿。秘密而保，勿轻易之。

《北帝七元真形图》，带佩之大集福庆。

北斗第一阳明星君 北斗第二阴精星君 北斗第三真人星君
北斗第四玄冥星君 北斗第五丹元星君 北斗第六北极星君
北斗第七天关星君

七童卧斗法

凡上学之士，服日月之道，当修七曜之妙法。每以人定之后，当于别室，烧香，北首而卧，安身定神，弃绝异念，专心在灵，叩齿二十四通，存思七星焕明北方，己身卧于七星斗中华盖之下，七曜之光，流焕紫景之外，冠覆于己身。在紫景之上七曜之中，内外郁冥，都无所见。良久，豁除七曜之光，化为七童，若在一星之上。第一童子讳枢明，第二童子讳曜灵，第三童子讳北元，第四童子讳宝精，第五童子讳丹婴，第六童子讳灵清，第七童子讳紫映。七童子吐七宝之光，以哺饴兆身。枢明童子吐紫景之光，曜灵童子吐琉璃之光，宝精童子吐白银之光，丹婴童子吐玉精之光，灵清童子吐宝珠之光，紫映童子吐珊瑚之光。七宝之光同入兆身，便引气四十九咽，止，微咒曰：

金精凝化，结元七灵，紫曜焕落，朱景洞明；华盖徘徊，

轮转寒庭，宝光耀耀，七耀缠婴，玄晖吐兰，芳芝流盈；夕寝灵馆，朝登玉清；璇玑运路，紫景翼形，宴饗云轮，策御飞骈，游盼八极，三道合并。咽液七过，止，起以粟米之粉粉身，令匝而卧。如此七年，身生七宝之光，头有紫景华盖，怕冠兆形，得使通灵，玉女七人，降致灵飞云玄舆来迎兆身，上升北辰。此道秘妙，上真所修，不行下世。若有刻简玄名于未生之前，记青录玉文之人，当得此道。得者克成上仙，为万仙之师宗也。轻泄失明形残，七祖充责刀山，食火三涂，万劫不原。学士明慎四极之旨，深宝之焉。此七童子即七宝之内精，化为七曜之上真。知其名则不死，修其法则神仙，泄其讳则失明，晨夕存念，则怕卫兆身。若有灾厄困急之中，叩齿七通，呼七童之名，灾即自消。此道止可独知而已，怀抱珠玉，岂可放于垢尘也。明哲秘之。

太上招五辰于洞房飞仙秘道

夜半清静，坐卧任意。安体静心，慢气调神，临目内视（此法夕夕为之，坐则各向其方，卧则首向所在，其星光芒焕耀，乃忽然飞来入在头位）。存西方太白星（白色七光芒见在天，如今所望，既至目前，渐合小圆，径七分，仍入其阙，光芒满方寸之中，余星仿此）。在玉瑯紫阙（在两眉上，直入一寸仍辟方一寸是，夹明堂两边。阳日在左眉上，阴日在右眉上）。次存北方辰星（苍色五芒）在天中帝乡玄宫（从鼻直上，来至发际五分，直入方一寸是。对天庭宫之上下，去眉二寸，星径五分也）。次存东方岁星（青色九芒）在洞阙朱台（在两眉后

一寸，直入一寸，方一寸，接六合府下角，阴日在左，阴日在右，星径九分）。次存南方荧惑星（赤色三芒）在玉阙华房（在两眉间五分，直入方五分，阳日在左，阴日在右，星径三分）。次存中央镇星（黄色四芒，稍向西南，先仰视如见其星，乃平首存之）在金匱黄室长谷（在鼻人中中央直入二分，其星半出外，如缀悬于上。星径四分）。存思都讫，仿佛令星处其位，当觉使五星出光芒，放五色烟贯我一身，洞彻内外，体中如有熏薰星精来入也。乃叩齿五通，咽液二十五过，讫（星各五咽，存其液，依五星色各入其藏，仍依所存次第为之也），微祝曰：

高元紫阙，中有五神，宝曜敷晖，放光冲门；精化积生，变为老人；首巾素冠，绿帔绛裙，右带流铃，左佩虎真，手把天纲，散绛飞辰，足蹶华盖，吐芒炼身；三景保守，令我得真；养魂制魄，乘飚飞仙（欲有祝愿，在意祝后续言之。凝思良久）。毕，又咽液三过，叩齿三通。常行此十五年，五老来迎，一合俱升紫虚。行之勿令不常也，存之勿令不精也。行之者忌履秽，禁杂处，常薰香，数沐浴。违之者凋败，顺之者飞仙。

升斗法

常以八节日夜半时，入室正坐，接手定气，闭目内视（亦北向）。乃存一身，冉冉起上飞升北斗魁中（先存天上北斗九星，依时所加之辰，我忽上入魁中，背真人星坐）。良久为之，如觉我形已在斗中也。极念为之，当觉体中热，是真气合德（存斗星紫光灌浹我身，映照内外）。又存九精三大神名字、服色（但心存名字。上元大神名奇细，字灵刚，著紫晨冠，凤羽

紫帔，虎锦丹裳。左带玉佩，右腰金珰，两手握流金火铃，不用呼之。中元大神名旋度，字素康。项负圆光，扶晨冠，绛羽华帔，龙带虎裳。下元大神名抗萌，字流郁。著扶华绿冠，黄凤羽帔，龙衣虎带，佩流金火铃，手把日芒。天斗之神则宜形大，使各长二尺许，我亦同之。恍惚令不复觉有今我床上之质，乃佳）。三神与我对坐。（令背元星坐。上元君左，以次右列之）。我心拜之（各一再拜）。精想仿佛，遗形眇眇，将令恍惚也（存三大神同问我何不速来？稽首答曰，畏六天三官众魔之故。三神共怒，振铃吐气，焕激八方）。又存思忽然斗中玉妃，吐紫烟入我心中（良久，忽见一女子，状如婴儿，在三神前向我坐，衣服如祝中所言。紫烟直去心中，乃心呼曰）。斗中九精阴灵玉清上妃，名密华，字邻倩。乃咽液八十过，叩齿九通，举左手以抚心，微祝曰：

太上丹灵，玄光飚焕，九纬启璇，晖气澄散，紫晨幽烛，七曜蔚粲，二景奏明，阴阳以判，四度运昌，云津回灌，八节启气，上升九元，据斗攀纲，奉见三神，问我稽留，何不升仙？我则稽首，畏鬼以前，帝乃赫庄，口衔日根；左破六天，右蹶酆山；流铃上焕，魔首碎分，逐我七魄，强我三魂；藏斗内晖，九精在心；紫霞洞映，飞光万寻；和魂制魄，六胎修炼，精感变跃，玉妃忽见；坐当我心，俯视仰盼；其名密华，厥字邻倩；吐纳朱气，和平百关；身服锦帔，风光鸾裙；腰带虎篆，龙章玉文；手执月华，头巾紫冠；腾跃太霄，驾景盖云；书名太素，我得飞仙；起浮崆峒，垂琼太元；上造朱房，役使万神；纪分二度，还反婴颜；北帝激电，南帝火陈；东仓启烛，赫赫雷震；西流双抃，鸣音唱钧；四举起跃，荐我玉真；遂乘八景，邀宴九烟。毕（接手如初）咽液三十过，叩齿九通，又祝如前（又撮而祝）。毕，起向西北再拜，毕，开目。行之四十

年，太上迎以琼轮，超虚蹶空，升登上清，列为真人，反形婴颜，众神侍轩。

卧斗

凡暮卧先存斗九星在所卧席上（身于床前北向立，两手抚心，闭气瞑目，存天上北斗并帝尊九星，依当时所加之位，乃见冉冉来下至席，列如图。令天关依月建斗形，长九尺，广六尺，乃烧香于真星之外。若时朔日之夕，即并存晨盖之星俱下，亦列位如图。乃从魁下转至斗口，于尊星外入魁中，正偃卧闭目，存思其星作圆光之象，星紫色，纲赤色，连绕其星，如步图之者耳）。令我头首九极，使真气入于泥丸（令真星正当顶上，存真气紫光通身，入泥丸宫，并溢出混头脑之内，光映洞彻）。足蹶尊星，心念飞仙（小屈左足以蹶之）。令太微制我三魂（尊星中有太微玉帝，请乞制之。心念我得飞仙，魂在三宫中）。足蹶帝星，心念飞仙，（申右足以蹶之）。令高上拘我七魄（帝星中高上玉皇，请乞拘之，心念得飞仙，拘魄在脐命门中）。左手把北台（曲仰左手小举之，把元星下纲，使星形在虎口上。）右手执璇根，（直抵覆右手执纽星纲，使星在虎口上）。阴祝星名（安身如法，讫，乃瞑目闭气，次以存咒九星名）。

第一太星精名玄枢。愿（某名有两字者具称之，馀某仿此）飞仙，乘虚驾浮（存星在左右足指前，小远之）。

第二元星精名北牵上真。愿某飞仙，游行洞牵（存星右手把之）。

第三真星精名九极上真，愿某飞仙，得治三玄（存星在头顶上）。

第四纽星精名璇根。愿某玉名，列为飞仙（存星右手执之，令成魁形）。

第五纲星精名天平，愿某飞仙，登行上清（次纽星右）。

第六纪星精名命机。愿某飞仙，名书太微（次纲星右）。

第七关星精名玄阳。愿某飞仙，得使玉童（次纪星右，令成斗形，悉使在卧席上也）。

第八帝星精名高上玉皇。愿某飞仙，得登后圣之堂（存星在魁中，纲连纽星，令对右足心）。

第九尊星精名太微帝君，愿某飞仙，得入丹阙玉房（更都存九星，一时俱见）。乃叩齿三七通，咽液三七过，阴祝曰：

九星太精，北极真君，益我胎精，强我三魂；左引日华，右拘月津；辰中黄景，元虚黄真；使我飞仙，上登紫晨。神虎玉符，常守生门；万邪伏法，受形斗君（存洞房）。所存所祝都毕，良久，乃存斗星之精，忽然入洞房中（存席上九君并纲一时，分精作促小之形，从气户却入洞房中，偃魄向上，以杓指前，是即席上、头中两处俱有也。洞房魁中左有黄老君魂，玉色，黄绣衣；右有己魄，是第二魂胎光，其形服如我，与黄老对坐，中有泥丸赤子帝君，亦绣衣，向外坐）。光照一身，洞彻五内，三关百节，皆令赤赫，然后阴祝曰：

洞房元精，赤子太尊，斗光华盖，来照泥丸；宝炼骨肉，拘魄制魂，使某飞仙，乘云登辰；上朝玉帝，太一元君。都毕（乃闭目息念，忘形安眠）。青童君曰（卧北斗阴精，致仙使灵，洞房致北斗阳精，使五脏自生，遂得乘景游行上清）：

月朔存华辰紫盖，唯月朔一日一存（此夕所存辰盖，止存席上，不分精入洞房也。先存九星竟，即存辰盖，次祝九星名，

以至于毕也)。平旦欲起，常密叩齿二七通，咽液二七过（服久或有反侧，令欲起，当更正安手足，存九星如法。乃叩咽祝之）。阴祝曰：

天元上斗，中有七童，上清紫精，在兆身中；华辰紫盖，太素玄宫；后圣灵气，下入洞房；使我飞仙，得太极金堂（祝毕，存九星然无象，朔夕辰盖亦然。所云平旦起者，谓专行此事，夜中更无他务耳。若夜中须起行诸事，亦宜祝而乃起。若更卧者，能重存为佳，不止一卧一起一祝耳）。行此十八年，必色反婴颜，一旦有星之精变成九老之公，并俱来下，迎兆身，白日登晨。

存二十四星法

常以月朔之夕，生气之时，安卧闭目，向上，心存二十四星，星大一寸，如连结之状。又存一星之中辄有一人，合二十四人。人皆如小儿始生之状，无衣服也。于是二十四星直从天上虚空中来下，回绕一身三匝，三匝毕，以次咽入口，凡作二十四咽。咽时辄觉吞一星也。觉从口内径至脐中，脐中名曰受命之宫也。又觉星光照一腹内，洞彻五脏。又存星光化为二十四真人，并吐黄气如烟，以布满腹中，郁郁然洞彻内外也。良久，微咒曰：

二十四真人，回入黄庭，口吐黄气，二十四星，灌我命门；百神受灵，使我骨强，魂魄安宁。五藏受符，天地相倾。毕，名曰真气入守命门，以辟灾祸百鬼之疾，令人长生不死。

奔辰飞登五星法

后圣李君奉受《八素真经奔辰隐书》，施行其法，乃致太微天帝下迎，五星同舆，乘玄华三素，北登玉清，受书为上清金阙帝君。

飞登木星之道

岁星员镜，木精玄朗东阳之咳。星中有九门，门中出九锋芒，锋芒光垂九百万丈。一门辄有一青帝备门，奉卫于中央青皇真君。在中央有始阳上真青皇道君，讳澄澜，字清凝。夫人讳宝容，字飞云。治在未星之内，镇守九门，运青光流锋以照上下之真。欲飞登之法，常思见岁星，当正心视星，以右手拊心而礼之，左手掩两目，乃九闭炁，又叩齿二十七通，咽液九过，使目闭于手下，心呼岁星中真皇之君、君夫人名讳字三过毕，曰：愿得与始阳青皇真君、君夫人，共乘八景碧舆，上登太上宫。言毕，乃瞑闭目于手下，向星微咒曰：

天光交和，精流东方，仰望九门，飞霞散锋；始阳碧台，中有青皇；青牙垂晖，映照九方；郁粲夫人，字曰飞云，齐服灵锦，虎帔虎裙。腰带凤符，首巾华冠，出无入虚，遨游太元，前策青帝，后从千神，来见迎接，得为飞真。上登玉清，高上之房。

咒毕，去手，瞑目对星，服星之光二十七吞，存视星九芒，使尽来入喉中也。都毕，又叩齿三通。常行之十四年，木星中

青皇大君奏闻高上玉清宫，刻太微蕊简，定名玉书，位为上清上飞真人。木星有九门，门内有九青帝。其一帝辄备一门，以奉承于中央青皇上真大君也。青皇者，东方之上真，始精之尊神也。出入玉清，与高上为友也。其门内青帝或号青灵之公，或号青真，或号青精，或号青帝君，并受事于中央青皇也。行八素之秘道者，则致青皇来降已；行五灵之外法者，则致青神来授书。是故道有深浅，致有尊卑。天无星之时，天阴之夕，可于寢室中向东存修而咒也。天道微妙，玄纲毫分，不必对星而行之也。有星时可出庭中，坐立适意。所谓上真之道，登东辰之法，不传地仙辈也。

飞登火星之道

火星玄镜，丹精映观南轩。星有三门，门中出三锋芒，锋芒光垂三百万丈。一门内辄有一赤帝备门，奉卫于南真上皇真君。星中央有丹火朱阳赤皇上真道君，讳维淳，字散融。夫人讳华瓶，字玄罗。治在火星内，镇守三门，运赤光飞云，以覆天下之真人也。欲飞登之法，思见荧惑星，正心视星，以左手拊心而礼之，右手掩口，乃三闭气，又叩齿二十七通，咽液九通，瞑闭两目，心呼荧惑真皇君、荧惑夫人讳字三过，毕，曰：愿得与丹火赤皇君、君夫人共乘八景丹舆，上登玉清宫。毕，乃向星微咒曰：

玄象流映，丹光南冥；仰望三门，朱云绛城；中有丹皇，名曰维淳；夫人内照，是为华瓶；齐服云霜，凤华龙铃，腰带虎书，首巾飞青；出无入玄，遨翔五城；前导赤帝，后从六丁；来见招延，得真之名，上登玄虚，金书玉清。

咒毕，去手勿复掩口，故瞑目视星，服星之光二十七吞。

存令星三芒尽来入喉中。都毕，又叩齿三通。常行之十四年，荧惑星中赤皇上真道君奏闻三元上皇，帝刻玄圃琼简，定名金书，位为上清上飞真人。荧惑星有三门，门内有三赤帝。其一帝辄备一门，以奉属于中央赤皇君也。赤皇者，南方之上真，丹官之贵神。出入玉清，与三元上皇为友也。其星中赤帝君者，或号赤灵之公，或号赤神，或号赤精，或号赤帝，并受事于中央赤皇上真大君也。行八素之隐书，则致赤皇来降已；行五灵之外法，则致赤神来授书。是以道有隐外，文有秘显，尔乃招真有尊卑之差，求神有上下之序。若无星之时，天阴之夕，可于寢室南向存之。有星，可出中庭，坐立任意。此所谓奔南辰之法，不传地仙，传之犯泄漏之罪。地仙自复有《八素经》，论服王炁吐纳之道也。又有《九素经》，论召鬼使精行厨、检魂魄之事。止陆行名山，长生不死而已。《八素经》后有《天钧上曲阳歌九章》，《九素经》后有《凤吹龙啸阴歌八章》，此是地仙之秘书也。今所谓太上奔辰八素，行上清之道，非地仙之八素也。地仙之啸歌，以待上清之行游耳。

飞登金星之道

太白星员镜，金精焕耀西辰。太白星中有七门，门中出七锋芒，锋芒光垂七百万丈。一门内各有一白帝，凡有七白帝备门，奉卫于西真上皇道君。星中央有太素少阳白帝上真道君，讳寥凌，字振寻。夫人讳颺英，字灵恩。治在金星之内，镇守七门，运白光飞精，以映上元真人。欲飞登之法，思见太白星，当正心视星，以右手拊心而礼之，左手掩两鼻孔，乃七闭气，又叩齿二十七通，咽液九过，瞑闭两目，心存太白真皇君、君夫人讳字三通毕，曰：愿得与太素少阳君、君夫人共乘八景素

攀，上登玉清宫。毕，又向星微咒曰：

七炁艳飞，光照西方；仰望七门，灵阙激锋；素晖烛映，德标金宗，中有少阳，号曰白皇；夫人灵恩，治在玉房；齐服皓锦，流铃虎章，首巾扶晨，腰佩金珰；出空入虚，游步玉刚；前导白帝，后从六庚；来下见迎，北登墉宫；名书上清，得为真公。

咒毕，去手勿得掩鼻，故瞑两目视星，服星之光芒二十七吞。存令七芒尽来入喉中，都毕，又叩齿三通。常行之十四年，太白星中少阳白皇上真道君奏闻太帝玉皇宫，刻上清金阙，定名玉简，位为上清左真公，以综太极。太白星有七门，门内有七白帝。其一帝辄备一门，以奉属于中央白皇道君也。白皇者，西方之上真，太素之尊皇，出入玄清，与皇初道君为友也。其门内白帝君，或号白灵之公，或号白神，或号白精，或号白帝之君，并受事于中央白皇上真大君也。行八素之秘妙，则致白皇来降己；行五灵之外道，则致白神来授书。尊卑玄盼，故道有渊阶矣。若无星之时，天阴之夕，皆于室中寝处，西向存之。有星可出庭中，坐立任意。若静斋道士，亦可通于室中，存五星之真，方面而并修之也。皆上真之道，奔西辰之法，不传地仙。一夕服五星，令常周遍。春服星光，以东方为始；夏服星光，以南方为始；随王月以王星为先口诀也。星行不必在方面，亦随星所在向而修行口诀也。行事时，不欲令人见其所为，当隐辟而为之也。此是太上之隐道，所谓隐书者也。隐而复隐，犹恐鬼神窃看其篇题，何可令世之臭骸轻传授者，闻此缥迹乎？不可以盲瞽愚人殊无所知，而令见其道也。凡人身中亦有七神。七神见之亦为泄漏，不可不深慎也。修隐书之道，而发泄隐书之名目者，既当受考三官，又适足以作祸也。每欲省按，皆先屏左右人及鸡犬之生物，烧香再拜，乃视之也。

飞登水星之道

辰星员镜，水精洞映北冥。辰星中有五门，门中出五锋芒，锋芒光垂五百万丈。一门各有一黑帝，凡五黑帝，并备一门，奉卫于北真上皇。星中央有太玄阴元黑皇道君，讳启航，字精源。夫人讳玄华，字龙娥。治在水星之内，镇守五门之中，运玄光流明之炁，以朗耀北元之庭当为真人者。欲飞登之法，思见水星，正心视星，以两手拊心。拊心毕，举两手以掩两耳，乃五闭炁，又叩齿二十七通，咽液九过，瞑闭两目，心呼辰星真皇道君、君夫人名字三过毕，曰：愿得与阴元黑皇道君、君夫人共乘八景苍舆，上登上清上元宫。毕，又向星微咒曰：

五炁玄飞，光流北方；仰望五门，苍阙郁繁；激芒达观，灵映景云，中有黑皇，厥字精源；龙娥纷蔼，俱理玄关；齐服苍帔，紫锦飞裙，腰佩虎符，首巾莲冠；出凌九虚，入响玉津；前导黑帝，后从六壬；来下见迎，上登紫房，名书太上，得为玉真。

咒毕，去手勿复掩耳，故临目视星，服星之光芒二十七过。存令五芒尽来入喉中，都毕，又三叩齿。常行之十四年，辰星中太玄上皇真君奏闻高上宫，刻琳房玉札，定玉清紫文，位为上清真公。辰星有五门，门内有五黑帝。其一帝辄备一门，以奉属于中央玄皇君也。玄皇者，北方之上真，太玄之尊君，出入上虚，与紫精道君为友也。其备门黑帝，或号为黑灵之公，或号黑神，或号为黑精，或号为黑帝君，并受事于中央太玄黑真上皇君。行八素之隐道，则致北皇来降己；行五灵之外法，则致黑帝君来授书。尊卑差序，故道有隐显焉。若天阴之夕，及无星见之时，可于室中寝处，常修之。此高上之秘道，奔登北辰之上法也。非地仙陆行所得闻者也。玉清、上清、太极太

清、九宫，并各有官寮，公卿大夫侯伯，署置如一，更相管统，奉属于上皇。宫阙、次第等类相似，但道品有尊贵，德业有升降。

飞登土星之道

镇星员镜，土精镇荫黄道。镇星中有四门，门中出四锋芒，锋芒光垂四百万丈。一门各有一黄帝，凡四黄帝备门，奉卫于镇星黄真君也。星中央有中黄真皇道君，讳藏睦，字颉延。夫人讳空瑶，字非贤。治在镇星之内，镇鉴四门，运黄裳流炁，朗映中元，照盼学真者。欲飞登之法，思见镇星，正心视星，以两手拊心。拊心毕，举左手以掩洞房上，乃四闭炁，又叩齿二十七通，咽液九过，瞑闭两目，心呼镇星真皇君、君夫人讳字三过毕，曰：愿得与中央太皇道君，君夫人共乘八景黄舆，上登上清宫。毕，又向星微咒曰：

四炁徘徊，合注中元；仰望九极，傍观四门；黄台紫房，垂锋射芒，灵光郁散，天华落盆；中有黄皇，厥字颉延，夫人潜德，是为非贤；理和命炁，导玄灌元；齐服黄裳，龙锦虎裙；腰佩金符，首巾紫冠；出凌玄空，展光金门；前导黄帝，六已卫轩；来下见迎，上登天关；金书太上，琅简刻名；飞行太空，得为玉卿。

咒毕，去手勿复掩洞房上而瞑两目，服星之光二十七遍。存令四芒尽来入喉中，都毕，又三叩齿。常行之十四年，镇星中黄上真皇奏闻太上宫，刻霄台碧简，定九玄丹文，位为上清真公，下友四极上真人。镇星中有四门，门内有四黄帝。其一帝辄备一门，以奉属于中央黄真皇君也。中央黄真上皇者，中极之高尊，出入太微，与皇初道君为友也。或号曰黄灵之公，

或号曰黄神，或号黄精，或号黄帝君，并受事于中黄上真之君也。行八素之秘道，则致黄真道君来迎已；行五灵之外法，则致黄帝来授书矣。天阴无星之时，皆于寝室施行，同存五方也。真人云在室内存星，亦不异于见星也。勿谓不见星而当废之也。此太上之隐道，登辰之秘法矣。

吞服星光芒时，当悉存星真上皇、皇夫人乘光中来下入口，咽之，瞑目，仿佛如有其形也。此李君口诀。耽修太上隐法、招存五星之上皇者，五年之内，仿佛形见；七年都见，与之周行；十四年，五星一合来下，共乘玄华之舆，三素紫云，前导五帝，后从万真，五星携之共载，白日登辰，上朝玉清，受书为上清上真矣。

卷二十六 十洲三岛部

十洲（并序） 东方朔集

汉武帝既闻王母说八方巨海之中有祖洲、瀛洲、玄洲、炎洲、长洲、元洲、流洲、生洲、凤麟洲、聚窟洲等十洲，并是人迹所希绝处。又始知东方朔非世常人，是以延之曲室，而亲问十洲所在方物之名，故书记之。方朔云：臣学仙者耳，非得道之人。以国家盛美，特招延儒墨于文纲之内，抑绝俗之道，摈虚诡之迹，臣故韬隐逸而赴王庭，藏养生而侍朱闕矣。亦由尊上好道，且复欲徜徉威仪也。曾随师之主履行，比至朱陵扶桑之闕，溽海冥液之丘；纯阳之陵，始青之下，月宫之间；内游七丘，中旋十洲；践赤县而遨五岳，行陂泽而息名山。臣自少及今，周流六天，涉历八极于是矣。未若陵灵之子，听真之官，上下九天，洞视百方；北极钩陈而并华盖，南翔太丹而栖火夏；东之通阳之霞，西薄寒穴之野；日月所不逮，星汉所不与；其上无复物，其下无复底。臣之所识，如愧不足以酬广矣。

祖洲

祖洲近在东海之中，地方五百里，去西岸七万里。上有不

死之草，草形如菰苗，长三四尺。人死者以草覆之，皆当时活也。服之令人长生。昔秦始皇苑中多枉死者，横道有鸟如乌状，衔此草覆死人面，当起坐而自活也。有司闻奏，始皇遣使者赍草以问北郭鬼谷先生。鬼谷先生云：臣尝闻东海祖洲上有不死之草，生琼田内，或名为养神芝，其叶似菰苗，丛生，一株可活一人。始皇于是慨然言曰：可采得之不？乃使使者徐福，发童男童女各三百人，率载楼船等入海寻祖洲，遂不返。福，道士也，字君房，后亦得道。

瀛洲

瀛洲在东大海中，地方四千里，大抵是对会稽郡，去西岸七十万里，上生神芝仙草，又有玉石，高且千丈，出泉如酒味，名之为玉醴泉，饮之数升辄醉，令人长生。洲上多仙家，风俗似吴中，山川如中国也。

玄洲

玄洲在北海之中戌亥之地，地方七千二百里，去南岸三十六万里。有太玄都，仙伯真公所治。多丘山，又有风。山多风，气响雷电。对天西北门，上多太玄仙官，仙官宫室各异。饶金石紫芝，又是三天所治之处。

炎洲

炎洲在南海中，地方二千里，去北岸九万里。上有风生兽，似豹，青色，大如狸。张网取之，积薪数车以烧之，薪尽而兽

不燃，灰中而立，毛亦不焦。斫刺不入，打之如皮囊，即以铁追锻其头数千下乃死，而张口向风，须臾复活，以石上菖蒲塞其鼻即死。取其脑和菊花服之，尽十斤得寿五百年。又有火林山，山中有火光兽，大如鼠，毛长三四寸，或赤或白。山可三百里许，晦夜尝见此山林，乃是此兽光照，状如火光相似。取其兽毛以缉为布，时人号为火浣布也。国人衣服之，若有垢污，以灰汁浣之，终不洁净。唯以火烧两食久，振摆之，其垢自落，洁白如雪。亦多仙家居处。

长洲

长洲一名青丘，在南海辰巳之地。地方五千里，去岸二十万里。上饶山川，又多大树。树乃有二千围者。一洲之上，专是林木，故一名青丘。天有仙草灵药，甘液玉英，又有风山，山恒震声。有紫府宫，天真仙女游于此地。

元洲

元洲在北海中，地方三千里，去南岸十万里。上有五芝玄涧，涧水如蜜浆，饮之长生，与天地相毕。服此五芝，亦得长生不死。上多仙家。

流洲

流洲在西海中，地方三千里，去东岸十九万里。上多山川积石，名为昆吾。冶其石成铁作剑，光明洞照，如水精状，割玉如泥。亦多仙家。

生洲

生洲在东海丑寅之间，接蓬莱七十万里，地方二千五百里，去西岸二十三万里。上有仙家数万。天气安和，芝草常生，地无寒暑，安养万物。亦多山川、仙草、众芝。一洲之水，味如饴酪。至良洲者也。

凤麟洲

凤麟洲在西海之中，地方一千五百里。洲四面弱水绕之，鸿毛不浮，不可越也。洲上多凤麟数万，各各为群。又有山川池泽及神药百种，亦多仙家。煮凤喙及麟角合煎作胶，名之为续弦胶，或名连金泥。此胶能续弓弩已断之弦，连刀剑断折之金，更以胶连续之处，使力士掣之，他处乃断，所续之际终无所损也。天汉三年，帝幸北海祠射山。四月西国王使至，献灵胶四两及吉光毛裘。武帝受以付外库，不知胶、裘二物之妙用也。以为西国虽远，而上贡者不奇，稽留使者未遣。久之，武帝幸华林园，射虎而弩弦断，使者从驾，又上胶一分，使口濡以续弩弦。帝惊曰，异物也。乃使武士数人，共对掣引，终日不脱，如未续时。其胶色青如碧玉，吉光毛裘黄色，盖神马之类也。裘入水数日不濡，入火不焦。帝于是乃悟，厚谢使者而遣去。又益思方朔之远见。周穆王时，西胡献昆吾刀及夜光常满杯。刀长一尺，杯受三升。刀切玉如切泥，杯是白玉之精，光明照夜。冥夕出杯于中庭以向天，比明而水以满杯中，汁甘而香美，斯实灵人之器。秦始至时，西胡献切玉刀，无复常满杯耳。如此胶之所出，从凤麟洲来；剑之所出，从流洲来，并

是西海中所有也。

聚窟洲（沧海岛附）

聚窟洲在西海中申未地，地方三千里，北接昆仑二十六万里，去东岸二十四万里。上多神仙灵官，宫第比门，不可胜数。及有狮子、辟邪、凿齿、天鹿、长牙铜头铁额之兽。洲上有大山，形似人鸟之象，因名之为人鸟山。山专多大树，与枫木相类，而林芳叶香，闻数百里。此为反魂树，亦能自作声，如群牛吼，闻之者皆心振神骇。伐其木根，置于玉釜中煮取汁，更微火煎如黑饧状，令可丸之，名曰惊精香，或名之为振灵丸，或名之为返生香，或名之为振檀香，或名之为人鸟精，或名之为却死香。一种六名，斯灵物也。香气闻数百里。死者在地闻香气，乃却活，不复亡也。以香薰死人，更加神验。如此之后延和三年，武帝幸安定。西胡月支国王遣使献香四两，大如雀卵，黑如桑椹。帝以其非中国所有，以付外库。又献猛兽一头，形如五六十日犬子，大似狸而色黄，命国使以呈帝，帝见使者抱之，其以羸细秃悴，怪其贡之非也。问使者：此小物可弄，何谓猛兽？使者对曰：夫威加于百禽者，不必计之以大小。是以神麟故为巨象之王，鸾凤必为大鹏之宗，百足之虫制于珣，亦不在于巨细也。臣国去此三十万里。国有常占东风入律，百旬不休青云干吕，连月不散者，当知中国将有好道之君。我王固将贱儒墨而贵道德，薄金玉而厚灵物也。故搜奇蕴贡神香，步天林而请猛兽，乘毳车而济弱渊，策驥足以度飞沙。契阔途遥，辛苦蹊路于今，已十三年矣。香神起妖残之死疾，猛兽却百邪之魅鬼。夫此二物，实是养生之要，助政平化。岂图陛下反不知真乎？是臣国占风之谬矣！今日仰鉴天姿，亦乃非有道

之君也。眼多视则淫色，口多言则犯难，身多动则淫贼，心多饰则奢侈。未有用此四者而成天下之治也。武帝忿然不平，又问使者：猛兽何方而伏百禽？食啖何物？膂力何比？其所生何乡耶？使者曰：猛兽所出，或出昆仑，或生玄圃，或生聚窟，或生天露，其寿不赀，食气饮露，解人言语，仁惠忠恕，当其仁也；爱护蠢动，不犯虎豹以下，当其威也；一声叫发，千人伏息，牛马恐骇，惊断絙系，武士奄忽，失其势力，当其神也；立兴风云，吐嗽雨露，百邪迸走，蛟龙腾蛇，附处于太上之厩，役御狮子，名曰猛兽。盖神化无常，能为大禽之宗主，乃攬天之元王，辟邪之长兽者也。灵香即虽少，斯更生之神物也。疫病灾死者，将能起之，乃闻香气者即活也。芳又特甚，故难歇也。于是帝使使者令猛兽发声试听之。使者乃指兽，命发一声。兽舐唇良久，忽叫如天大雷声霹雳，又两目顾谭交光，精气冲天，良久方止。帝登时颠蹶，掩耳振动，不能自止。时卫者武士虎贲，俱失仗伏地，诸内外牛马犬豕之属，皆绝绊离系，惊骇放荡，久许而定。帝忌之，因以此兽付上林苑，令虎食之。于是虎闻兽来，乃相屈聚积，如死虎伏。兽入苑，径上虎头溺虎口，去十步已来，顾视虎，虎辄闭目。帝恨使者言不逊，欲收之。明日，失使者及猛兽所在。遣四出寻讨，不知所止。到后元封元年，长安城内病者数千百，亡者太半。帝试取月支神香烧之于城内，共死未三日者皆活，芳气经三月不歇。于是信知其神物也。乃更秘录者，复一旦又失之，检函封印如初，无复香也。帝逾懊恨不礼待于使者，益贵方朔之遗语。自愧求李少君之不勤，惭卫叔卿之复去。向使厚待使者，必有所益也。

沧海岛在北海中，地方三千里，海四面绕岛，各五千里。水皆沧色，仙人谓之沧海者也。岛上专是大山积石，有名石象，八石：石脑、石柱英、流月、黄子、石胆之辈百馀种，皆生于

岛，服之神仙。外别有圆海绕山，圆水色正黑，谓之溟海。无风而洪波百丈，不可得往。上有九老丈人九天真王，盖太上真人之所居，唯飞仙能到其处耳。

三岛

昆仑

昆仑，一号曰昆仑。在西海戍地，北海之亥地。地方一万里，去岸十三万里。又有弱水周回绕匝。山东南接积石圃，西北接北户之室，东北临大活之井，西南至承渊之谷，此四角大山实昆仑之支辅也。积石圃南头是王母宫。王母告周穆王云：山去咸阳三十六万里，山高平地三万六千里，上有三角山，方广万里，形如偃盆，下狭上广，故曰昆仑山三角。其一角干辰之辉，名曰阊风巅；其一角正西，名玄圃堂；其一角正东，名昆仑宫。其一角有积金为天墉城，面方千里。城上安金台五所，玉楼十二所。其北户山、承渊山入有墉城，金台玉楼相映，如流精之阙，光碧之堂，琼华之室，紫翠丹房。景云烛日，朱霞九光，西王母之所治也，真官仙灵之所宗。上通璇玑，元气流布五常玉衡，理九天而调阴阳，品物群生，希奇特出，皆在于此。天人济济，不可具记。此乃天地之根纽，万度之纲柄矣。是以太上名山鼎于五方，镇地理也；号天柱于珉城，象纲轮也。诸百川极深，水灵居之，其阴难到，故治无常处。非如丘陵而可得论尔。乃天地设位，物象之宜，上圣观方，缘形而著尔。乃处玄风于西极，坐王母于坤乡。昆吾镇在于流泽，扶桑植于

碧津。离合火精，而光兽生于炎野；坎总众阴，是以仙都宅于海岛。艮位名山，蓬山镇于寅丑；巽体元女，养巨木于长洲。高风鼓于群龙之位，畅灵符于瑕丘。至妙玄深，幽神难尽测。真人隐宅，灵仙所在，六合之内，岂唯数处而已哉！此盖举其标末耳。臣朔所见不博，未能宣通王母及上元夫人圣旨。昔曾闻之于得道者，说此十洲大丘灵阜，皆是真仙隩墟，神官所治。其余山川万端，并无睹者矣。其北海外又有锺山，在北海之子地，隔弱水之北一万九千里，高一万三千里，上方七千里，周旋三万里。自生千芝及神草四十余种。上有金台玉阙，亦元气之所舍，天帝君治处也。锺山之南有平邪山，北有蛟龙山，西有郢草山，东有东木山。四山，锺山之枝干也。四山高锺山三万里，宫城五所。如一登四面山，下望见锺山耳。四面山，帝君之城域也。又仙人出入道径，自一路从平邪山东南入穴中，乃至内长生岛中紫石室宫，九老仙都治处，仙官数万众。记之。

方丈（扶桑附）

方丈洲在东海中心西南东北岸正等。方丈面各五千里。上专是面龙所聚者。金玉琉璃之宫，三天司命所治之处。群仙若欲升天者，往来此洲，受太上玄生策。仙家数十万，琼田芝草课计顷亩，如种稻状。亦有石泉，上有九原丈人宫主，领天下水神及龙蛇巨鲸阴精水兽之辈。

扶桑在东海之东岸一万里，复得碧海。海广狭浩汗，与合东海等大，碧水既不咸苦，正作碧色，甘香味美。扶桑在碧海之中，地方万里。上有太上帝太真王父所治处。地多林木，叶皆如桑，又有榘子。树长者数千丈，径三千馀围。树两两同根偶生，更相依倚，是以名扶桑。仙人食其榘而一体皆作金色，

飞翔玄虚。其树虽大，其叶及椹如中夏桑也。但椹希而赤，九千岁一生实耳，味绝甘香。地生紫金丸玉，如诸夏之瓦石。真仙官变化万端，盖无形，有分形为百身十丈者。

蓬丘

蓬丘，蓬莱山是也。对东海之东北岸，周回五千里。北到锺山北阿门外，乃天帝君总九天之维，贵无比焉。山源周回，具有四城，其中高山当心，有似于昆仑也。昔禹治洪水既毕，乃乘暉车度弱水而到此山，祠上帝于北阿，归大功于九天。又禹经诸五岳，使工刻石识其里数高下，其字科斗书，非汉人所晓。今丈尺里数皆禹时书也。不但刻劖五岳，诸名山亦然。其所刻之处独高耳。今书是臣朔所具见。其王母所道诸灵藪，禹所不履，唯书中夏之名山耳。臣先师谷希子者，太上真官也。昔授臣昆仑、锺山、蓬莱山及神洲真形图，昔来入汉，留以寄所知故人。此书又尤重于五岳真形图矣。昔也传受年限正同耳。陛下好道思微，甄心内向，天尊下降，并受传宝秘。臣朔区区，亦何嫌惜而不上所有哉？然术家幽事，道法隐秘。某师云，师术泄则事多疑，师显则妙理散，愿且勿宣臣之言意也。武帝欣闻至说，明年，遂复从受诸真形图。常带之，则候八节常朝拜灵书，求脱屣焉。朔谓滑稽，都虚其心，故弄万乘，傲公侯，不可得而师友，不可得而喜怒，故武帝不能尽至理于此人矣。

卷二十七 洞天福地部

天地宫府图（并叙） 银青光禄大夫真一先生司
马紫微集

夫道本虚无，因恍惚而有物气，元冲始，乘运化而分形。精象玄著，列宫阙于清景；幽质潜凝，开洞府于名山。元皇先乎象帝，独化卓然，真宰湛尔，冥寂感而通焉，故得琼简紫文，方传代学；琅函丹诀，下济浮生。诚志攸勤，则神仙应而可接；修炼克著，则龙鹤升而有期。至于天洞区畛，高卑乃异；真灵班级，上下不同。又日月星斗，各有诸帝，并悬景位，式辨奔翔，所以披纂经文，据立图象，方知兆朕，庶覩希夷，则临目内思，驰心有诣，端形外谒，望景无差。乃名曰《天地宫府图》。其天元重叠，气象参差，山洞崇幽，风烟迅远，以兹缣素，难具丹青，各书之于文，撰《图经》二卷。真经所载者，此之略备；仙官不言者，盖阙而未详。

十大洞天

太上曰：十大洞天者，处大地名山之间，是上天遣群仙统治之所。

第一王屋山洞

周回万里，号曰小有清虚之天。在洛阳、河阳两界，去王屋县六十里，属西城王君治之。

第二委羽山洞

周回万里，号曰大有空明之天。在台州黄严县，去县三十里，青童君治之。

第三西城山洞

周回三千里，号曰太玄总真之天。未详在所，《登真隐诀》云，疑终南太一山是，属上宰王君治之。

第四西玄山洞

周回三千里，号三元极真洞天。恐非人迹所及，莫知所在。

第五青城山洞

周回二千里，名曰宝仙九室之洞天。在蜀州青城县，属青城丈人治之。

第六赤城山洞

周回三百里，名曰上清玉平之洞天。在台州唐兴县，属玄洲仙伯治之。

第七罗浮山洞

周回五百里，名曰朱明辉真之洞天。在循州博罗县，属青精先生治之。

第八句曲山洞

周回一百五十里，名曰金坛华阳之洞天。润州句容县，属紫阳真人治之。

第九林屋山洞

周回四百里，号曰尤神幽虚之洞天。在洞庭湖口，属北岳真人治之。

第十括苍山洞

周回三百里，号曰成德隐玄之洞天。在处州乐安县，属北海公涓子治之。

三十六小洞天

太上曰：其次三十六小洞天。在诸名山之中，亦上仙所统治之处也。

第一霍桐山洞

周回三千里，名霍林洞天。在福州长溪县，属仙人王纬玄治之。

第二东岳太山洞

周回一千里，名曰蓬玄洞天。在兖州乾封县，属山图公子治之。

第三南岳衡山洞

周回七百里，名曰朱陵洞天。在衡州衡山县，仙人石长生治之。

第四西岳华山洞

周回三百里，名曰总仙洞天。在华州华阴县，真人惠车子主之。

第五北岳常山洞

周回三千里，号曰总玄洞天。在虢州常山曲阳县，真人郑子真治之。

第六中岳嵩山洞

周回三千里，名曰司马洞天。在东都登封县，仙人郑云山治之。

第七峨嵋山洞

周回三百里，名曰虚陵洞天。在嘉州峨嵋县，真人唐览治之。

第八庐山洞

周回一百八十里，名曰洞灵真天。在江州德安县，真人周正时治之。

第九四明山洞

周回一百八十里，名曰丹山赤水天。在越州上虞县，真人刁道林治之。

第十会稽山洞

周回三百五十里，名曰极玄大元天。在越州山阴县镜湖中，仙人郭华治之。

第十一太白山洞

周回五百里，名曰玄德洞天。在京兆府长安县，连终南山，仙人张季连治之。

第十二西山洞

周回三百里，名曰天柱宝极玄天。在洪州南昌县，真人唐公成治之。

第十三小泂山洞

周回三百里，名曰好生玄上天。在潭州澧陵县，仙人花丘林治之。

第十四灊山洞

周回八十里，名曰天柱司玄天。在舒州怀宁县，仙人稷丘子治之。

第十五鬼谷山洞

周回七十里，名曰贵玄司真天。在信州贵溪县，真人崔文子治之。

第十六武夷山洞

周回一百二十里，名曰真升化玄天。在建州建阳县，真人刘少公治之。

第十七玉笥山洞

周回一百二十里，名曰太玄法乐天。在吉州永新县，真人梁伯鸾主之。

第十八华盖山洞

周回四十里，名曰容成大玉天。在温州永嘉县，仙人羊公修治之。

第十九盖竹山洞

周回八十里，名曰长耀宝光天。在台州黄严县，属仙人商丘子治之。

第二十都峽山洞

周回一百八十里，名曰宝玄洞天。在容州普宁县，仙人刘根治之。

第二十一白石山洞

周回七十里，名曰秀乐长真天。在郁林州南海之南也，又云和州含山县，是白真人治之。

第二十二岫脊山洞

周回四十里，名曰玉阙宝圭天。在容州北流县，属仙人钱真人治之。

第二十三九疑山洞

周回三千里，名曰朝真太虚天。在道州延唐县，仙人严真青治之。

第二十四洞阳山洞

周回一百五十里，名曰洞阳隐观天。在潭州长沙县，刘真人治之。

第二十五幕阜山洞

周回一百八十里，名曰玄真太元天。在鄂州唐年县，属陈真人治之。

第二十六大酉山洞

周回一百里，名曰大酉华妙天。去辰州七十里，尹真人治之。

第二十七金庭山洞

周回三百里，名曰金庭崇妙天。在越州剡县，属赵仙伯治之。

第二十八麻姑山洞

周回一百五十里，名曰丹霞天。在抚州南城县，属王真人治之。

第二十九仙都山洞

周回三百里，名曰仙都祈仙天。在处州缙云县，属赵真人治之。

第三十青田山洞

周回四十五里，名曰青田大鹤天。在处州青田县，属傅真人治之。

第三十一锤山洞

周回一百里，名曰朱日太生天。在润州上元县，属龚真人治之。

第三十二良常山洞

周回三十里，名良常放命洞天。在润州句容县，属李真人治之。

第三十三紫盖山洞

周回八十里，名紫玄洞照天。在荆州常阳县，属公羽真人治之。

第三十四天目山洞

周回一百里，名曰天盖涤玄天。在杭州余杭县，属姜真人治之。

第三十五桃源山洞

周回七十里，名曰白马玄光天。在玄洲武陵县，属谢真人治之。

第三十六金华山洞

周回五十里，名曰金华洞元天。在婺州金华县，属戴真人治之。

七十二福地

太上曰：其次七十二福地，在大地名山之间。上帝命真人治之，其间多得道之所。

第一地肺山

在江宁府句容县界，昔陶隐居幽栖之处，真人谢允治之。

第二盖竹山

在衢州仙都县，真人施存治之。

第三仙磕山

在温州梁城县十五里，近白溪草市，真人张重华治之。

第四东仙源

在台州黄岩县，属地仙刘奉林治之。

第五西仙源

亦在台州黄岩县峤岭一百二十里，属地仙张兆期治之。

第六南田山

在东海东，舟船往来可到，属刘真人治之。

第七玉溜山

在东海近蓬莱岛上，多真仙居之，属地仙许迈治之。

第八清屿山

在东海之西，与扶桑相接，真人刘子光治之。

第九郁木洞

在玉笥山南，是萧子云侍郎隐处。至今阴雨犹闻丝竹之音，往往樵人遇之，属地仙赤鲁班主之。

第十丹霞洞

在麻姑山是蔡经真人得道之处。至今雨夜多闻钟磬之声。属蔡真人治之。

第十一君山

在洞庭青草湖中，属地仙侯生所治。

第十二大若岩

在温州永嘉县东一百二十里，属地仙李方回治之。

第十三焦源

在建州建阳县北，是尹真人隐处。

第十四灵墟

在台州唐兴县北，是白云先生隐处。

第十五沃州

在越州剡县南，属真人方明所治之。

第十六天姥岑

在剡县南，属真人魏显仁治之。

第十七若耶溪

在越州会稽县南，属真人山世远所治之。

第十八金庭山

在庐州巢县，别名紫微山属马仙人治之。

第十九清远山

在广州清远县，属阴真人治之。

第二十安山

在交州北，安期先生隐处，属先生治之。

第二十一马岭山

在郴州郭内水东苏耽隐处，属真人力牧主之。

第二十二鹅羊山

在潭州长沙县，娄驾先生所隐处。

第二十三洞真墟

在潭州长沙县，西岳真人韩终所治之处。

第二十四青玉坛

在南岳祝融峰，西青鸟公治之。

第二十五光天坛

在衡岳西源头，凤真人所治之处。

第二十六洞灵源

在南岳招仙观，观西邓先生所隐地也。

第二十七洞宫山

在建州关隶镇五岭里，黄山公主之。

第二十八陶山

在温州安国县，陶先生曾隐居此处。

第二十九三皇井，

在温州横阳县，真人鲍察所治处。

第三十烂柯山

在衢州信安县，王质先生隐处。

第三十一勒溪

在建州建阳县东，是孔子遗砚之所。

第三十二龙虎山

在信州贵溪县，仙人张巨君主之。

第三十三灵山

在信州上饶县北，墨真人治之。

第三十四泉源

在罗浮山中，仙人华子期治之。

第三十五金精山

在虔州虔化县，仇季子治之。

第三十六閤皂山

在吉州新淦县，郭真人所治处。

第三十七始丰山

在洪州丰城县，尹真人所治之地。

第三十八逍遥山

在洪州南昌县，徐真人治之地。

第三十九东白源

在洪州新吴县东，刘仙人所治之地。

第四十钵池山

在楚州王乔得道之处。

第四十一论山

在润州丹徒县，是终真人治之。

第四十二毛公坛

在苏州长洲县，属庄仙人修道之所。

第四十三鸡笼山

在和州历阳县，属郭真人治之。

第四十四桐柏山

在唐州桐柏县，属李仙君所治之处。

第四十五平都山

在忠州，是阴真君上升之处。

第四十六绿萝山

在朗州武陵县，接桃源界。

第四十七虎溪山

在江州南彭泽县，是五柳先生隐处。

第四十八彰龙山

在潭州澧陵县北，属臧先生治之。

第四十九抱福山

在连州连山县，属范真人所治处。

第五十大面山

在益州成都县，属仙人柏成子治之。

第五十一元晨山

在江州都昌县，孙真人安期生治之。

第五十二马蹄山

在饶州鄱阳县，真人子州所治之处。

第五十三德山

在朗州武陵县，仙人张巨君治之。

第五十四高溪蓝水山

在雍州蓝田县，并太上所游处。

第五十五蓝水

在西都蓝田县，属地仙张兆期所治之处。

第五十六玉峰

在西都京兆县，属仙人柏户治之。

第五十七天柱山

在杭州于潜县，属地仙王伯元治之。

第五十八商谷山

在商州，是四皓仙人隐处。

第五十九张公洞

在常州宜兴县，真人康桑治之。

第六十司马悔山

在台州天台山北，是李明仙人所治处。

第六十一长在山

在齐州长山县，是毛真人治之。

第六十二中条山

在河中府虞乡县管，是赵仙人治处。

第六十三茈湖鱼澄洞

在西古姚州，始皇先生曾隐此处。

第六十四绵竹山

在汉州绵竹县，是琼华夫人治之。

第六十五沪水，

在西梁州，是仙人安公治之。

第六十六甘山

在黔南，是宁真人治处。

第六十七 晃山

在汉州，是赤须先生治之。

第六十八金城山

在古限戍，又云石戍，是石真人所治之处。

第六十九云山

在邵州武刚县，属仙人卢生治之。

第七十北邙山

在东都洛阳县，属魏真人治之。

第七十一卢山

在福州连江县，属谢真人治之。

第七十二东海山

在海州东二十五里，属王真人治之。

卷二十八 二十八治部

二十四治（并序）

谨按《张天师二十治图》云：太上以汉安二年正月七日中时下二十四治：上八治、中八治、下八治。应天二十四气，合二十八宿，付天师张道陵奉行布化。张天师，沛国丰县人也，讳道陵，字辅汉。禀性严直，经明行修，学道有方。永平二年，汉帝诏书，就拜巴郡江州令。以延和元年三月十日辛丑，诏书拜为司空，封食冀县侯。以芝草、图经、历神仙为事，任采延年药饵金液丹。以汉安元年丁丑，诏书迁改，不拜。遂解官入益州部界。以其年于蜀郡临邛县渠亭山赤石城中，静思精至，五月一日夜半时，有千乘万骑来下至赤石城前，金车羽盖，步从龙虎鬼兵，不可称数。有五人，一人自言，吾是周时柱下史也；一人自言，吾是新出太上老君也；一人云，吾是太上高皇帝中黄真君也；一人言，吾是汉师张良子房也；一人言，吾是佐汉子渊天师外祖也。子骨法合道，当承老君忠臣之后。今授子鬼号，传世子孙为国师，抚民无期。于是道陵方亲受太上质敕，当步纲躋纪，统承三天，佐国扶命，养育群生，整理鬼气，传为国师。依其度数，开立二十四治、十九静庐，授以正一盟威之道，伐诛邪伪，与天下万神，分付为盟。悉承正一之道也。

上皇元年七月七日，无上大道老君所立上品治八品诀要掌中，伏弓造天地五龙，布山岳，老君立位治，以用化流愚俗，学者不得贪竟，欲仙道克成，可传之与质朴也。

第一阳平治

治在蜀郡彭州九陇县。去成都一百八十里。道由罗江水两岐山口入，水路四十里。治道东有龙门，拒守神水，二柏生其上。西南有大泉，决水归东。治应角宿，贵人发之，治王始终。嗣师天师子也，讳衡，字灵真。为人广智，志节高亮，隐习仙业。汉孝灵帝徵为郎中，不就。以光和二年正月十五日巳己于山升仙。立治碑一双在门，名曰嗣师治也。

阳平谪仙妻，不知其姓名。九陇居人张守珪，家甚富，有茶园，在阳平化仙居内，每岁召采茶人力百馀辈，男女佣工杂之，园中有一少年，赁为摘茶。自言无亲族，性甚了慧勤愿。守珪怜之，以为义儿。又一女子二十馀，亦无亲族，愿为义儿之妇，孝义端恪，守珪甚善之。一旦山水泛滥，市井路绝，盐酪既阙，守珪甚忧。新妇曰：此可买耳。取钱出门十数步，置钱树下，以杖扣树，得盐酪而归。后或有所要，但令扣树取之，无不得者。其夫术亦如此。因与邻妇十数人，于棚口市相遇，为买酒一碗与众妇饮之，皆醉，而碗中酒不减。远近传说，人皆异之。守珪请问其术受于何人？少年曰：我阳平洞中仙人耳。因有小过，谪于人间，不久当去。守珪曰：洞府大小与人间城阙相类否？答曰：二十四化各有一大洞，或方千里、五百、三百里。其中皆有日月飞精，谓之伏神之根，下照洞中，与世间无异。其中皆有仙王、仙官、仙卿辅相佐之，如世之职司。有得道之人及积功迁神反生之者，皆居其中，以为民庶。每年三

元大节，诸天有上真下游洞天，以观其所理善恶。人世死生、兴废、水旱、风雨，预关于洞中焉。其龙神、祠庙、血食之司，皆为洞府所统也。二十四化之外，其青城、峨嵋、益登、慈母、繁阳、幡冢，亦各有洞天，不在十大洞天、三十六小洞天之数。洞之仙曹，如人间郡县聚落耳。不可一一详记之也。旬日之间，忽然夫妇俱去。

右阳平治山。山中有主簿治、嗣师治、系师治。

第二鹿堂山治

治在汉州绵竹县界北乡，去成都三百里。上有仙室、仙台，古人度世之处。昔永寿元年，太上老君将张天师于此治上，与四镇太岁大将军、川庙百鬼共折石为要，皆从正一盟威之道。山有松柏、五龙仙穴，能通船渡，持火入穴，三日不尽。治应亢宿，号长发之，治王八十年。

第三鹤鸣神山上治

治在其上，山与青城天国山相连，去成都二百里。在蜀郡临邛县界，径道三百里，世人不知之。马底子、何丹阳得道处。治前三水共成一带，神龙居之。有四金钉、二石金银，蚕三斛，亦言尹喜主之。治应氐宿，贱人发之，治王六十年。《神仙传》云：张天师遇中国纷乱，乃入蜀鹤鸣山学道也。

第四漓沅山治

治在彭州九陇县界，与鹿堂山治相连。其间八十里，去成

都二百五十里。有果松神草，服之升仙。又有四龙起骑之门，范蠡主之。治应房宿，庶人发之，治王二十年。

第五葛瓚山治

治在彭州九陇县界，与漓沅山相连。去成都县二百三十里，去阳平治水口四十八里。昔贤于此得道。上有松栗山，高六百丈。治应心宿，道人发之，治王九十年。南康王太尉中书令韦公皋为成都尹，相国张公之爱婿，而量深器大，举止简傲，不狎于俗。张公奕世相家，德望清贵，举族皆轻侮于韦，以此见薄，亦未之悟也。忽梦二神人谓之曰：天下诸化，领世人名籍。吾子名系葛瓚，禄食全蜀，富贵将及，何自滞耶？勉哉行矣！异日当富贵，无以葛瓚为忘也。由是韦有干禄之志，谋于其室家，复勉励之，以收奩数十万金，资其行计。既达秦川，属岁饥久雨，因知友所聘，署陇州军事判官。俄而驾出奉天，郡守奔难行在。皋率土客甲士，馈挽军储，以申扈卫，以功就拜防御使。复请赴觐行朝，德宗望而器之。既平寇难，大驾还京。以功检校右仆射、凤翔节度使。恳让乞改西川，乃授西川节度，与张公交代焉。拥师赴任，张假道归阙以避其锋。既而累年蜀境大穰，金帛丰积，南诏内附，乞为臣妾。威名益重而贡赋不亏，朝廷倚注，戎蛮慑伏。由是请许南诏置习读院，入质子、学生习《诗》、《书》、《礼》、《乐》。公文翰之美，冠于一时。南诏得其手笔，刻石以荣其国，而葛瓚之事久已忘矣。又梦二神人曰：富贵而忘所因，其何甚耶！公梦觉流汗，惊骇久之，乃躬诣云林，炷香祈福，遂命工度木，揆日修崇作南宫飞阁四十间。巨殿修廊，重门邃宇，范金刻石，知无不为。支九陇租赋于山下阿屯输贮，糗粮山积，匠石云起，自制碑刊于

洞门之侧，上构层楼，拣选僮七十人以供洒扫，良田五百亩以贍斋储。在镇二十馀年，封至王爵矣。即本命丁卯，属葛瓚化也。

第六庚除治

山去平地三百九十丈，在广汉郡绵竹县西，去县五里，去成都二百八十里。上常有仙人来往，可以度厄养性。昔张力得道之处，山有二石室，三龙头，淮水绕之。治应尾宿，当道士发之，治王始终。

第七秦中治

主神仙在广汉郡德阳县东九里，去成都二百里。其山浮，昔韩众于其上得仙。前有大水，东有道径于汉洛。治面有大石铜为志。治应箕宿，癩人发之，治王始终。

第八真多治

山在怀安军金堂县，去成都一百五十里。山有芝草神药，得服之令人寿千岁。山高二百八十丈，前有池水，水中神鱼五头。昔王方平于此与太上老君相见。治应斗宿，女人发之，治王七十年。

无极元年十月五日，真正无极太上立治中八品气要诀在掌中。

第一昌利治

山在怀安军金堂县东四十里，去成都一百五十里，昔蜀郡李八伯初学道处。八伯，唐公房之师也。游行蜀中诸名山，常自出戏于成都市，暮宿于青城山上，故号为八伯也。其山南有一石室，容八十人，前有三龙门为志。治应牛宿，狂惑人发之，治王五百年。

第二隶上治

山季子先生学道飞仙。治在广汉郡德阳县东二十里。山有二石室，有一神井。白鹿、白鹤、白鸠时来饮之。有石在治前，与绵毋治相连。西有赤石溪，上有三松为志。山去平地二千九百丈。昔中山卫叔卿于此得道。治应女宿，贫贱人发之治。王百年。

第三涌泉山神治

昔广汉马明生学道得仙，太上老君至此化形住此。治在遂宁郡小汉县界，上有泉水，治万民病，饮之无不差愈，传世为祝水。治去成都二百里，有悬崖百丈，近绵水，猴猿百鸟来在其间。治应虚宿，野人发之，治王三十年。其山小而高，四向有游道。

第四稠粳治

在犍为郡新津县，去成都一百一十里，汶山江水经焉。山高去平地一千七百丈，昔轩辕学道之处也。治左右有连罔相续，西北有味江水。山亦有芝草仙药，可养性命。治应危宿，贵人

发之，治王五十年。

第五北平治

在眉州彭山县，去成都一百四十里。山上有池水，纵广二百步，中有神芝药草，食之与天相久，昔越人王子乔得仙。治应室宿，道师发之，治王四十年。一名 斗山治。

第六本竹治

山在蜀州新津县，去成都一百二十五里。山高一千三百丈，上有一水，有香林在治陌，北有龙穴地道通峨嵋山，上有松，昔郭子声得道之处也。后有林竹，西去十五里通鹤鸣山。前水中常有神龙游戏。治应壁宿，龙门吏人发之，治王五百年。

第七蒙秦治

山在越嵩郡台登县西，去城二十里，去成都一千四百二十里。治与越嵩郡隔河水，前有小山，后有大山，高一千丈。昔伊尹于此山学道。上有芝英金液草，服之得度世。后有汉中郡赵升得道于此。治应奎宿，凡人发之，治王九十年。

第八平盖治

山在蜀州新津县，去成都八十里。前山下有玉人，身長一丈三尺。昔吴郡崔孝通于此山学道得飞仙。山西有大江，南有长山，北有平川，中有龙门。治应娄宿，阴人发之，治王千年。

无上二年正月七日，无为大道玄真立下八品治气要诀在掌中。

第一云台山治

在巴西郡阆州苍溪县东二十里，上山十八里方得，山足去成都一千三百七十里。张天师将弟子三百七十人住治上教化，二年白日升天。其后一年，天师夫人复升天。后三十年，赵升、王长复得白日升天。治前有巴西大水，山有一树桃，三年一花，五年一实，悬树高七十丈，下无底之谷。唯赵升乃自掷取得桃子，馀者无能取之。治应胃宿，有人形师人发之，治王五十年。又云云台治山中有玉女乘白鹤，仙人乘白鹿，又有仙师来迎天师白日升天，万民尽见之。一云此天柱山也。在云台治前有立碑处。

《云台治中录》曰：施存，鲁人，夫子弟子。学大丹之道，三百年十炼不成，唯得变化之术。后遇张申为云台治官，常悬一壶如五升器大，变化为天地，中有日月如世间；夜宿其内，自号壶天，人谓曰壶公，因之得道在治中。

第二涪口治

山在汉中郡江阳县，去成都二千九百二十里。陈安世于此山上学道得仙。安世，京兆人也。汉中水过其前山，一名平元山，西有长山，东有流海，帝王所住，有青龙门。治应昴宿，俗人发之，治王五百年。

第三后城山治

在汉州什邡县，昔爰子然于此山上学仙得道。左有大水，后有重山。山有神芝，服之寿千岁。一名黄陵山，南有长山，北有青龙，东有松柏为志。治应毕宿，凡人发之治。王八十年。

第四公墓治

在汉州什邡县，去治一百里，昔苏子于此山学道得仙。一名北逢仙山，南有石坎，北有悬流水。治应觜宿，病人发之，治王七十年。

第五平罔治

山在蜀州新津县，去成都一百里，昔蜀郡人李阿于此山学道得仙，白日升天。治应参宿，道士发之，治王二十年。北有三重曹溪，南有特山为志。

第六主簿山治

在邛州蒲江县界，去成都一百五十里。蜀郡人王兴于此学道得仙。一名秋长山，南有石室玉堂，松柏生其前。治应井宿，彻人发之，治王八十年。

第七玉局治

在成都南门内。以汉永寿元年正月七日，太上老君乘白鹿、张天师乘白鹤，来至此坐局脚玉寐，即名玉局治也。治应鬼宿，千丈大人发之，治王三世。

第八北邙山治

在东都洛阳县，梁水在治左，务成子于此得道。大黄出东，冗泉南流。治应柳宿，仙圣发之，治王六十年。

《玄都律》第十六云：治者，性命魂之所属也。《五岳名山图》云：阳平治（属金，属角星）。鹿堂治（金，亢星）。鹤鸣治（木，氏星）。治沅治（土，房星）。葛瓚治（火，心星）。庚除治（火，尾星）。秦中治（水，箕星）。真多治（金，斗星）。

右八治是上品，并是后汉汉安元年太上老君所立。

昌利治（土，牛星）。隶上治（火，女星）。涌泉治（木，虚星）。稠粳治（火，危星）。北平治（金，室星）。本竹治（木，壁星）。蒙秦治（火，奎星）。平盖治（土，娄星）。

右八治是中品，置如前云。

云台治（木，胃星）。涔口治（木，昴星）。后城治（土，毕星）。公慕治（金，觜星）。平罔治（水，参星）。主簿治（金，井星）。玉局治（水，鬼星）。北邙治（土，柳星）。

右八治是下品，置如前云。

冈氏治（水，星星）。白石治（金，张星）。锺茂治（水，翼星）。具山治（土，轸星）。《地图》云：此四治在京师东北。

右此四治是张天师所加。充前二十四治，合成二十八治，上应二十八宿。

平公治（属水，配涌泉治）。公慕治（属土，配稠粳治）。天台治（属土，配本竹治）。濑乡治属金，配昌利治。樽领治（属金，配云台治）。代元治（属金，配云台治）。和里治（属火，配隶上治）。漓沅治（属金，配昌利治）。

右是天师更加此八治，以配八品，周布四海，镇国化人也。

《太真科》下卷所说云：第一别治有四者：

第一具山治，第二锤茂治，第三白石治，第四冈氏治。

右四品，在外名别治，于内名备治。备治足二十八也，则与三八别也。

第二游治有八者：

第一吉阳治，第二平都治，第三河逢治，第四慈母治，第五黄金治，第六太华治，第七青城治（《五符经》作青城山），第八峨嵋治。

右八品是游治也。

第三配治有八者：

第一代元治，第二樽领治，第三濼乡治，第四天台治，第五八慕治，第六平公治，第七利里治，第八漓沅治。

右八品是配治也。

第四正治二十有四者：

第一北邙治，第二玉局治，第三主簿治，第四平罔治，第五公墓治，第六后城治，第七涘口治，第八云台治。

右是下品八治也。

第一平盖治，第二蒙秦治，第三本竹治，第四稠粳治，第五北平治，第六涌泉治，第七隶上治，第八昌利治。

右是中品八治也。

第一真多治，第二秦中治，第三庚除治，第四葛瓚治，第五漓沅治，第六鹤鸣治，第七鹿堂治，第八阳平治。

右是上品八治也。

第五星宿治二十有八，名上治，一名内治，又名大治，又名正治，是上皇元年七月七日，无上玄老太上大道君所立上、中、下品。

二十八宿要诀

第一角宿，上治无极虚无形，下治阳平山。

第二亢宿，上治无极虚无自然，下治鹿堂山。

第三氏宿，上治无极玄元无为，下治鹤鸣山（此三治主辰生）。

第四房宿，上治虚白，下治漓沅山。

第五心宿，上治洞白，下治葛瓚山（此二治主卯生）。

第六尾宿，上治三一，下治庚除山。

第七箕宿，上治三元，下治秦中山（此二治主寅生）。

第八斗宿，上治三五，下治真多山（此一治主丑生）。

右上八品无上治。

第九牛宿，上治九天，下治昌利山。

第十女宿，上治五城，下治隶上山（此合前三治主丑生）。

第十一虚宿，上治元神，下治涌泉山。

第十二危宿，上治丹田，下治稠粳山（此二治主子生）。

第十三室宿，上治常先，下治北平山。

第十四璧宿，上治金梁，下治本竹山（此二治主亥生）。

第十五奎宿，上治六府，下治蒙秦山。

第十六娄宿，上治太一君，下治平盖山。

右中八品玄老治之。

第十七胃宿，上治五龙，下治云台山（此合前三治主戌生）。

。

第十八昴宿，上治随天，下治湓口山。

第十九毕宿，上治六丁，下治后城山（此二治主酉生）。

第二十觜宿，上治十二辰，下治公募山。

第二十一参宿，上治还身，下治平冈山（此二治主申生）。

第二十二井宿，上治拘神，下治主簿山。

第二十三鬼宿，上治无形，下治玉局山（此非人所生）。

第二十四柳宿，上治聚元，下治北邙山（此三治主未生）。

右下八品太上治之。

太上汉安二年正月七月中时，二十四治上八、中八、下八以应二十四气，付天师张道陵。

第二十五星宿，上治别形，下治冈氏山。

第二十六张宿，上治保气，下治白石山（此二治主午生）。

第二十七翼宿，上治五玉，下治锤茂山。

第二十八轸宿，上治金堂，下治具山（此二治主未生）。

天师所立四治

天师以建安元年正月七日出下四治，名备治，合前二十八宿也。星宿治随天立，历运设教，劫劫有受命为天师者，各各申明，济世度人，以至太平。太平君出，更加有司随其才德，进位神仙。

天师以汉安元年七月七日立四治，付嗣师以备二十八宿。

第一冈氏治，在兰武山，应星宿。

第二白石治，在玄极山，应张宿。

第三具山治，在饭阳山，应翼宿。

第四锤茂治，在元东山，应轸宿（此四治说与前大同小异）

。系师以太元二年正月七日立八品游治。峨嵋治（在蜀郡界）。青城治（在蜀郡界）。黄金治（在蜀郡界）。太华治（在京兆郡界）。慈母治（在城市山界）。河逢治（在上党郡界）。

平都治（在巴郡界）。吉阳治（在蜀郡界）。

系师者，嗣师子也，讳鲁；于阳平山得尸解仙道。又立一治名系师治。但嗣师治并主簿是天师门下也，又立一治。今按《玄都职治律》第九云：代元治、平都治是巡游治也。是知峨嵋治等亦是游治。

卷二十九 禀生受命部一

禀受章

《混元述禀篇》曰：夫人生于天地之间，禀二气之和，冠万物之首，居最灵之位，总五行之英，参于三才，与天地并德，岂不贵乎？

《内观经》云：天地构精，阴阳布化，人受其生。一月为胞，精血凝也；二月为胎，形兆胚也；三月阳神为三魂，动以生也；四月阴灵为七魄，静镇形也；五月五行分五藏，以安神也；六月六律定六府，用滋灵也；七月七精开窍，通光明也；八月八景神具，降真灵也；九月宫室罗布，以定精也；十月气足，万象成也。元和哺饲，时不停也；太一居脑，总众神也；司命处心，纳生气也；桃康住脐，保精根也；无英居左，制三魂也；白元居右，拘七魄也；所以周身，神不空也。《易·系辞》曰“乾道成男，坤道成女”是也。

《因缘经》曰：人始受身，从虚无中来，回黄转白，构气凝精，承天顺地，合化阴阳。一月为胞，郁单天气下浹身中；

二月为胎，无量寿天气下浹身中；三月魄具，须延天气下浹身中；四月魄成，寂然天气下浹身中；五月生藏，不骄乐天气下浹身中；六月具六府，化应声天气下浹身中；七月明窍，梵辅天气下浹身中；八月景附，清明天气下浹身中；九月神降，无爱天气下浹身中；天神一万八千，身神一万八千，共三万六千。神气具足，十月而生。在胞之时，三元养育，九气布化，岁星为肝，太白为肺，镇星为脾，荧惑为心，辰星为肾，北斗七星开其七窍。七星降七童子，以卫其身。七星之气结为一星，在人头上，去顶三尺。人为善者，其星光大而明；为恶者，其星暗冥而小。善积则福至，恶积则灾生，星光坠灭，其身死矣。

《生神章经》曰：人之受生，于胞胎之中，三元育养，九气结形。九月神布，气满能声。十月神具，九天称庆。太一执符，帝君品命，主录勒籍，司命定算，五帝监生，圣母卫房，天地神祇，三界备守，九天司马在庭，东向读《生神宝章》九过，男则万神唱恭，女则万神唱奉；男则司命敬诺，女则司命敬顺，于是而生。九天司马不下命章，万神不唱恭诺，终不生也。人得还生人道，濯形太阳，惊天骇地，贵亦难称。天真地祇，三界齐临，亦不轻也。当生之时，亦不为陋也。若能爱其形，保其神，贵其气，固其根，终不死坏，而得神仙，骨肉同飞，上登三清，与三气合德，九气齐并。反于此者，自取死坏耳，可不哀乎？

《真文经》曰：人之生也，头圆象天，足方法地，发为星辰，目为日月，眉为北斗，耳为社稷，口为江河，齿为玉石，四肢为四时，五脏法五行。与天地合其体，与道德齐其生，大矣！贵矣！善保之焉。昔天真皇人于峨嵋山中告黄帝曰：一人之身，一国象也。胸腹之位，犹宫室也；四肢之列，犹郊境也；骨节之分，犹百官也；神犹君也；血犹民也。能知治身，

则知治国矣。夫爱其民，所以安其国；曠其气，所以全其身，民散则国亡，气竭则身死。亡不可复存，死不可复生。至人消未生之患，治未病之疾，坚守之于无事之前，不追之于既逝之后。民难养而易散，气难保而易失。审威德者，保其理；割嗜欲者，保其炁。得不勤哉！得不成哉！

太上九丹上化胎精中记

九丹上化之文，太微帝君受于三天玉童，乃上化九转，回精凝神，解散紫胞结节之根，还精补胎，灵镇穷肠，内充外逸，九窍鲜明，炼髓易骨，节节纳真，其法高妙，秘于九天金房玉室灵都之宫，依《四极明科》，万劫一传，自无玄名，紫简绿字，上清不得参闻，有犯灵禁，伐以神兵。密修其道，白日飞仙。九天丈人告三天玉童曰：天地交运，二象含真。阴阳降炁，上应九玄。流丹九转，结炁为精。精化成神，神变成人。故人象天地，气法自然。自然之气，皆九天之精，化为人身，舍胎养育，九月气盈，九天气普，十月乃生。其结胎受炁，有吉有凶，有寿有天，有短有长，皆禀宿根。结气不纯，藏胃积滞，六府败伤，形神不固，体不受灵，死气入窍，何由得存？徒知修学，不识此源，今以相告：一形之真，随生解结，哺养百神，体自生光，内府鲜明，神安宫宅，万炁并仙，子其秘之，慎勿轻宣！

凡人受生结九丹，上化于胞胎之中，法九天之气，气满神具，便于胞囊之内，自识其宿命，知有本根，转轮因缘，九天之气化成其身。既睹阳道，开广三光，而自忘其所生所由之因

尔者，皆由胞根结滞，盘固三关，五府不理，死气塞门，致灵关不发，而忘其因缘也。若灵真托化，含炼琼胎，暂经紫户，运履人道，挺秀自然，曜景睹灵，便腾身九天，非复结精受气而为人也。

凡人生禀九天之气，气凝为精，精化成丹，丹变成人，结胎含秀，法则自然。假令七月生，则十月胎受波罗答天之气；十一月生，则受梵迦摩夷天之气；十二月生，则受梵辅天之气；正月生，则受化应声天之气；二月生，则受不骄乐天之气；三月生，则受寂然天之气；四月生，则受须延天之气；五月生，则受上上禅善无量寿天之气；六月生，则受郁单无量天之气。

凡人从十月结胎，至于六月，则受九天之气已满，至七月合十月，则天地气盈，受太阳之运而生也。

凡修学之家，仰希神仙，当知炼身于九丹，解结于五神，引气于本生，灭根于三关，九炼十变，百节开明，断绝胞结，乃知本真。既知本真，便成上仙。学无此法，三宫不聪，死气不灭，胃不受灵，气离神游，赤子不欢，宫宅空废，邪魔入身，所以百疴从此而生，死不尽命，痛乎何言？凡阳气赤，名曰玄丹；阴气黄，名曰黄精。阴阳交接，二气降精，化神结胎，上应九天。九天之气，下布丹田，与精合凝，结会命门。要须九过，是为九丹，上化下凝，以成于人。一月受气，二月受灵，三月含变，四月凝精，五月体首具，六月化成形，七月神位布，八月九孔明，九月天气普，乃有音声，十月司命勒籍，受命而生。故人禀九天之气，降阴阳之精，名曰九丹，合成人身。既得为人，便应返其本真，通理五藏，解散胞根，断灭死气，自然成仙也。

解胎十二结法

凡人生在胞胎之中，皆禀九天之气，凝精以自成人也。既生而胞中有十二结节，盘固五内。五内滞拥，结不可解，节不可灭。故人之病，由于节滞也。人之命绝，由于结固也。兆能解结于胞中十二结节，则求死亦不得也。

胞上部有四结：一结在泥丸中，二结在口中，三结在颊中，四结在目中。欲解上部四结，当以本命日平旦入室，烧香，向西北九拜，朝九天元父叩齿九通，三呼元父讳。讫，回向东南三拜，三呼九天玄母讳。还向本命，平坐，闭眼思元父，身长九寸九分，著玄黄素灵之绶，头戴七称珠玉之帻、无极进贤之冠，居九天之上太极琼宫玉宝之府丹灵乡洞元里中，乘碧霞飞舆，从十二飞龙、二十四仙人，从西北来，下入我身中泥丸之境。

次思玄母，身长六寸六分，著青宝神光锦绣霜罗九色之绶，头戴紫元玄黄宝冠，居九炁无极之上琼林七映丹房玉宝洞元之府九光乡上清里中，乘紫云飞精羽盖，从十二凤凰、三十六玉女，从东南来，下入甲身中，治面洞房之内。思父母化为青黄二气，宛转相沓，竟于头面之上。毕，叩齿九通，微咒曰：

甲受九灵之化，结气不纯，节滞盘固，镇塞灵门，谨以本命上告高晨元父玄母，下映我身，八景齐晖，九天同真，共解上部，四结胞根，回灵镇户，九孔结仙，内胎炼化，九丹凝神，变青为赤，二气缠绵，寿同三光，永享亿年。毕，咽气八十一过止。

又思郁单无量天王，姓混讳緡緡湲，衣九色无缝自然斑文

之裘，头戴耀精日圆，治天无央玄台紫户之内，乘九麟琼轮，侍玉仙二十四人。

次思上上禅善无量寿天王，姓楔讳裡網旃，衣九色云文之裘，头戴晖精月，光治天王国朱林七宝琼台，乘十二玄龟飞青羽盖，从上官太仙玉童三十二人。

次思须延天，王姓滓讳 芄瑀，衣九色三法云文之裘，头戴天元玉宝明冠，治天玉京灵都宫，乘九色飞鸿三素飞云，从素灵玉女一十四人。

次思三天真王，共下我身头面之上，化为青紫黄三气，混沌如云之沓，从口耳鼻孔之中而入，直两币一面，便仰祝曰：

三天天王，九玄灵仙，为我上解头面之关结，化九丹，自然降精金门之上，交合三真之云，降流我身，以成我神，荡去死气，灭绝胞根，灵景镇固，弃诸凶患，结结得解，节节纳真，玄光流布，洞灌幽泉，言名九天，反胎化仙，内弃外盈，表里成神。毕，仰咽气九过止。

又思上部八景神童，闭眼存脑神名觉元子、字道都，形长一寸一分，著白锦之衣，头戴三梁宝冠；发神名玄文华、字道衡，形长二寸一分，衣玄云锦衣，头戴无极进贤之冠；皮肤神名通众仲、字道连，形长一寸五分，衣黄锦飞裙，头戴三气宝天冠；目神名虚监生、字道童，形长三寸六分，衣五色章衣，头戴通天之冠；顶髓神名灵谟盖、字道周，形长五寸，衣白锦素裙，头戴三梁宝冠；旅神名益历辅、字道柱、形长三寸五分，衣白玉柔衣，头戴玄元宝冠；鼻神名冲龙玉、字道微，形长二寸五分，衣青黄素锦飞裙，头戴远游之冠；舌神名始梁峙、字道岐，形长七寸，著绛锦飞裙，头戴进贤之冠。八景都竟，并如婴儿之形，一合在面部之上，各安其所。乃叩齿八通，微祝曰：

上景一部，八神合真，结气九丹，化成我身。千乘万骑，如云散烟，降匝头面，施灵布神。上解结节，中灭胞根，下除固滞，通理三关。八景翼体，与灵同年。帝君玄母，曲回高晨，降我玉华，停我落鲜。返容朱颜，面化金仙，变景逐电，迳造日门。仰咽八气都止，便服上化九丹阳灵之符。

胞中部有四结：一结在五脏中，二结在太仓中，三结在大肠中，四结在小肠中。兆欲解中部四结，以本命之日正午时入室，烧香，向西北九拜，朝元父三呼元父讳，转东南三拜，朝玄母三呼玄母讳，还向行年上，平坐，叩齿九通，闭目思元父，身長九寸九分，著玄黄素灵之绶，头戴七称珠玉之帻、无极进贤之冠，居九天之上太极琼宫玉宝之府丹灵乡洞元里中，乘碧霞飞舆，从十二飞龙二十四仙人，从西北来，下入某身中五藏之内。

次又思玄母，身長六寸六分，著青宝神光锦绣霜罗九色之绶，头戴紫元玄黄宝冠，居九气无极之上琼林七映丹房玉宝洞元之府九光乡上清里中，乘紫云飞精羽盖，从十二凤凰、三十六玉女，从东南下来，入我五脏之中。思父母化为青黄二气，混沌如日之圆，映照五脏，光耀内外。便仰祝曰：

父灵母精，二气齐并。九丹凝化，结胎紫琼。稟景太微，命统九灵。帝君敷神，流真灌生。五藏结络，六府洞清。胃管开聪，九窍朗明。宿节散灭，新胎更荣。变景炼髓，冠带九星。三晖翼部，飞入帝庭。毕，咽四十五气止。

又思寂然天王，姓津讳瀆，衣七色龙文通光之裘，头戴阴精夜光，治天朱宫琼台之上，乘八景飞轮，从玉仙十二人。

次思不骄乐天王，姓凝讳穀，衣九色飞霜云文斑裘，头戴青华岁星玄精，治天元宫映丹之房九层玉台，乘白鹿丹霞之舆，从上宫玉仙三十六人。

次思化应声天王，姓耀讳惇抵，衣九色流光耀云锦裘，头戴白光太白精，治天琼林上宫朱映之房，乘飞凤游霄紫轮，从太真玉仙三十六人。思三天真王共下，入我身五藏之内，化为赤白皂三色之炁，混沌如云之烟，从心孔而入，直匝五内。便微祝曰：

九丹凝灵，三气结缠。玄真充降，内外明鲜。太仓开通，肠胃结仙。断灭节茎，散除宿根。三合成契，九化凝神。回精玉胞，以成我身。九色玄黄，流精灌津。荡洗积滞，内无滓尘。华条合秀，种植灵根。孔孔洞朗，节节冷然。骨化景飞，上升紫天。毕，仰咽九气止。

又思中部八景神童：闭目存咽喉神名百流放、字道通，形长八寸八分，著九色章衣，戴平天紫晨之冠；肺神名素灵生、字道平，形长八寸一分，著白锦飞云之衣，头戴九元宝冠；心神名焕阳昌、字道名，形长九寸，著绛章单衣，头戴玉晨宝天冠；肝神名开君童、字道青，形长七寸，衣飞青羽裙，头戴三梁之冠；胆神名龙德拘、字道放，形长三寸六分，衣青黄绿三色之裙，头戴无极进贤之冠；左肾神名春元真，字道卿，形长三寸七分，著五色变光之裙，头戴远游之冠；右肾神名象地无，字道生，形长三寸五分，衣白锦单衣，头戴三气宝光之冠；脾神名宝元全，字道骞，形长七寸三分，著黄锦飞裙，头戴紫晨之冠。八景都竟，并如婴儿之形，一合在五脏之内，各安其所。仍叩齿八通，仰祝曰：

中部八景，上变九回。化精玉胞，结气紫微。炼魂固魄，万神总归。帝君解结，九孔散开。玄母降灵，节节纳晖。内充外盈，华光无衰。得与八景，合辇同飞。本命告使，如兆所回。运我上升，披观灵扉。毕，仰咽八气止。便服胎精练神之符。

胞下部有四结：一结在膀胱中，二结在阴中，三结在后门

中，四结在两足中。兆欲解下部四结，以本命日夜半子时生气始入室，烧香，向西北九拜，朝元父三呼元父讳，转向东南三拜，朝玄母三呼玄母讳。还向太岁上，平坐，叩齿九通，闭目思元父，身長九寸九分，著玄黄素灵之绶，头戴七称珠玉之帻、无极进贤之冠，居九天之上太极琼宫玉宝之府丹灵乡洞元里中，乘碧霞飞舆，从十二飞龙、二十四仙人，从西北来，下入某身中五藏膀胱之内。

次思玄母，身長六寸六分，著青宝神光锦绣霜罗九色之绶，头戴紫元玄黄宝冠，居九炁无极之上琼林七映丹房玉宝洞元之府九光乡上清里中，乘紫云飞精羽盖，从十二凤凰、三十六玉女，从东南来，入我膀胱之内，下至两脚。即思父母化为青黄二炁，混沌如日圆，映照一身，光耀内外。便仰祝曰：

阴阳交泰，二炁洞明。上化玄丹，下转黄精。含胎变化，体无常形。帝君监映，九孔纳灵。十二部结，散灭黄庭。八景经络，胃结紫琼。三魂被炼，七魄安宁。万神保镇，内外齐平。三部八景，与我俱生。运我飞升，上造玉清。毕，咽二十四炁止。

又思梵辅天王，姓精讳雾云霖，衣九色流云飞晨之裘，头戴流丹绛宝荧星玄精，治天南上七映之宫，乘流霞丹霄琼舆羽盖，从上宫玉仙十二人。

次思梵摩迦夷天王，姓玄讳（凝）（泓），衣九色元凤飞云之裘，头戴玄晨辰星流精，治天九玄凤城紫琼玉台，乘白麟素云飞轮，从太华仙童三十二人。

次思波梨答天王，姓王讳灵檐，衣九色无缝玄云宝裘，头戴无极流黄镇星飞精，治天陵曾玉京大有妙宫九曲之房，乘五色云舆，从太玄玉童十二人。思三天真王，共下降我身，治膀胱之中，下至两足，化为紫绿碧三色之炁，混沌如云雾，从

阴中而入，流布膀胱、后门、两足之中，内外映照。便祝曰：

三天育胎，九气结神。上化玄丹，下转变仙。二象交降，以成我身。六胃琼秀，九府纳真。十二结节，各各绝根，荡除秽炁，五灵敷陈。玄母吐精，炼化光鲜。金仙翼灵，玉华结篇。记名青宫，长保帝晨。毕，仰咽九炁止。

又思下部八景神童：闭目存呼胃神，名同朱育、字道展，形长七寸，衣黄锦飞裙，头载平天紫晨之冠；穷肠中神名兆滕康、字道还，形长二寸四分，衣绛章单衣，头戴三梁之冠；大小肠中神名蓬送留、字道厨，形长二寸一分，衣黄绛飞裙，头戴玉晨宝天冠；胴中神名受亨勃、字道灵，形长九寸一分，衣九色章衣，头戴飞晨玉冠；胸膈中神名广瑛宅、字道仲，形长五寸，衣白锦飞裙，头戴无极进贤之冠；两肋神名辟假马、字道成，形长四寸一分，衣赤白二色之裙，头戴九元宝冠；左阴右阳中神名扶流起、字道圭，形长二寸三分，衣青黄白三色之裙，头戴远游之冠；右阴左阳中神名苞表明、字道生，形长二寸三分，衣青黄白三色之裙，头戴三染之冠。存八景都毕，并如婴儿之状，各安所在，千乘万骑，匝布在我阴中、膀胱、后门、两足之中。仍叩齿八通，仰祝曰：

下部八景，散神飞仙。含元育炁，炼胎紫烟。太一元父，玄母交缠。二精流灌，含养内真。帝君定籍，司命改年。节结已散，九孔已鲜。魂魄保固，总摄万神。与我同升，俱造玉晨。毕，仰咽液八过止。

又思道一内神，名逮无马、字道极生，形长二寸五分，衣紫文明光锦裙，头戴无极进贤之冠，在兆脐下丹田之中，总统三部二十四真，叩齿三十六通，微祝曰：

玄上大神，总领无外。安镇幽谷，流精紫盖。众真侍灵，三部交卫。帝君映席，玄母欢泰。九元同符，司命延迈。三晨

齐晖，与真结带。毕，仰咽二十四炁都止，便服三关十二结胞胎内符。符在本经。

上部四结，固人泥丸，落人华容，夭人生魂。中部四结，合凶为群，盘固太仓，迅人游魂，来妖通奸，景梦不专。下部四结，结人后门，遏人九孔，断人命根。帝君告灵，九天玉文，消解结节，灭诸根源。

卷三十 禀生受命部二

帝一混合三五立成法

夫人者受生于天魂，经成于元灵，转轮九炁，挺生太一，开丝二道，积神幽宫。所以玄液七缠，流津敷泽，日月映其六虚，口目运其神气，云行雨施，德拟天地，胞胎内匠，五因来具，立人之道，其如此也。五因者，是五神也；三道者，是三真也。夫五神，天之魂；三真，道之炁。九天之胎，太一之源。日月天之道，玄液天之润，六虚天之光，幽宫天之府，神气天之化，元灵帝之变。凡此言九天者，乃混合帝君之变。变而化之，是谓九宫。九宫混变而同一矣。若兆欲修己来生，当从所生之宗。所生之宗，谓元父、玄母也。元父主炁，化理帝先；玄母主精，变结胞胎。精气相成，如阴阳相生，云行雨施，兆已道合，无名数起，三五兆始，禀形七九，既匝兆体，乃成和合。三五七九，洞真帝象之先，当须营天皇之功，九变为灵，功成人体。体与神并，神去则死，神守则生。是以三元为道之始，帝君为道之根，太一为道之变，九天为道之神，九宫为道

之宅，玄液为道之津。可以照镜三田，以致神仙，朝适六合，夕守泥丸，坚执胎精，心中常欢。学道之子，须此为缘，见是经者，始可与言。存念太一，混合帝先，雄雌守神，灌流浩清，常使九天元炁则合九成也。夫洞其要也，则一体常存，津血自生，雄镇命户，雌守神室，太一无离，与天同时。故《太上隐符》曰：存其雄，守其雌，乃天地不能殄也。既存之焉，则五神守宅，五脏生华，灵栖绛宫，帝镇泥丸，百神坚固，胎塞命门。久则三一之神夕见，太一帝先晨降，并见形于子之寝处也。子当清洁斋戒，断绝外事，杜塞邪径，节诸人物，罕为循诣，精心在一，晨夕循道，孜孜不替，沐浴五香，别静一室，烧香左右，以期真炁。太一之道尤忌血腥臭臊殄秽之气。若泣泪坠落，则帝君悲扰；哭声发口，则太一凝结。故九气止而不变，三一悲而不摄。九炁不变，则三一亦结。结滞日积，生气泄出，而故炁运入。故炁运入，将病将死之始也。是以真人谓哭音为死绝之声，谓泣涕为漏精之津，可不慎避之哉！若一见死尸及积日哀哭者，则帝君获罪，谪于太上太一，受考谴于玄虚也，将来三年子将亡矣。诸不受太一之道者，自不得同之于学生也。所以至忌尸哭腌秽忧泪之感，以为太一帝君之精思也。又不得见死尸，自受书之后，若见四十九尸者，皆不得长生，必中道绝命也。若见二十四尸者，则当暂过太阴，然后超仙。以为死尸之形既眇于两眼，尸秽之气亦滞缠于人思，所存记于绛宫。绛宫所识，虽忌犹存。宜暂归身显尸塞思，记之眼故也。子厚慎之哉！见血、尸丧、殄秽、哀哭、泣涕，皆太一之至忌也。若恒斋戒则存，易感精诚，立会太一，镇命欢欣，混合行之一十八年，白日升晨，此真人回老反婴之道也。

存三一，守太一精洞房会帝君，则化生九灵于子形中，辅子之神明，成子之真仙，保子之长生，固子之胎魂也。白元、

无英、桃君、司命、太一，混合五神，捧籍列符。五神各有所主，混合九变，三五洞化。于是三宫镇真，百节受灵，帝群宝籍，宿命无倾，周旋虚烟，启通玄精，二十四真忽然化生。上开上元，下开八冥，左朝六甲，右使六丁，玉华引日，太一并形，千乘万骑，举身登晨，白日升天。真人修是太一之道者，皆得三天之举，故曰举身登晨，白日升天。以鸡鸣时，晨登空无皆之中，到于三天之上。日之正中为白日，鸡之始鸣为登晨。是以存太一混合，多用鸡鸣及生气时也。九天九宫，中有九神，是谓天皇。九魂变成九气，化为九神，各治一宫，故曰九宫。太清中有太素、太和，洞房中有明堂、绛宫，是曰六府。上曰天府，下曰洞台。三五之号，其位不同。一曰太清之中，则三五帝君；二曰三一丹田神。又五者符籍之神，太一公子、白元、司命、桃康君是也，合而名为三五。三五各有宫室。若三真安在其宫，五神上见帝君。帝君左有元老丈人，右有玄一老君。此则无极之中所谓九君。上一则真一也。九君所谓天之魂，自然成真之子也。知精存九君，深思三真，必能以兆一体周旋三五之中，反覆七九之里，使天帝之灵魂常治在兆已，五神奉籍，周而复始，必将白日登度，何但不死而已。

《高上神霄经》曰：魂生无中，布在九宫。道出八极，常游绛宫。三宫合化，是为紫房。紫房所在，先由明堂。兆能知之，当开金门。金门，洞房内也。又曰：混而合之，出入帝方。三五合一，必成仙王。此谓洞合之时，三真五神之道也。帝方，太清域也。故《大洞真经》中篇曰：二老在左右方，帝魂不可不分，三九变其上下，太一立其中根，五神奉我生籍，司命塞我死门，九宫合而为一，六合壘总而内真也。此言谓分别其宫室，混合其变化。此道是太上宝行长生根本，立人之帝先，为道之元始，生府之仙宗，帝籍之秘章，洞真之奇妙，九宫之要

经也。

九真中经天上飞文

太上曰：夫人生结精积气，受胎敛血，所以凝骨吐津，散布流液，忽尔而立，悦尔而成，罔尔而具，脱尔而生。于是乃九神来入，五脏玄生。父母唯知生育之始，而不觉神适其间也。人体有尊神，其居无常，展转荣输，流注元津。此神外来内结，以立一身，非如三魂七魄，是积灵受气，生于父母者也。尊神有九宫，名号曰九真君，分化上下，转形万道。子能修之，则出水入火，五藏自生，长斋隐栖，以存其真。此文一名《九真中经》，一名《天上飞文》，一名《外国放品》，一名《神州灵章》，虽有四号，故书一耳。

第一真法

平旦，大神在心内，号曰天精君。平旦，接手于两膝上，闭气瞑目，内视存天精君，坐在心中，使大神口出紫气，以绕心外九重。毕，因叩齿九下，咽液九过。祝曰：天精大君，来见心中。身披朱衣，头巾丹冠。左佩神书，右带虎文。口吐紫华，养心凝魂。赤藏自生，得为飞仙。

第二真法

辰时，大神分形尽百骨中，号曰坚玉君。辰时，接手两膝上，闭气瞑目，内视存坚玉君，入坐一身诸百骨中，使口出白炁，吐以绕骨九重。毕，因叩齿九下，咽液九过。祝曰：坚玉

大君，来入骨中，身披素衣，头巾白冠。左佩龙书，右带金真。口吐白炁，固骨凝苏，白骨不朽，筋亦不泯。百节生华，使我飞仙。

第三真法

巳时，大神分形尽流入诸精血中，号曰元生君。巳时，接手两膝上，闭气瞑目，内视存元生君，周游一身血脉精液之中，使口吐黄气，以缠孔脉外九重。毕，叩齿九下，咽液九过，祝曰：元生大君，周灌血躯，身披黄衣，头巾紫元。左佩虎箠，右带龙书，口吐黄津，固血填虚。精盈液溢，九灵俱居，使我飞仙，天地同符。

第四真法

午时，大神在肝中，号曰青明君。午时，接手于两膝上，闭气瞑目，内视存青明大君，入坐肝内，使口吐青炁，以绕肝九重。毕，叩齿九下，咽液九过，祝曰：青明大君，来入我肝。身披青衣，头巾翠冠。左佩虎章，右带龙文。口吐青气，养肝导神。青藏自生，上为天仙。太一护精，抱魄检魂。

第五真法

未时，大神在脾中，号曰养光君。未时，接手于两膝上，闭炁瞑目，内视存养光君，入坐脾中，使口吐绿炁，以绕脾九重。毕，叩齿九下，咽液九过。祝曰：养光大神，来入脾中，身披绿衣，头巾莲冠。左佩玉铃，右带威神。口吐绿华，养脾灌魂。黄藏自生，上为真人。

第六真法

申时，大神在肺中，号曰白元君。申时，接手于两膝上，闭炁瞑目，内视存白元君，入坐肺中，使口吐五色炁，以绕肺九重。毕，叩齿九下，咽液九过。祝曰：白元大君，来坐肺中。身披龙衣，黄晨华冠。左把皇籍，右执灵篇，左佩玄书，右带

虎文，口吐五气，理肺和津，白藏自生，飞仙紫门。

第七真法

酉时，大神分坐，散形在两肾中，号曰玄阳君。酉时，接手于两膝上，闭炁瞑目，内视存玄阳君，入形并坐两肾中，使口吐苍气，以绕肾九重。毕，叩齿九下，咽液九过，祝曰：玄阳大君，入坐肾中。身披紫衣，头巾扶晨。左佩龙符，右带凤文。口吐苍华，灌肾灵根。黑藏自生，身为飞仙。北登玄阙，游行天关。

第八真法

戌、亥时，大神在胆中，号曰合景君。戌、亥时，接手于两膝上，闭炁瞑目，内视含景君，入坐于胆中，使口吐五色炁，绕胆九重。毕，叩齿九下，咽液九过。祝曰：含景大神，来坐胆中。身披锦衣，头戴紫冠。左佩神光，右带玉真。口吐五气，养胆强魂。和精宝血，理液固身。使我上升，得为飞仙。

第九真法

子时，大神在头洞房之中，号曰无英公。子时，平坐，接手于两膝上，闭气瞑目，内视存无英君，坐在明堂之内洞房之中，使口吐紫气，绕头九重。毕，又使吐紫气绕两目内外九重。毕，又吐紫气，绕舌九重。毕，又使吐紫气绕齿九重。毕，凡四九三十六绕气，使都毕，叩齿三十六下，咽液三十六过。祝曰：无英大君，三元上神。镇守洞房，宫在泥丸。黄阙金室，化为九真。龙衣凤帔，紫翠青裙。手把真精，头巾华冠。左佩玉映，右带虎文。下坐日月，口吐紫烟。周气齿舌，朝溉明辰。出丹入虚，呼魄召魂。凝精坚胎，六合长欢。上登太微，得补真官。

右九真之道毕矣，则泥丸镇塞，目童长存，五脏自生，血脉保津。若暂入太阴身经三官者，则九真召魂，太一守骸，三

元护炁，太上摄魂，骨肉不朽，五脏不殒，能死能生，能阴能阳，出虚入无，天地俱生，是道士精静营形，感致九真之气应也。三元飞精以盈虚，太一抱我尸而反质。微乎！微乎！深哉！深哉！闭气使极，吐气使微妙，出虚入无，令其绵绵不自觉也。

大洞回风混合帝一之法

此法当六十日一行之耳，皆须本命日用未中已前、夜半已后二时，随意闭房自静，精心内观，凝神夷气，默然忘身，存思念读神名一周，令守死关，烧香左右，令气弥满房室，然后施行。若身有病痛处，皆当指呼其处神，使治之也。

回风混合，为帝一之道，以本命之日，若不知本命，当用甲子日也。坐卧任意，在所便安，心密读神名曰：太微小童千景精，字会元子，一名三衿交，一名封帝真。恒守我舌本之下血液之府。小童口出赤气，绕我一身。舌本是死气之门，童子严固守之，使生血液，上凝泥丸。泥丸坚明，百神方正。

太一尊神号务犹收，字归会昌，一名解明，一名寄频。恒守我玉枕之下，泥丸后户是死气之门，太一严固守之，使泥丸入于真气，七世父母受仰，玄之更生，上籍玉皇，重华万宁。

帝君延凌梵，字履昌灵，一名七神，一名神丈人。恒守我两眉中间紫户之外宫。紫户之外宫是死气之门，帝君严固守之，使华盖入眉间，升紫房，七世父母罪解而福冲，上登帝宫。

左无英公子玄元叔，字合符子，一名元素君，一名神公子。恒守我左腋之下肝之后户。肝之后户是死气之门，神公子严固

守之，使左腋有玉光，引神明入眼睛。

右白元洞阳君郁灵标，字玄夷绝，一名朱精，一名启成。恒守我右腋之下肺之后户。肺之后户是死气之门，白元君严固守之，使右腑有金光，引神明入六气之宫。七世反胎生一身，登玉房。

中央司命丈人君理明初，字玄度卿，一名神宗，一名神灵华，恒守我绛宫心房之中四孔之户。四孔之户是死气之门，司命丈人君严固守之，使心中得其真理，绛宫生五色华，司命丈人口吐紫云气，洞溢我五脏内。

命门挑君孩道康，字合精延，一名命王，一名命胞根。恒守我脐中之关命门外宫。命门外宫是死气之门，桃君孩道康严固守之，使脐中徘徊，黄云盈溢，三命生根，胞结解泄，令我七祖父母无阂，累殃宿罪无滞，世世度脱，上生天帝宫。

泥丸天帝君上一赤子玄凝天，字三元先，一名伯无上，一名伯史华。恒守我泥丸中九孔之户。九孔之户是死炁之门，上一天帝君严固守之，使泥丸玉坚，金曜映真，体生宝光，九孔受灵，令我七祖父母世世安宁，解脱宿罪，共登上清。

绛宫心丹田宫中一元丹皇君神运珠，字子南丹，一名生上伯，一名央云拘。恒守我项中之大椎骨首之户。骨首之户是死炁之门，中一丹皇君神运珠严固守之，使百骨受真气，大椎有日光，七祖父母获自然之生道，登仙南极宫。

命门下一黄庭元王始明精，字元阳昌。一名婴儿胎，一名伯史原。恒守我两莞间车轴下户。车轴下户是死炁之门，黄庭元王严固守之，使百血结凝，神气不散，拔出地户，超度八难。

泥丸九真，名帝昌上皇，字先灵元宗。恒守我口之四际。口之四际是死炁之门，帝昌上皇严固守之，使精气入，故气出，神光随身，放光万丈。七世父母罪脱祸除，生帝君玉房中。

胆中八真，名含景君，字北台玄精。恒守我背之中骨之下节。中骨之下节是死炁之门，含景君严固守之，使背骨受生气，下节孔常闭，邪气不干，真光映形。

两肾七真，名玄阳君，字冥光先生。恒守我背穷骨地户。穷骨地户是死炁之门，玄阳君严固守之，使地户伏生气，穷骨受神液，六津调满，生根深密。

肺中六真，名上元素玉君，字梁南中童子。恒守我颈外十二关之梁。十二关之梁是死炁之门，上元素玉君严固守之，使上帝玉华映神间之下，玉晨之气入丹元之宫，七世父母解散结滞，受生太上之乡。

脾中五真，名养光君，字太昌子。恒守我喉内极根之户。喉内极根之户是死炁之门，养光君严固守之，使玉光金真照洞喉根，太帝神气来往三宫之中。

肝中四真，名青明君，字明轮童子。恒守我胃管之户膏膜之下。膏膜之下是死炁之门，青明君严固守之，使三素之气生华，五停之神侍卫出入，玉液之津灌泽胃管。

精血三真，名元生君，字黄宁子玄。恒守我鼻两孔之下源。两孔之下源是死炁之门，元生君严固守之，使精神宣畅于百节，血液盈满于千关，万灵之气辅护，太一之魂保身。

骨节二真，名坚玉君，字凝羽珠。恒守我太仓之府五肠之口。五肠之口是死炁之门，坚玉君严固守之，使黄庭香洁，三尸灭绝，中元之炁常满，帝皇之光郁郁，上冲泥丸，敷散筋骨。

心中一真，名天精液君，字飞生上英。恒守我胸中四极之口，四极之口是死炁之门，天精液君严固守之，使五脏生华，四关受真，紫液流于胸中，绛炁结于百神，上升玉天，羽衣虎裙。

九元之真男，名拘制，字三阳。恒守我左耳之下伏晨之户。

伏晨之户是死炁之门，拘制三阳严固守之，使天聪发彻，幽谷鲜明，真炁云行，往来泥丸。

皇一之魂女，名上归，字帝子，恒守我右耳之下伏晨之户。伏晨之户是死炁之门，上归帝子严固守之，使幽明之光上朗泥丸，太无之音独乐一身，玄金云钩，流彻太和。

紫素左元君，名翳郁无刃，字安来上。恒守我头面之境，使万邪不侵，千精灭亡，又使紫云冲于泥丸，太素填于鼻孔，景云被于口齿，玉林聚于发肤，散七世之积尸，解七祖之罪仇，上生天帝堂，反真更受胎。

黄素中元君，名圆华黄刃，字太张上。恒守我胸腹之境，使鬼魔伏制，三尸灭形，又使黄云散于支体，金液充于太仓，晨景之晖上华，太真之炁运光，七世父母罪解，受胎更生南宫。

白素右元君，名启明萧刃，字金门上。恒守我下关之境，从小腹至脚底，使三积宿秽无滞，地尸土鬼沉灭，又使明玉之液上陶于阴极，神素金炁逆充于两莞，脾受九灵之润，脚生玄重之云，累祖解于冥罪，七世散于祸根，更生入南宫，上晏入帝轩。

日中司命君，名接生，守我左手月中。桃君名方盈，守我右手。左目童子名飞云，右目童子名晨婴，肺部童子名素明，皆各守我两目之童子，备华盖之上精，五神固于五关，晖光充于太阳，魔气不入，百会受灵。

胎中一元白炁君，名务玄子，字育尚生。太一精魂，名玄归子，字盛昌。凡二神，共守我五脏之上结喉之本户。结喉之本户是死炁之门，二神固密守之，使三华之气入帝一之府，九明之津生六胎之下，七玄散祸，七祖解结，身登真堂，并列太一。

结中青炁君，名案延昌，字合和婴。元君精魂，名保谷童，

字明天。凡二神，共守我五脏之下大胃之上口。大胃之上口是死炁之门，二神固密守之，使金液流匝，玉华映魂，神飴溢于穷肠，帝炁充于九关，七祖披释于玄忧，受更胎于玄仙，上业结解，下脱胞根。

节中黑炁君，名斌来生，字精上门。帝真精魂，名幽台生，字灌上生。凡二神，共守我九肠之口伏源之下。伏源之下是死炁之门，二神固密守之，使太上之炁布散腹内，太一之神回行百骨，体有玉光，面保金泽，七祖父母得解冥罪，累业之先，世世解结，上生帝房，入保飴室。

胞中黄炁君，名祖明车，字神无极。天帝精魂，名理维藏，字法珠。凡二神，共守我小腹之内二孔之本。二孔之本是死炁之门，二神固密守之，使日月之根生于二户之下，五帝之炁充于极阴之室，精华盈满，五液填溢，七祖父母反胎，宿封之殃解结，上生南宫，神仙受炁。

血中赤炁君，名混离子，字叔火坚。司命精魂，名发细子，字庆玄。凡二神，共守我百关之血绝节之下。绝节之下是死炁之门，二神固密守之，使五常之液盈于六腑，灵润玉泽充于血肉，绝节不空，地门填塞，七祖结散，更生南极，我得玉仙，合道保德。

上玄元父君，名高同生，字左回明。下玄玄母，名叔火王，字右回光。帝皇太一，名重冥空，字幽寥无。九帝尊神，名日明真，字众帝生。太常精魂，名杨堂王，字八灵。天帝九关魂，名录回道，字绝冥。天纪帝魂，名照无阿，字广神。凡七神，守我本命之根。本命之根，胞胎大结。常令胞囊玉清开明，七祖反胎，我命恒生，三天同符，上与日并。

右我之死门三十九处，太上尊神皆已守备之，使口衔日光，手执月明，照我死门，使我长生，我体常生，读《大洞真经》，

金音仰充，上入太无庭，解结散祸，拔脱七祖灵，反胎会南宫，世世有玉名，三涂灭根，轮转上清。三素老君，名牢张上，字神生道。正一左仙仲成子，一名帝宾，字四华。正一右仙曲文子，一名光坚，字灵和。守我鼻下人中。

中央玄一老子，林灵天，字灵时道，守我阴茎之端。北方黑帝，保成曷，字北代，守我膀胱中。西方白帝，彰安幸，字西华，守我阴囊中。南方赤帝，长来觉，字南和，守我口舌中。东方青帝，雕梁际，字清平，守我五脏外。凡五帝、二老、左右仙，备卫本命，守我身，祖宗解考，福祚七玄，世世解结，散除胞根，胎精血光，金液玉泉，上生南宫，以为帝宾，我入八景，回驾琼轮，仰升九天，白日飞仙。

帝卿名肇勒精，字中玄生，一名起非，一名常扶。绛宫中一名卿中光坚，字四化灵，一名幽车伯，一名董史华。黄庭下弼卿名缘上明，字谷下玄，一名奉申伯，一名奉光生。凡三帝卿神，卫我入帝一室，保我本命，于九天录存。祝名都毕，更闭两目，存此百神，变成白炁，如白烟之状，从玄虎中来，入我口中，郁郁良久，觉见白炁下从下部孔中出，又从玉茎孔中出，又觉白炁从两脚底、两手心中并出，并冠绕一躯，上下手足混合，一身与白同烟，上下不相见。良久，白炁忽复变色成紫云，郁郁，又从我口中入头中，及至五脏之间，充满腹内。良久，紫云又从两足底、两掌心大孔，玉茎孔中出，冠绕一躯，郁气上下与紫云相合，不相见也。须臾，存紫云之炁，充满左右及一室之内；又存见口中出风气之扇、紫云之烟。紫云之烟，乃回转更缠绕，忽成一真人，男形也，如始生之状，长四寸，号曰大洞帝一尊君，名父宁在，字合母精，是守死关之众神徊风混化共成此帝一之尊君也。又存此尊君来入我口中舌下，又从舌下径上升紫房六合宫，平坐，外向。尊君左手把兆五符，

右手把兆五籍。尊君口之左边有日光，径九分；尊君口之右边有月光，径一寸。尊君口吐回风之炁，吹此日月之光，日月之光郁郁然，或白色，或黄色。令光炁下入兆五脏六腑、百节一身之内，洞彻朗然，内外如白日之状。良久，忘身忽然，事讫，乃心祝曰：

大洞帝一，太素尊灵。父宁母精，二合双成。百真一混，一徊始生。身结八烟，变胎元婴。日月宝光，洞我躯形。太一在上，上与帝并。泥丸保玉，五脏华明。长合日月，手执洞经。位为仙公，晨升上清，三十九章，金符羽庭。毕，此是回风混合帝一之道也，万变百化，洞真太一之法，极尽于此矣。

夕夕常存大洞帝一尊君，在兆鼻下人中中央，白日常存令在口内上齿之外、鼻人中皮内、上（庇月）之里、上齿之外，尊神形皆当向外坐立，起居在意存之。存尊君口中衔日光，径九分，照明万丈，洞明兆身。夫一者，帝之真一也。一之所变，归一者也。读《洞经》时，亦存帝一尊君在兆面前，以尊神口对兆之口间，令相向听我读《洞经》之音，以散七世之结焉。

帝一尊君，名父宁在，字合母精。日夕常忆之，勿忘，辟万试，灭千患，除恶魔，致神仙也。若兆体中有疾痛不宁处，急存帝一尊君，令口吐日光白炁，薰我痛疾即愈。帝一尊君形如始生之男，不著衣服，身长四寸耳。所谓大洞胎始，形之真也。

本命日常当读《大洞真经》三十九章一过，能恒诵习之，大吉也。须得万遍。大限充毕，乃得驾自然之云，乘八光之龙，千乘万骑，白日升仙矣。万遍既毕，然后一岁一读之耳。上帝云龙脱未来，迎者不过七百日中，忽在人间卒至，便升天矣。兆当坚守雌一，混合五神，精心回风，大会帝尊，诵习《洞经》三十九章，于是真仙之道毕矣，云龙之会审矣，罪结之根散

云笈七签

· 417 ·

矣，上祖获福命矣，兆勤之矣。